

# 感染症発生動向調査事業報告書

平成 26 年(2014 年)

## 序

感染症発生動向調査事業は、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、一類感染症から五類感染症、新型インフルエンザなど全症例の届出が義務付けられている疾患、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っております。

2014年に東京都内では163名のデング熱患者が報告されました。このうち108名は海外渡航歴がないことからデング熱国内感染例と考えられ、国内発生例としては69年ぶりとなりました。東京都においては、東京都蚊媒介感染症対策会議における検討に従って様々な取り組みを進めた結果、デング熱国内感染例の報告は2014年10月下旬を最後に終息いたしました。しかし、海外から患者や無症状病原体保有者を通じて都内にウイルスが持ち込まれる可能性があり、蚊の発生抑制・早期診断体制の整備・国内患者発生時の感染拡大を未然に防止することを目標に、蚊媒介感染症対策を進めています。

また、東京都では東京都麻疹対策会議による討議に基づいて対策を進めた結果、都内における麻疹患者数は2012年から年間100名以下で推移しています。2015年3月には、WHOから国内では土着ウイルスのない麻疹排除状態にあると認定を受けました。今後も高い検査診断率を維持した麻疹サーベイランス体制を継続していく必要があるものと考えられます。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における2014年の感染症発生情報の評価や、予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向について、「小児科・内科疾患(インフルエンザ)」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いしました。また、「一、二、三、四、五類感染症(全数届出)」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報係、「病原体情報」につきましては微生物部の担当者が執筆いたしました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力いただいた東京都医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

関係各位におかれましては、本書を広くご活用いただき、感染症対策の一助としていただければ幸いです。

平成27年7月

東京都健康安全研究センター所長 田原 なるみ



## 目 次

### 第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾患	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年(2014年)の概況	
(1) 一～四類、五類(全数把握対象)、指定感染症	5
(2) 五類感染症(定点把握対象)	7
(3) 疑似症(法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)	9
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(一～四類、五類全数、新型、指定)	10
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(全数動物)	11
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(インフルエンザ定点・小児科定点)	12
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(眼科定点)	13
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点週報告分)	13
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点月報告分)	14
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(性感染症定点)	14
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(疑似症定点)	14
3 各疾患の動向	
(1) 一～四類、五類感染症(全数把握対象)、指定感染症	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	23
オ 五類感染症(全数把握対象)	30
カ 指定感染症	47
表3-1 一～四類、五類(全数把握)感染症 週別患者報告数	48
表3-2 一～四類、五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数	51
表3-3 一～四類、五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数	54
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	57
イ R S ウイルス感染症	58

ウ	咽頭結膜熱	59
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60
オ	感染性胃腸炎	61
カ	水痘	62
キ	手足口病	63
ク	伝染性紅斑	64
ケ	突発性発しん	65
コ	百日咳	66
サ	ヘルパンギーナ	67
シ	流行性耳下腺炎	68
ス	不明発しん症	69
セ	川崎病	70
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	71
イ	流行性角結膜炎	72
(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	73
イ	無菌性髄膜炎	74
ウ	マイコプラズマ肺炎	75
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	76
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	77
カ	インフルエンザ入院	78
(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	79
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	80
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	81
エ	薬剤耐性アシネトバクター感染症	82
(6) 性感染症		
ア	性器クラミジア感染症	83
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	84
ウ	尖圭コンジローマ	85
エ	淋菌感染症	86
オ	膣トリコモナス症	87
カ	梅毒様疾患	88
表 4-1	週別患者報告数	89
表 4-2	週別定点当たり患者報告数	91
表 5-1	保健所別患者報告数	93

表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	95
表 6	年齢階級別患者報告数	97
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	98
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	99
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	100
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	100
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	100
表 8-4	年齢階級別患者報告数（基幹）	101
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	101
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	101
表 9-3	月別・性別患者報告数（性感染症）	102
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	102
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	103
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	104
表 9-7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	105
表 10	検査結果別報告数（基幹）	105
表 11	疑似症サーベイランス報告数	106

## 第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

### 1 ウイルス検査結果

#### (1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	109
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	110
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	111
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	113
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	117

#### (2) 内科病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

ア	2013/2014年シーズンのウイルス検出状況	117
イ	2014/2015年シーズンのウイルス検出状況	117
ウ	インフルエンザウイルスの抗原解析	118

### 2 細菌検査結果

(1)	三類感染症の病原体検索	121
(2)	四類感染症の病原体検索	121
(3)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	121
(4)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	122
(5)	性感染症の病原体検索	123

### 第3章 資料

1	東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	131
2	東京都感染症予防検討委員会委員名簿	147
3	東京都感染症発生動向調査事業の流れ	148
	東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	149
	別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1	一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	156
2	五類感染症（全数把握）	157
3	五類感染症（定点把握）	158
4	新型インフルエンザ等感染症	158
5	疑似症	158
	別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	159
	別表3 疑似症の調査単位と報告時期	159
	別表4 基幹定点医療機関（病原体定点）において検体を採取する対象感染症	160
	別記様式一覧表	160
	別記様式1	161
	別記様式2	162
	別記様式3	163
	別記様式4	164
	別記様式5	165
	別記様式6	166
	別記様式7	168
	別記様式8	169
	別記様式9	170
	別記様式10	172
	別記様式11	173
	別記様式12	174

# 第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報



# 東京都感染症発生動向調査事業報告

2014 年

(2013 年 12 月 30 日～2014 年 12 月 28 日)

2014 年のインフルエンザの定点あたりの報告数は、ここ 10 年では新型の AH1pdm09 の流行のあった 2009 年につぎ 2 番目に多くなりました。2013～14 年シーズンでは 2013 年 51 週 (12.16～12.22) に定点あたりの報告数が 1.11 件となり流行の開始が見られ、年が明けた 2014 年 3 週 (1.13～1.19) には定点あたり 11.20 件と 10.00 件を超え、1 月 23 日には流行注意報が出されました。4 週 (1.20～1.26) には定点あたり 29.69 件と急拡大して、翌 5 週 (1.27～2.2) には定点あたり 41.18 件と流行のピークに達しました。その後も流行が続き、13 週 (3.24～3.30) になりやっと 9.42 件と 10.00 件を下回り、19 週に 0.33 件と 1.00 件以下となって流行が終息しました。2013～14 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況では 422 件中 AH1pdm09 が 167 件(40%)、AH3(A 香港型)が 61 件(14%)、B 型が 194 件 (46%) でした。流行の前半は AH1pdm09 の割合が多く、後半は B 型の割合が多く見られました。

2014～15 年シーズンでは例年より流行は早く始まり、2014 年 47 週 (11.17～11.23) には定点あたり 1.92 件と 1.00 件を超え、50 週(12.8～12.14)には 10.15 件と 10.00 件を超え、年末の 52 週(12.22～12.28)にはすでに 32.96 件と 30.00 件を超えました。2014～15 年シーズンのインフルエンザ検出状況では 266 件中 229 件 (86%) が A 香港型であり、B 型は 35 件 (13%) と少なく、AH1pdm09 は 2 件のみでした。

2014 年の定点あたりの報告数が多かった理由は 2013～14 年シーズンの流行が大きかったことと、次の 2014～15 年の流行が例年と比較して早い時期に始まり、年末にはすでにピークに達しており、2014 年の通年としての報告数を押し上げたと見ることができます。

その他の疾患では 2014 年は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とヘルパンギーナがここ 10 年で最も報告数が多くなっています。

一方、基幹定点における月例報告疾患であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数はいずれもここ 10 年で最も少なくなっており、抗菌薬の適正な使用によるものであれば好ましい結果といえます。

本事業報告に当たり、情報の提供を頂いた定点医療機関の先生方に厚くお礼を申し上げます。また、ご指導いただいた東京都医師会理事の角田徹先生、予防検討委員会副委員長の岡部信彦、武隈孝治の両先生並びに委員の各先生方、そして裏で委員会を支えていただいた東京都医師会と東京都保健福祉局の事務局の皆様には感謝いたします。

平成 27 年 7 月

東京都医師会感染症予防検討委員会  
委員長 長岡常雄

## 1 発生動向調査の概略

### (1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、臍トリコモナス症と梅毒様疾患を性感染症に加えている。

2014年には、7月に中東呼吸器症候群が指定感染症に定められたほか、9月の改正では五類感染症としてカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、播種性クリプトコックス症及び水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）が追加指定された。また、同改正により薬剤耐性アシネトバクター感染症は、五類定点把握対象疾患から五類全数把握対象疾患に変更された。

### (2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 24 が設定され、このうち 69 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点と内科定点は、インフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たしている。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

(2014年12月31日現在)

定点種別(疾患数)	患者定点数	病原体定点数
小児科定点(14)	264	26
内科定点(1)	155	15
眼科定点(2)	39	4
基幹定点(9)	25	20
性感染症定点(6)	55	4
疑似症単独定点(2)	24	

### (3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は7日以内）保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関は年齢及び検出病原体名を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の年齢別患者数、基幹定点医療機関は当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において報告基準を満たす患者が発生した場合に、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し直ちに保健所に送付する（疑似症単独定点は、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する）。なお、発生がない場合であってもその旨週単位で報告する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報係（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

#### （４）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>）で公開され、広く都民に情報還元が図られている。

また、隔月第４木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近２か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」として掲載している。

## ２ 本年（2014年）の概況

### （１）一～四類、五類（全数把握対象）、指定感染症

#### ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

#### イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）の届出はなく、結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

#### ウ 三類感染症

コレラ：2014年は3人届出があり、推定感染地はすべて国外であった。

細菌性赤痢：41人届出があった。菌型の内訳は *sonnei* 35件、*flexneri* 6件で、推定感染地は国内5人、国外35人、渡航先不明1人であった。

腸管出血性大腸菌感染症：362人届出があり、患者269人（うち溶血性尿毒症症候群11人）、無症状病原体保有者93人であった。血清型・毒素型では、O157 VT1・VT2が検出された例が183件で最も多かった。

腸チフス：27人届出があり、過去10年では最多の届出数となった。推定感染地は国内14人、国外10人、国内又は国外3人で、国内感染と推定される届出が半数以上を占めた。

パラチフス：8人届出があり、2013年の届け出数から半数以下に減少した。推定感染地は国外7人、国内又は国外1人であった。

#### エ 四類感染症

E型肝炎：27人届出があり、性別は男性24人、女性3人であった。推定感染地は国内26人、ベトナム1人であった。

A型肝炎：38人届出があり、推定感染地は国内22人、国外15人、国内又は国外1人であった。

オウム病：3人届出があり、推定感染地は国内であった。

チクングニア熱：5人届出があり、推定感染地はすべて国外であった。

つつが虫病：18人届出があり、推定感染地は国内16人、国外2人であった。

デング熱：163人（うちデング出血熱4人）届出があり、過去10年では最も多い届出数となった。

推定感染地は国内 108 人、国外 55 人であり、国内感染は約 70 年ぶりであった。

**ブルセラ症**：2010 年以降届出がなかったが、2014 年には 4 人の届出があった。

**マラリア**：27 人届出があり、前年（2013 年）の 2 倍以上となった。病型は熱帯熱マラリア 20 人、三日熱マラリア 4 人、卵形マラリア 2 人、不明 1 人であり、推定感染地はすべて国外であった。

**ライム病**：2 人届出があり、推定感染地は国内 1 人、国外 1 人であった。

**レジオネラ症**：107 人届出があり、病型は肺炎型 103 人、ポンティアック熱型 3 人、無症状病原体保有者 1 人で、死亡例が 2 人見られた。水系感染によると推定された届出は 39 人であった。

**レプトスピラ症**：6 人届出があり、推定感染地は国内 4 人、国外 2 人であった。

四類感染症のうち、ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱の届出はなかった。

#### オ 五類感染症（全数把握対象）

**アメーバ赤痢**：229 人届出があった。腸管アメーバ症 198 人、腸管外アメーバ症 15 人、腸管及び腸管外アメーバ症 16 人であった。推定感染経路は、性的接触 67 人、飲食物による経口感染 49 人、2 経路以上 3 人、家族内感染疑い 1 人、不明 109 人であった。

**ウイルス性肝炎**：48 人届出があった。内訳は、B 型肝炎 39 人、C 型肝炎 8 人、サイトメガロウイルス肝炎 1 人であり、推定感染地は国内 45 人、国外 2 人、不明 1 人であった。B 型肝炎の推定感染経路では、性的接触が 30 人で 76.9%を占めた。

**カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：届出対象となった 2014 年 9 月以降 56 人の届出があった。

**急性脳炎**：52 人届出があり、全数把握の対象疾患となった 2003 年以降、最も多い届出数であった。病原体はインフルエンザウイルス 13 件、ヒトヘルペスウイルス 4 件、単純ヘルペスウイルス 2 件、RS ウイルス 2 件、水痘帯状疱疹しんウイルス 2 件、ヘルペス脳炎 1 件、アデノウイルス 1 件、コクサッキー A 群ウイルス 1 件、不明 26 件であった。

**クリプトスポリジウム症**：82 人届出があり、集団発生以外の届け出は 12 人であった。推定感染経路では性的接触による感染が 10 人、経口感染 2 人であった。

**クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)**：17 人届出があり、孤発性プリオン病・古典型 CJD が 16 人、遺伝性プリオン病が 1 人であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：41 人届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。血清型は A 群 30 件、B 群 5 件、G 群 5 件、不明 1 件で、死亡例は 7 人報告された。

**後天性免疫不全症候群**：512 人届出があり、AIDS 患者 97 人、その他（指標疾患以外の有症者）60 人、HIV 感染者（無症候性キャリア）355 人であった。推定感染地は国内 436 人、国外 24 人、国内又は国外 4 人、不明 48 人で、推定感染経路では性的接触 464 人のほか、静注薬物使用 3 人、入れ墨 1 人などが見られた。

**ジアルジア症**：15 人届出があり、推定感染地は国内 9 人、国外 6 人、推定感染経路は飲食物による経口感染 5 人などのほか、性的接触による感染が 5 人であった。

**侵襲性インフルエンザ菌感染症**：22 人届出があった。血清型は B 群 1 人、判定不能及び不明 21 人

であり、ワクチン接種歴は、4回接種が1人、3回接種が2人、2回接種が1人、接種なし8人、不明10人であった。

**侵襲性髄膜炎菌感染症**：9人届出があり、血清群はW-135群2人、C群2人、B群1人、W-135群及びY群1人、不明3人であった。ワクチン接種歴は、なし6人、不明3人であった。

**侵襲性肺炎菌感染症**：225人届出があった。血清型は24F型8人、15A型6人、10A型4人、19A型3人、1型2人、3型2人、7F型2人、11A型2人、15C型2人などがあり、不明185人であった。ワクチン接種歴は、4回接種13人、3回接種16人、2回接種6人、1回接種18人、なし105人、不明67人であった。

**水痘**：届出対象となった2014年9月以降11人の届出があった。

**先天性風しん症候群**：3人届出があった。母親の妊娠中の風しん罹患歴はすべてありだった。母親のワクチン接種歴は、あり1人、不明2人であった。

**梅毒**：507人届出があり、調査開始以降で最多となった。早期顕症梅毒I期88人、早期顕症梅毒II期207人、晩期顕症梅毒20人、無症候191人、先天梅毒1人であった。

**播種性クリプトコックス症**：届出対象となった2014年9月以降4人の届出があった。

**破傷風**：10人届出があり、推定感染地はすべて国内であった。

**バンコマイシン耐性腸球菌感染症**：6人届出があった。菌種は*Enterococcus faecium* 3件、*E. faecalis* 1件、*E. gallinarum* 1件、不明1件であり、耐性遺伝子型は*vanB* 4件、*vanC* 1件、不明1件であった。

**風しん**：99人届出（検査診断例66人、臨床診断例33人）があった。推定感染地は96人（97.0%）が国内であった。

**麻しん**：94人届出（検査診断例69人、臨床診断例9人、修飾麻しん16人）があり、推定感染地は国内77人、国外15人、国内又は国外2人であった。

**薬剤耐性アシネトバクター感染症**：五類感染症（全数把握）の届出対象となった2014年9月19日以降、3人の届出があった。

五類感染症のうち、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

## カ 指定感染症

中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなかった。

### （2）五類感染症（定点把握対象）

#### ア 小児科・内科疾患

2013年と比較して定点当たり10%以上報告数が減少した疾患は感染性胃腸炎、手足口病、川崎病の3疾患であった。定点当たりの報告数が前年並みであった疾患はRSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘、突発性発しん、不明発しん症の5疾患、定点当たり前年比10%以上増加した疾患はインフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の6疾患であった。

#### [前年比減少疾患]

**感染性胃腸炎**：報告数は84,091人、定点当たり322.84人であった。定点当たりの当年/前年比は0.82であった。

**手足口病**：報告数は6,089人、定点当たり23.44人であった。定点当たりの当年/前年比は0.21であった。

川崎病：報告数は180人、定点当たり0.69人であり、定点当たりの当年/前年比は0.81であった。

#### [前年比横這いであった疾患]

**RSウイルス感染症**：報告数は6,183人、定点当たり23.70人であった。定点当たりの当年/前年比は1.02であった。

**咽頭結膜熱**：報告数は5,607人、定点当たり21.54人であった。定点当たりの当年/前年比は0.91であった。

**水痘**：報告数は10,314人、定点当たり39.69人であった。定点当たりの当年/前年比は0.90であった。

**突発性発しん**：報告数は8,120人、定点当たり31.18人であった。定点当たりの当年/前年比は0.98であった。

**不明発しん症**：報告数は1,158人、定点当たり4.45人であった。定点当たりの当年/前年比は1.06であった。

#### [前年比増加疾患]

**インフルエンザ**：報告数は152,421人、定点当たり367.55人であった。定点当たりの当年/前年比は2.02であった。

**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：報告数は27,581人、定点当たり105.60人であった。定点当たりの当年/前年比は3.15であった。

**伝染性紅斑**：報告数は5,069人、定点当たり19.44人であった。定点当たりの当年/前年比は3.15であった。

**百日咳**：報告数は158人、定点当たり0.61人であった。定点当たりの当年/前年比は1.74であった。

**ヘルパンギーナ**：報告数は15,874人、定点当たり61.25人であった。定点当たりの当年/前年比は1.87であった。

#### イ 眼科疾患

**急性出血性結膜炎**：報告数は13人、定点当たり0.34人であった。過去10年で最も少ない定点当たり報告数であった。

**流行性角結膜炎**：報告数は913人、定点当たり23.79人であった。2007年と2012年に増加したが、2014年はそれ以外の年と同じ水準に戻った。

#### ウ 基幹定点における週報告疾患

**細菌性髄膜炎**：報告数は22人、定点当たり0.88人であった。2013年に増加したが、2014年は減少した。

**無菌性髄膜炎**：報告数は102人、定点当たり4.09人であった。2014年は過去10年で3番目に多い定点当たり報告数であった。

**マイコプラズマ肺炎**：報告数は234人、定点当たり9.37人であった。2014年は定点当たりの当年/前年比で0.45と半減した。

**クラミジア肺炎**：報告数は21人、定点当たり0.84人であった。

**感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）**：報告数は134人、定点当たり5.36人であった。

**インフルエンザ入院**：報告数は735人、定点当たり29.40人であった。定点当たりの当年/前年比は

1.41 で、大幅に増加した。

## エ 基幹定点における月報告疾患

**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症**：報告数は 908 人、定点当たり 36.44 人であった。年間報告数及び定点当たりの報告数はこの 10 年で最も少なかった。

**ペニシリン耐性肺炎球菌感染症**：報告数は 186 人、定点当たり 7.47 人であった。年間報告数及び定点当たりの報告数はこの 10 年で最も少なかった。

**薬剤耐性緑膿菌感染症**：21 人が報告された。定点当たり 0.84 人であり、この 10 年の報告数に変化は見られない。

**薬剤耐性アシネトバクター感染症**：調査が開始された 2011 年以降報告例はなく、2014 年も基幹定点からの報告はなかった。2014 年 9 月 19 日以降は五類感染症（全数把握）となった。

## オ 性感染症

**性器クラミジア感染症**：報告数は 2,427 人であり、そのうち男性は 1,360 人、定点当たり 25.14 人（前年比 0.97）、女性は 1,067 人、定点当たり 19.76 人（前年比 1.19）であった。

**性器ヘルペスウイルス感染症**：報告数は 1,298 人であった。男性 824 人、定点当たり 15.24 人（前年比 1.03）、女性 474 人、定点当たり 8.76 人（前年比 1.13）で、2006 年以降男性に多い状況が続いている。

**尖圭コンジローマ**：報告数は 986 人であった。男性 665 人、定点当たり 12.29 人（前年比 0.99）、女性 321 人、定点当たり 5.92 人（前年比 1.10）で、男性が多い。

**淋菌感染症**：報告数は 1,259 人であった。男性 876 人、定点当たり 16.19 人（前年比 0.94）、女性 383 人、定点当たり 7.11 人（前年比 2.70）で、男性は女性の 2 倍以上の報告数が続いている。

**膣トリコモナス症**：報告数は 127 人であり、男性 4 人、定点当たり 0.07 人（前年比 0.66）、女性 123 人、定点当たり 2.28 人（前年比 1.15）であった。

**梅毒様疾患**：報告数は 135 人であり、男性 102 人、定点当たり 1.89 人（前年比 0.82）、女性 33 人、定点当たり 0.61 人（前年比 3.00）であった。過去 10 年の定点当たり患者報告数では、男性は増加傾向、女性は減少傾向にある。

### （3）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 147 人、発熱及び発しん又は水疱は 20 人の報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一～四類、五類全数、新型、指定)

		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	1	-	-	-
	結核	3,228	3,219	3,045	3,022	2,874	2,671	集計中
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)*1	-	-	-	-	-	-	-
三类	コレラ	6	3	2	3	-	-	3
	細菌性赤痢	64	48	86	86	75	36	41
	腸管出血性大腸菌感染症	409	317	339	257	258	382	362
	腸チフス	13	11	12	6	13	23	27
	パラチフス	7	12	5	9	11	20	8
四類	E型肝炎	7	6	9	9	21	32	27
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	31	24	45	27	35	19	38
	エキノコックス症	-	1	1	2	1	-	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	-	1	-	3	-	2	3
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	1	-	-
	キャサスル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	1	1	-	-	-	3	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	1	1	2	1	4	-
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群*5	/	/	/	/	/	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱*2	/	/	/	-	3	4	5
	つつが虫病	18	14	14	13	19	12	18
	デング熱	32	32	70	27	56	66	163
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	1	1	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	1	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	1	-	-	-	-	4
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	
マラリア	23	26	27	27	24	12	27	
野兔病	-	-	-	-	-	-	-	
ライム病	-	1	1	3	-	7	2	
リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	
リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	

		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
四 類	類鼻疽	-	-	1	-	-	1	-
	レジオネラ症	80	53	55	72	60	80	107
	レプトスピラ症	4	-	2	5	6	6	6
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	189	140	180	178	198	187	229
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	30	35	48	40	60	72	48
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *9	/	/	/	/	/	/	56
	急性脳炎	11	45	14	19	33	46	52
	クリプトスポリジウム症	4	4	3	2	2	7	82
	クロイツフェルト・ヤコブ病	15	19	15	13	18	19	17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	19	10	19	30	23	37	41
	後天性免疫不全症候群	545	471	509	409	461	469	512
	ジアルジア症	20	24	13	13	16	22	15
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *6	/	/	/	/	/	12	22
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *6	/	/	/	/	/	11	9
	侵襲性肺炎球菌感染症 *6	/	/	/	/	/	124	225
	水痘(入院例) *9	/	/	/	/	/	/	11
	髄膜炎菌性髄膜炎 *7	2	1	-	2	-	-	/
	先天性風しん症候群	-	-	-	-	-	13	3
	梅毒	205	196	173	248	297	419	507
	播種性クリプトコックス症 *9	/	/	/	/	/	/	4
	破傷風	5	7	5	8	5	4	10
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	15	15	17	6	10	8	6
風しん *3	46	19	15	32	672	3,445	99	
麻しん *3	1,174	110	76	178	84	69	94	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *10	/	/	/	/	/	/	3	
新型	新型インフルエンザ *4	/	1,160	/	/	/	/	/
指定	中東呼吸器症候群 *11	/	/	/	/	/	/	-
	鳥インフルエンザ(H7N9) *8	/	/	/	/	/	-	-

\*1 2008年5月12日より追加指定。

\*2 2011年2月1日より追加指定。

\*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

\*4 AH1pdm09は、2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定。全数届け出は2009年7月23日まで。

\*5 2013年3月4日より追加指定。

\*6 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。

\*7 2003年11月5日より四類(全数把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった後、2013年4月1日より届出対象から除外。

\*8 2013年4月26日より追加指定。

\*9 2014年9月19日より追加指定。

\*10 2011年2月1日より五類(定点把握対象)に追加指定、2014年9月19日に五類(全数把握対象)に変更。

\*11 2014年7月26日より追加指定、病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数 (全数動物)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-
ペストのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル	-	-	-	-	-	-	-
中東呼吸器症候群のラクダ *1	/	/	/	/	/	/	-
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)の鳥類	-	1 *2	-	-	-	-	-
細菌性赤痢のサル	-	-	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

\*1 2014年7月26日より追加指定

\*2 2009年の報告は動物実験による感染

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
小児科定点数	142	142	150 <sup>*1</sup>	150	150	150	264	264	264	264
インフルエンザ定点数	178	178	290 <sup>*1</sup>	290	290	290	419	419	419	419
インフルエンザ	43,336 243.46	23,953 134.57	53,927 191.41	23,059 80.47	142,140 495.53	12,614 43.97	99,940 240.03	135,064 323.29	75,328 181.11	152,421 367.55
RSウイルス感染症 <sup>*2</sup>	848 5.97	818 5.76	1,403 9.57	1,722 11.71	845 5.73	2,153 14.52	3,628 13.94	6,349 24.51	6,058 23.48	6,183 23.70
咽頭結膜熱	2,468 17.38	3,929 27.67	2,793 18.96	2,927 19.86	1,339 9.07	1,979 13.37	4,936 18.95	5,510 21.20	6,184 23.89	5,607 21.54
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	7,564 53.27	11,213 78.96	11,913 81.32	13,925 93.97	10,058 68.03	11,231 75.80	25,487 97.66	25,224 96.60	24,801 95.29	27,581 105.60
感染性胃腸炎	42,578 299.85	51,945 365.81	46,783 318.41	58,681 395.92	37,599 254.50	63,372 427.41	95,910 367.56	118,967 455.28	102,987 395.81	84,091 322.84
水痘	7,565 53.27	8,345 58.77	8,874 60.77	8,682 58.68	7,079 47.94	9,472 63.93	15,679 60.11	12,995 49.75	11,452 44.22	10,314 39.69
手足口病	3,296 23.21	2,885 20.32	4,382 29.73	4,487 30.60	3,426 23.36	6,257 42.52	24,786 95.84	5,411 20.90	29,320 114.72	6,089 23.44
伝染性紅斑	2,035 14.33	3,109 21.89	2,879 19.73	1,168 7.90	1,558 10.54	2,929 19.79	6,317 24.23	1,626 6.23	1,608 6.19	5,069 19.44
突発性発しん	4,048 28.51	4,119 29.01	4,691 31.95	4,944 33.49	4,463 30.24	4,397 29.74	8,447 32.44	8,547 32.85	8,299 32.00	8,120 31.18
百日咳	28 0.20	23 0.16	151 1.02	278 1.88	225 1.53	506 3.42	450 1.73	286 1.10	91 0.35	158 0.61
風しん <sup>*3</sup>	40 0.28	21 0.15	35 0.24							
ヘルパンギーナ	6,909 48.65	5,900 41.55	6,804 46.10	6,470 44.08	2,574 17.63	8,400 57.06	14,431 55.78	13,548 52.28	8,480 33.06	15,874 61.25
麻しん <sup>*3</sup>	49 0.35	25 0.18	303 2.05							
流行性耳下腺炎	7,321 51.56	4,481 31.56	1,940 13.24	3,662 24.83	5,175 35.05	5,154 34.87	4,488 17.23	3,089 11.88	2,549 9.83	3,003 11.57
不明発しん症 <sup>*4</sup>	461 3.25	966 6.80	665 4.52	734 4.98	657 4.48	622 4.21	1,506 5.78	1,400 5.40	1,094 4.24	1,158 4.45
川崎病 <sup>*4</sup>	56 0.39	101 0.71	110 0.75	109 0.73	71 0.48	89 0.60	217 0.83	177 0.68	221 0.85	180 0.69

\*1 2007年は、12月末時点の定点数

\*2 2003年45週より実施

\*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった。

\*4 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(眼科定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
定点数	14	14	39*	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	7 0.50	8 0.57	82 2.15	64 1.66	53 1.37	74 1.91	31 0.84	19 0.50	17 0.45	13 0.34
流行性角結膜炎	567 40.50	535 38.21	968 32.04	865 22.41	703 18.28	951 24.60	842 22.73	1,140 30.01	891 23.68	913 23.79

\* 2007年は、12月末時点の定点数

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
定点数	25	25	25	24	24	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	17 0.68	15 0.60	28 1.14	24 1.01	24 1.02	18 0.76	52 2.14	42 1.68	48 1.93	22 0.88
無菌性髄膜炎	28 1.12	40 1.60	50 2.03	34 1.42	28 1.17	38 1.61	96 3.91	121 4.86	126 5.06	102 4.09
マイコプラズマ肺炎	164 6.56	218 8.72	247 10.11	298 12.53	305 12.93	416 17.76	1,143 46.78	1,067 42.84	514 20.66	234 9.37
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	9 0.36	13 0.52	20 0.81	25 1.05	46 1.96	20 0.85	18 0.74	14 0.56	40 1.60	21 0.84
感染性胃腸炎*1 (ロタウイルスによる)									22 0.88	134 5.36
インフルエンザ入院*2							12 0.48	610 24.40	518 20.89	735 29.40
成人麻しん*3	1 0.04	3 0.12	262 10.70							

\*1 2013年42週より実施

\*2 2011年36週より実施

\*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった。

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
定点数	25	25	25	24	24	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25	918 37.26	908 36.44
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55	440 17.72	467 18.94	186 7.47
薬剤耐性緑膿菌感染症	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52	24 0.97	32 1.29	21 0.84
薬剤耐性アシネト* バクテリア感染症							0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

\* 2011年2月より2014年9月18日まで実施。

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(性感染症定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
定点数	41	41	55 <sup>*1</sup>	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64	2,286 42.46	2,427 44.90
性器ヘルペスウイルス感染症	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17	1,216 22.60	1,298 24.00
尖圭コンジローマ	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31	877 16.17	959 17.84	986 18.22
淋菌感染症	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09	1,070 19.87	1,259 23.31
膣トリコモナス症 <sup>*2</sup>	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49	129 2.38	113 2.10	127 2.36
梅毒様疾患 <sup>*2</sup>	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14	120 2.21	136 2.53	135 2.50

\*1 2007年は、12月末時点の定点数

\*2 東京都独自疾患

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(疑似症定点)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
定点数				315	315	315	443	443	443	443
発熱及び呼吸器症状 <sup>*</sup>				11	147	20	9	10	38	147
発熱及び発しん・水疱 <sup>*</sup>				8	6	9	4	15	16	20

\* 2008年7月より実施

### 3 各疾患の動向

#### (1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）、指定感染症

##### ア 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）の届出はなかった。

##### イ 二類感染症

###### ① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況」で報告する。

###### ② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）については届出がなかった。

##### ウ 三類感染症

###### ① コレラ

コレラは2012年以降届出がなかったが、2014年には3人の届出があった。菌型はO1 エルトール小川型が2件、O139型が1件であった。推定感染地はすべて国外で、インド1人、バングラデシュ1人、中国1人であった。

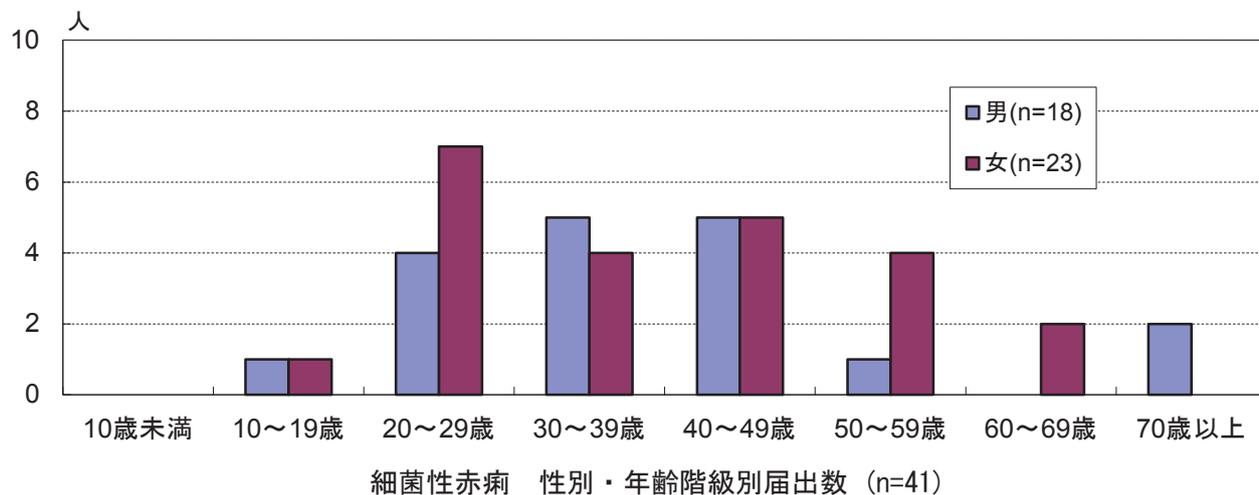
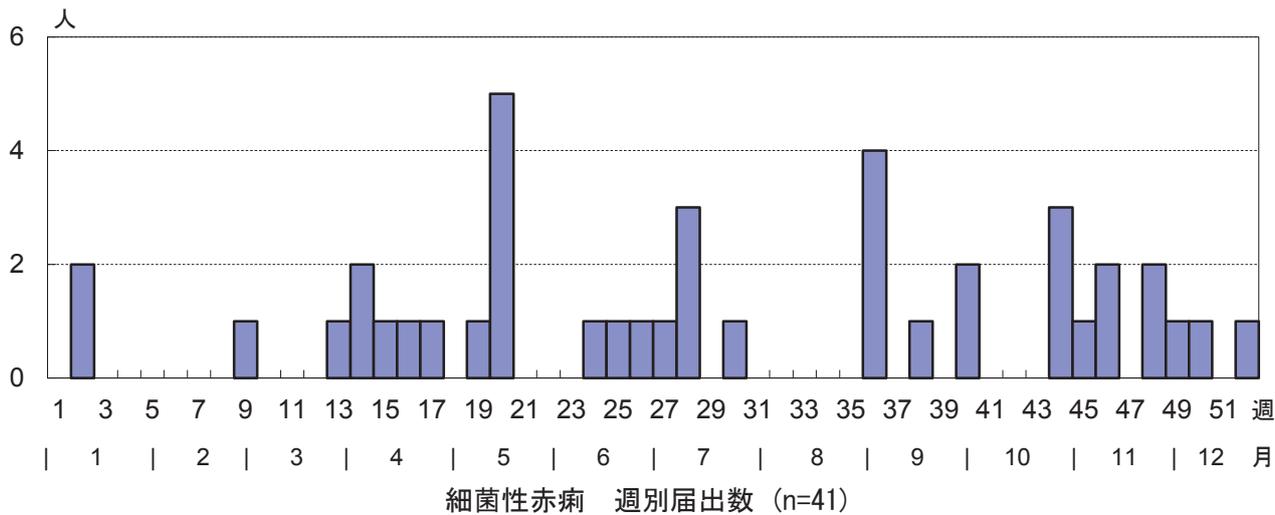
コレラ届出例 (n=3)

受理日	性別	年齢	菌型	推定感染地
6/25	男	49	O1 エルトール小川	インド
6/27	女	29	O1 エルトール小川	バングラデシュ
7/22	男	54	O139	中国

###### ② 細菌性赤痢

2014年の細菌性赤痢は41人の届出があった。菌種は *sonnei* 35件、*flexneri* 6件で、*dysenteriae*、*boydii* の届出はなかった。性別は男性18人、女性23人で、年齢階級別では10～19歳2人、20～29歳11人、30～39歳9人、40～49歳10人、50～59歳5人、60～69歳2人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内5人、国外35人、国内又は国外（渡航先不明）1人であった。国内感染と推定された5人の年齢階級別の内訳は10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳2人、70歳以上1人であり、同性間性的接触（経口感染）によると推定される感染例が1例報告された。国外感染例の推定感染地域は東南アジア17人、南アジア10人、アフリカ5人、中央アジア1人、中央アメリカ1人、南アメリカ1人であり、推定感染国別に見ると、2人以上の届出があった国はインド8人、フィリピン5人、インドネシア4人、ベトナム3人、カンボジア3人、バングラデシュ2人、マダガスカル2人であった。



細菌性赤痢 国内感染例 (n=5)

受理日	性別	年齢	菌種	症状	備考
2/28	男	76	<i>sonnei</i>	有	
5/16	女	38	<i>sonnei</i>	無	同居の父
7/25	男	26	<i>flexneri</i>	有	
10/27	男	31	<i>sonnei</i>	有	性的接触 (同性間)
11/12	男	17	<i>flexneri</i>	有	発症3日前寿司屋で喫食

細菌性赤痢 国外感染例 (n=35)

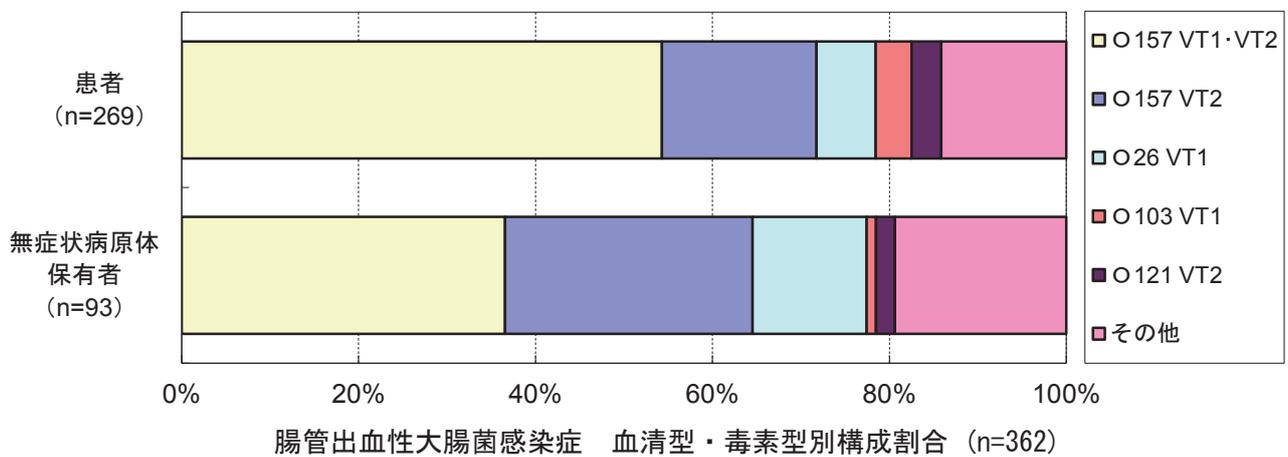
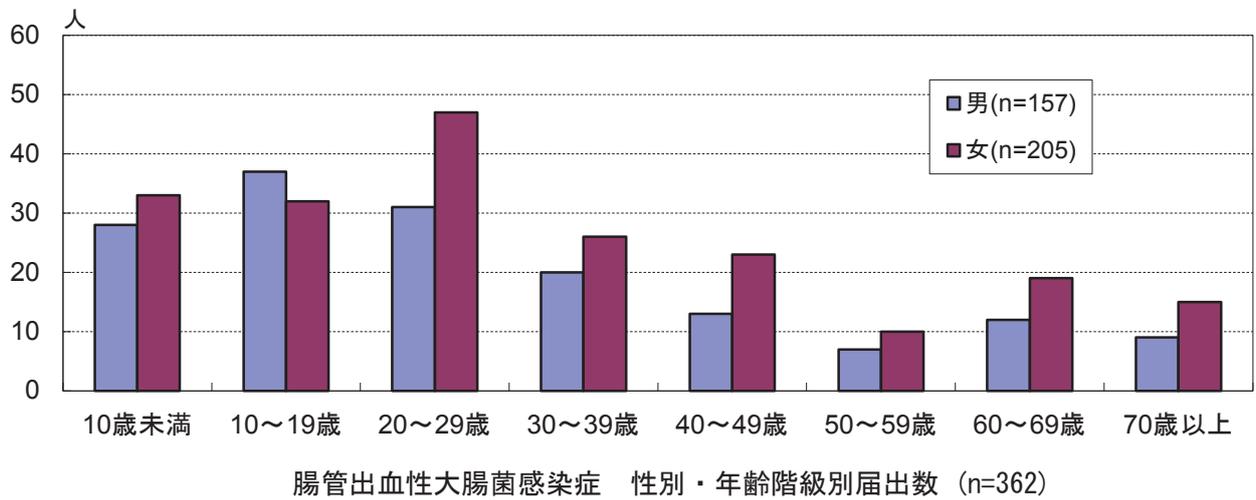
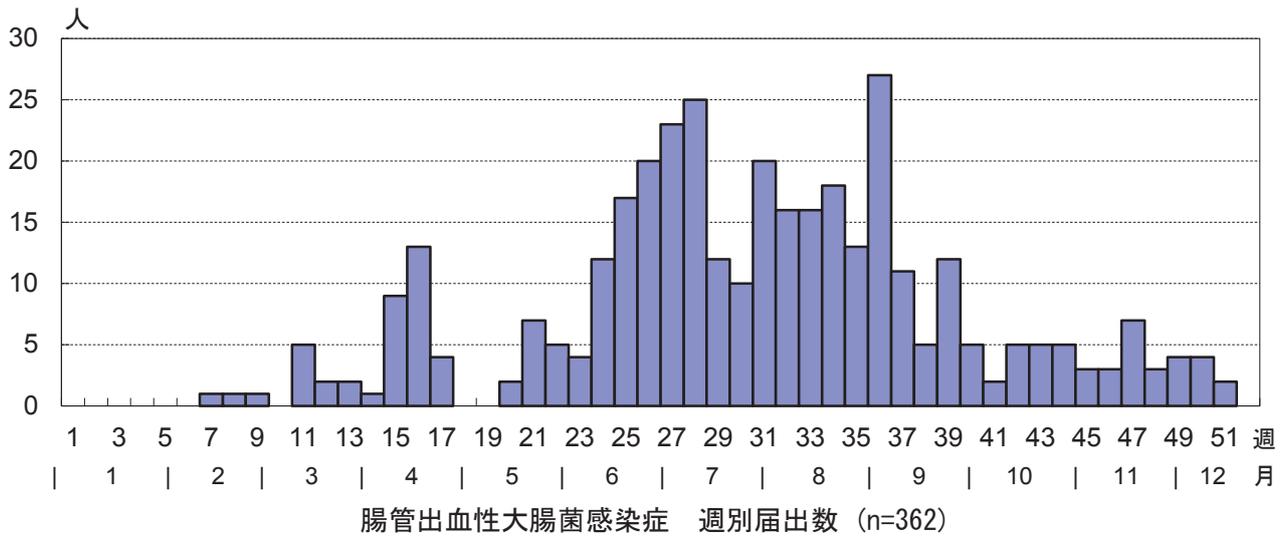
推定感染地域	人 数	推定感染国	人 数
東南アジア	17	フィリピン	5
		インドネシア	4
		ベトナム	3
		カンボジア	3
		タイ	1
		タイ又はミャンマー	1
		南アジア	10
		バングラデシュ	2
アフリカ	5	マダガスカル	2
		エチオピア	1
		ザンビア	1
		タンザニア	1
中央アジア	1	トルクメニスタン又はウズベキスタン	1
中央アメリカ	1	ハイチ	1
南アメリカ	1	ペルー又はブラジル	1
合 計	35		35

③ 腸管出血性大腸菌感染症

2014年は362人届出があり、症状別では患者269人、無症状病原体保有者93人であった。届出はほぼ1年を通して見られたが、夏期から秋期にかけて増加した。性別は男性157人、女性205人で、年齢階級別では10歳未満61人（うち5歳未満32人）、10～19歳69人、20～29歳78人、30～39歳46人、40～49歳36人、50～59歳17人、60～69歳31人、70歳以上24人であった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が183件で最多であり、推定感染地は国内352人、国外10人（ドイツ3人、トルコ1人、ブルガリア1人、ベトナム1人、ペルー1人、ラオス1人、台湾1人、シンガポール1人）であった。

症例の集積は、第14～17週にO157 VT1・VT2による食用肉関連が18人、第32～33週にO157 VT1・VT2による都外飲食店関連が3人、第35～37週にO26 VT1による保育園関連が9人、第36週にキャンプ関連が5人（O103 VT1が3人、O血清型不明 VT1が1人、O血清型不明 VT2が1人）が認められた。また第39週に届出があり、ドイツでの感染と推定された3人は、現地における牧場実習参加者で、O157 VT1・VT2が2人、O157 VT1・VT2とO153 VT2の重複感染が1人であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは11人おり、年齢は10歳未満7人（うち5歳未満4人）、10～19歳2人、20～29歳1人、70歳以上1人で、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が9件、O157 VT2が1件、O157 VT型不明（血清でのベロ毒素検出）が1件あり、推定感染地はすべて国内であった。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=362)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O5	VT1	1	O145	VT1	1
O8	VT2	1		VT2	2
O25	不明	1	O146	VT1	1
O26	VT1	30	O153	VT2	1*
	VT2	8	O157	VT1	8
	VT1・VT2	1		VT2	75*
	不明	1		VT1・VT2	183*
O91	VT1	3		不明	4
O103	VT1	13*	O159	VT2	1
O109	VT2	1	不明	VT1	2
O111	VT1	2		VT2	2
	VT1・VT2	8		VT1・VT2	3
O121	VT2	11	不明	不明	2
O128	VT1・VT2	1			

\* 他の血清型・毒素型との重複感染例を含む

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=11)

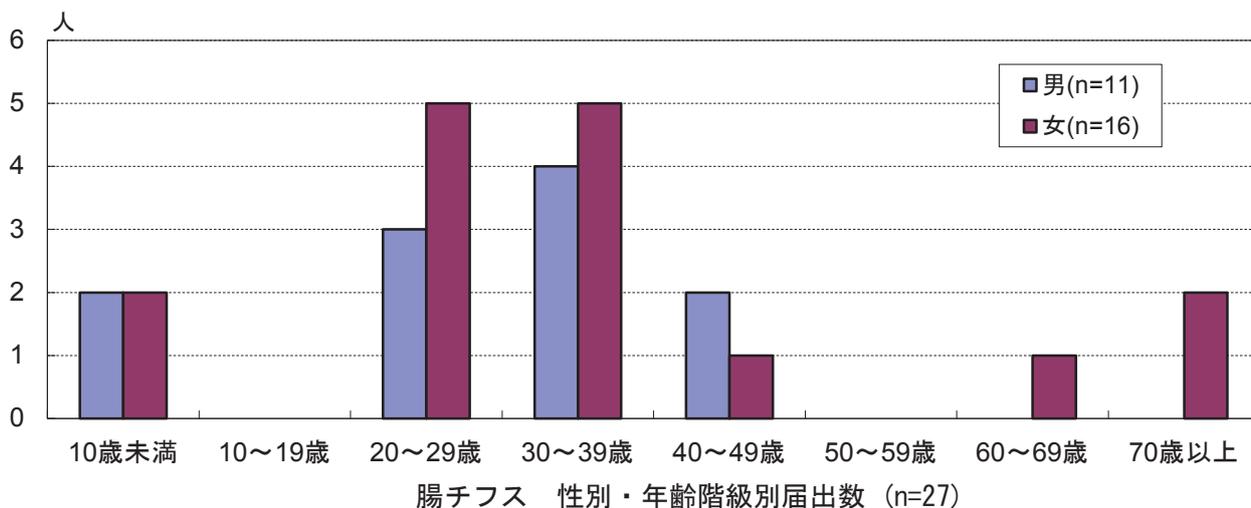
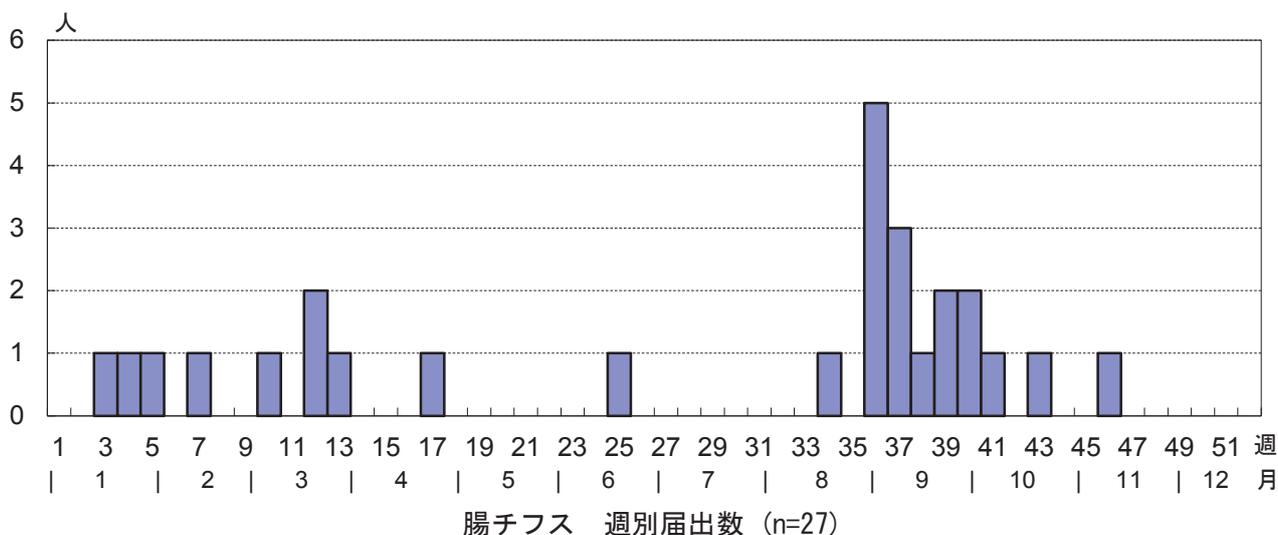
受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地	備考
4/9	男	5	O157 VT1・VT2	国内	
4/14	女	2	O157 VT1・VT2	国内	
4/15	女	4	O157 VT1・VT2	国内	
4/24	男	5	O157 VT1・VT2	国内	
6/10	男	13	O157 VT1・VT2	国内	
6/30	女	4	O157 VT2	国内	
7/7	女	70	O157 VT1・VT2	国内	脳症を合併
7/29	女	22	O157 VT1・VT2	国内	
10/31	女	8	O157 VT 型不明	国内	
11/04	女	19	O157 VT1・VT2	国内	
12/9	男	3	O157 VT1・VT2	国内	

#### ④ 腸チフス

2014年は27人の届出があり、昨年よりさらに増加し、過去10年で最多の届出数となった。症状別では患者26人、無症状病原体保有者1人、性別では男性11人、女性16人、年齢階級別では10歳未満4人、20～29歳8人、30～39歳9人、40～49歳3人、60～69歳1人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内 14 人、国外 10 人、国内又は国外 3 人（インド又はネパール 1 人、バングラデシュ 1 人、渡航先不明 1 人）で、国内感染と推定される届出が半数以上を占めた。国外感染例 10 人を推定感染地域別に見ると、東南アジア 5 人、南アジア 4 人、2 地域以上 1 人であり、推定感染国はフィリピン 2 人、インド 2 人のほか、タイ、ミャンマー、ネパール、タイ又はラオス、インド又はネパール、インド又は台湾各 1 人であった。

症例の集積としては、第 36～46 週にかけて国内飲食店関連が 13 人おり、うち 1 名は当該飲食店の従業員で、推定感染地は国外（ネパール）であった。同事例におけるファージ型は国外感染例を含め UVS1 が 11 人、UVS 4 が 1 人、不明 1 人であった。

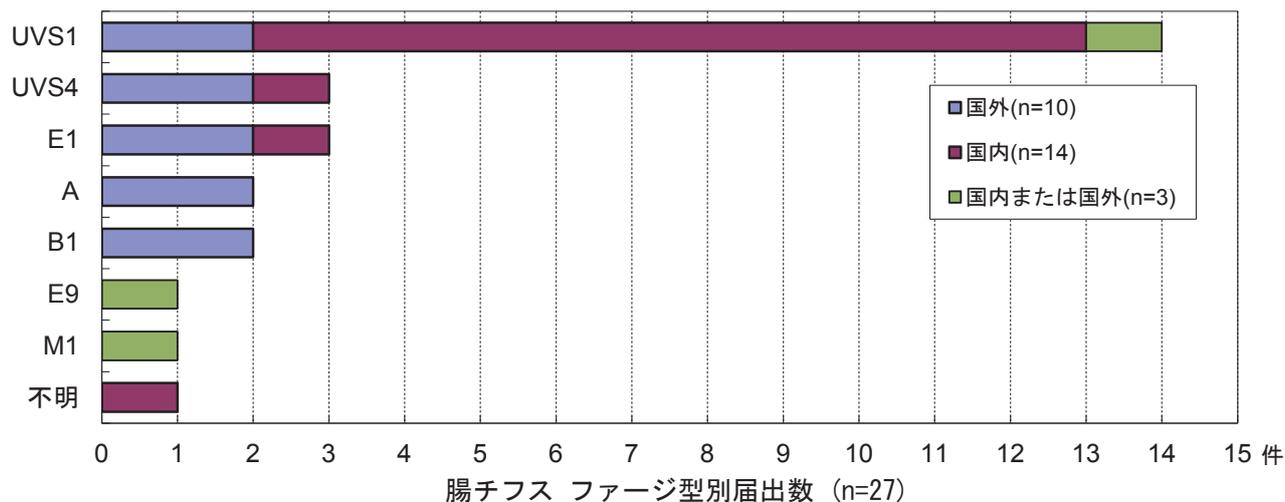


## 腸チフス 国内感染例 (n=14)

受理日	性別	年齢	ファージ型	症状	備考
1/21	女	39	UVS1	有	
6/16	女	26	E1	有	
9/1	男	28	UVS1	有	国内飲食店関連
9/3	男	9	UVS1	有	国内飲食店関連
9/4	男	39	UVS1	有	国内飲食店関連
9/5	女	40	UVS1	有	国内飲食店関連
9/8	女	26	UVS1	有	国内飲食店関連
9/8	女	34	不明	有	国内飲食店関連
9/16	女	4	UVS1	有	国内飲食店関連
9/25	男	47	UVS1	有	国内飲食店関連
9/25	女	36	UVS1	有	国内飲食店関連
9/30	男	31	UVS4	有	国内飲食店関連
10/21	男	35	UVS1	有	国内飲食店関連
11/10	女	62	UVS1	有	国内飲食店関連

## 腸チフス 国外感染例 (n=10)

推定感染地域	人数	推定感染国	人数
東南アジア	5	フィリピン	2
		タイ	1
		ミャンマー	1
		タイ又はラオス	1
南アジア	4	インド	2
		ネパール	1
		インド又はネパール	1
2地域以上	1	インド又は台湾	1
合計	10	合計	10



### ⑤ パラチフス

2014年は8人届出があった。性別は男性6人、女性2人であり、年齢階級別では20～29歳3人、30～39歳2人、40～49歳1人、50～59歳1人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国外7人、国内又は国外1人で、推定感染国はミャンマー2人のほか、カンボジア、バングラデシュ、スリランカ、国内又はネパール、インドネシア又は台湾、ミャンマー又はマレーシア又はインドネシアがそれぞれ1人であった。

パラチフス届出例 (n=8)

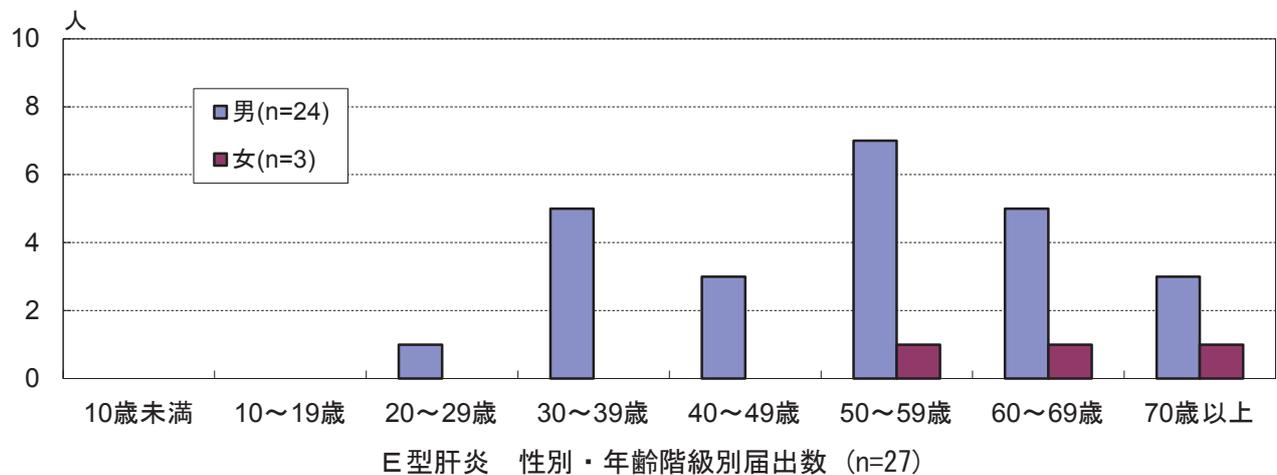
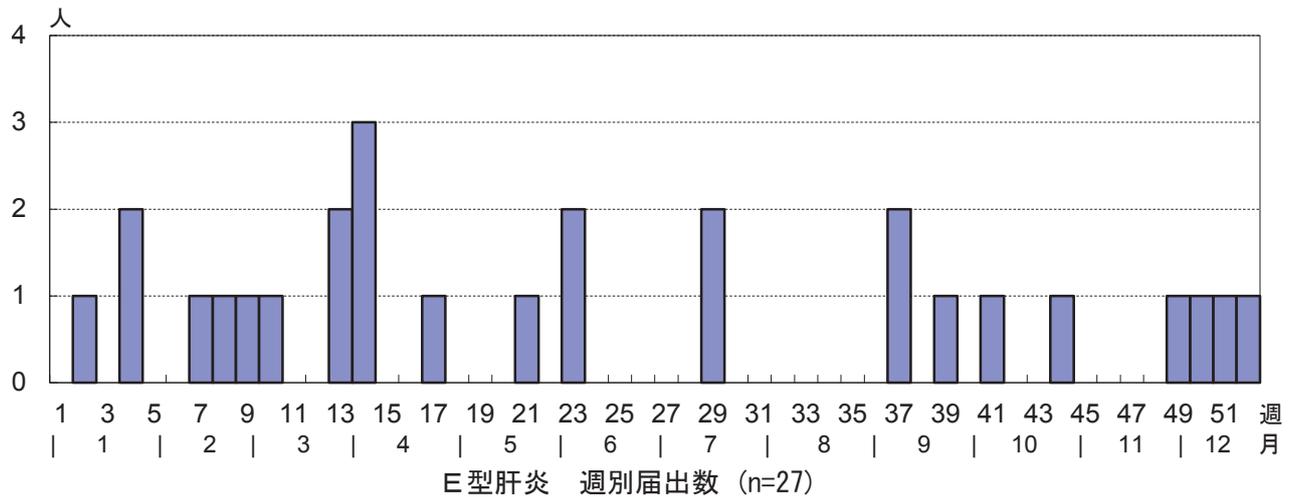
受理日	性別	年齢	フェージ型	推定感染地
1/7	男	72	1	ネパール
4/15	女	40	2	カンボジア
5/21	男	28	不明	インドネシア又は台湾
7/14	男	36	1	ミャンマー又はマレーシア又はインドネシア
7/17	男	30	1	ミャンマー
8/22	男	59	1	スリランカ
9/2	男	20	不明	バングラデシュ
12/3	女	28	1	ミャンマー

## エ 四類感染症

### ① E型肝炎

2014年は27人の届出があった。性別は男性24人、女性3人で、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳5人、40～49歳3人、50～59歳8人、60～69歳6人、70歳以上4人であった。

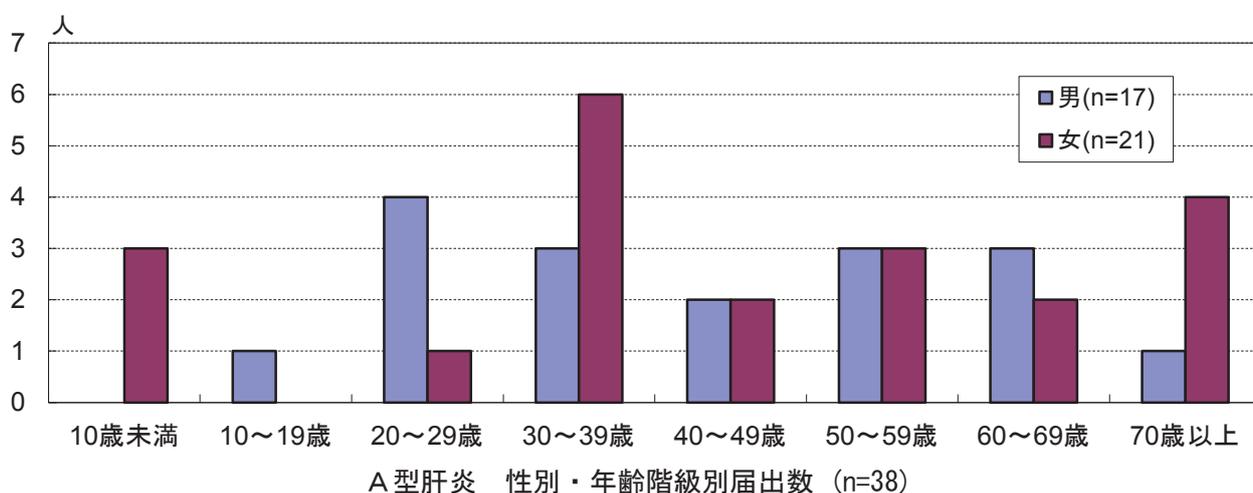
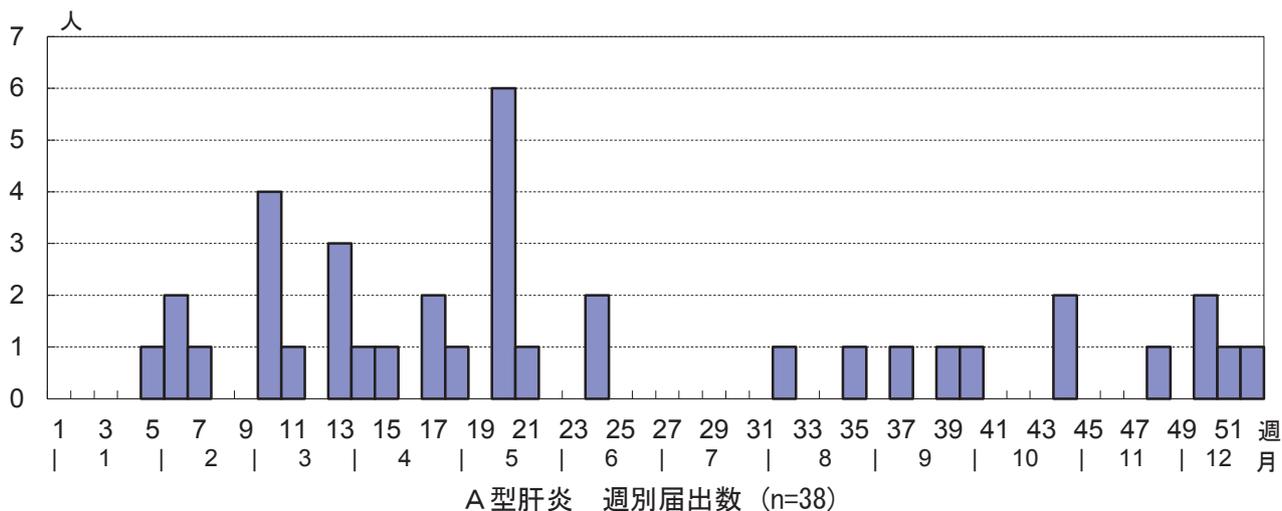
推定感染地は国内26人、ベトナム1人であった。推定感染経路ではレバーが7人（うち3人は豚レバー、1人は鳥生レバー）、鳥生レバー以外の生肉が2人（うち1人は豚肉猪肉両方喫食、1人は動物種不明）、カキの喫食が1人見られた。



### ② A型肝炎

2014年の届出は38人であり、性別は男性17人、女性21人で、年齢階級別では10歳未満3人、10～19歳1人、20～29歳5人、30～39歳9人、40～49歳4人、50～59歳6人、60～69歳5人、70歳以上5人であった。

推定感染地は国内22人、国外15人、国内または国外（フィリピン）1人であった。国外感染と推定された15人の感染地域は、南アジア5人、東南アジア4人、アフリカ2人、西アジア1人、北アメリカ1人、南アメリカ1人、2地域以上1人で、推定感染国はフィリピン3人、インド2人、パキスタン、ネパール、スリランカ、インドネシア、ウガンダ、ボツワナ、メキシコ、ペルー、アラブ首長



国連邦、インド又はカタル又はイタリアがそれぞれ1人であった。

推定感染経路は、飲食物を介した経口感染30人、経口感染又は性的接触1人、不明7人であり、経口感染30人の推定原因食品は魚介類(寿司含む)が12人、生もの3人、寿司1人、肉類1人、水1人、魚介類又は生もの1人、不明11人であった。

### ③ オウム病

2014年は3人(2週に届出があった67歳男性、10週に届出があった32歳男性、39週に届出があった72歳女性)の届出があり、推定感染地は国内、感染経路は2名が動物・蚊・昆虫等からの感染(鳥)、1名は不明であった。

### ④ チクングニア熱

2014年は5人届出があった。性別は男性3人、女性2人であり、年齢階級別では20~29歳1人、40~49歳3人、50~59歳1人、推定感染地はすべて国外(インドネシア2人、ガイアナ1人、ジャマイカ1人、コロンビア1人)であった。

チクングニア熱届出例 (n=5)

受理日	性別	年齢	推定感染国	推定感染経路
3/27	男	50	インドネシア (バリ島)	蚊からの感染
4/4	女	42	インドネシア (バリ島)	動物・蚊・昆虫等からの感染
10/21	男	46	ガイアナ	蚊からの感染
11/5	男	25	ジャマイカ	蚊からの感染
12/26	女	44	コロンビア	蚊からの感染

⑤ つつが虫病

2014年は18人届出があり、性別は男性12人、女性6人であった。年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳3人、30～39歳3人、40～49歳3人、50～59歳2人、60～69歳3人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内16人、国外2人(フィリピン、インド)であり、国内の推定感染地は東京都10人(島しょ地区5人、多摩地区3人、23区内2人)、神奈川県2人、静岡県2人、千葉県1人、不明1人であった。

つつが虫病届出例 (n=18)

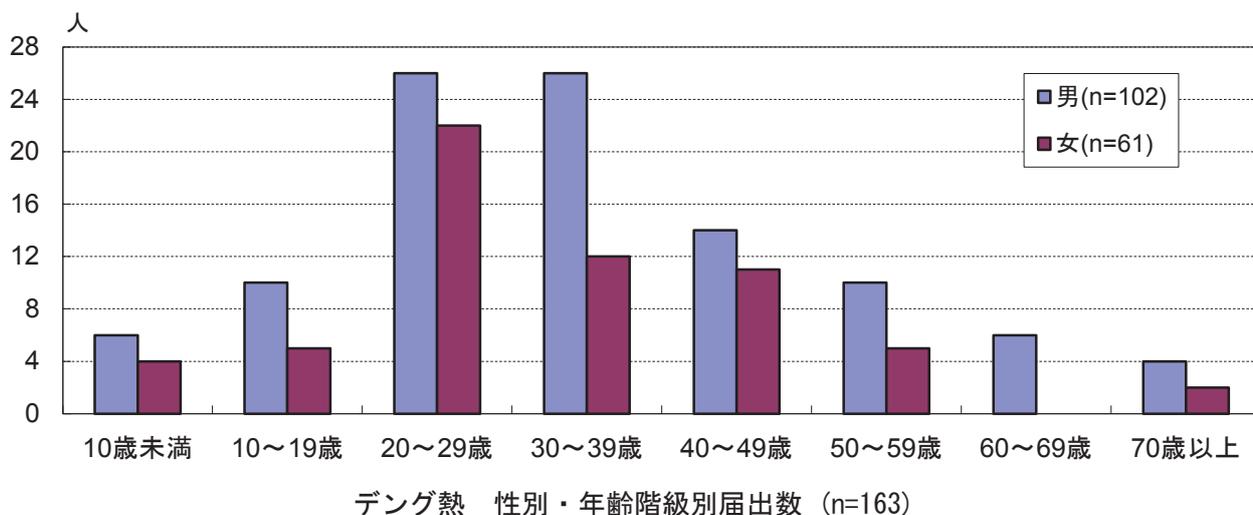
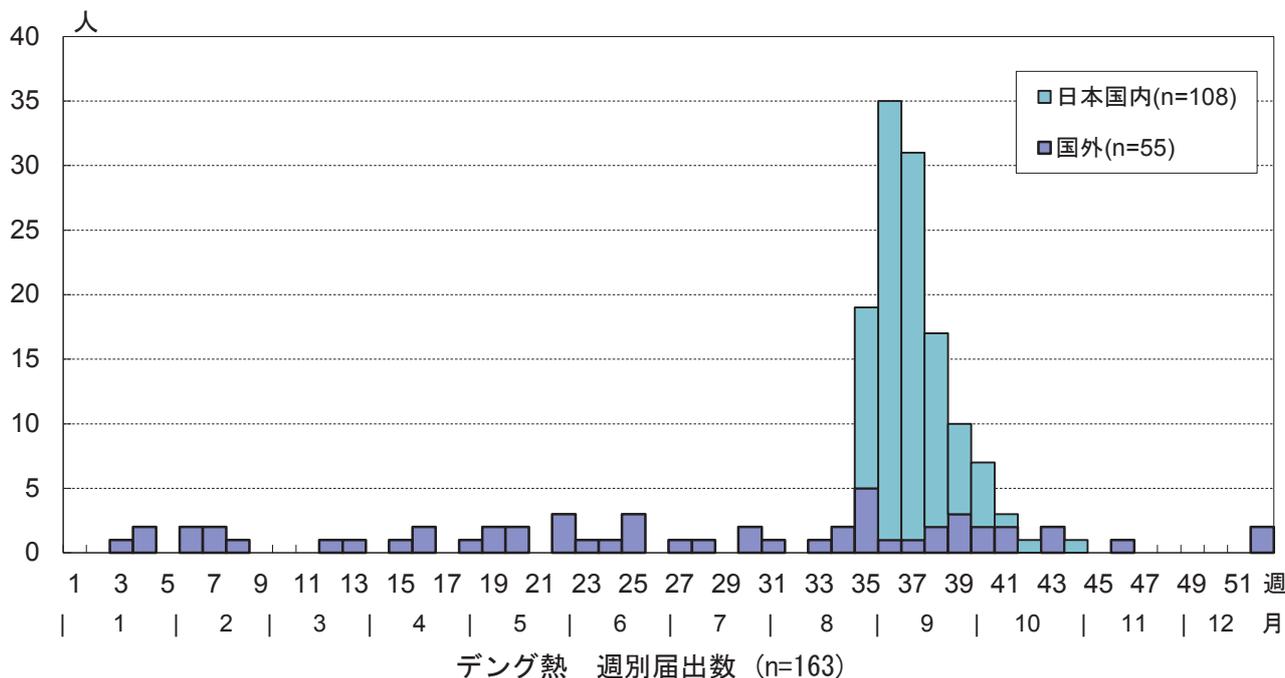
受理日	性別	年齢	推定感染地	野外地への旅行、立入り歴等
1/6	男	58	国内	不明
3/3	男	70	国内	有(ゴルフ場)
4/25	男	69	フィリピン	不明
5/21	女	30	国内	不明
7/9	女	28	国内	不明
9/29	女	40	国内	有(池)
10/20	男	19	国内	不明
10/20	男	28	インド	不明
10/27	男	54	国内	不明
10/28	男	34	国内	不明
10/29	女	84	国内	不明
11/10	男	29	国内	有(演習場での訓練)
11/18	男	47	国内	有(演習場での訓練)
11/25	男	42	国内	有(ゴルフ場)
11/25	女	61	国内	有(雑木林での草刈)
11/27	男	33	国内	有(演習場での訓練)
11/28	男	67	国内	有(山で草刈)
12/8	女	77	国内	有(畑仕事)

⑥ デング熱

2014年は163人(うちデング出血熱4人)届出があり、過去10年では最も多い届出数となった。

また、国内感染が1945年以来69年ぶりに108人確認された。性別は男性102人、女性61人、年齢階級別では10歳未満10人、10～19歳15人、20～29歳48人、30～39歳38人、40～49歳25人、50～59歳15人、60～69歳6人、70歳以上6人であった。血清型は74件報告されており、その内訳は1型62件、2型5件、3型4件、4型3件であり、国内感染の血清型判明例はすべて1型であった。

推定感染地は国内が108人、国外が55人であった。国内感染地域は都内が107人、不明が1人で、代々木公園周辺が77人を占めた。国外感染地域別では東南アジアが49人（89%）と多くの割合を占め、他は南アジア4人、中央アメリカ1人、アフリカ1人であった。推定感染国はインドネシア18人、タイ10人、マレーシア7人、フィリピン5人、インド2人、シンガポール2人、ミャンマー2人、マレーシア又はシンガポール2人、スリランカ、タンザニア、モルディブ、東チモール、仏領ポリネシア、タイ又はインドネシア、キューバ又はメキシコが各1人であった。



### ⑦ ブルセラ症

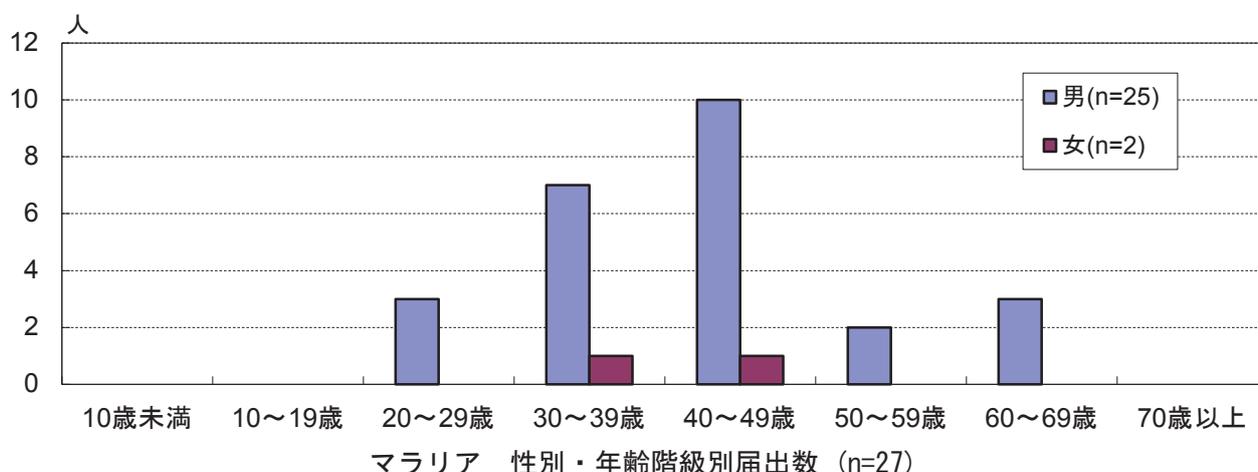
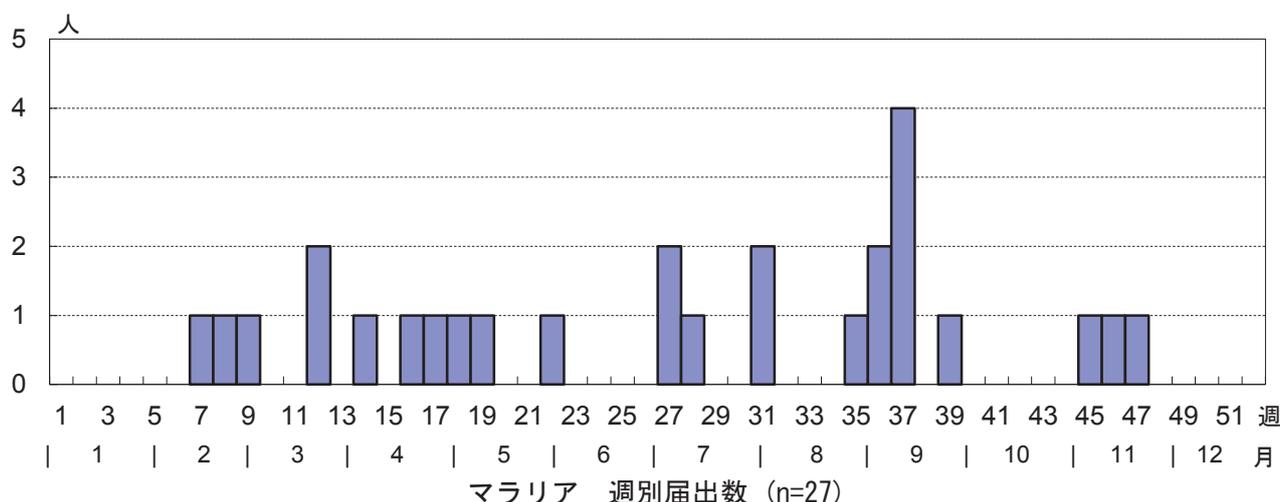
ブルセラ症は2010年以降届出がなかったが、2014年には4件の届出があった。性別は男性2人、

女性 2 人で、年齢は 20～29 歳 1 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人であった。推定感染地は国内 3 人、国外 1 人であった。国内 3 人のうち 2 人は無症状病原体保有者であり、うち 1 人は検査業務による、1 人は動物飼育業務による感染であった。

### ⑧ マラリア

2014 年の届出は 27 人であり、2013 年の 2 倍以上となった。病型は熱帯熱マラリア 20 人、三日熱マラリア 4 人、卵形マラリア 2 人、不明 1 人であり、性別は男性 25 人、女性 2 人、年齢階級別では 20～29 歳 3 人、30～39 歳 8 人、40～49 歳 11 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 3 人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域はアフリカ 20 人、南アジア 3 人、東南アジア 1 人、南アメリカ 1 人、オセアニア 1 人、アフリカ又は東南アジア 1 人であった。推定感染国はナイジェリア 5 人、ウガンダ 3 人、ギニア 2 人、カメルーン 2 人、インド 2 人、コンゴ民主共和国、ケニア、ガーナ、ザンビア、リベリア、シエラレオネ、コートジボアール、パキスタン、インドネシア、ベネズエラ、パプアニューギニア、コートジボアール又はブルキナファソ、ギニアとシンガポールが各 1 人であった。



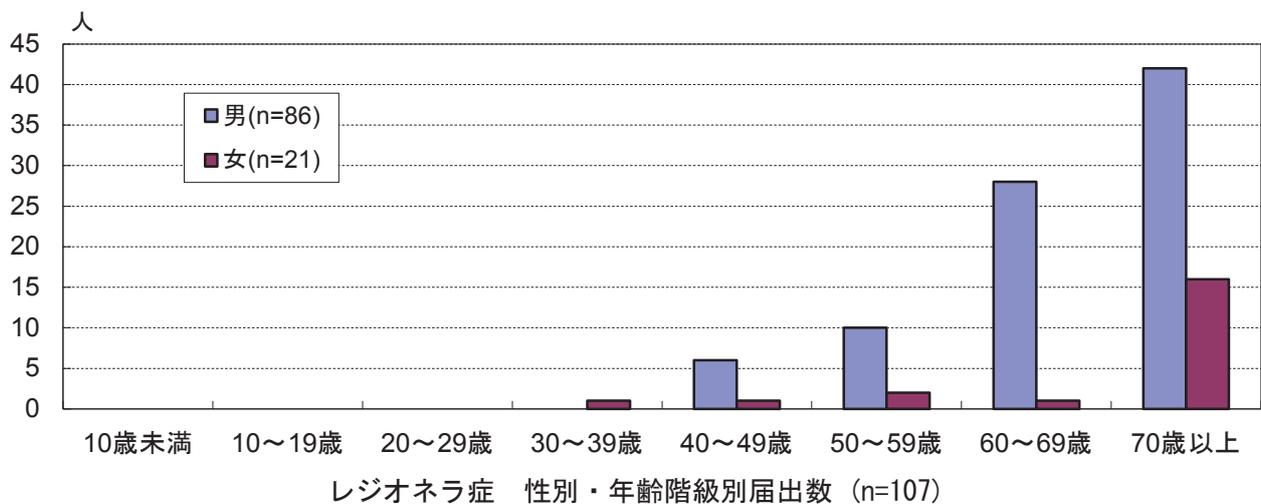
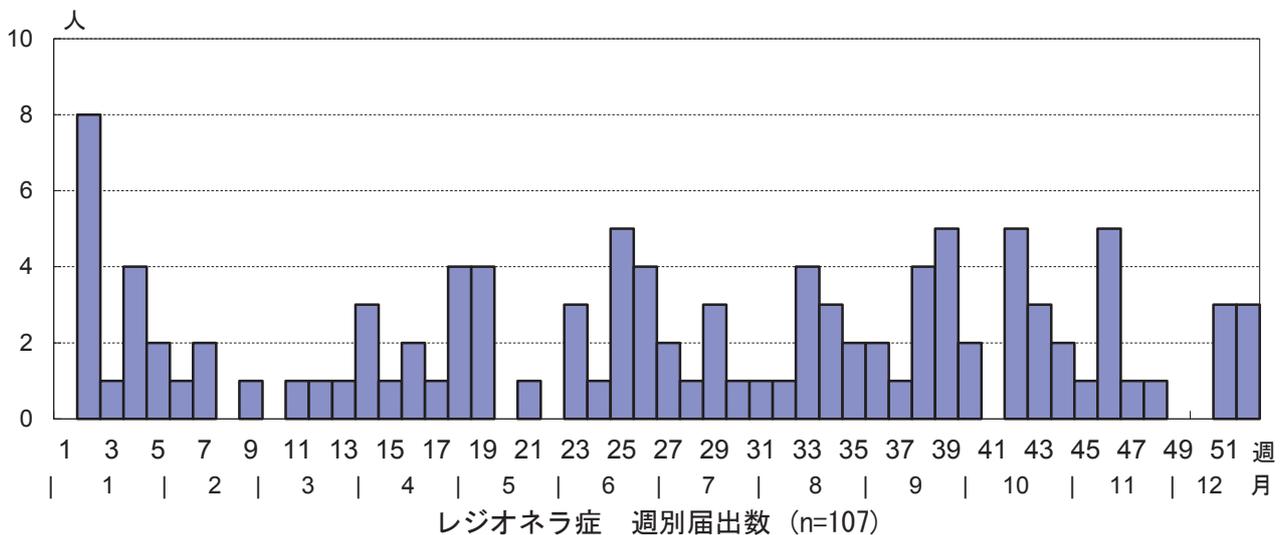
⑨ ライム病

2014年の届出は2人であった。性別はすべて男性で、年齢は20～29歳1人、50～59歳1人であった。推定感染地は国内1人、国外1人であり、国外感染例の推定感染国はインド1人であった。また推定感染経路はマダニ（国内）、昆虫等（インド）であった。

⑩ レジオネラ症

2014年の届出は107人であり、過去10年では最も多い届出数となった。病型は肺炎型103人、ポントティアック熱型3人、無症状病原体保有者1人で、死亡例が2人見られた。性別は男性86人、女性21人、年齢階級別では30～39歳1人、40～49歳7人、50～59歳12人、60～69歳29人、70歳以上58人であった。

推定感染地は国内99人、国外6人（中国3人、米国、ルーマニア、フランス又はモナコが各1人）、国内又はトルコ2人であった。推定感染経路は水系感染39人、塵埃感染7人、不明61人であった。水系感染のうち、温泉施設での感染と推定されたのは10人であった。



⑪ レプトスピラ症

2014年は6人届出があった。性別は男性5人、女性1人で、年齢は10～19歳1人、20～29歳1人、

レプトスピラ症届出例 (n=6)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路
4/9	男	46	国内	ネズミの尿又はネコ
9/9	男	56	国内	淡水 (カヤック・トレッキング)
10/7	男	15	国内	川、海でのカヌー
10/27	女	28	パラオ	滝
11/7	男	32	パラオ	滝
12/22	男	74	国内	ネズミ

30～39 歳 1 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 4 人、パラオ 2 人であった。推定感染経路は、国内感染事例では水系感染 2 人、ネズミ又はネコ 2 人、パラオでの感染事例は 2 人は同一のツアーにおける滝での遊泳が推定感染原因であった。

#### ⑭ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

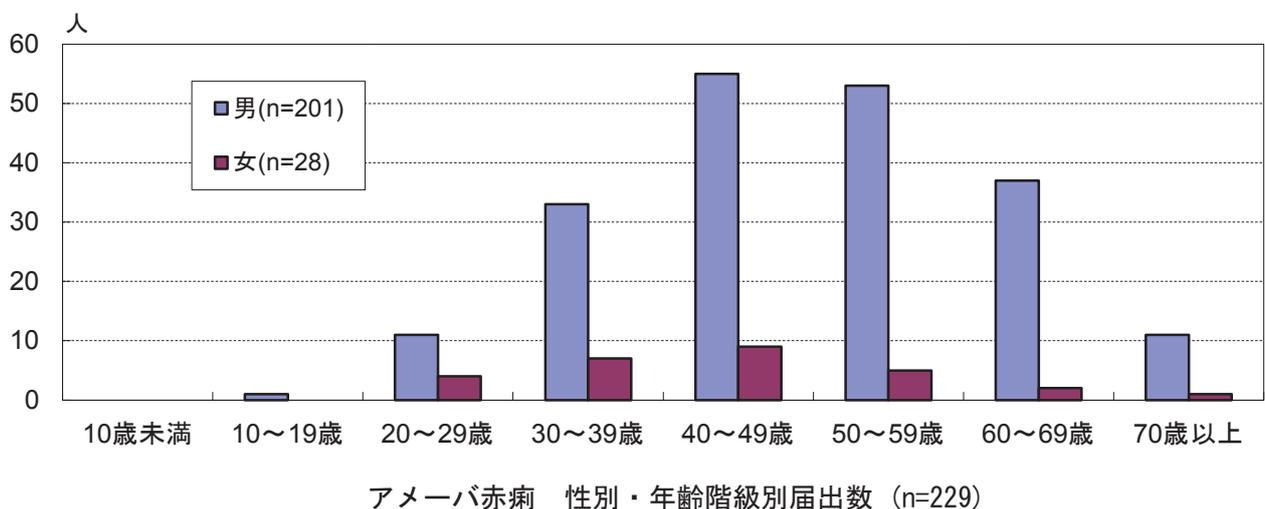
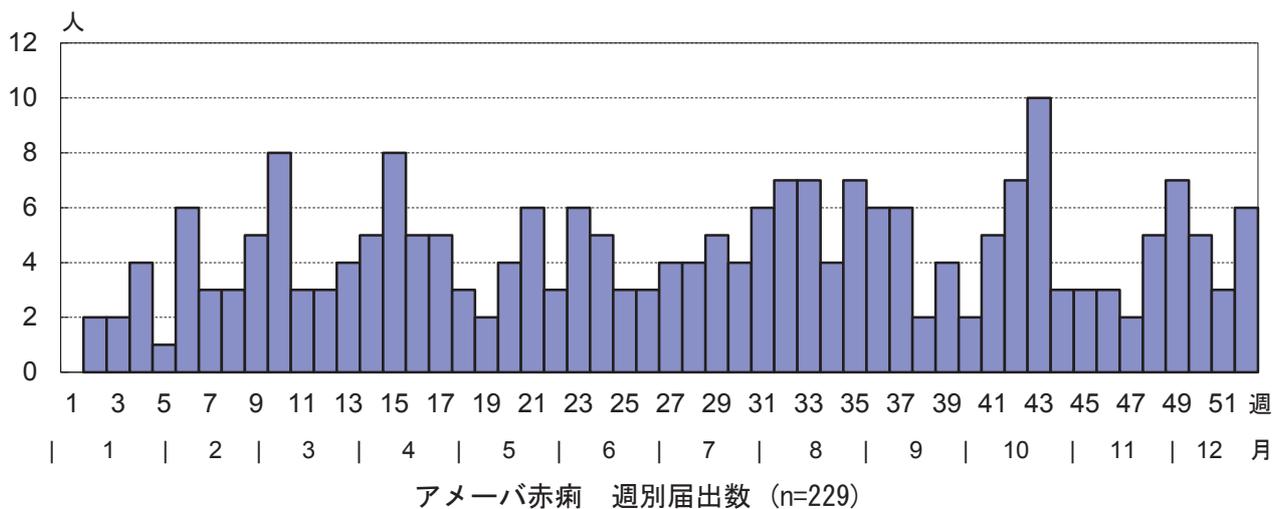
## オ 五類感染症（全数把握対象）

### ① アメーバ赤痢

2014年は229人届出があり、過去10年では最も多い届出数となった。腸管アメーバ症198人、腸管外アメーバ症15人、腸管及び腸管外アメーバ症16人であった。性別は男性201人、女性28人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳15人、30～39歳40人、40～49歳64人、50～59歳58人、60～69歳39人、70歳以上12人であった。

推定感染地は国内179人、国外42人、国内又は国外8人であり、国外感染例42人を推定感染地域別にみると、東南アジア13人、東アジア6人、南アジア3人、北アメリカ3人、アフリカ2人、西アジア1人、2地域以上8人、東南アジア又は渡航先不明1人、渡航先不明5人であった。渡航先不明及び東南アジア又は渡航先不明の6人を除く推定感染国はタイ4人、インドネシア4人、中国4人、インド3人、マレーシア2人、韓国2人、米国2人、フィリピン、ベトナム、コンゴ、タンザニア、香港、メキシコ各1人のほか、台湾又は中国1人、ベトナム又は中国1人、韓国又はオーストラリア1人、ベトナム又はラオス又はカンボジア1人、サウジアラビア又はクウェート又はオマーン1人、タイ又はインドネシア又は中国1人、タイ又はフィリピン又は台湾1人、タイ又はマレーシア又は米国（グアム）1人、インドネシア又はマレーシア又はカナダ1人であった。

推定感染経路は、性的接触67人（同性間32人、異性間24人、両性間1人、性別不明10人）、飲食物による経口感染49人、2経路以上3人、家族内感染疑い1人、不明109人であった。



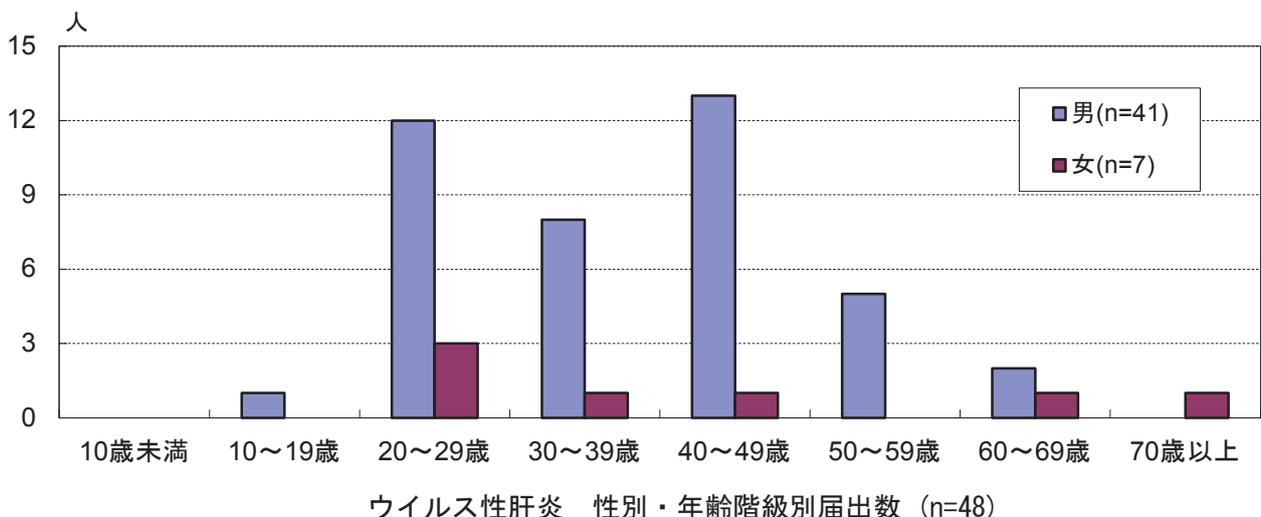
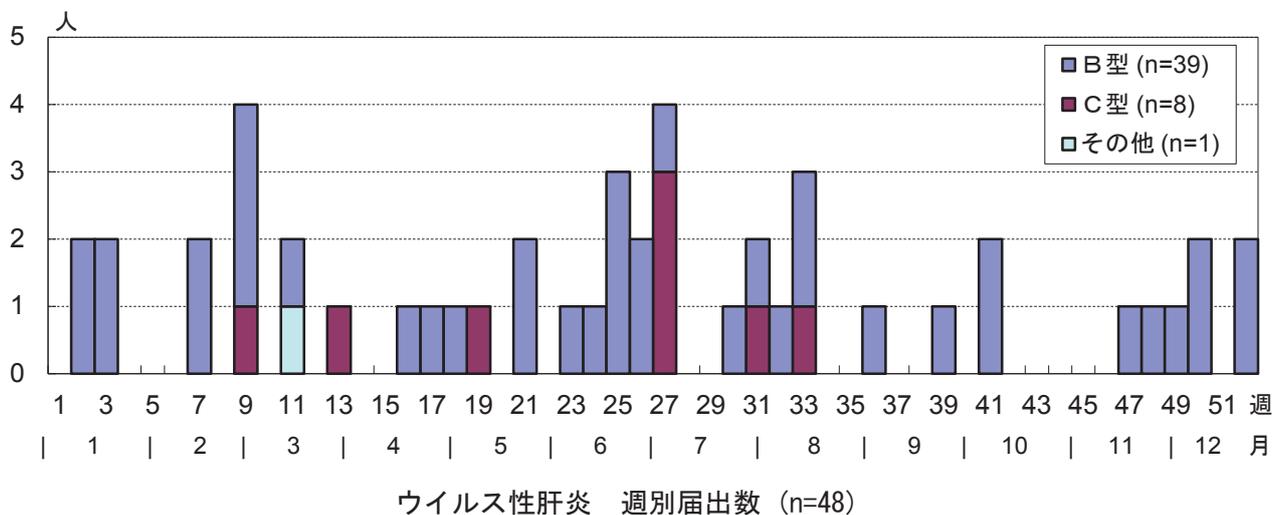
② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

2014年の届出は48人であった。内訳は、B型肝炎39人、C型肝炎8人、サイトメガロウイルス肝炎1人であった。

B型肝炎39人の届出のうち男性は33人、女性は6人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳15人、30～39歳6人、40～49歳11人、50～59歳4人、60～69歳2人であった。推定感染地は国内36人、国外2人（タイ1人、シンガポール1人）、国内又は中国1人で、推定感染経路は性的接触30人（同性間8人、異性間16人、両性間1人、性別不明5人）、不明9人であった。

C型肝炎8人の性別は男性7人、女性1人で、年齢は30～39歳3人、40～49歳3人、60～69歳1人、70歳以上1人であった。推定感染地はすべて国内で、性的接触6人（同性間4人、異性間1人、性別不明1人）、不明2人であった。

サイトメガロウイルス肝炎の1人は、52歳の男性で、推定感染地は国内、推定感染経路は接触経口感染の疑いがあるが詳細は不明であった。



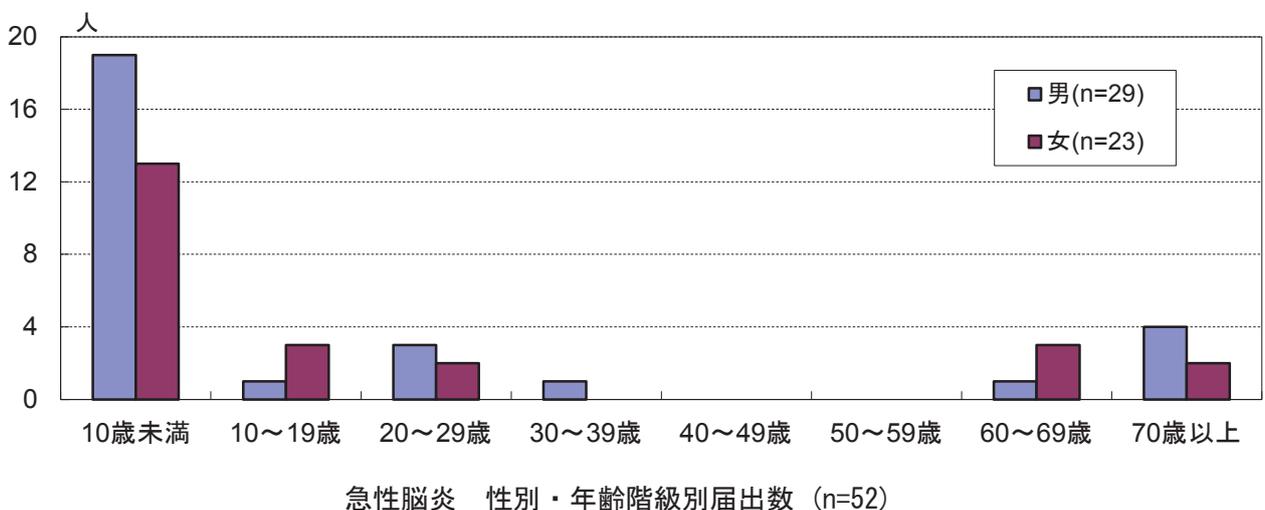
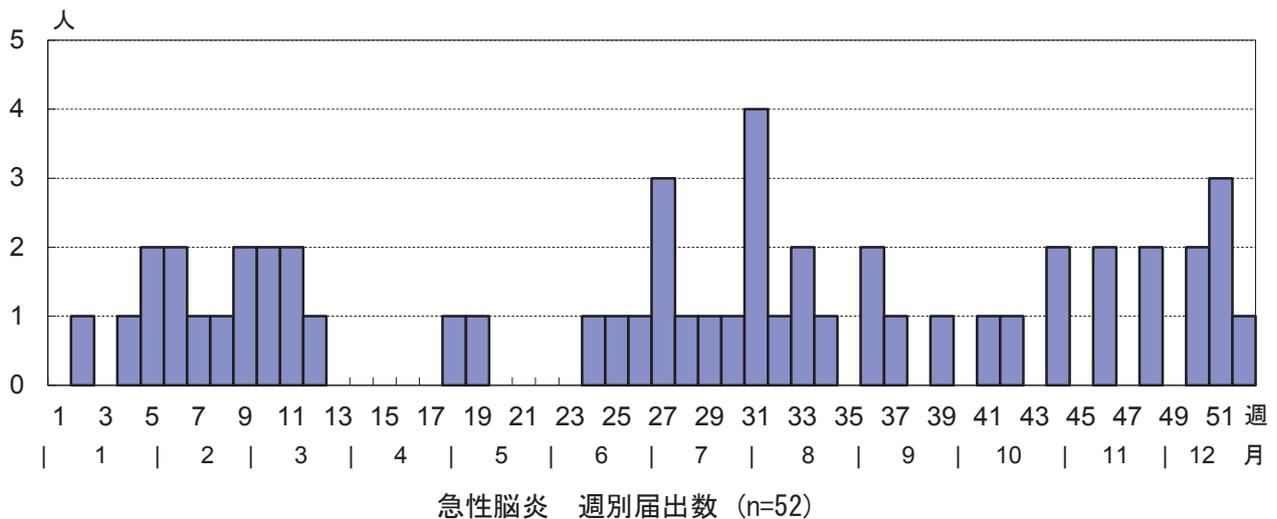
③ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

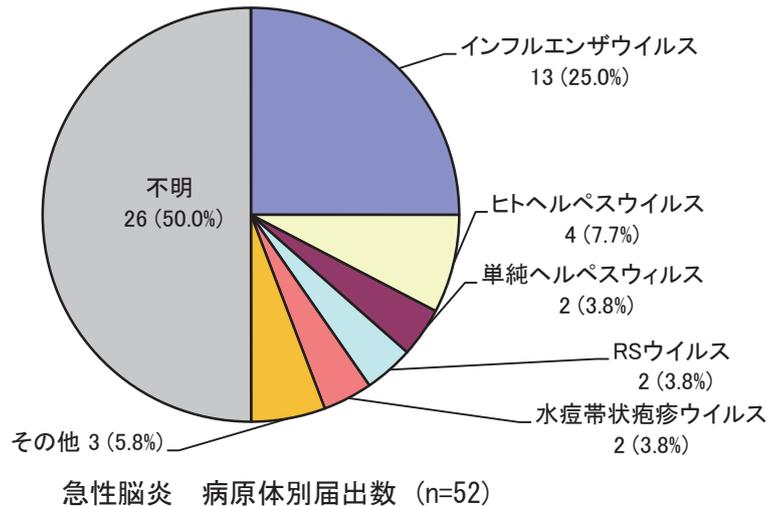
五類感染症（全数把握）の届出対象となった2014年9月19以降56人の届出があった。性別は男性38人、女性18人で、年齢階級別では10歳未満2人、10～19歳2人、30～39歳2人、40～49歳3人、50～59歳6人、60～69歳9人、70歳以上32人であった。推定感染地はすべて国内であった。分離された菌種は *Enterobacter cloaca* が29件、*Enterobacter aerogenes* が16件、*Klebsiella pneumoniae* が5件、*Escherichia coli* が3件、*Citrobacter freundii* 2件、*Serratia marcescens* が1件であった。

④ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2014年は52人の届出があり、全数把握の対象疾患となった2003年以降、最も多い届出数であった。病原体はインフルエンザウイルス13件、ヒトヘルペスウイルス4件、単純ヘルペスウイルス2件、RSウイルス2件、水痘帯状疱疹ウイルス2件、ヘルペス脳炎1件、アデノウイルスⅡ型1件、コクサッキーA10が1人、不明26件であった。

性別は男性29人、女性23人で、年齢階級別では10歳未満32人（うち5歳未満17人）、10～19歳4人、20～29歳5人、30～39歳1人、60～69歳4人、70歳以上6人、推定感染地はすべて国内であった。





### ⑤ クリプトスポリジウム症

2014年は6月から7月にかけて集団発生があった影響で、2003年以降で最も多い82人の届出があった。

集団発生の届出は国内における牧場体験の生徒、教師及びその接触者で、70人であった。その内訳は、男性36人、女性34人で、年齢は10歳未満1人、10～19歳60人、20～29歳3人、30～39歳1人、40～49歳4人、50～59歳1人であった。

集団感染以外の届出は12人であった。その内訳はいずれも男性で、年齢は20～29歳2人、30～39歳6人、40～49歳3人、60～69歳1人であった。推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触10人、経口感染2人であった。

### ⑥ クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

2014年は17人の届出があった。孤発性プリオン病・古典型CJDが16人（ほぼ確実13人、疑い3人）、遺伝性プリオン病・家族性CJDが1人（確実、コドン異常検出及び免疫染色で異常プリオン蛋白を検出）であった。性別は男性が7人、女性が10人で、年齢は50～59歳2人、60～69歳3人、70歳以上12人であった。

孤発性プリオン病・古典型CJDの症状は、進行性認知症が16人全員に認められたほか、無動性無言状態12人、ミオクローヌス11人、精神・知能障害11人、記憶障害11人、錐体路症状9人、錐体外路症状8人、小脳症状7人、筋強剛7人、視覚異常7人、痙性対麻痺2人、異常感覚1人が見られた。

遺伝性プリオン病の1人の症状は、進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、錐体外路症状、小脳症状、視覚異常、無動性無言状態、記憶障害、筋強剛が認められた。

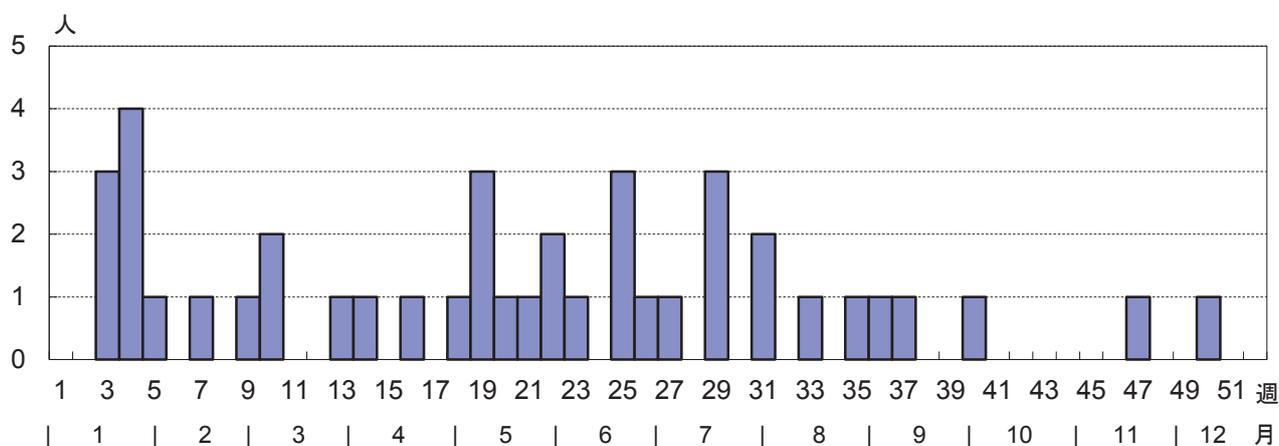
クロイツフェルト・ヤコブ病届出例 (n=17)

受理日	性別	年齢	病型	確実度
2/10	男	64	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
3/17	女	69	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
3/31	男	75	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
6/10	男	75	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
7/2	男	83	孤発性－古典型 CJD	疑い
7/17	女	82	孤発性－古典型 CJD	疑い
7/22	女	70	孤発性－古典型 CJD	疑い
8/1	女	54	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
8/26	女	78	遺伝性－家族性 CJD	確実
9/26	男	80	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
10/6	女	76	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
10/9	女	77	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
10/28	女	88	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
11/10	女	85	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
11/18	男	71	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
12/3	女	61	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
12/10	男	54	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実

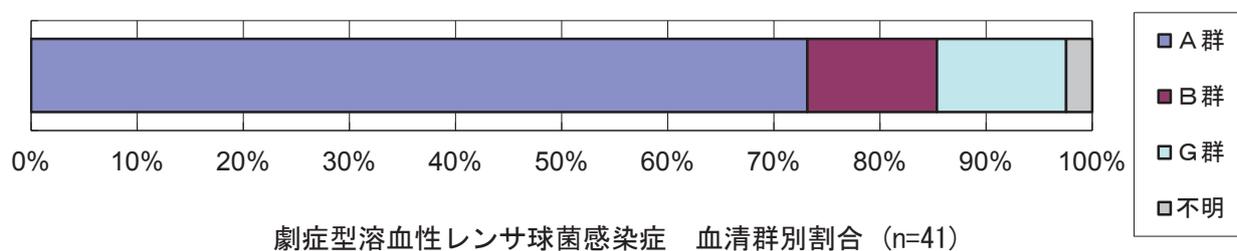
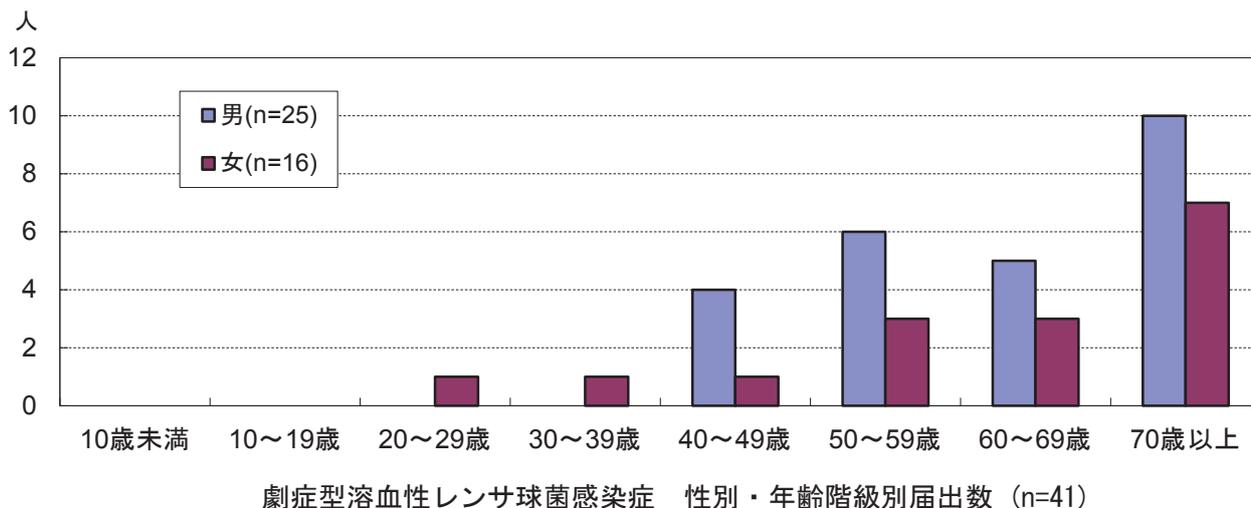
### ⑦ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2014年は41人届出があり、過去10年で最も多い届出数となった。血清型はA群30件、B群5件、G群5件、不明1件で、性別は男性25人、女性16人、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳1人、40～49歳5人、50～59歳9人、60～69歳8人、70歳以上17人であった。

また、死亡例は7人（30～39歳1人、60～69歳1人、70歳以上5人）報告された。推定感染地は国内40人、国内又は中国1人で、推定感染経路は創傷感染15人、飛沫・飛沫核感染4人、接触感染1人、不明21人であった。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 週別届出数 (n=41)



### ⑧ 後天性免疫不全症候群

2014年は512人の届出があり、AIDS患者97人、HIV感染者415人（うち指標疾患以外の有症者60人、無症候性キャリア355人）であった。

AIDS患者97人の内訳は男性96人、女性1人で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳9人、30～39歳35人、40～49歳31人、50～59歳12人、60～69歳7人、70歳以上2人であった。

HIV感染者のうち指標疾患以外の有症者の60人は全員男性で、年齢は10～19歳1人、20～29歳22人、30～39歳13人、40～49歳19人、50～59歳4人、60～69歳1人であった。

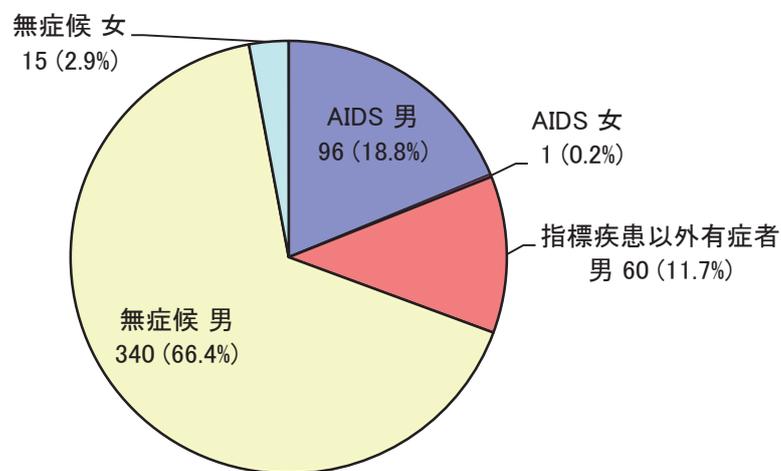
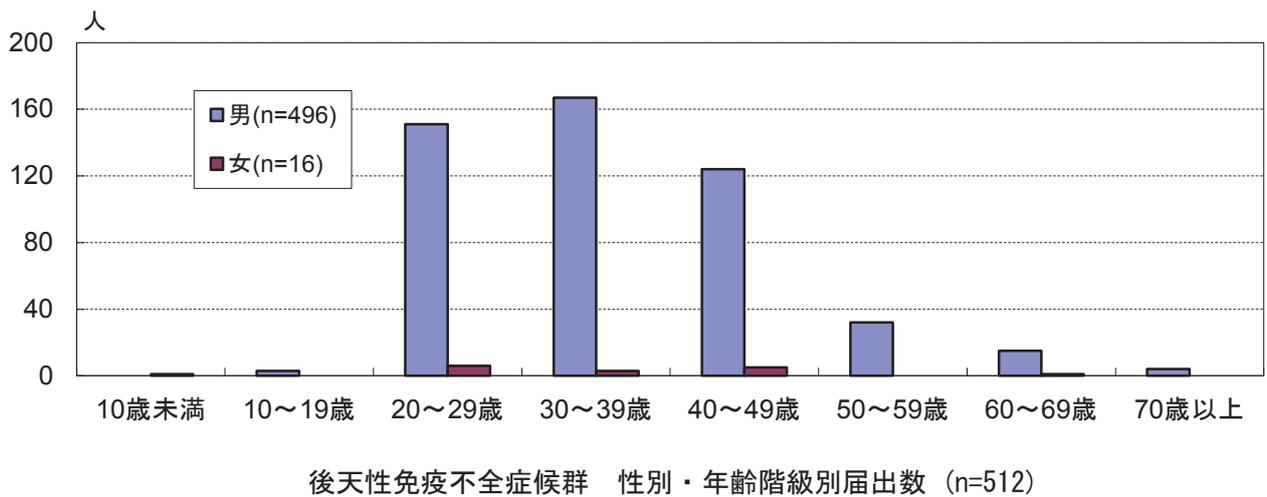
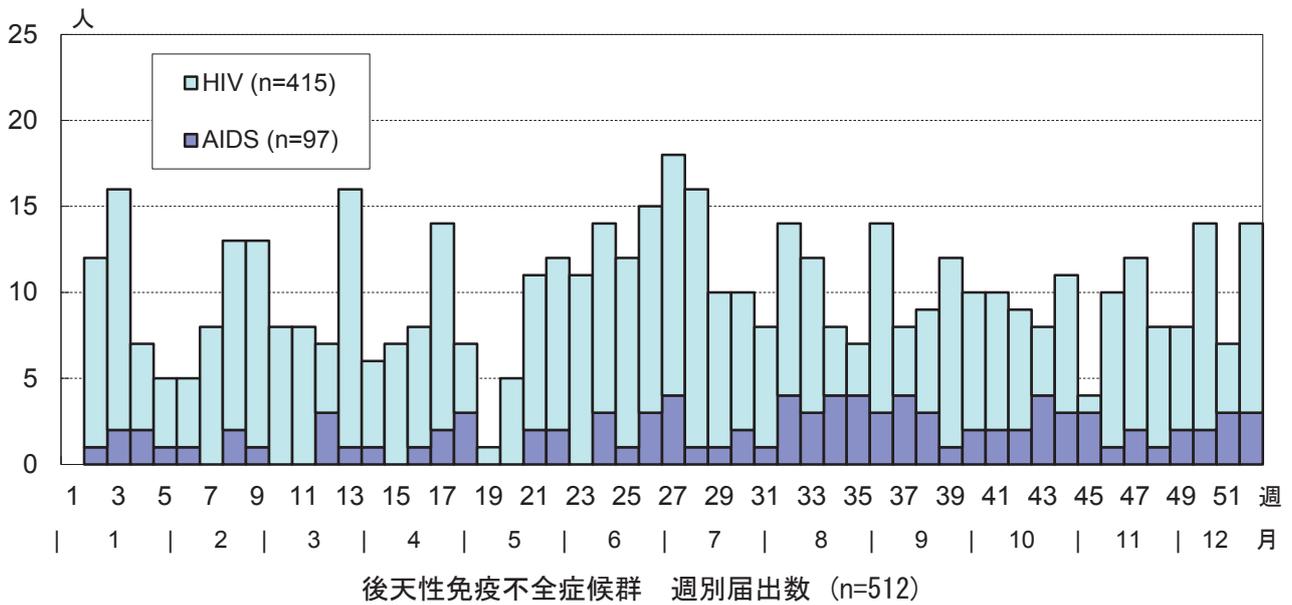
HIV感染者のうち無症候性キャリアの355人は男性340人、女性15人で、年齢は10～19歳2人、20～29歳126人、30～39歳122人、40～49歳79人、50～59歳16人、60～69歳8人、70歳以上2人であった。

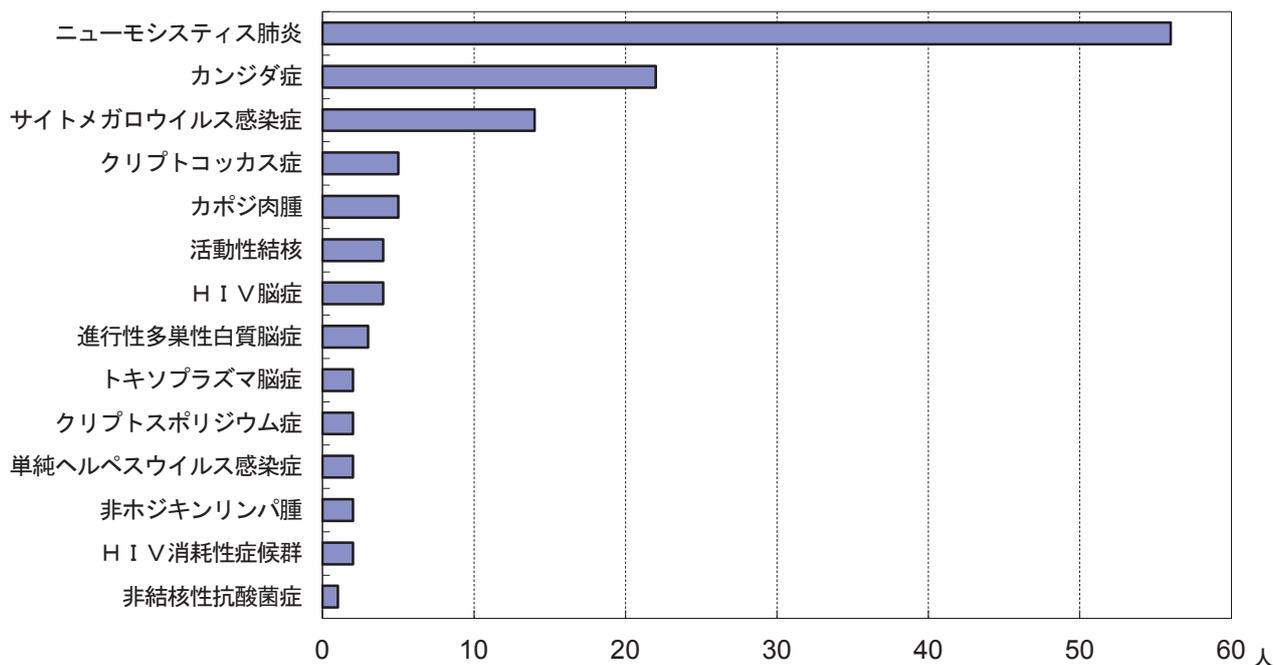
推定感染地は国内436人、国外24人、国内又は国外4人、不明48人であった。国外感染例24人の推定感染地域は、東南アジア11人、東アジア5人と多く、アメリカ2人、アフリカ2人、EU1人、不明3人であった。推定感染国別に見ると、タイ3人、インドネシア2人、シンガポール2人、ミャンマー2人、韓国2人、台湾2人、米国2人、フィリピン1人、中国1人、イギリス1人、カメルーン1人、南アフリカ1人、タイ又はフィリピン1人、渡航先不明3人であった。

推定感染経路は性的接触464人（同性間350人、異性間91人、両性間18人、不明5人）、輸血1人、母子感染1人、2経路以上5人（同性間性的接触又は静注薬物使用2人、異性間性的接触又は静注薬物使用1人、同性間性的接触又は異性間性的接触又は薬物1人、同性間性的接触又は異性間性的接触又は入れ墨1人）、不明41人であった。

AIDSと診断した指標疾患は、57.7%（97人中56人）がニューモシスティス肺炎であり、他にカン

ジダ症 22 人、サイトメガロウイルス感染症 14 人などが多かった。なお、これらの中には複数疾患発症者の報告 22 人（2 疾患 19 人、3 疾患 2 人、5 疾患 1 人）が含まれている。





AIDSと診断した指標疾患 (n=97、重複あり)

⑨ ジアルジア症

2014年は15人届出があった。性別は男性11人、女性4人で、年齢は10～19歳1人、20～29歳4人、30～39歳6人、40～49歳3人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内9人、国外6人であった。国外感染例6人を推定感染地域別に見ると、南アジア（インド）5人、東南アジア（ラオス）1人であった。

推定感染経路は、性的接触（同性間）5人、経口感染5人、経口感染又は水系感染2人、ペット由来1人、不明2人であった。

ジアルジア症届出例 (n=15)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路
2/10	男	30	国内	ペット由来 (猫)
2/14	女	75	国内	不明
3/12	女	46	インド	経口感染又は水系感染
3/13	男	25	インド	経口感染又は水系感染
4/1	男	32	国内	同性間性的接触
4/2	男	20	インド	経口感染
4/9	女	18	インド	経口感染
6/24	男	22	国内	同性間性的接触
7/14	男	43	国内	同性間性的接触
8/8	男	27	国内	同性間性的接触
8/26	男	32	国内	同性間性的接触
9/9	男	30	国内	経口感染
9/26	男	31	インド	経口感染
12/15	男	41	国内	不明
12/17	女	39	ラオス	経口感染

### ⑩ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2014年は22人届出があった。血清型はB群1人、判定不能1人、不明20人であり、性別は男性9人、女性13人、年齢は10歳未満5人（うち5歳未満4人）、10～19歳1人、40～49歳1人、50～59歳1人、60～69歳2人、70歳以上12人で、死亡例は2人報告された。

推定感染地は国内21人、国外（タイ）1人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染8人、その他3人、不明11人であった。

Hib ワクチン接種歴は4回接種が1人、3回接種が2人、2回接種が1人（いずれも5歳未満の4人）のほか、接種なし8人、不明10人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症届出例（n=22）

受理日	性別	年齢	血清型	推定感染地	推定感染経路	ワクチン接種歴
1/6	男	62	不明	国内	不明	なし
1/7	女	0	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	3回接種
1/7	女	12	不明	国内	副鼻腔炎からの波及	なし
1/31	女	82	不明	国内	不明	なし
4/11	女	80	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
4/14	女	1	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	4回接種
4/24	男	80	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
5/9	女	70	不明	国内	開頭術後感染	不明
5/14	男	71	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
5/21	男	4	判定不能	国内	不明	2回接種
5/22	女	6	不明	国内	不明	なし
5/27	男	47	不明	国内	不明	不明
5/28	男	1	不明	国内	中耳炎からの波及	3回接種
6/5	女	71	不明	国内	不明	不明
6/30	女	50	B群	タイ	不明	なし
7/8	女	99	不明	国内	不明	不明
9/6	女	86	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
9/10	女	83	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
9/18	男	77	不明	国内	不明	不明
10/22	男	84	不明	国内	不明	なし
11/4	男	67	不明	国内	不明	なし
12/19	女	81	不明	国内	飛沫・飛沫核感染	不明

### ⑪ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2014年は9人届出があった。血清群はW-135群2人、C群2人、B群1人、W-135群及びY群1人、不明3人であり、性別は男性3人、女性6人であった。年齢階級別では10歳未満1人（うち5歳未満1人）、50～59歳2人、60～69歳1人、70歳以上5人で、死亡例は2人報告された。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染3人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染1人、不明5人、ワクチン接種歴は、なし6人、不明3人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症届出例 (n=9)

受理日	性別	年齢	血清群	推定感染地	推定感染経路	ワクチン接種歴
1/6	男	64	C群	国内	不明	なし
3/11	女	73	不明	国内	不明	なし
3/18	男	52	C群	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
6/16	女	87	W-135群	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
8/1	女	0	B群	国内	不明	なし
10/2	女	80	不明	国内	不明	不明
10/31	男	56	不明	国内	不明	なし
11/7	女	76	W-135群	国内	飛沫・飛沫核感染 又は接触感染	不明
11/27	女	72	W-135群 及びY群	国内	飛沫・飛沫核感染	不明

### ⑫ 侵襲性肺炎球菌感染症

2014年は225人届出があった。血清型は24F型8人、15A型6人、10A型4人、19A型3人、1型2人、3型2人、7F型2人、11A型2人、15C型2人、6C型1人、7C型1人、12F型1人、15B型1人、24B型1人、23F型1人、33F型1人、35B型1人、24（24A又は24B又は24F）型1人、不明185人で、性別は男性134人、女性91人であった。年齢階級別では10歳未満51人（うち5歳未満40人）、20～29歳3人、30～39歳7人、40～49歳17人、50～59歳18人、60～69歳48人、70歳以上81人で、死亡例は12人報告された。

推定感染地は国内224人、国内又は国外（中国）1人であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染72人、接触感染3人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染3人、不明147人であった。ワクチン接種歴は4回接種13人、3回接種16人、2回接種6人、1回接種18人、なし105人、不明67人であった。

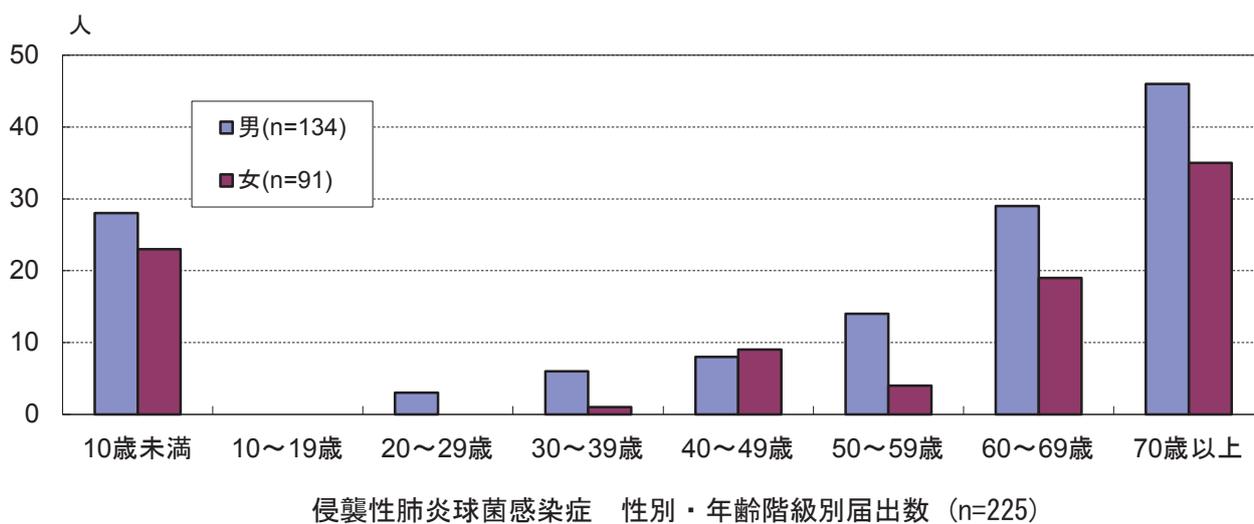
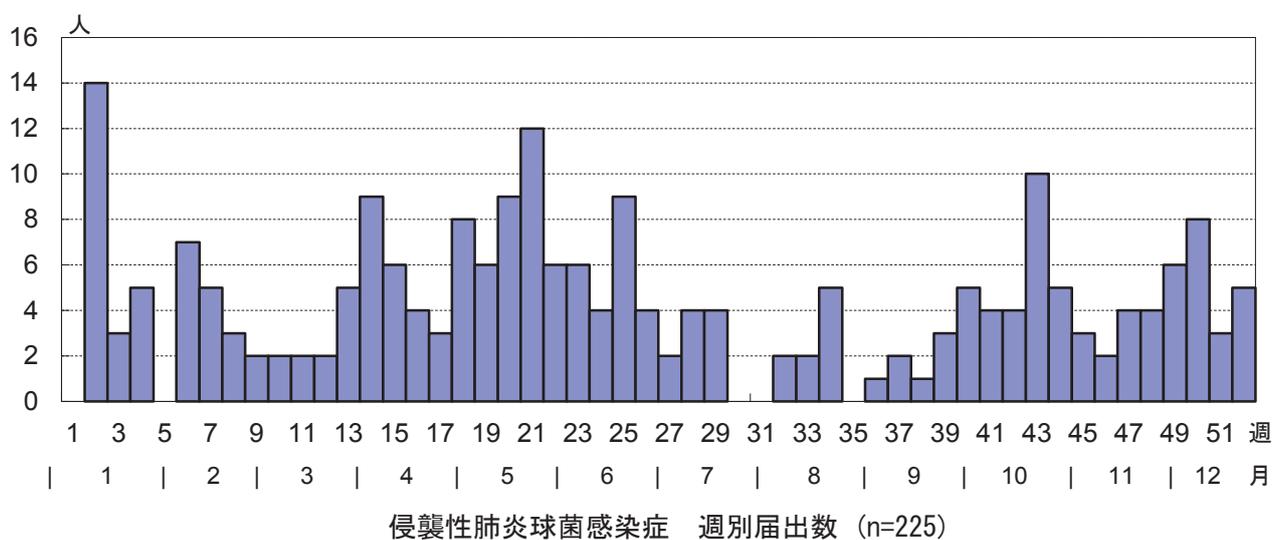
年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=225)

	7価4回	7価3回	7価2回	7価1回	13価3回	13価2回	13価1回	23価1回	23価2回
5歳未満	6	9	2		3	1	1		
5～9歳			1	3			1	2	
10～64歳								2	
65歳以上								2	1
合計	6	9	3	3	3	1	2	6	1

(表の続き)

年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=225)

	7価3回と 13価1回	7価3回と 不明1回	7価2回と 13価1回	7価1回と 不明1回	不明3回	不明1回	なし	不明	合計
5歳未満	6	1	2		2		7		40
5～9歳				1		1	2		11
10～64歳							36	26	64
65歳以上						6	60	41	110
合計	6	1	2	1	2	7	105	67	225



### ⑬ 水痘（入院例）

五類感染症（全数把握）の届出対象となった2014年9月19以降11人の届出があった。性別は男性7人、女性4人で、年齢階級別では10歳未満2人、10～19歳2人、30～39歳3人、40～49歳3人、50～59歳1人であった。

水痘（入院例）届出例（n=11）

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路	ワクチン接種歴
9/24	男	25	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
9/24	男	31	国内	不明	なし
9/30	男	26	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
10/2	男	46	国内	不明	不明
10/10	女	36	国内	接触感染	不明
10/24	男	29	国内	飛沫・飛沫核感染	なし
11/17	女	10	国内	飛沫・飛沫核感染	1回
11/28	女	6	国内	不明	なし
11/28	女	0	国内	飛沫・飛沫核感染又は接触感染	なし
12/16	男	31	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
12/24	男	10	国内	飛沫・飛沫核感染又は接触感染	2回

### ⑭ 先天性風しん症候群（CRS）

2014年は3人の届出があった。性別は男性1人、女性2人で、全員1歳未満、母親の推定感染地はすべて国内（東京都2人、神奈川県1人）であった。なお新規の届出は3月以降発生していない。

母親の妊娠中の風しん罹患歴は、3人すべてありであった。また、母親の風しんワクチン接種歴は、あり1人（1回のみ）、不明2人であった。

病型はCRS典型例2人、その他\*1人で、症状は先天性心疾患（2人、共に動脈管開存症の疑い）、難聴、紫斑、X線透過性の骨病変、黄疸（以上各1人）などが見られた。

\* 届出に必要な臨床症状のうち、CRS典型例は①から2項目以上又は①から1項目と②から1項目以上、その他は①若しくは②から1項目以上

- ① 白内障又は先天性緑内障、先天性心疾患、難聴、色素性網膜症
- ② 紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅滞、髄膜炎、X線透過性骨病変、生後24時間以内に出現した黄疸

先天性風しん症候群届出例（n=3）

受理日	性別	月齢	病型	母親の妊娠中の風しん罹患歴*	母親の風しんワクチン接種歴
1/10	女	0	CRS典型例	あり（8）	不明
1/20	男	0	CRS典型例	あり（6）	不明
2/24	女	3	その他	あり（6）	1回（13歳、風しん単抗原）

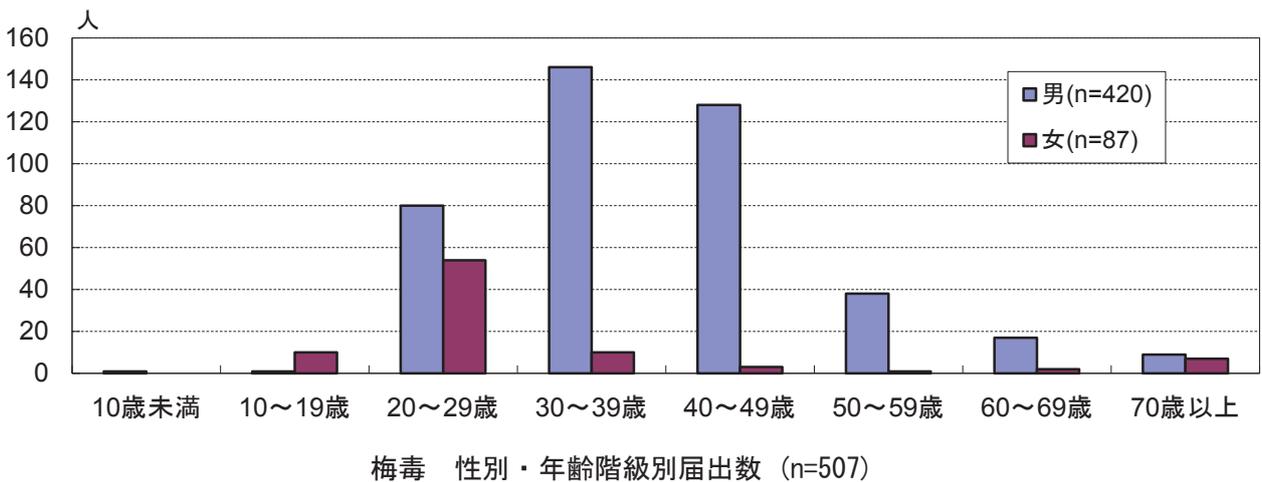
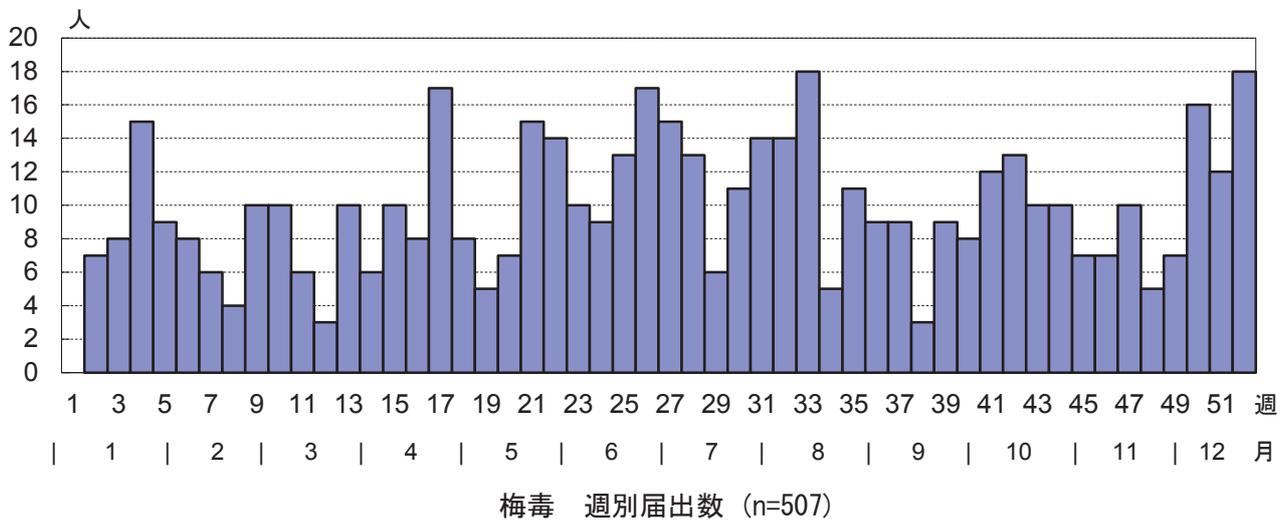
\* （ ）内の数値は母親が風しんを発症した妊娠週数

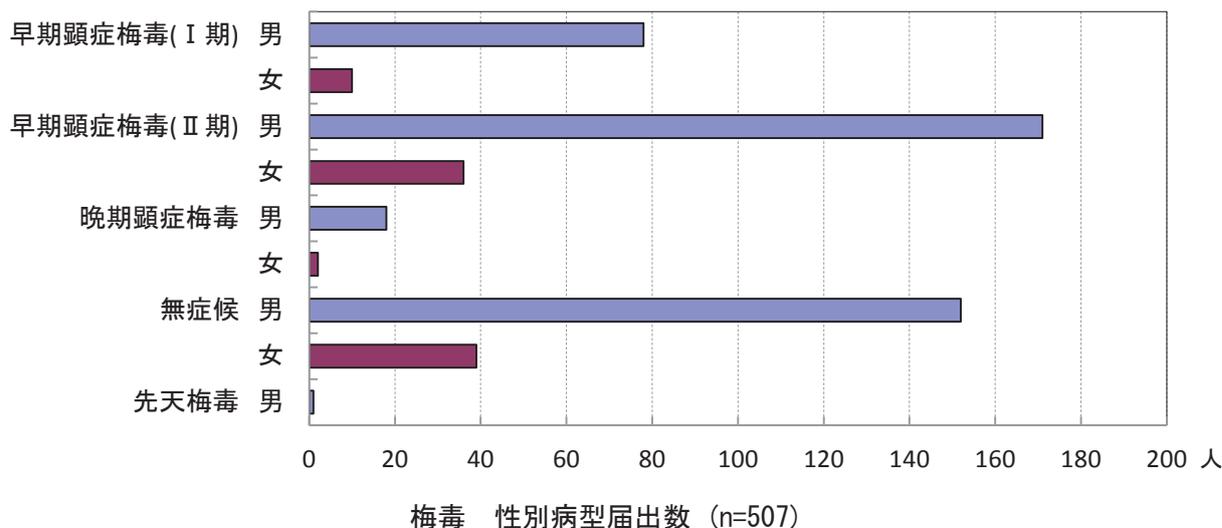
⑮ 梅毒

2014年は507人届出があり、調査開始以降の最多届出数を更新した。早期顕症梅毒Ⅰ期88人、早期顕症梅毒Ⅱ期207人、晩期顕症梅毒20人、無症候191人、先天梅毒1人であった。性別は男性420人、女性87人、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳11人、20～29歳134人、30～39歳156人、40～49歳131人、50～59歳39人、60～69歳19人、70歳以上16人で、20～49歳の男性が全体の69.8%を占めた。一方、20～29歳では女性が40.3%、10～19歳では全11人のうち女性が10人を占めた。

推定感染地は国内498人、国外7人、国内又は国外2人であり、国外感染例7人の推定感染国は、タイ1人、マレーシア1人、韓国1人、南アフリカ1人、ブラジル1人、アメリカ又はカンボジア1人、スペイン又はイタリア又はスイス1人であった。

推定感染経路は性的接触476人（同性間247人、異性間165人、両性間4人、性別不明60人）、母子感染1人、不明30人であった。





⑩ 播種性クリプトコックス症

五類感染症（全数把握）の届出対象となった2014年9月19以降4人の届出があった。性別は男性1人、女性3人で、年齢階級別は全て70歳以上であった。

⑪ 破傷風

2014年は10人届出があった。性別は男性6人、女性4人で、年齢は40～49歳2人、60～69歳2人、70歳以上6人、推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染9人、不明1人であった。破傷風含有ワクチン接種歴はなし3人、不明7人であった。

破傷風届出例 (n=10)

受理日	性別	年齢	診断方法	推定感染地	推定感染経路
1/9	男	73	臨床決定	国内	創傷感染
1/10	男	72	臨床決定	国内	創傷感染
2/3	女	48	臨床決定	国内	創傷感染
3/6	女	67	臨床決定	国内	創傷感染（凍傷）
5/2	男	77	臨床決定	国内	不明
6/20	男	43	臨床決定	国内	創傷感染
7/22	女	83	臨床決定	国内	創傷感染
7/25	男	79	臨床決定	国内	創傷感染（農作業による既往）
9/10	女	64	臨床決定	国内	創傷感染
9/19	男	87	臨床決定	国内	創傷感染（外傷）

### ⑱ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2014年は6人届出があった。菌種は *Enterococcus faecium* 3件、*E. faecalis* 1件、*E. gallinarum* 1件、不明1件であり、耐性遺伝子型は *vanB* 4件、*vanC* 1件、不明1件であった。

性別は男性3人、女性3人、年齢は50～59歳2人、60～69歳1人、70歳以上3人であった。死亡例は1人報告された。推定感染地は国内5人、国内又は国外（詳細地域不明）1人であった。推定感染経路はVRE保菌者が1人、不明5人であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症届出例（n=6）

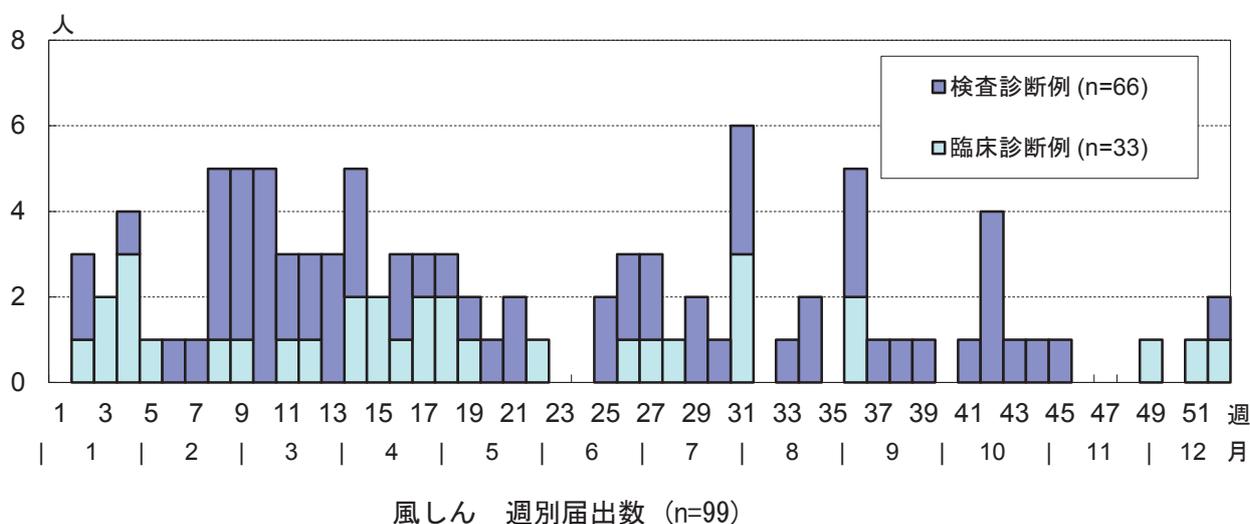
受理日	性別	年齢	検体	菌種	耐性遺伝子型
2/3	男	65	血液	<i>E. faecium</i>	<i>vanB</i>
3/6	女	55	血液	<i>E. gallinarum</i>	<i>vanC</i>
3/12	女	81	便	不明	不明
11/25	女	92	尿	<i>E. faecalis</i>	<i>vanB</i>
12/22	男	79	胆汁	<i>E. faecium</i>	<i>vanB</i>
12/22	男	52	膿	<i>E. faecium</i>	<i>vanB</i>

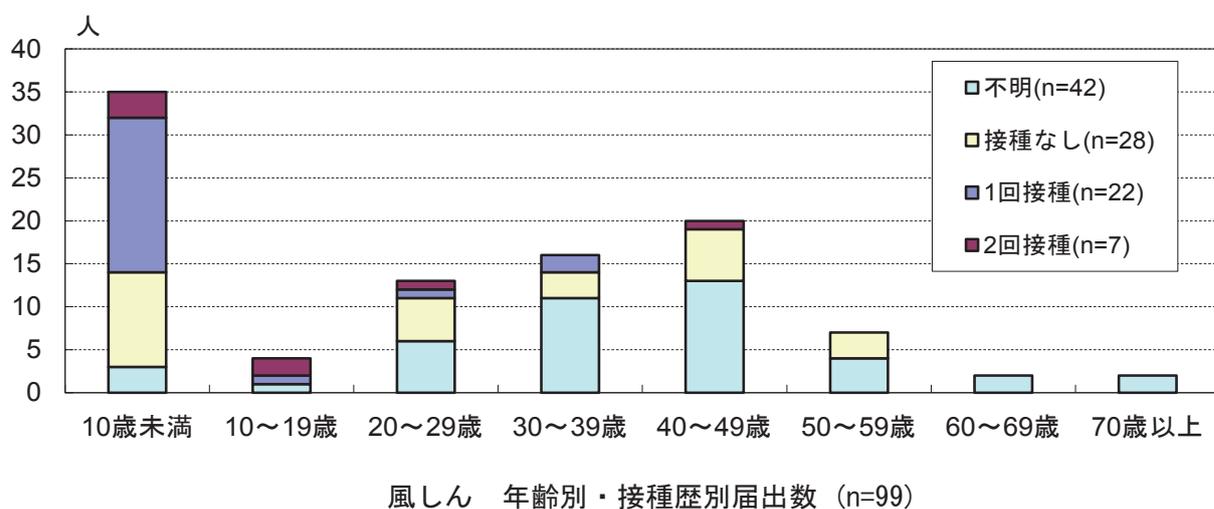
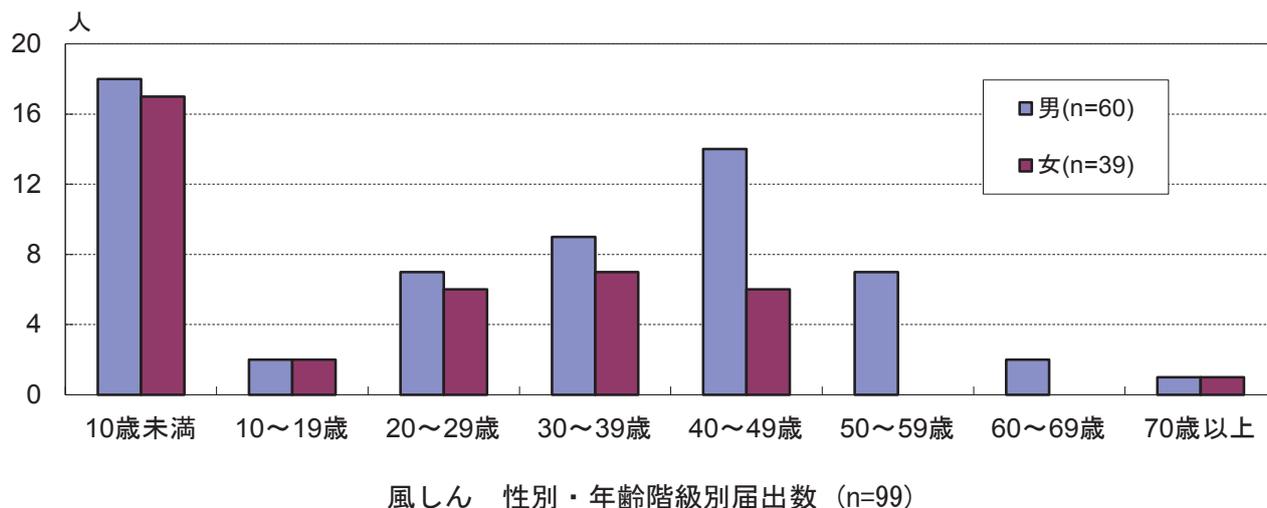
### ⑲ 風しん

2014年の届出は99人、検査診断例66人（うちPCRで陽性が確認された数は27件）、臨床診断例33人であった。

2012年夏季から始まった風しんの流行は、2014年に入って激減し、週2人前後の報告が続いているが、五類感染症の届出対象となった2008年以降2011年以前の例年よりは若干多くなっている。

性別は男性60人、女性39人で、年齢階級別では10歳未満35人（うち5歳未満28人）、10～19歳4人、20～29歳13人、30～39歳16人、40～49歳20人、50～59歳7人、60～69歳2人、70歳以上2人であった。推定感染地は国内96人、国外（インドネシア）1人、国内又は韓国1人、国内又は渡航先不明1人であった。風しん含有ワクチン接種歴は、2回接種7人（7.1%）、1回接種22人（22.2%）、接種歴なし28人（28.2%）、不明42人（42.4%）であった。





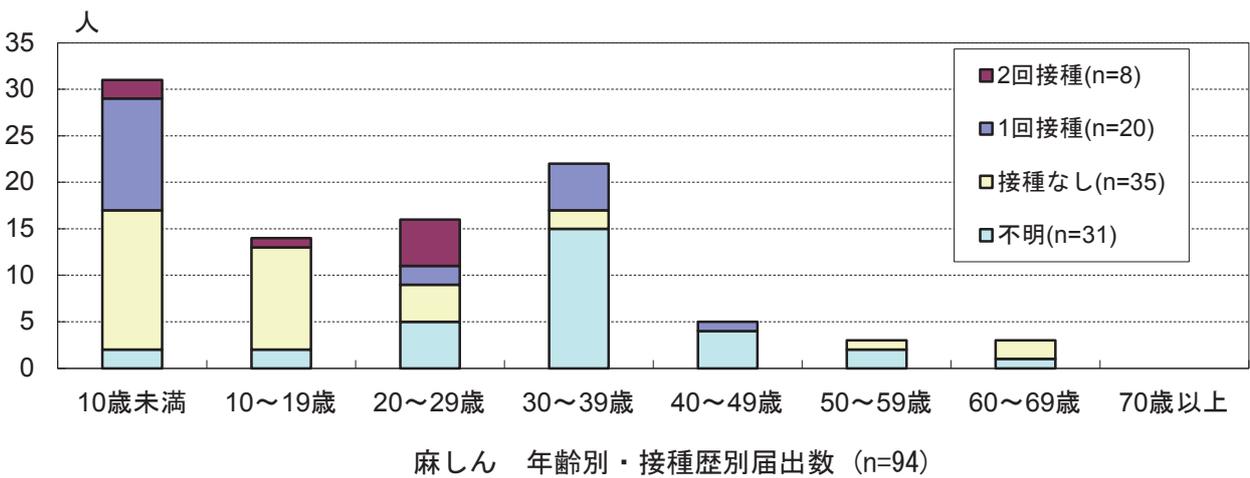
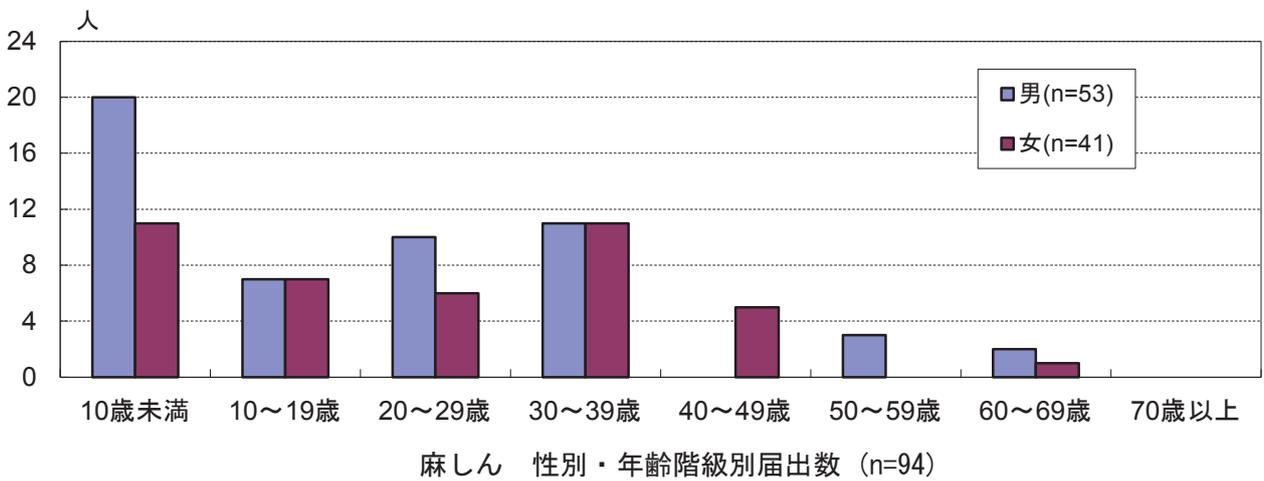
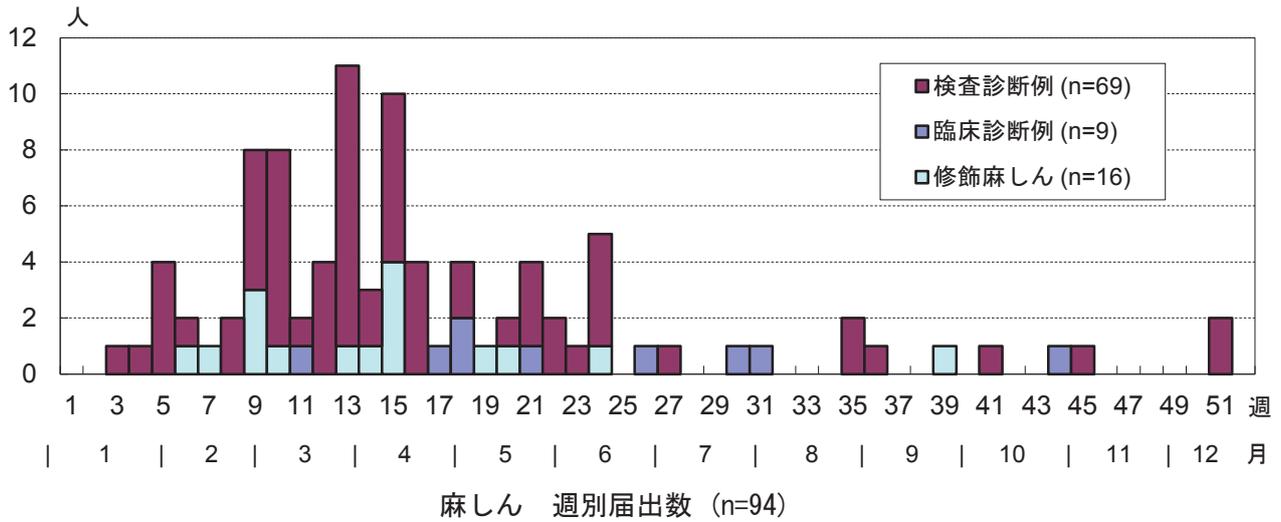
## ⑳ 麻疹

2014年は94人届出があった。検査診断例69人、臨床診断例9人、修飾麻疹16人であり、肺炎、脳炎の合併は報告されなかった。2014年には同一施設で2名以上の発症者があった事例が8件あった。

性別は男性53人、女性41人で、年齢階級別では10歳未満31人（うち5歳未満23人）、10～19歳14人、20～29歳16人、30～39歳22人、40～49歳5人、50～59歳3人、60～69歳3人であった。推定感染地は国内77人、国外15人、国内又は国外（フィリピン）2人であった。国外感染例15人の推定感染国は、フィリピン6人、インドネシア3人、中国1人、米国1人、グアム1人、ソロモン諸島1人、ベトナム又はマレーシア1人、中国又はカザフスタン1人であった。

麻疹含有ワクチン接種歴は、2回接種8人(8.5%)、1回接種20人(21.3%)、接種なし35人(37.2%)、不明31人(33.0%)であった。

2014年にPCR検査で麻疹ウイルス陽性が確認された例は80件あり、それらの遺伝子型別の内訳はB3型37件、D8型19件、D9型11件、H1型1人、判定不能4人、不明2人、A型（ワクチン株のため届出対象外）6件であった。H1型の1件は1歳未満の乳児で推定感染地は中国であった。



㊦ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

五類感染症（全数把握）の届出対象となった2014年9月19日以降3人の届出があった。年齢性別は70歳以上の男性2人、60~69歳の女性1人であった。

⑫ その他の五類感染症

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

カ 指定感染症

以下の疾患は届出がなかった。

中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H7N9）

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2014年第1週～2014年第52週

週	期間	一類						二類					三類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス
1	12.30～1.5																
2	1.6～1.12													2			1
3	1.13～1.19															1	
4	1.20～1.26															1	
5	1.27～2.2															1	
6	2.3～2.9																
7	2.10～2.16														1	1	
8	2.17～2.23														1		
9	2.24～3.2													1	1		
10	3.3～3.9															1	
11	3.10～3.16														5		
12	3.17～3.23														2	2	
13	3.24～3.30													1	2	1	
14	3.31～4.6													2	1		
15	4.7～4.13													1	9		
16	4.14～4.20													1	13		1
17	4.21～4.27													1	4	1	
18	4.28～5.4																
19	5.5～5.11													1			
20	5.12～5.18													5	2		
21	5.19～5.25														7		1
22	5.26～6.1														5		
23	6.2～6.8														4		
24	6.9～6.15													1	12		
25	6.16～6.22													1	17	1	
26	6.23～6.29												2	1	20		
27	6.30～7.6													1	23		
28	7.7～7.13													3	25		
29	7.14～7.20														12		2
30	7.21～7.27												1	1	10		
31	7.28～8.3														20		
32	8.4～8.10														16		
33	8.11～8.17														16		
34	8.18～8.24														18	1	1
35	8.25～8.31														13		
36	9.1～9.7													4	27	5	1
37	9.8～9.14														11	3	
38	9.15～9.21													1	5	1	
39	9.22～9.28														12	2	
40	9.29～10.5													2	5	2	
41	10.6～10.12														2	1	
42	10.13～10.19														5		
43	10.20～10.26														5	1	
44	10.27～11.2													3	5		
45	11.3～11.9													1	3		
46	11.10～11.16													2	3	1	
47	11.17～11.23														7		
48	11.24～11.30													2	3		
49	12.1～12.7													1	4		1
50	12.8～12.14														1	4	
51	12.15～12.21															2	
52	12.22～12.28													1			
合計													3	41	362	27	8

\* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2014年第1週～2014年第52週

週	期 間	四 類										
		E型 肝炎	A型 肝炎	オウ ム病	チク ング ニア 熱	つ つが 虫 病	デ ン グ 熱	ブル セラ 症	マ ラ リ ア	ライ ム 病	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
1	12.30～1.5											
2	1.6～1.12	1		1		1						8
3	1.13～1.19						1					1
4	1.20～1.26	2					2					4
5	1.27～2.2		1									2
6	2.3～2.9		2				2					1
7	2.10～2.16	1	1				2		1			2
8	2.17～2.23	1					1		1			
9	2.24～3.2	1							1			1
10	3.3～3.9	1	4	1		1		1				
11	3.10～3.16		1									1
12	3.17～3.23						1	1	2			1
13	3.24～3.30	2	3		1		1					1
14	3.31～4.6	3	1		1				1			3
15	4.7～4.13		1				1					1
16	4.14～4.20						2		1			2
17	4.21～4.27	1	2			1			1			1
18	4.28～5.4		1				1		1			4
19	5.5～5.11						2		1			4
20	5.12～5.18		6				2					
21	5.19～5.25	1	1			1						1
22	5.26～6.1						3		1			
23	6.2～6.8	2					1					3
24	6.9～6.15		2				1					1
25	6.16～6.22						3					5
26	6.23～6.29											4
27	6.30～7.6						1		2			2
28	7.7～7.13					1	1		1			1
29	7.14～7.20	2						1				3
30	7.21～7.27						2					1
31	7.28～8.3						1	1	2			1
32	8.4～8.10		1									1
33	8.11～8.17						1					4
34	8.18～8.24						2					3
35	8.25～8.31		1				19		1	1		2
36	9.1～9.7						35		2			2
37	9.8～9.14	2	1				31		4			1
38	9.15～9.21						17					4
39	9.22～9.28	1	1	1			10		1			5
40	9.29～10.5		1			1	7					2
41	10.6～10.12	1					3					1
42	10.13～10.19						1					5
43	10.20～10.26				1	2	2			1		3
44	10.27～11.2	1	2			3	1					2
45	11.3～11.9				1				1			1
46	11.10～11.16					1	1		1			5
47	11.17～11.23					1			1			1
48	11.24～11.30		1			4						1
49	12.1～12.7	1										
50	12.8～12.14	1	2			1						
51	12.15～12.21	1	1									3
52	12.22～12.28	1	1		1		2					3
	合 計	27	38	3	5	18	163	4	27	2	107	6

表3-1(3) 五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2014年第1週~2014年第52週

週	期間	五類																					
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	腸内細菌科細菌感染症 カルバペネム耐性	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ヤコブ病 クロイツフェルト・	劇症型溶血性レンサ球菌	感染症 後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	感染性インフルエンザ菌	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	先天性風しん症候群	梅毒	播種性 クリプトコックス症	破傷風	耐性腸球菌感染症 バンコマイシン	風しん	麻しん	薬剤耐性 アシネトバクター感染症	
1	12.30~1.5																						
2	1.6~1.12	2	2		1	1			12		3	1	14		1	7		2		3			
3	1.13~1.19	2	2					3	16				3			8				2	1		
4	1.20~1.26	4			1	1		4	7				5		1	15				4	1		
5	1.27~2.2	1			2			1	5		1					9				1	4		
6	2.3~2.9	6			2				5				7			8		1	1	1	2		
7	2.10~2.16	3	2		1	1	1	1	8	2			5			6				1	1		
8	2.17~2.23	3			1				13				3			4				5	2		
9	2.24~3.2	5	4		2			1	13				2		1	10				5	8		
10	3.3~3.9	8			2			2	8				2			10		1	1	5	8		
11	3.10~3.16	3	2		2	1			8	2		1	2			6			1	3	2		
12	3.17~3.23	3			1			1	7			1	2			3				3	4		
13	3.24~3.30	4	1					1	16				5			10				3	11		
14	3.31~4.6	5					1	1	6	2			9			6				5	3		
15	4.7~4.13	8							7	1	1		6			10				2	10		
16	4.14~4.20	5	1					1	8		1		4			8				3	4		
17	4.21~4.27	5	1						14		1		3			17				3	1		
18	4.28~5.4	3	1		1			1	7				8			8		1		3	4		
19	5.5~5.11	2	1		1			3	1		1		6			5				2	1		
20	5.12~5.18	4						1	5		1		9			7				1	2		
21	5.19~5.25	6	2					1	11		2		12			15				2	4		
22	5.26~6.1	3						2	12		2		6			14				1	2		
23	6.2~6.8	6	1					1	11		1		6			10					1		
24	6.9~6.15	5	1		1			1	14				4			9					5		
25	6.16~6.22	3	3		1			3	12			1	9			13		1		2			
26	6.23~6.29	3	2		1	1		1	15	1			4			17				3	1		
27	6.30~7.6	4	4		3	63	1	1	18		1		2			15				3	1		
28	7.7~7.13	4			1	5			16			1	4			13				1			
29	7.14~7.20	5			1	1	1	3	10	1			4			6				2			
30	7.21~7.27	4	1		1			1	10							11		2		1	1		
31	7.28~8.3	6	2		4			1	2	8			1			14				6	1		
32	8.4~8.10	7	1		1				14	1			2			14							
33	8.11~8.17	7	3		2			1	12				2			18				1			
34	8.18~8.24	4			1				8				5			5				2			
35	8.25~8.31	7					1	1	7	1						11					2		
36	9.1~9.7	6	1		2	1		1	14		1		1			9				5	1		
37	9.8~9.14	6			1			1	8	1	1	6	2			9		1		1			
38	9.15~9.21	2							9		1		1			3		1		1			
39	9.22~9.28	4	1		1			1	12	1			3	2		9				1	1	1	
40	9.29~10.5	2		11		6		1	10			1	5	2		8	1						
41	10.6~10.12	5	2	3	1			2	10				4	1		12				1	1		
42	10.13~10.19	7			1				9				4			13	1			4			1
43	10.20~10.26	10		4					8		1		10	1		10				1			
44	10.27~11.2	3		4	2		1		11			1	5			10				1	1		
45	11.3~11.9	3		4					4		1	1	3			7				1	1		
46	11.10~11.16	3		8	2		1		10				2			7							
47	11.17~11.23	2	1	3			1	1	12				4	1		10							
48	11.24~11.30	5	1		2	1			8			1	4	2		5			1				
49	12.1~12.7	7	1	7			1		8				6			7	1			1			
50	12.8~12.14	5	2	1	2			1	14				8			16	1						
51	12.15~12.21	3		6	3				7	2	1		3	1		12				1	2		
52	12.22~12.28	6	2	5	1				14				5	1		18				2	2		1
合計		229	48	56	52	82	17	41	512	15	22	9	225	11	3	507	4	10	6	99	94	3	

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2014年第1週～2014年第52週

	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田													1	4	2		
中央区													3	6			1
みなと													3	8			1
新宿区													4	13	8		3
文京													4	9	3		
台東														2			
墨田区													3	10			
江東区														7			
品川区												1	1	1			1
目黒区														6	2		1
大田区												1	3	18	1		
世田谷													1	27	1		
渋谷区												1	1	5	1		
中野区													2	5			
杉並													2	11			
池袋														10			
北区													1	5			
荒川区														3			
板橋区														17	1		
練馬区													4	21	1		
足立														23			
葛飾区														7			
江戸川													3	11	1		
八王子市														22			1
町田市														23	1		
西多摩													1	6			
南多摩														12			
多摩立川													1	17	1		
多摩府中													3	23	3		
多摩小平														30	1		
島しょ																	
合 計												3	41	362	27		8

\* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2014年第1週～2014年第52週

	四 類										
	E型 肝炎	A型 肝炎	オウ ム病	チク ング ニア 熱	つ つが 虫 病	デ ン グ 熱	ブル セラ 症	マ ラ リ ア	ライ ム 病	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
千代田	2					2				2	
中央区		1				1				2	
みなと	4	4	1			6		8		7	
新宿区	2	6		2		34	2	13		3	4
文京	2	2		1		21		2		1	
台東						1				5	
墨田区		2				5		1		4	1
江東区		2				1					
品川区	2	2				2				4	
目黒区	5	1			1	6				1	
大田区	3	3		1	4	10		2	1	10	1
世田谷				1	3	4				4	
渋谷区		1			1	28				5	
中野区						4	2			1	
杉並						1				1	
池袋									1	1	
北区	1					2					
荒川区	1					1					
板橋区	2	1				4				8	
練馬区		2				4				4	
足立		1								1	
葛飾区		1				1				2	
江戸川			1			3				1	
八王子市		1			1					4	
町田市						3				6	
西多摩	1	1	1		2	1				5	
南多摩										3	
多摩立川	2				1	4				7	
多摩府中		7			1	12		1		7	
多摩小平						2				8	
島しょ					4						
合 計	27	38	3	5	18	163	4	27	2	107	6

表3-2(3) 五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2014年第1週~2014年第52週

	五 類																				
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	腸内細菌科細菌感染症 カルバペネム耐性	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ヤコブ病 クロイツフェルト・	劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	感染性インフルエンザ菌	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	先天性風しん症候群	梅毒	播種性 クリプトコックス症	破傷風	耐性腸球菌感染症 バンコマイシン	風しん	麻しん	アシネトバクター感染症 薬剤耐性
千代田	11	3	1	1			1	4	2			3	1		4	1			1	2	
中央区	11	1		2				2		1		2			1				2	2	1
みなと	18	1	4		1	1		38	3	1		9			57		1		2	1	
新宿区	24	21	5	9	10		5	152	3	1	2	14			242		1	1	7	1	
文京	15			1	31	4	6	41	4		1	6	2		31		1	1	1	8	
台東	3		4					5				4			21					1	
墨田区	10			4		1	2	23			1	6		1	3				1	5	
江東区	10		1			1	1	3							1				2	1	
品川区	10	2	5	1			1	11		3	1	9			8				3	5	
目黒区	4	3	4				2	6	2	2		10			6			1			
大田区	12	11	1	4		1	3	10		1		5		1	8			1	11	15	
世田谷	12			13	1	1		14	1	1	1	10		1	11		1		2	6	
渋谷区	4						1	99				5			11				3		
中野区	8		9				1	15				7			9				5	1	
杉並	4				1			5		1		2	1		5				4		
池袋	1		3					3		1		2			13				3	4	
北区	1							1				7			3			1	4	3	
荒川区	1	3		2		1		1				4			7				1	4	1
板橋区	9		6	2		2	5	17		1		24	2		9		1	1	5	4	1
練馬区	5		1	2				3		1		13			1		1		6	1	
足立	3			1			1	2				2			2				3	12	
葛飾区	3							7				2			10				2	4	
江戸川	5							4				5			7				8		
八王子市	6			1				6		1		3			4				2	1	
町田市	5		2		2			3		1		2	1		2				4	2	
西多摩	4			1		1	1	2				4	1		2						
南多摩	2		2	2				1		1		5			2		1		2	2	
多摩立川	14	2	4			1	3	4		2		10			9	2			9	1	
多摩府中	11	1	3	4	36	3	3	24		2	2	38	3		13	1	3		3	7	
多摩小平	3		1	2			5	6		1	1	12			5				3	1	
島しょ																					
合 計	229	48	56	52	82	17	41	512	15	22	9	225	11	3	507	4	10	6	99	94	3

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2014年第1週～2014年第52週

	一 類							二 類					三 類					
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	
0歳																	2	
1～4歳																	30	1
5～9歳																	29	3
10～14歳																	34	
15～19歳														2			35	
20～24歳													1	43	4		1	
25～29歳												1	10	35	4		2	
30～34歳													4	20	5		1	
35～39歳													5	26	4		1	
40～44歳													6	21	1		1	
45～49歳												1	4	15	2			
50～54歳												1	4	12				
55～59歳													1	5			1	
60～64歳														16	1			
65～69歳													2	15				
70歳以上													2	24	2		1	
合 計												3	41	362	27		8	

\* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2014年第1週～2014年第52週

	四 類										
	E型 肝炎	A型 肝炎	オウ ム病	チク ング ニア熱	つ つが 虫病	デ ング 熱	ブル セラ 症	マ ラ リ ア	ライ ム 病	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
0歳											
1～4歳		2				4					
5～9歳		1				6					
10～14歳						3					
15～19歳		1			1	12					1
20～24歳		2				27		3			
25～29歳	1	3		1	3	21	1		1		1
30～34歳	1	4	1		3	19		3		1	1
35～39歳	4	5				19		5			
40～44歳	1	3		2	2	11	1	2		3	
45～49歳	2	1		1	1	14	1	9		4	1
50～54歳	4	2		1	1	8	1			8	
55～59歳	4	4			1	7		2	1	4	1
60～64歳	3	1			1	3		2		11	
65～69歳	3	4	1		2	3		1		18	
70歳以上	4	5	1		3	6				58	1
合 計	27	38	3	5	18	163	4	27	2	107	6

表3-3(3) 五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

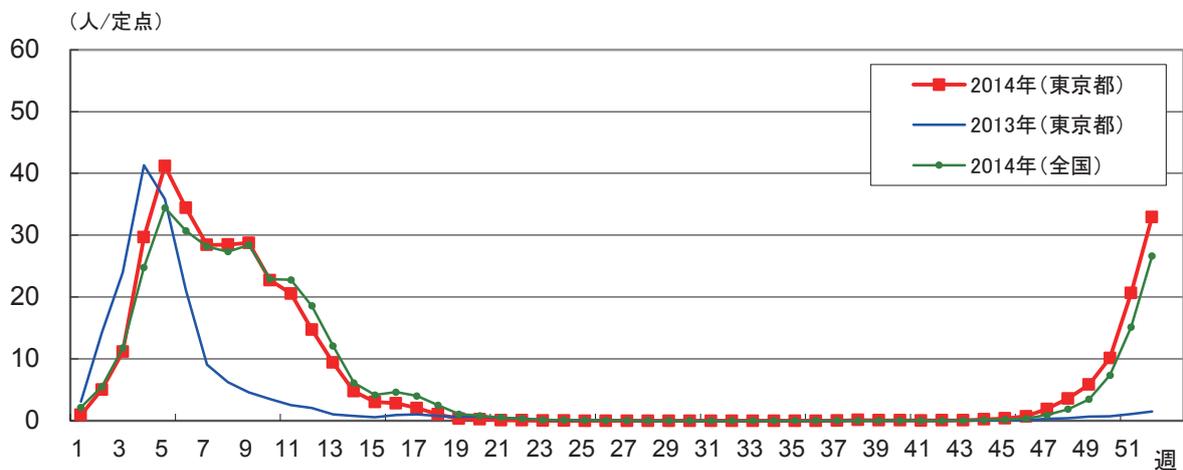
2014年第1週~2014年第52週

	五 類																				
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	先天性風しん症候群	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
0歳			1	5					1	1	9	1	3	1					6	7	
1~4歳			1	12				1		3		31							22	16	
5~9歳				15	1				1		11	1							7	8	
10~14歳	1		1	3	60				1			2							1	5	
15~19歳		1	1	1				3	1						11				3	9	
20~24歳	6	4		2	1		1	60	2			1			58				6	2	
25~29歳	9	11		3	4			97	2			2	3		76				7	14	
30~34歳	16	3	2	1	2		1	88	5			1	2		80				12	13	
35~39歳	24	6			5			82	1			6	1		76				4	9	
40~44歳	30	6	2		5		3	73	2			7			81		1		9	2	
45~49歳	34	8	1		2		2	56	1	1		10	1		50		1		11	3	
50~54歳	35	4	1		1	2	3	16		1	1	4			21			1	4	2	
55~59歳	23	1	5				6	16			1	14			18				1	3	1
60~64歳	22	2	2	1	1	2	3	12		1	1	19			13		1		1	1	
65~69歳	17	1	7	3		1	5	4		1		29			6		1	1	1	2	1
70歳以上	12	1	32	6		12	17	4	1	12	5	81			16	4	6	3	2		2
合 計	229	48	56	52	82	17	41	512	15	22	9	225	11	3	507	4	10	6	99	94	3

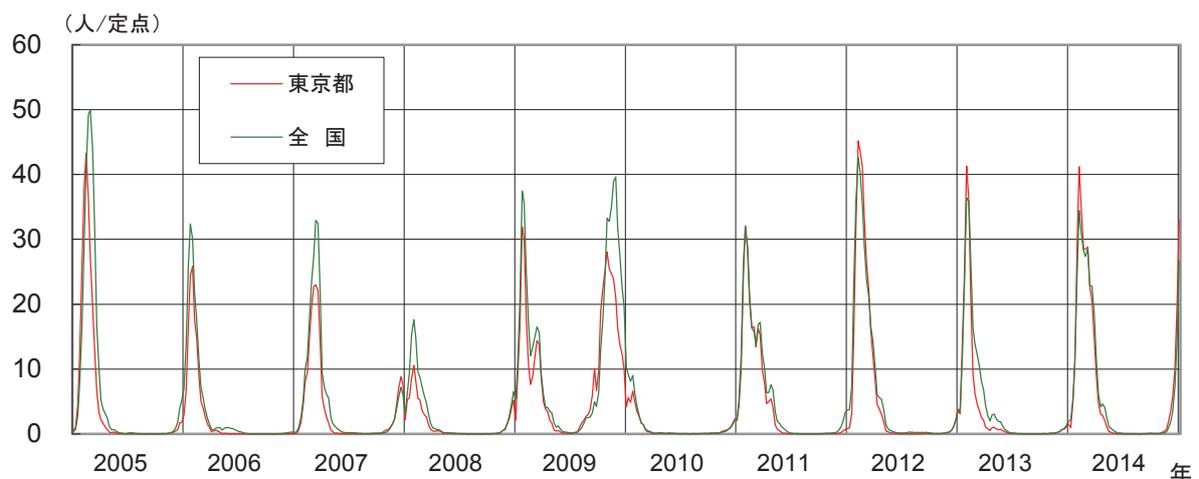
(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2014年の報告数は152,421人、定点あたり367.55人でここ10年の定点あたりの報告数は2009年の496.63人に続き2番目に多かった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は230.14人であった。2013/14シーズンの流行は、2014年2週(1.6~1.12)に定点あたり5.6人となり流行の目安になる1.00人を超えた。翌3週(1.13~1.19)には11.18人と10.00人を超え、5週(1.27~2.2)には41.18人と30.00人を超えるとともにピークになった。その後漸減して7週(2.10~2.16)で28.43人と30.00人を割り、13週(3.24~3.30)で9.42人と10.00人を割り、19週(5.5~5.11)で0.33人と1.00人を下回った。2014/15シーズンは47週(11.17~11.23)に1.92人と1.00人を超えて流行が始まり50週(12.8~12.14)には10.15人と10.00人を超え、52週(12.22~12.28)には32.96人と30.00人を超えた。2014年1~52週の1年間の保健所別定点あたりの報告数では、最多は八王子市の571.16人、最少は目黒区の131.79人であった。



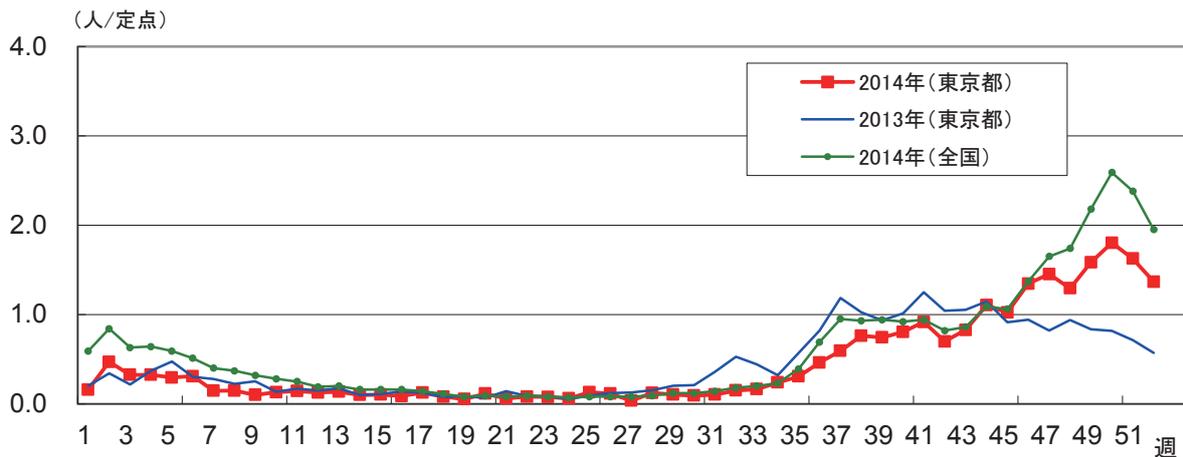
インフルエンザ報告数



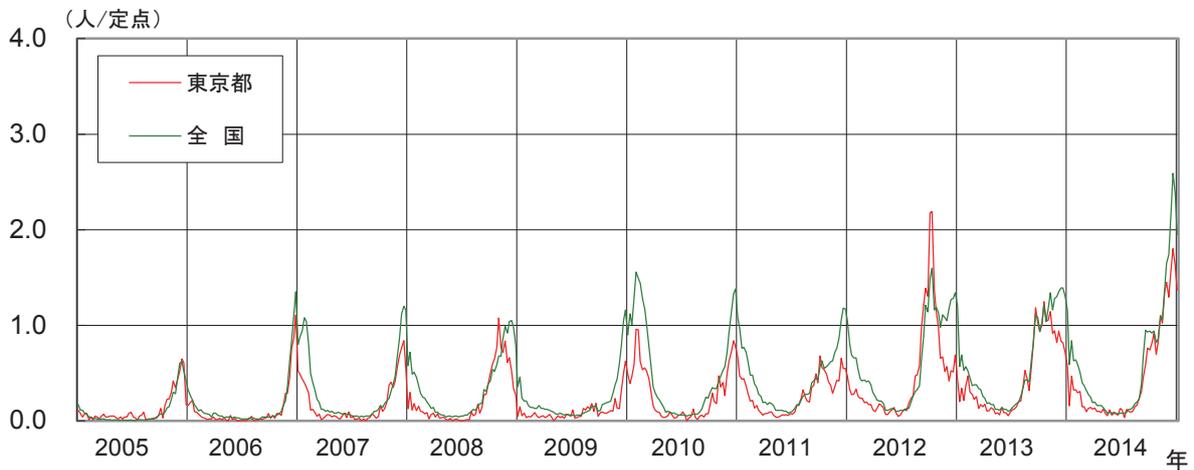
インフルエンザ報告数 経年変化

## イ RSウイルス感染症

2014年の報告数は6,183人、定点あたりの報告数は23.70人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は13.89人であり、2014年は2012年の24.51人に次いで多い報告数であった。週別定点あたり報告数では44週（10.27～11.2）から52週（12.22～12.28）にかけて1.00人を超える山があり、ピークは50週（12.8～12.14）の1.80人であった。保健所別定点あたり報告数の最も多かったのは荒川区の89.17人、最少は板橋区の2.30人であった。年齢階級別患者報告数では6か月未満が882人（14.3%）、6か月～12か月未満が1,353人（21.9%）、1歳代が2,381人（38.5%）と1歳代以下で74.7%を占めている。



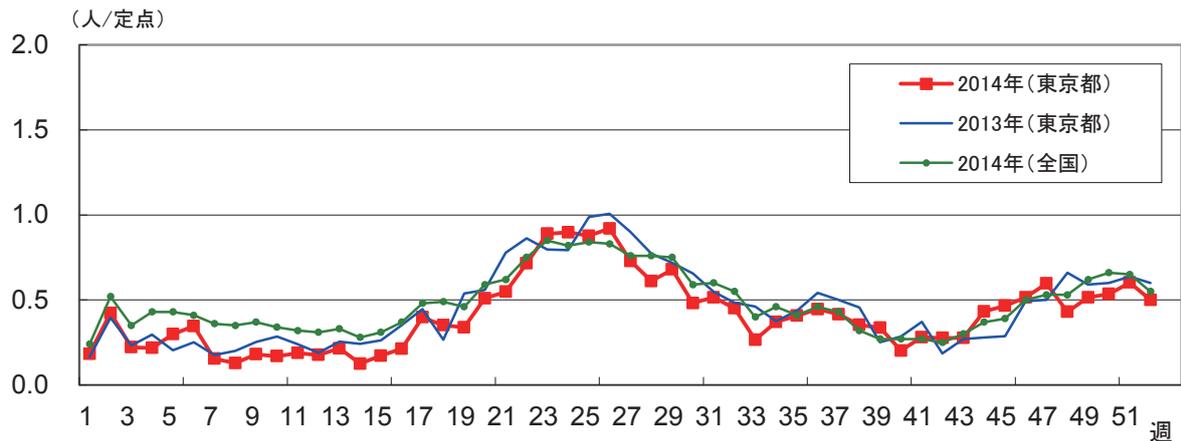
RSウイルス感染症報告数



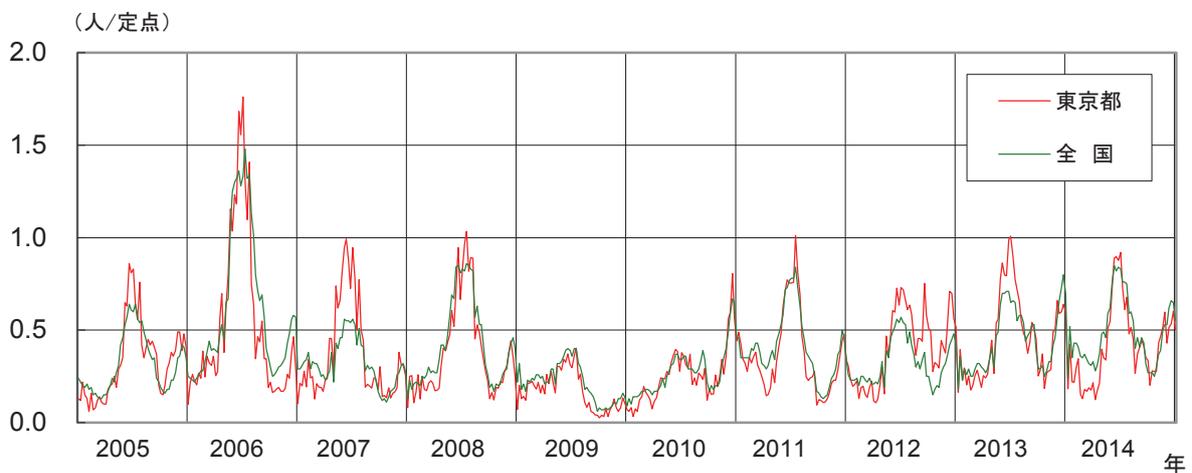
RSウイルス感染症報告数 経年変化

## ウ 咽頭結膜熱

2014年の報告数は5,607人、定点あたりの報告数は21.54人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は19.19人で、2014年は平均的な報告数であった。週別定点あたりの報告数では20週(5.12~5.18)から31週(7.28~8.3)にかけて0.50人を超える緩やかな山が見られ、26週(6.23~6.29)の0.92人がピークであった。保健所別定点あたりの報告数では「みなと」が49.80人、大田区が48.93人と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が1,346人(24.0%)と最も多く、5歳代以下で83.1%を占めている。



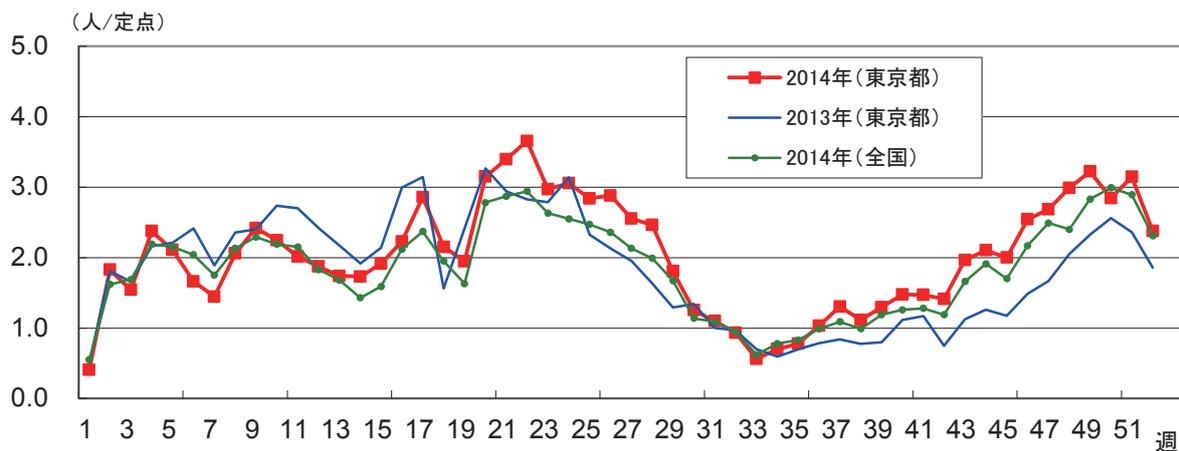
咽頭結膜熱報告数



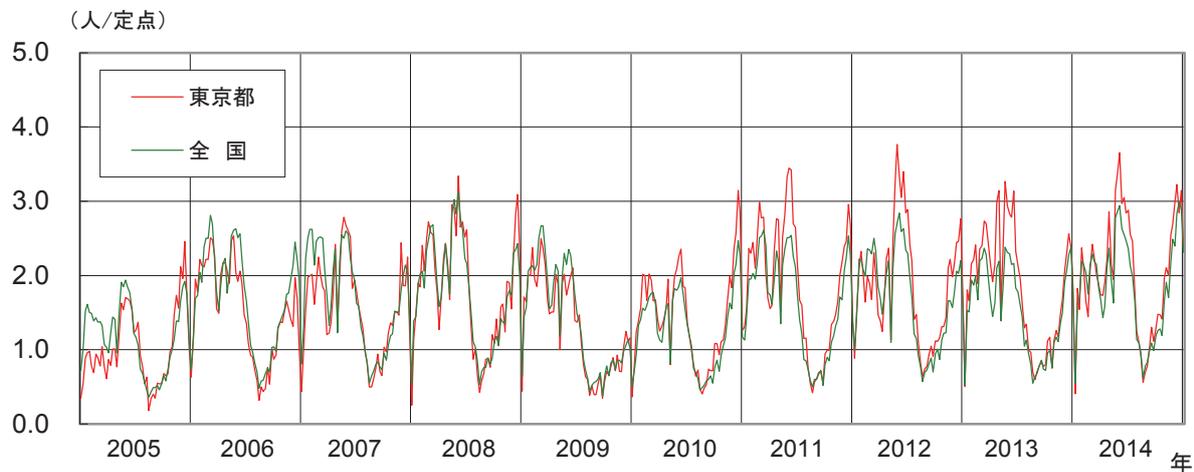
咽頭結膜熱報告数 経年変化

## エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2014年の報告数は27,581人、定点あたりの報告数は105.60人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は84.65人であり、2014年はここ10年で最も多い報告数であった。週別定点あたり報告数では20週(5.12～5.18)から24週(6.9～6.15)にかけてと、49週(12.1～12.7)から51週(12.15～12.21)にかけておおむね3.0人を超える山が見られた。最多の報告数は22週(5.26～6.1)の3.65人であった。保健所別定点あたり報告数では町田市が284.04人、八王子市が256.85人と多かった。年齢階級別患者報告数では5歳代が4,022人と最も多く、4歳代から7歳代で52.8%を占めている。



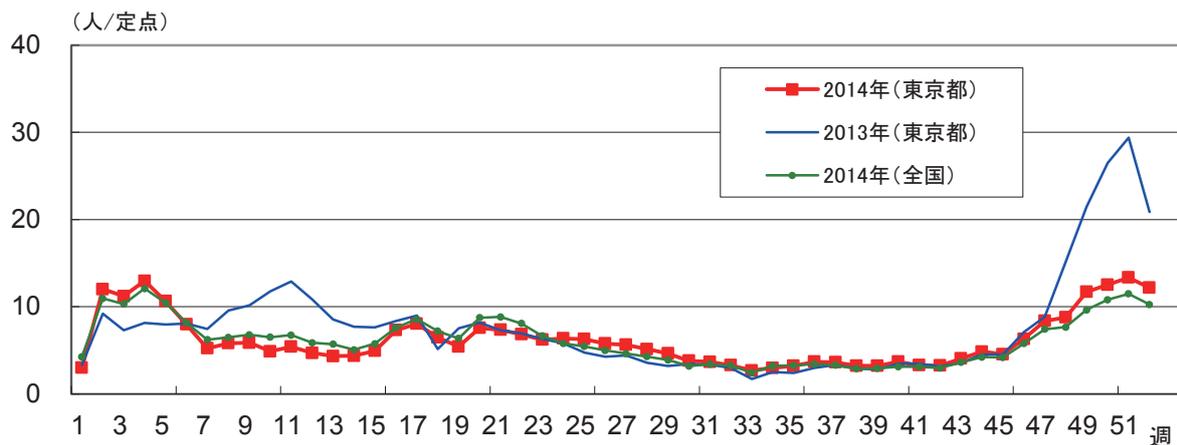
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数



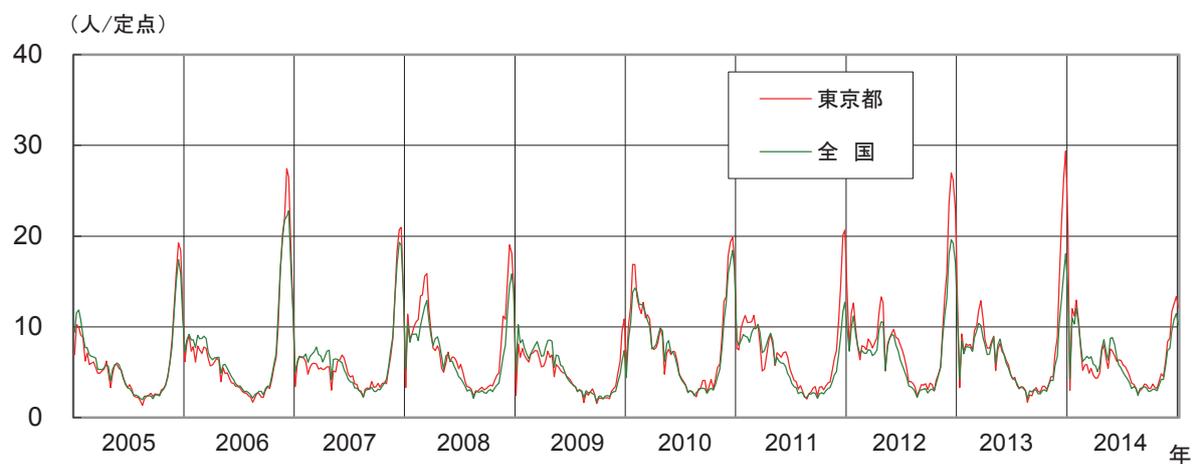
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数 経年変化

## オ 感染性胃腸炎

2014年の報告数は84,091人、定点あたりの報告数は322.84人であった。ここ10年の定点あたりの報告の平均は360.34人で、2014年は平均よりもやや少ない報告数であった。週別定点あたりの報告数では2週(1.6~1.12)から5週(1.27~2.2)にかけてと、49週(12.1~12.7)から52週(12.22~12.28)にかけて10.00人を超える山が見られた。最多は51週(12.15~12.21)の13.35人であった。保健所別定点あたりの報告数では江東区が644.64人と昨年同様最も多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が11,829人(14.1%)と最も多い。



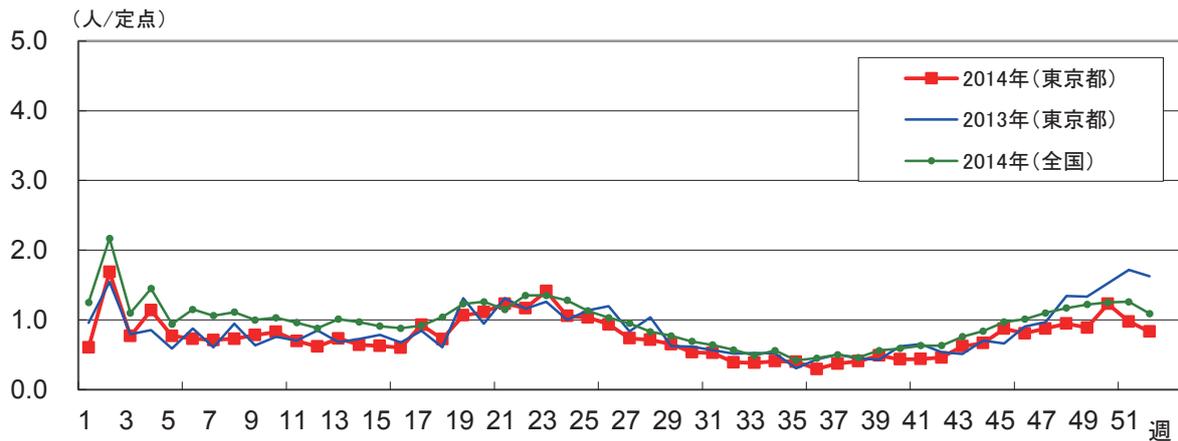
感染性胃腸炎報告数



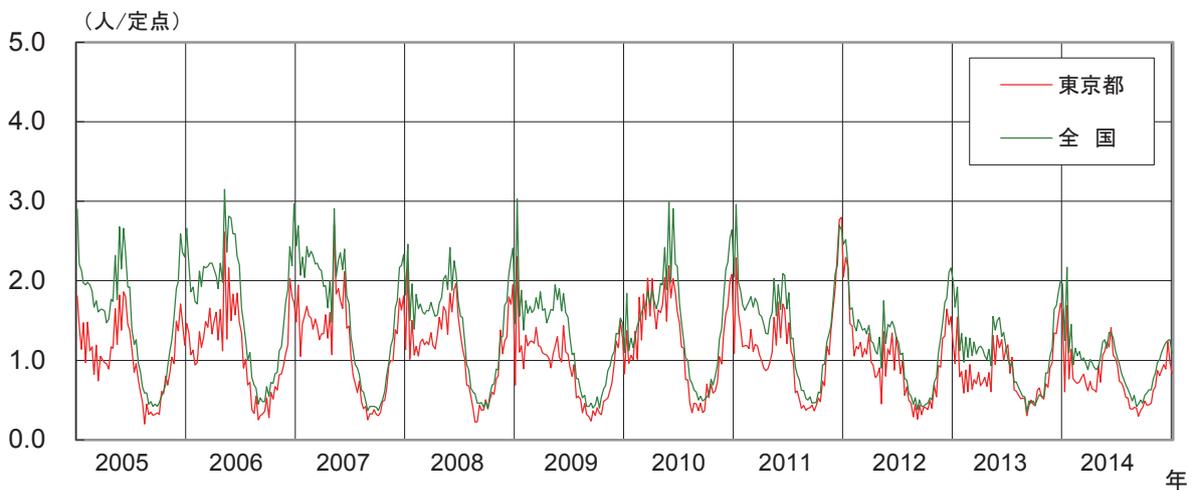
感染性胃腸炎報告数 経年変化

## カ 水痘

2014年の報告数は10,314人、定点あたりの報告数は39.69人であった。ここ10年の定点あたりの報告数は53.71人で、2014年はここ10年で最も少ない報告数であった。週別定点あたりの報告数は2週（1.6～1.12）で1.69人と最大の報告数が見られた。そのほか19週（5.5～5.11）から25週（6.16～6.22）にかけて1.00人を超える緩やかな山が見られる。また50週（12.8～12.14）も1.23人と1.00人を超えている。保健所別定点あたりの報告数では大田区が64.55人と最も多かった。年齢階級別患者報告数では4歳代が1,695人と最も多く1歳代から5歳代で68.2%を占めている。



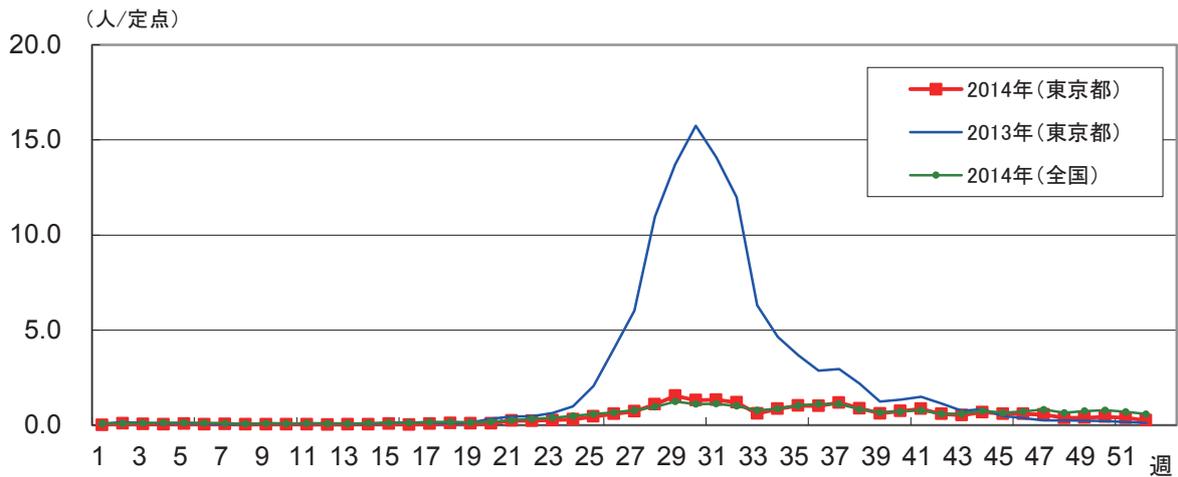
水痘報告数



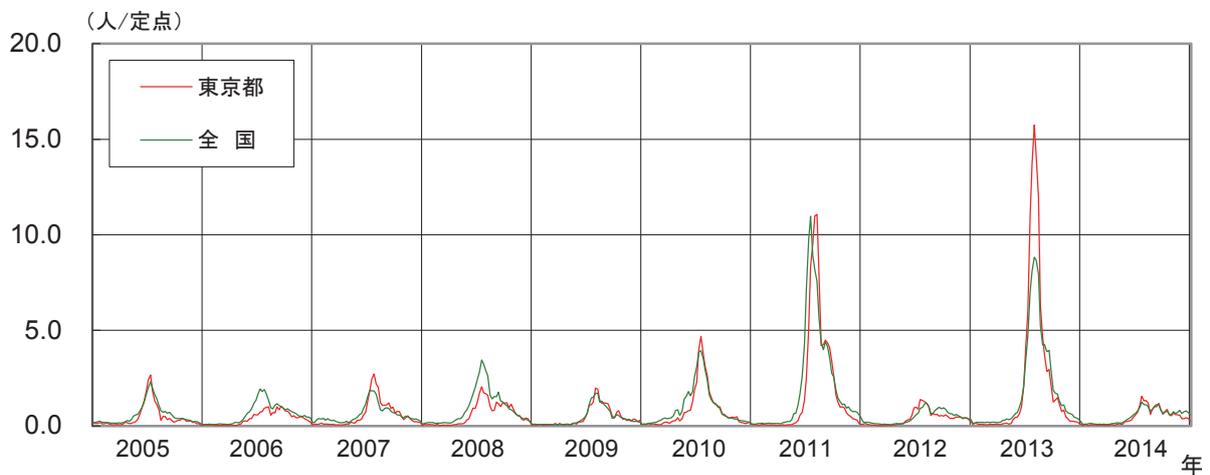
水痘報告数 経年変化

## キ 手足口病

2014年の報告数は6,089人、定点あたりの報告数は23.44人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は42.46人であった。2014年は平均以下の報告数であり、前年の114.72人と比べ大幅に減少した。週別定点あたりの報告数では28週(7.7~7.13)から32週(8.4~8.10)にかけて1.00人を超える緩やかな山がありピークは29週(7.14~7.20)の1.55人であった。保健所別定点あたりの報告では町田市の54.02人が最も多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が1,780人(29.2%)と最多であった。



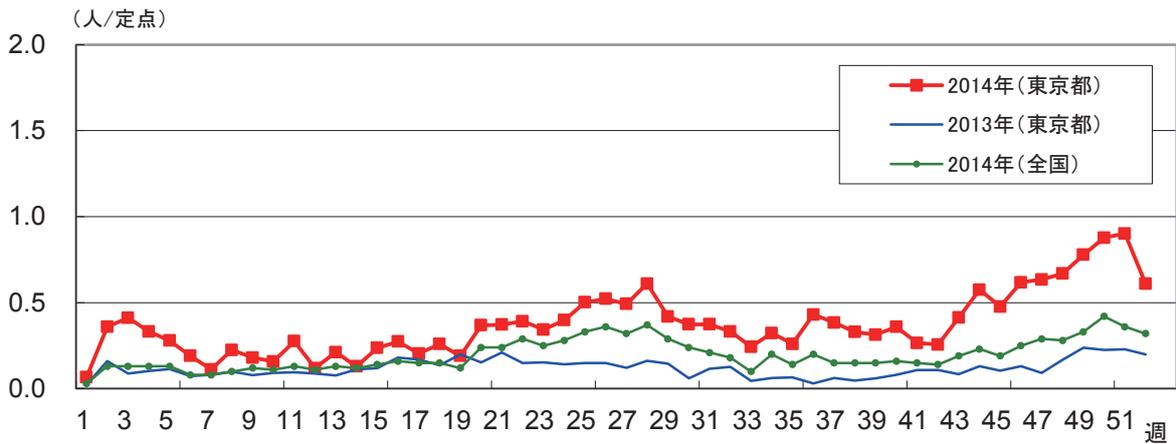
手足口病報告数



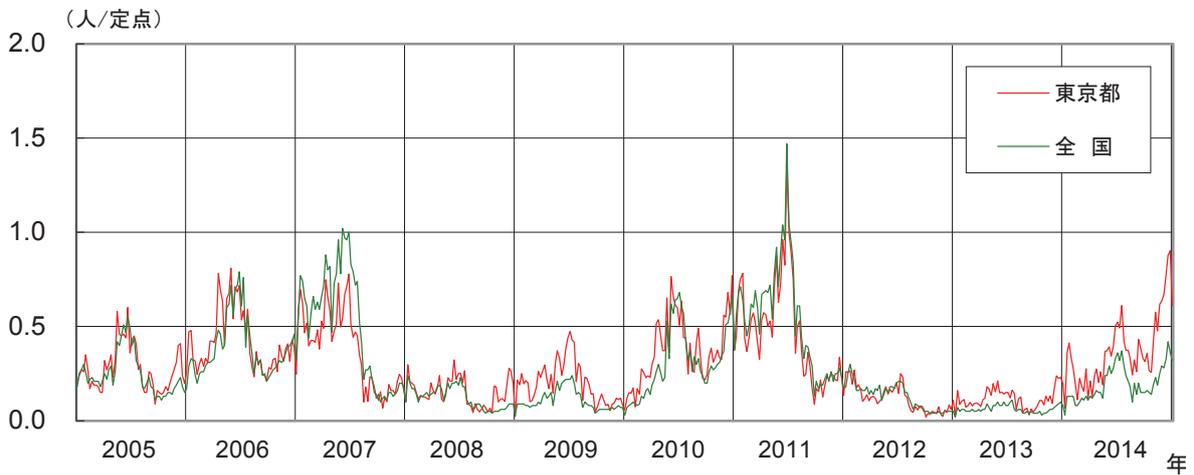
手足口病報告数 経年変化

## ク 伝染性紅斑

2014年の報告数は5,069人、定点あたりの報告数は19.44人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は15.03人であった。2014年は前年より大幅に報告数は増加したが、ここ10年でみると平均的な報告数であった。週別定点あたりの報告では44週（10.27～11.2）から52週（12.22～12.28）にかけておおむね0.50人を超える山があり、ピークは51週（12.15～12.21）の0.90人であった。また25週（6.15～6.22）から28週（7.7～7.13）にかけて同じくおおむね0.50人を超える山が見られた。保健所別定点あたりの報告数では町田市が48.84人と最も多かった。年齢階級別患者報告数では5歳代が852人（16.8%）と最も多く、4歳代から6歳代で45.9%を占めている。



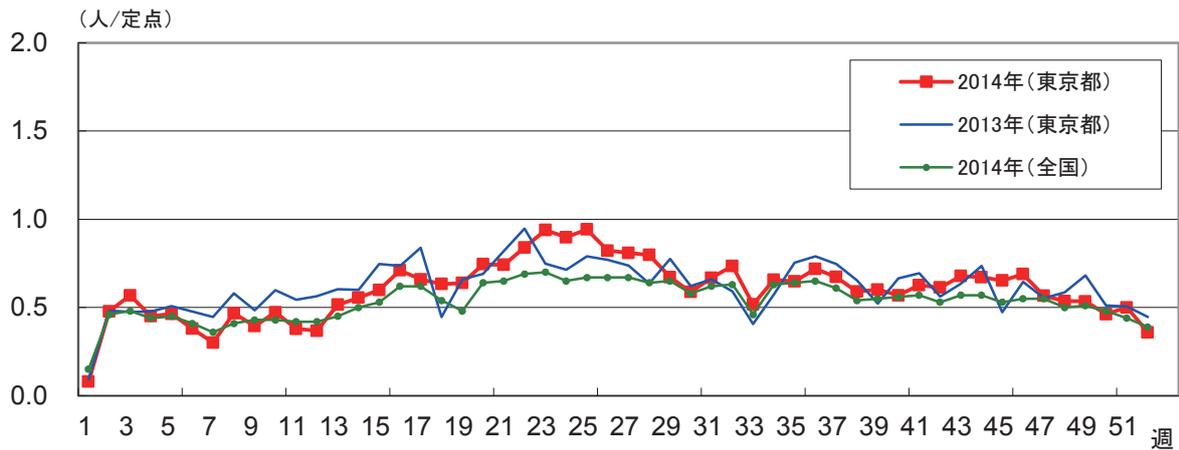
伝染性紅斑報告数



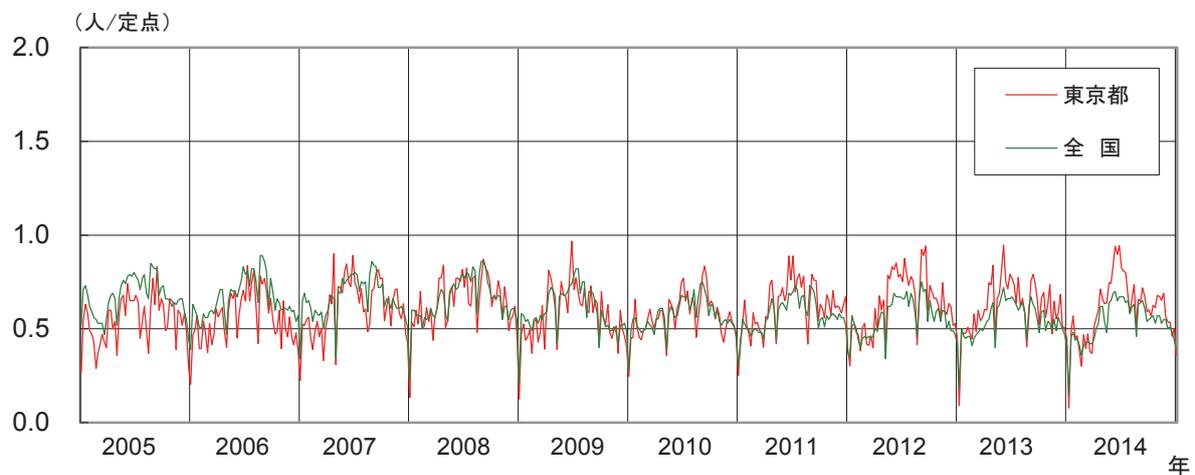
伝染性紅斑報告数 経年変化

## ケ 突発性発しん

2014年の報告数は8,120人、定点あたりの報告数は31.18人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は31.14人であり、2014年の報告数は平年並みの報告数であった。週別定点あたりの報告数では22週(5.26~6.1)から28週(7.7~7.13)にかけて0.80人を超える緩やかな山があり、ピークは23週(6.2~6.8)の0.94人であった。保健所別定点あたりの報告数では荒川区が55.33人と最多であった。年齢階級別患者報告数では1歳代が4,132人(50.9%)、6か月~1歳未満が2,889人(35.6%)と両方で86.5%を占めている。



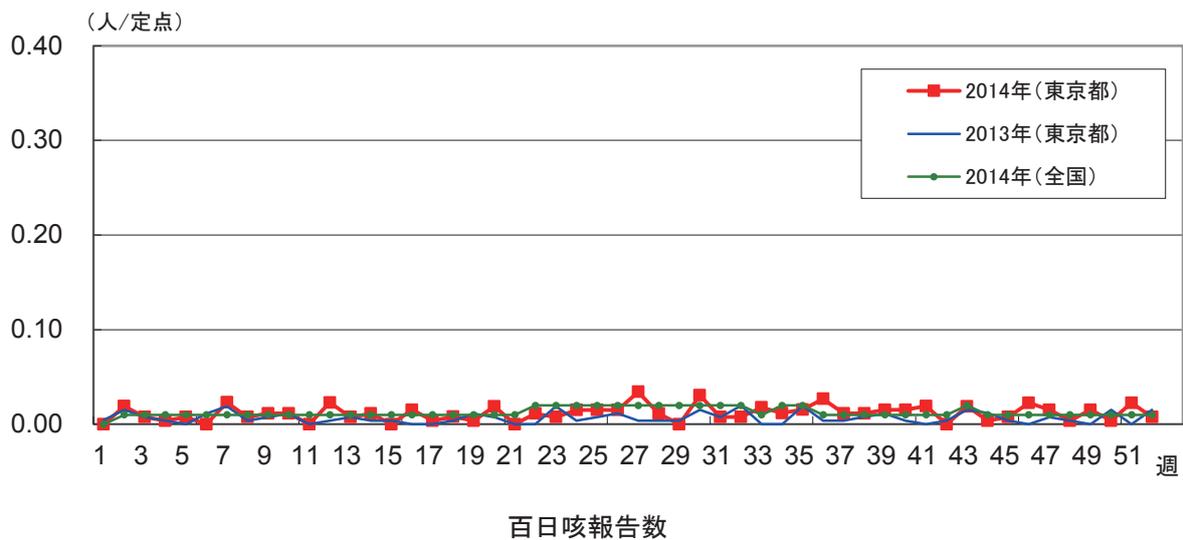
突発性発しん報告数



突発性発しん報告数 経年変化

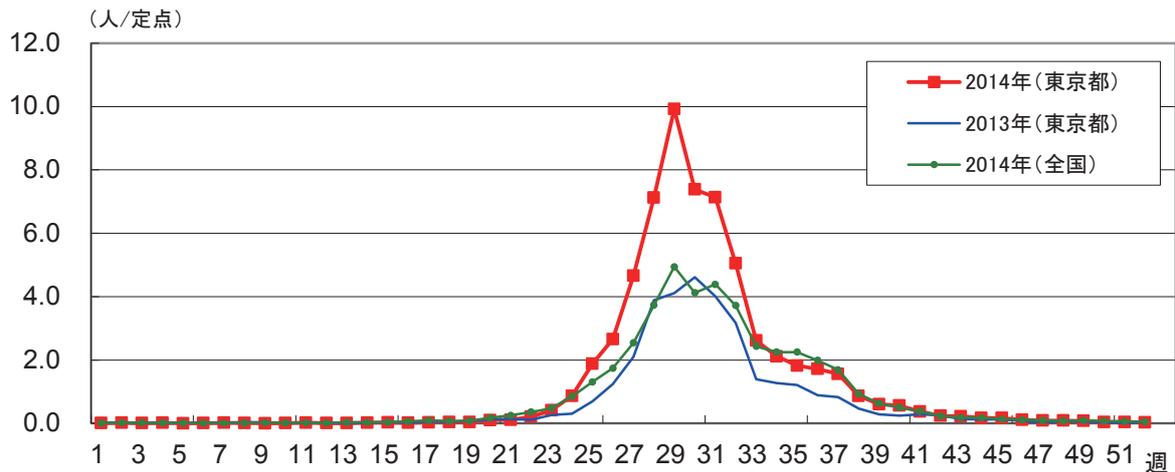
## コ 百日咳

2014年の報告数は158人、定点あたりの報告数は0.61人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は12.00人であった。2014年は前年より報告数は増加しているがここ10年の平均よりは少ない報告数であった。週別定点あたりの報告では特に増加が見られる週はなかった。保健所別定点あたりの報告では大田区が2.71人、八王子市が2.46人と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳未満が19人(12.0%)、1歳代が13人(8.2%)と多かったが、それ以降の年齢層にも報告が見られた。

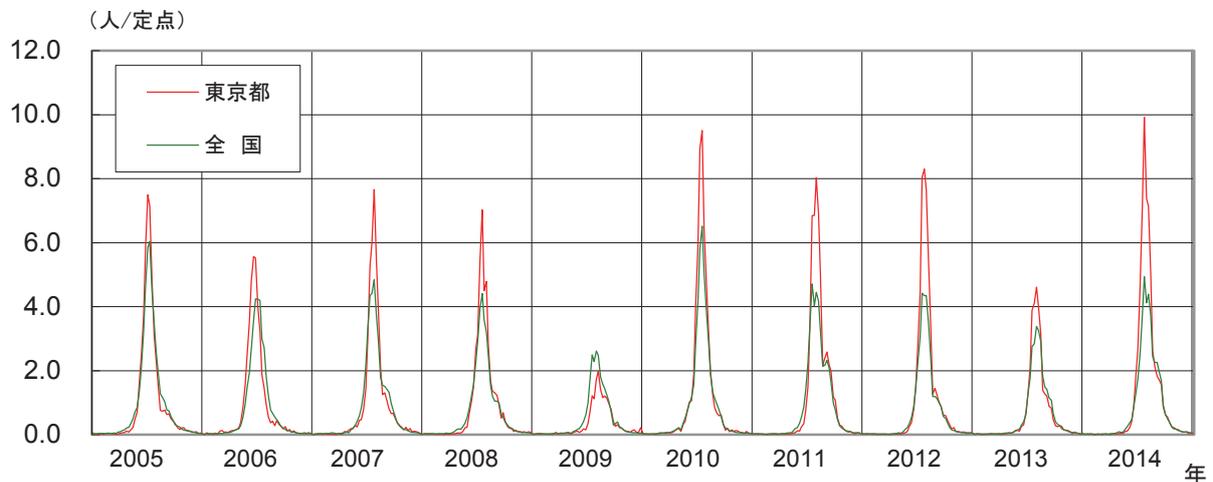


## サ ヘルパンギーナ

2014年の報告数は15,874人、定点あたりの報告数は61.25人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は45.74人であり、2014年はここ10年で最大の報告数であった。週別定点あたりの報告数では28週(7.7~7.13)から32週(8.4~8.10)にかけて5.00人を超える大きな山があり、ピークは29週(7.14~7.20)の9.92人であった。保健所別定点あたりの報告では町田市が108.45人と最多であった。年齢階級別患者報告数では1歳代が4,605人(29.0%)と最も多く、5歳代以下で89.8%を占めている。



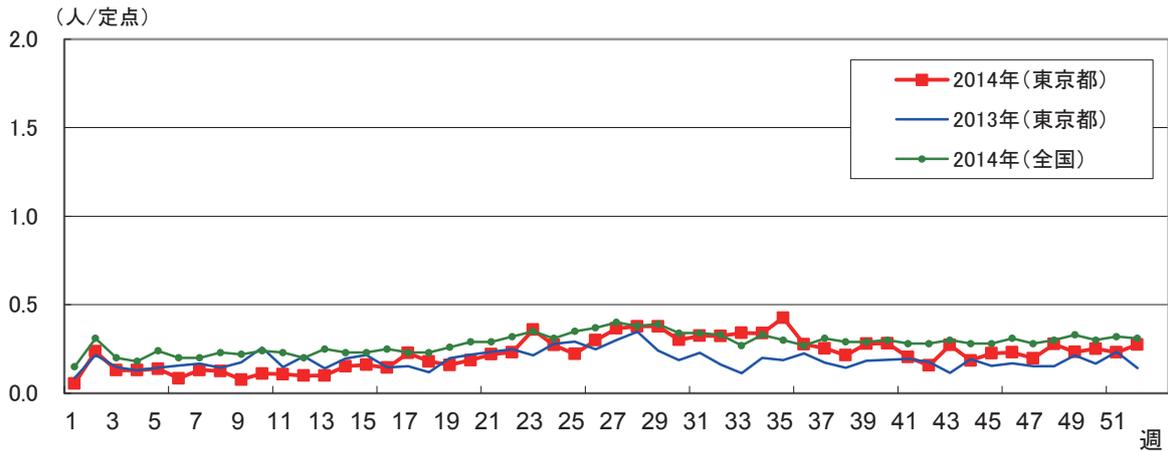
ヘルパンギーナ報告数



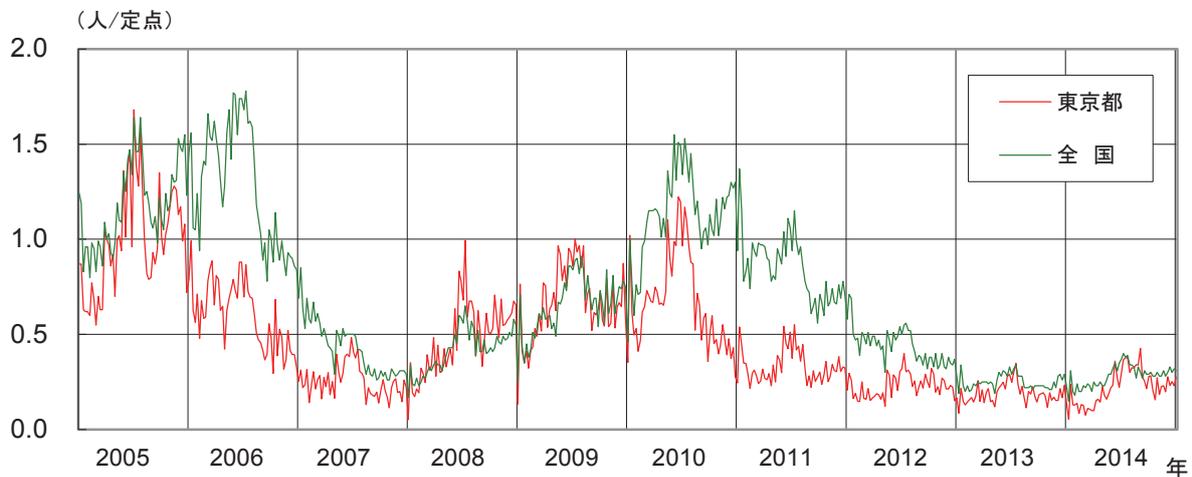
ヘルパンギーナ報告数 経年変化

## シ 流行性耳下腺炎

2014年の報告数は3,003人、定点あたりの報告数は11.57人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は24.16人であった。2014年はここ10年で最少であった2013年に次ぐ少ない報告数であった。週別定点あたりの報告数では26週(6.23~6.29)から35週(8.25~8.31)にかけて0.30人を超えるなだらかな山があり、ピークは35週(8.25~8.31)の0.43人であった。保健所別定点あたりの報告数では足立30.65人、新宿区26.13人が多かった。年齢階級別患者報告数では5歳代が491人(16.2%)と最も多く、6歳代以下で62.3%を占めている。



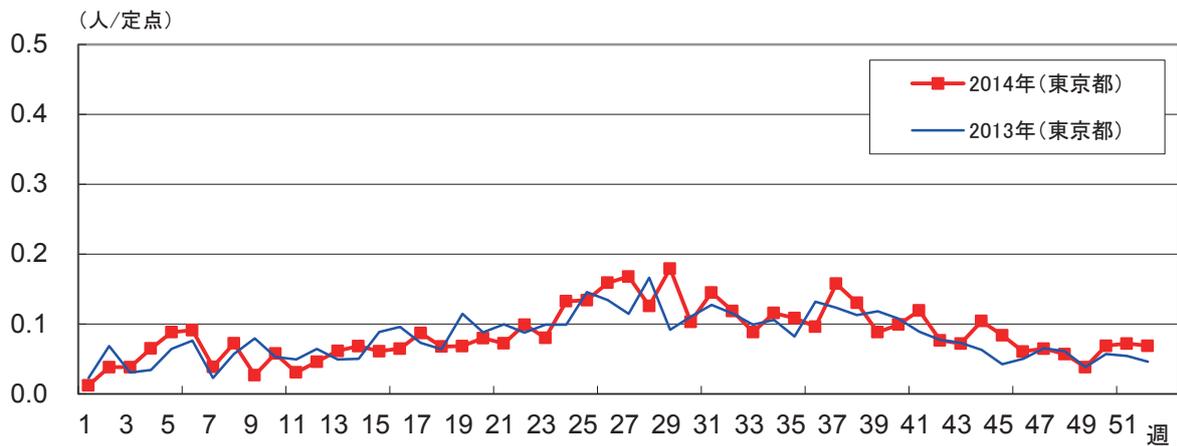
流行性耳下腺炎報告数



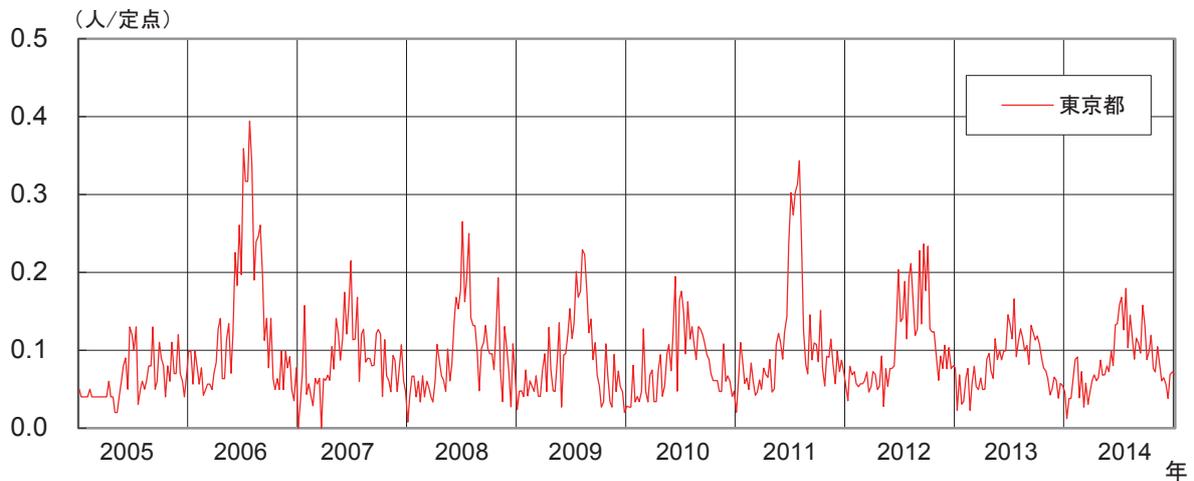
流行性耳下腺炎報告数 経年変化

## ス 不明発しん症

2014年の報告数は1,158人、定点あたりの報告数は4.45人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は4.81人であった、2014年はここ10年の平均よりやや少ない報告数であった。週別定点あたりの報告数では29週に0.18人と最多となりその前後で報告数の増加が見られた。保健所別定点あたりの報告数では町田市が17.32人と最多であった。年齢階級別患者報告数では1歳代が338人(29.2%)と最も多く、3歳代以下が71.2%を占めている。



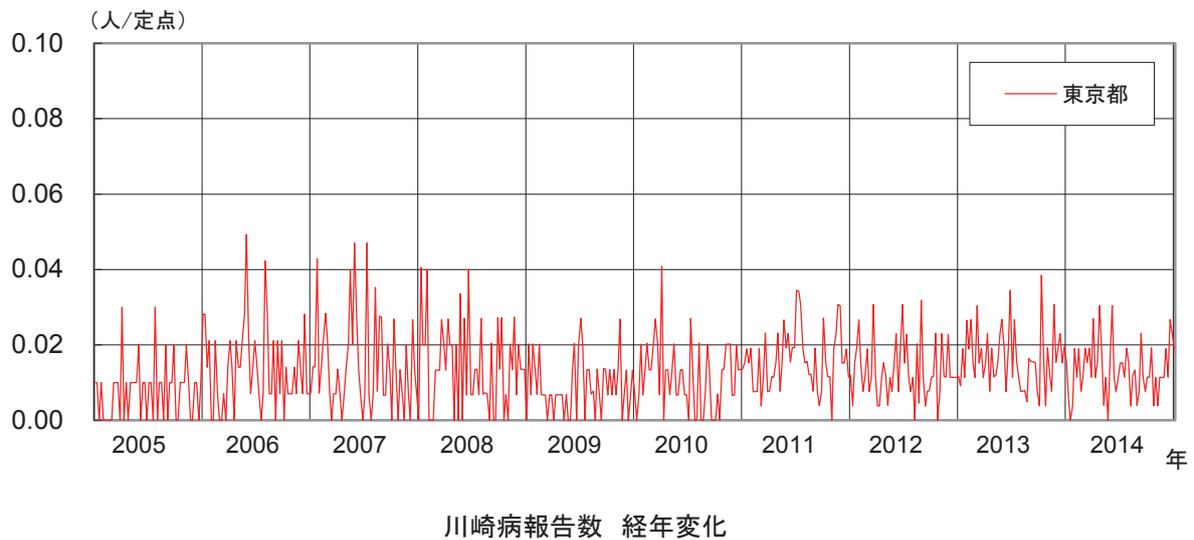
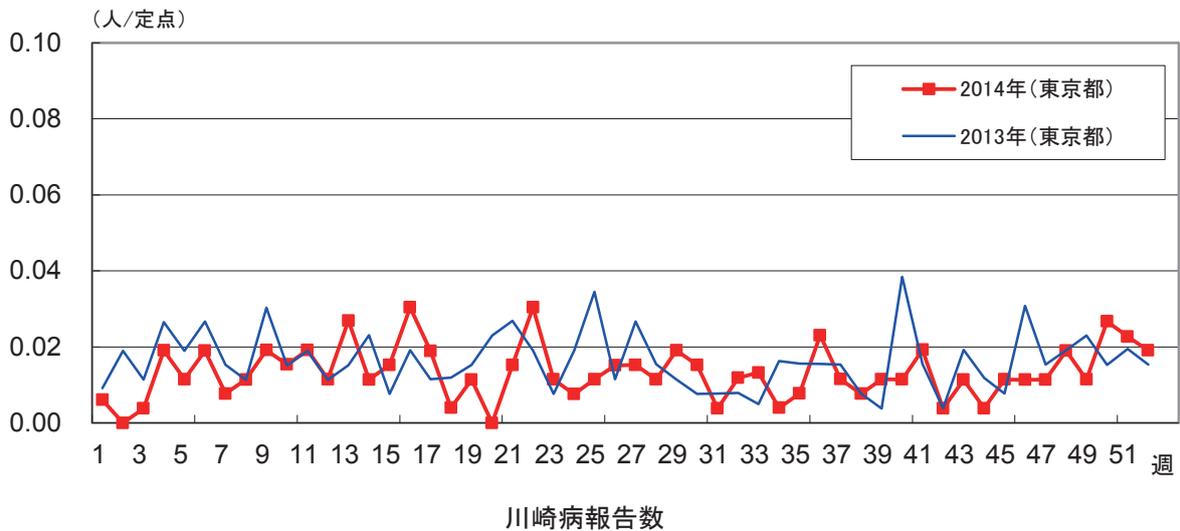
不明発しん症報告数



不明発しん症報告数 経年変化

## セ 川崎病

2014年の報告数は180人、定点あたりの報告数は0.69人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は0.67人であり2014年の報告数は平年並みであった。週別定点あたりの報告数に偏りはなく季節変動は見られていない。保健所別定点あたりの報告数では千代田が3.67人、新宿区が3.38人、荒川区が2.75人と多くなっている。年齢階級別患者報告数では1歳代が44人(24.4%)と最も多く5歳代以下91.7%を占めている。



### (3) 眼科疾患

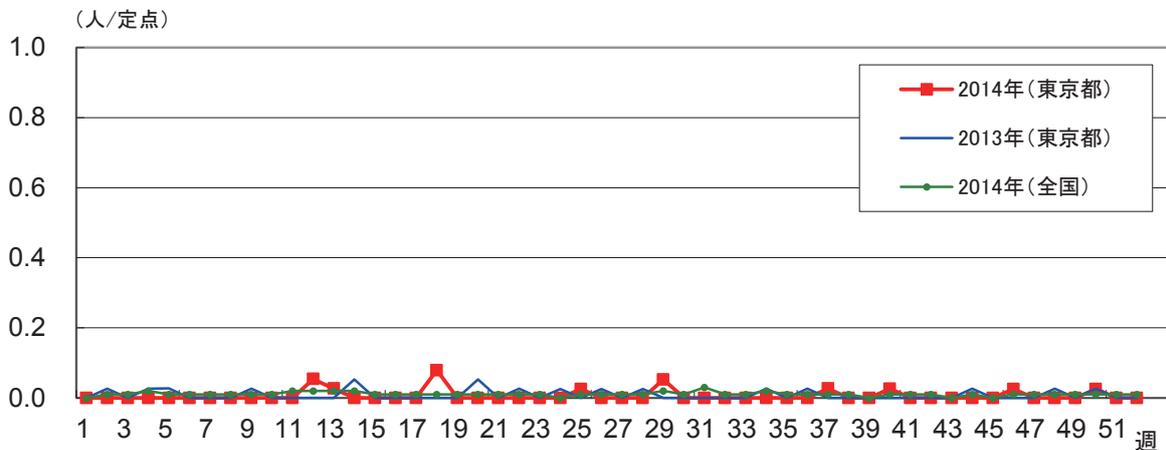
#### ア 急性出血性結膜炎

2014年の報告数は13人、定点当たり0.34人であった。眼科定点数が増加した2007年以降で最少だった。

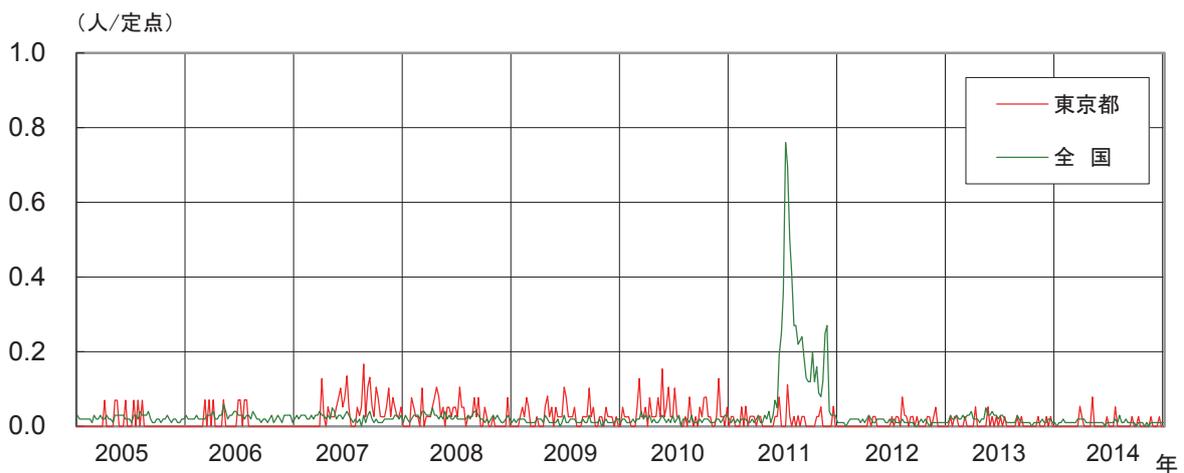
患者発生数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、38週(4月28日～5月4日)に3人、12週(3月17日～23日)と29週(7月14日～20日)に2人発生した以外は各週1人以下であり、年間43週は発生がみられなかった。全国的にも低いレベルで分散した報告が続いており、東京都も同様であった。

二次医療圏別では眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは7医療圏で、区西部圏、区西北部圏、区東北部圏、区東部圏が多かった。

報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が7人と全体の53.8%を占めた。幼少児では1歳児、2歳児、3歳児、5歳児、6歳児に各1人(7.7%)みられた。



急性出血性結膜炎報告数



急性出血性結膜炎報告数 経年変化

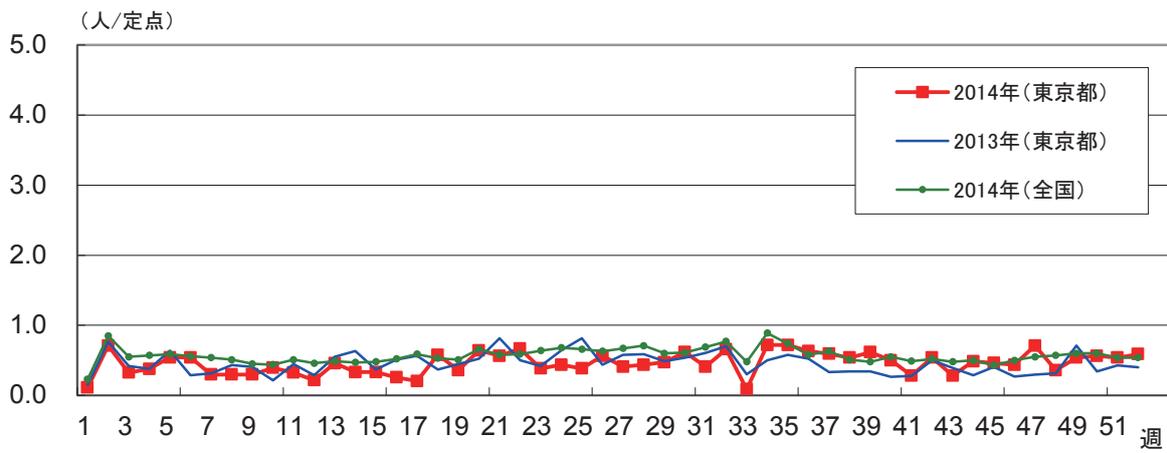
## イ 流行性角結膜炎

2014年の報告数は913人、定点当たり23.79人であった。眼科定点数が増加した2007年以降では、2007年と2012年に多かったが、2014年はそれ以外の年と同じ低い水準に戻った。

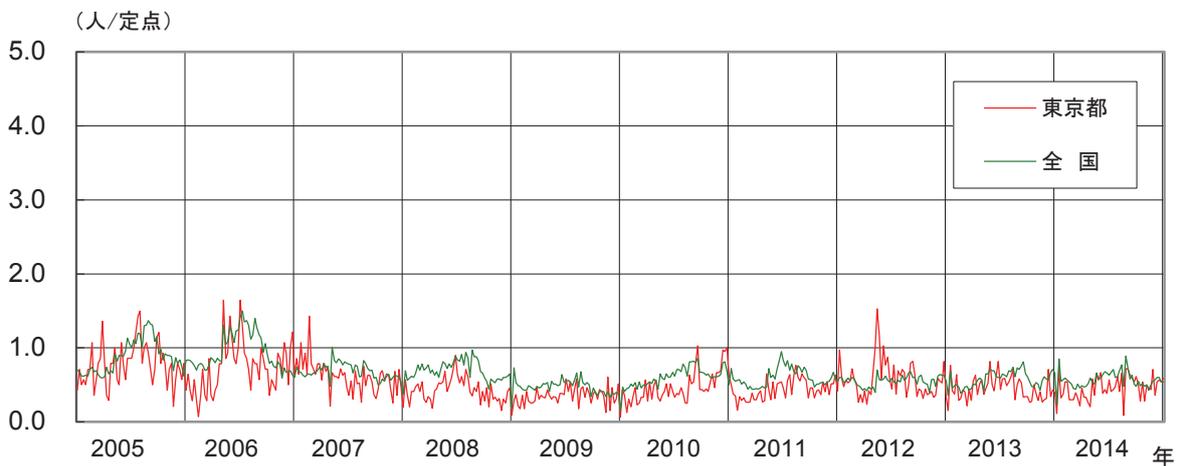
患者発生数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、週別定点当たり報告数では0.11人から0.72人であった。全国と比較すると若干低い水準であった。

二次医療圏別では、定点当たり報告数では、区中央部圏68.50人、北多摩北部圏54.50人、区東北部圏29.33人で多かった。

報告年齢は20歳から49歳が528人と57.8%を占め、20歳以上の成人が709人(77.7%)であった。10歳未満は156人(16.9%)で、各年齢層に分散してみられた。



流行性角結膜炎報告数

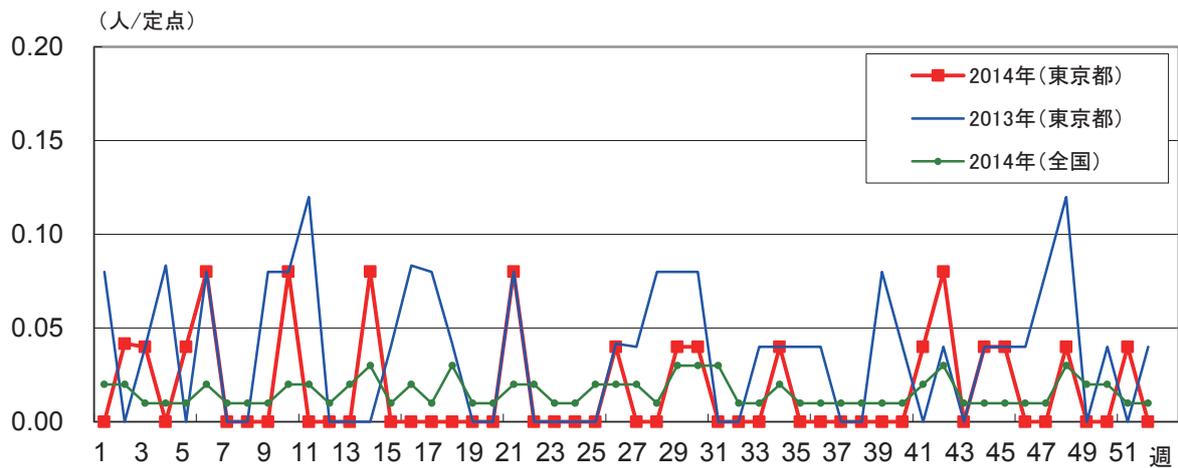


流行性角結膜炎報告数 経年変化

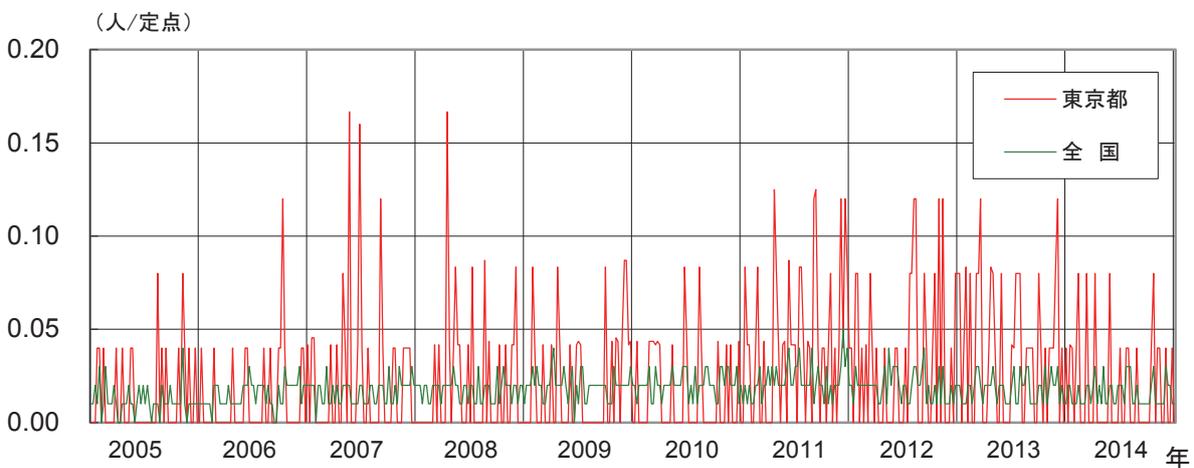
(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

ア 細菌性髄膜炎

2014年の報告数は22人、定点あたりの報告数は0.88人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は1.18人であった。2011年から2013年にかけて報告数の増加が見られたが、2014年は前年と比較し半減した。週別定点あたりの報告数による季節変動は明らかではない。保健所別定点あたりの報告数では墨田区が4.00人、世田谷が3.50人と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳未満が7人(31.8%)であった。



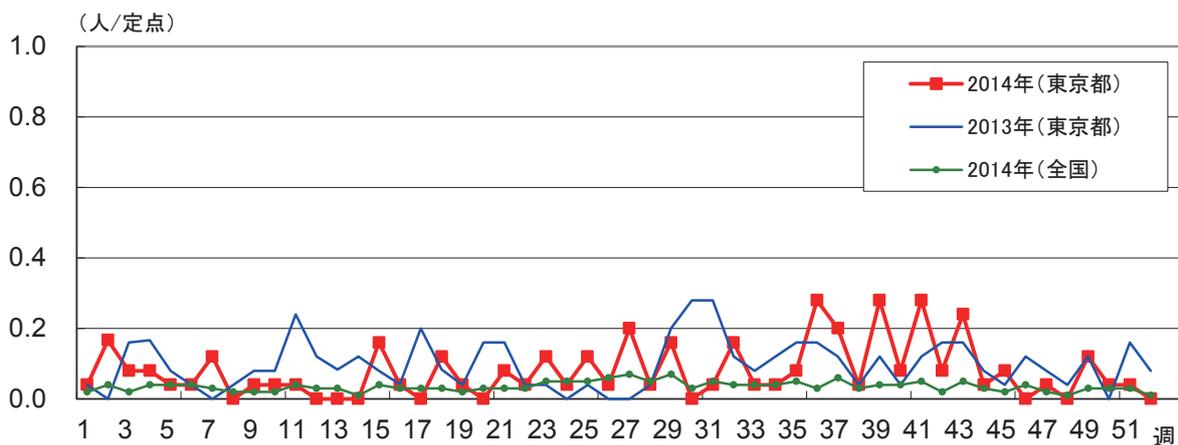
細菌性髄膜炎報告数



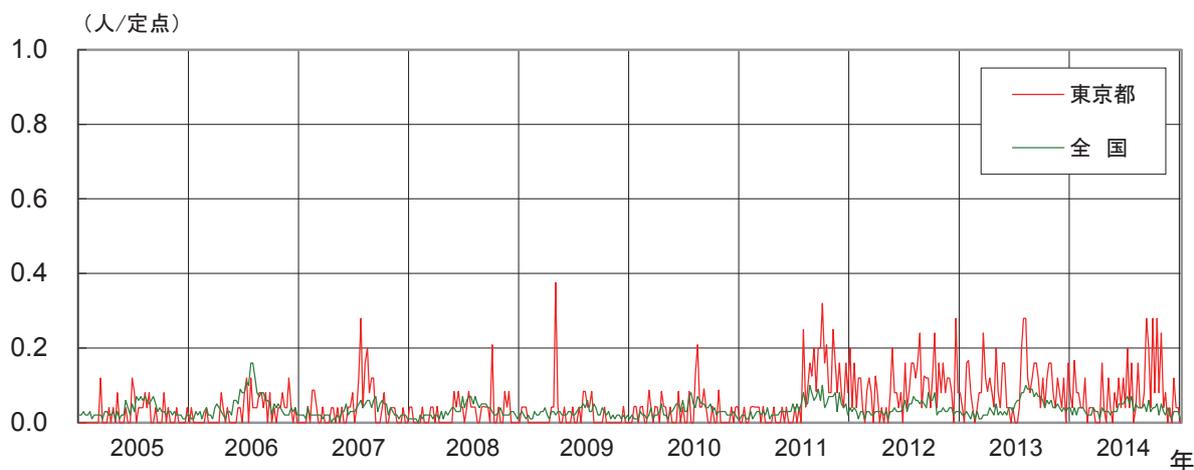
細菌性髄膜炎報告数 経年変化

## イ 無菌性髄膜炎

2014年の報告数は102人、定点あたりの報告数は4.09人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は2.69人であった。2014年は2013年の5.06人、2012年の4.86人に次いで多い報告数だった。週別定点あたりの報告数では季節変動は明らかではなかった。保健所別定点あたりの報告では墨田区が12.00人、世田谷が12.00人、多摩小平が10.50人と多かった。年齢階級別患者報告数では6か月未満が41人（40.2%）であった。



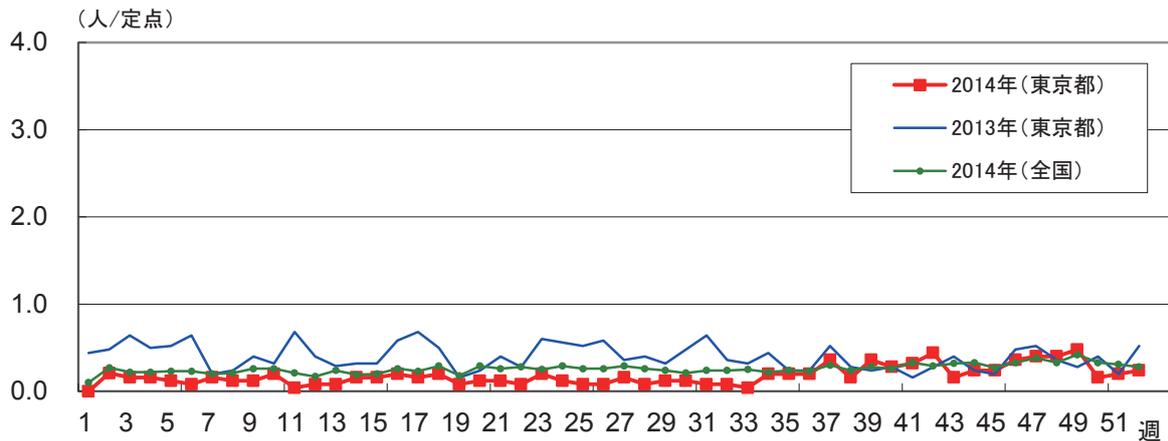
無菌性髄膜炎報告数



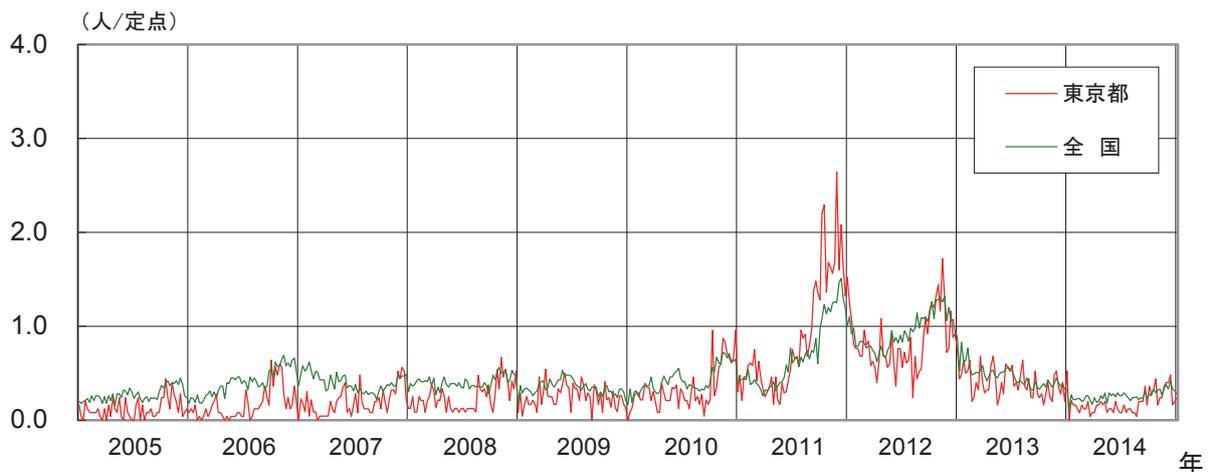
無菌性髄膜炎報告数 経年変化

## ウ マイコプラズマ肺炎

2014年の報告数は234人、定点あたりの報告数は9.37人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は18.83人であった。2011年には46.78人、2012年には42.84人と大きな流行があったが、2013年には20.66人と半減した。週別定点あたりの報告数では49週(12.1～12.7)に0.48人、42週(10.13～10.19)に0.44人と増加した。保健所別定点あたりの報告では渋谷区が34.00人、新宿区が23.00人と多かった。年齢階級別患者報告数では4歳代が34人(14.5%)、7歳代が23人(9.8%)であった。



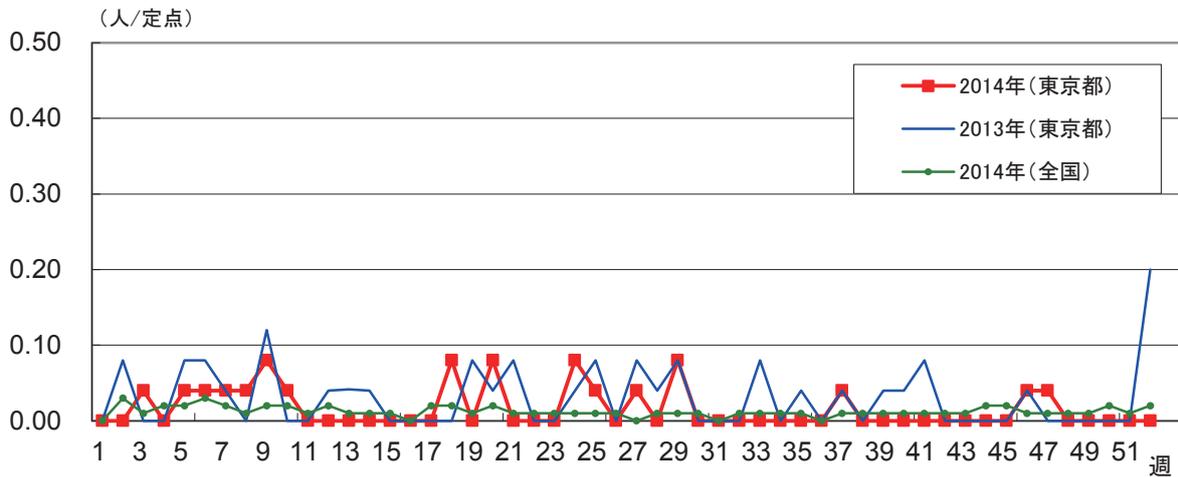
マイコプラズマ肺炎報告数



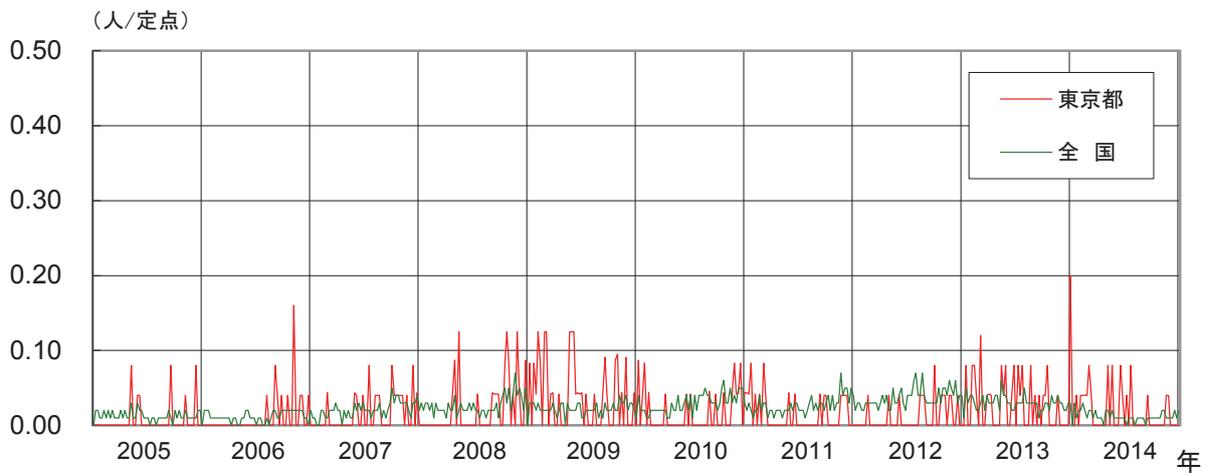
マイコプラズマ肺炎報告数 経年変化

## エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2014年の報告数は21人、定点あたりの報告数は0.84人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は0.93人であった。週別定点あたりの報告数では季節変動は明らかではなかった。保健所別定点あたりの報告数では葛飾区が16.00人と全報告数の76%を占めていた。年齢階級別患者報告数では60歳代以上が16人（76.2%）であった。



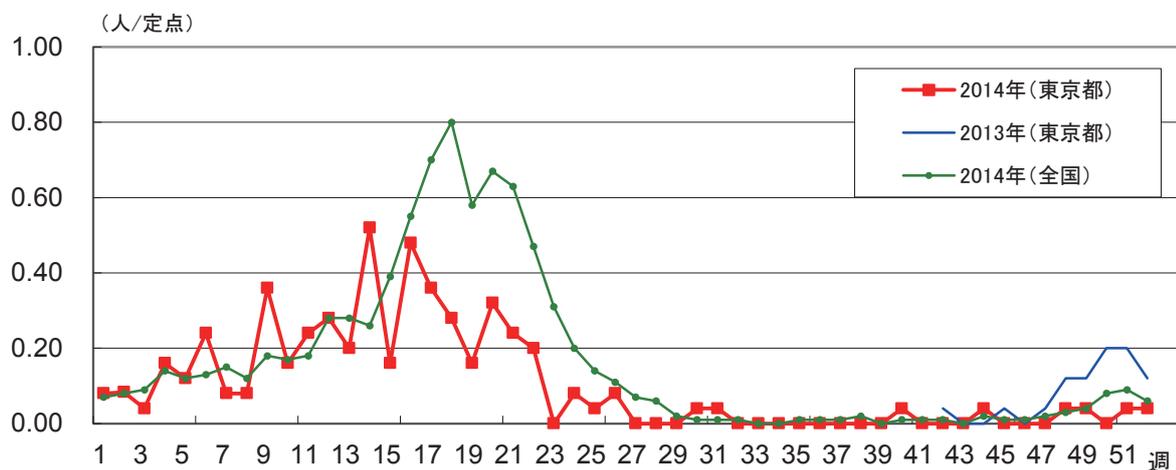
クラミジア肺炎報告数（オウム病を除く）



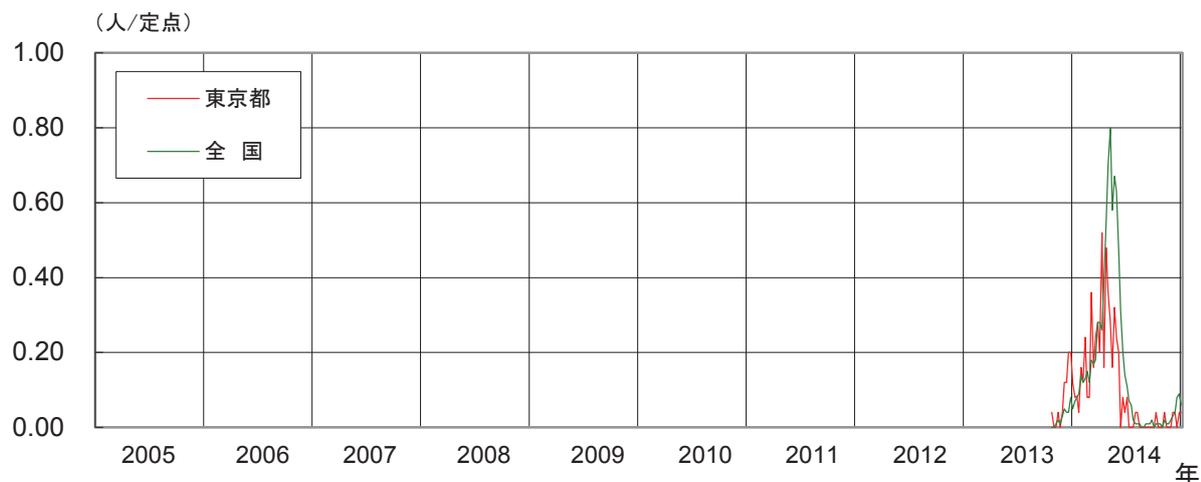
クラミジア肺炎報告数 経年変化（オウム病を除く）

### オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2013年42週より報告が開始された。2014年は134人が報告された。定点あたりの報告数は5.36人であった、週別定点あたりの報告数では14週に0.52人と最多となった。保健所別定点あたりの報告数では渋谷区が41.00人、葛飾区が18.00人と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が31人（23.1%）と最も多く、4歳代以下で80.6%を占めていた。



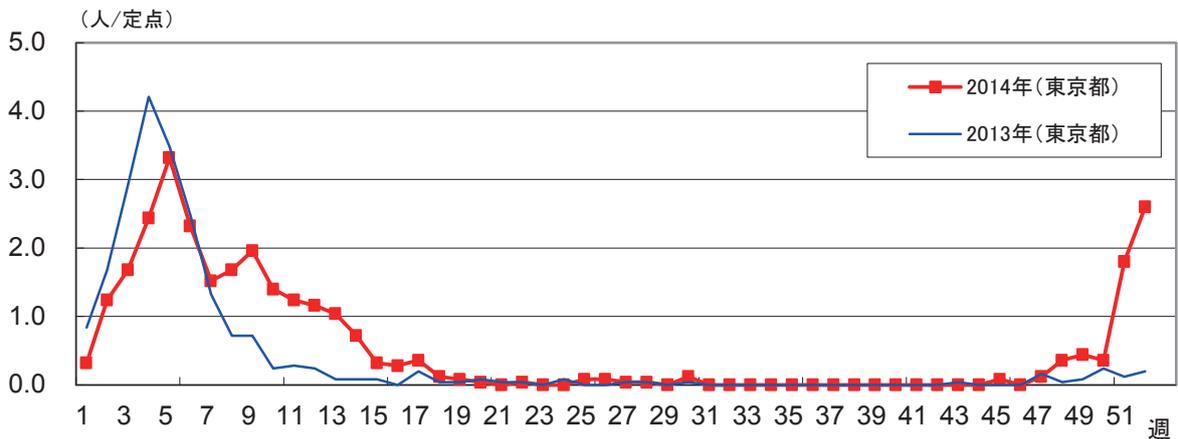
感染性胃腸炎報告数（ロタウイルス）



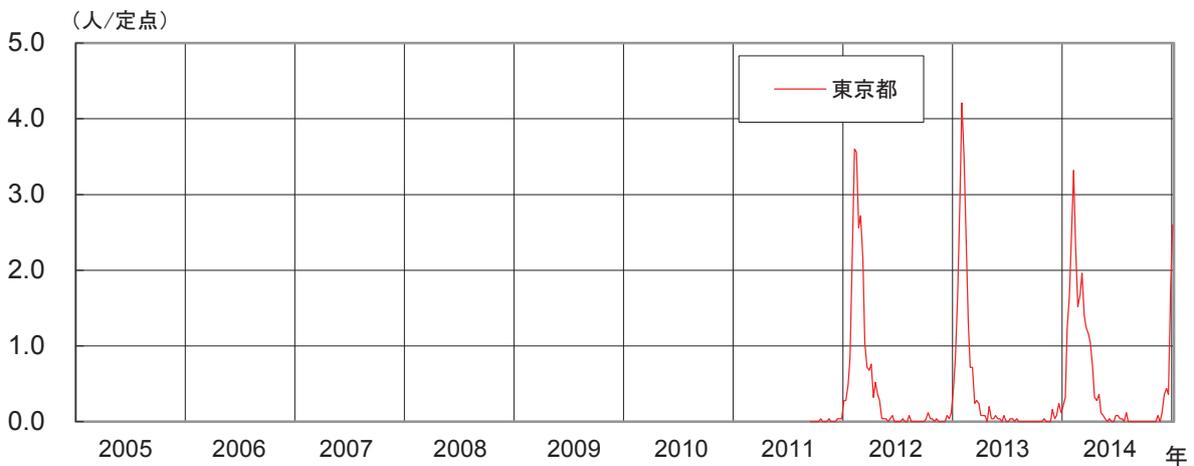
感染性胃腸炎報告数（ロタウイルス）

## カ インフルエンザ入院

2011年36週より報告が開始された。2014年の報告数は735人、定点あたりの報告数は29.40人であった。週別定点あたりの報告数では2013/14シーズンの流行では5週（1.27～2.2）が3.32人でピークであった。また2014/15シーズンの流行では最終週の52週（12.22～12.28）に2.60人となった、保健所別定点あたりの報告数では渋谷区が66.00人、板橋区が57.00人と多かった。年齢階級別患者報告数では12か月未満が45人（6.1%）、60歳代以上が290人（39.5%）であった。



インフルエンザ入院報告数

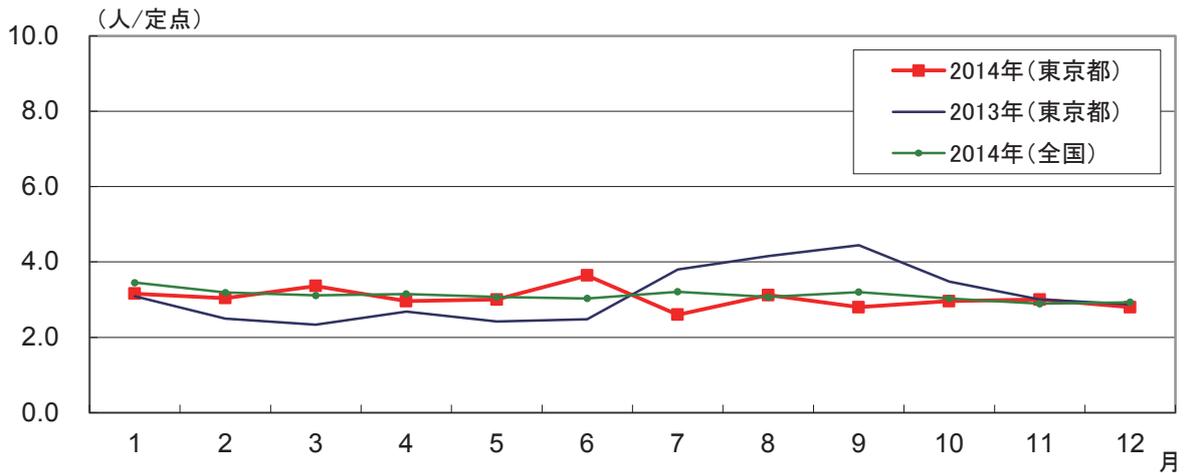


インフルエンザ入院報告数 経年変化

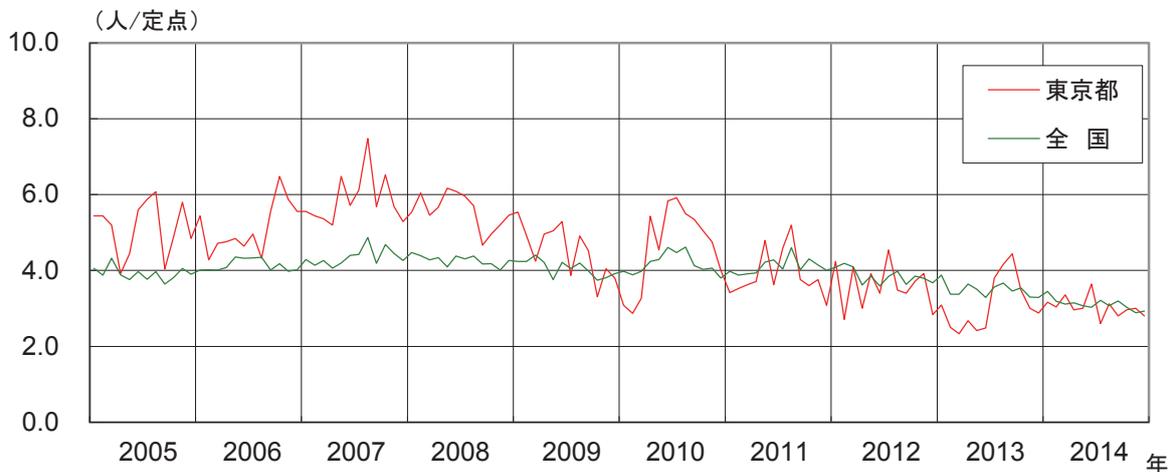
(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

2014年の報告数は908人、定点あたりの報告数は36.44人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は53.39人であった。ここ10年の定点あたりの報告数は2007年の70.53人をピークに年々減少しており、2014年の報告数は最も少なくなった。月別の報告数の変動は明らかではなかった。男女別では男性543人(59.8%)、女性365人(40.2%)で例年と同様に男性が多かった。年齢階級別患者報告数では0～9歳が284人(31.3%)、60歳以上が464人(51.1%)であった。



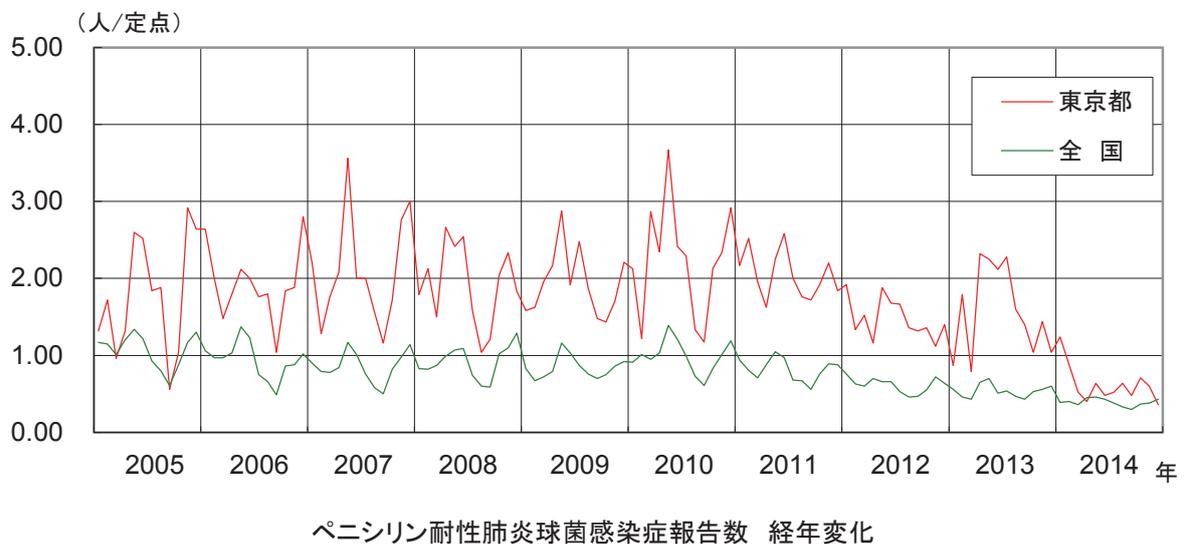
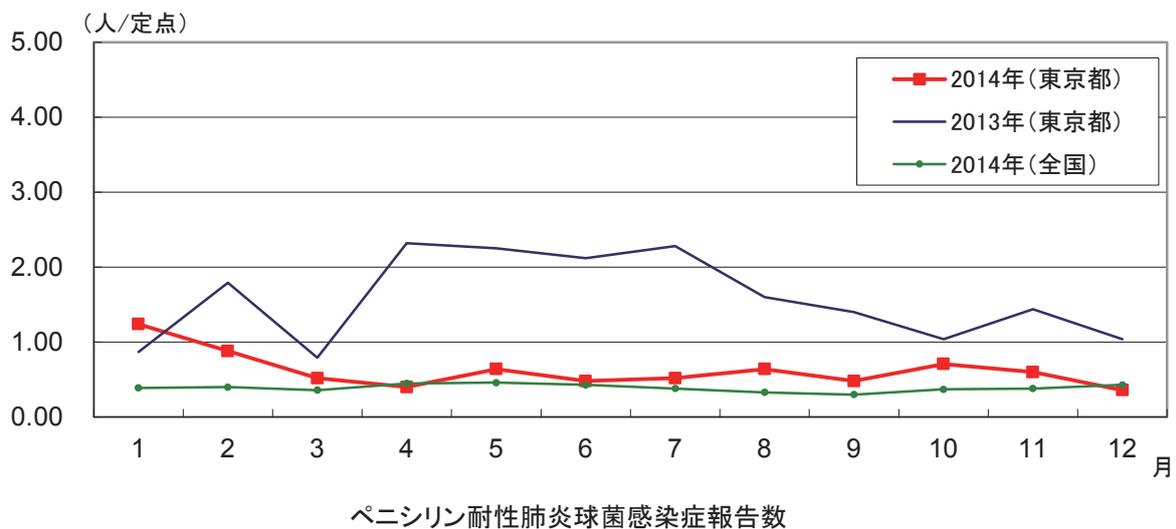
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告数



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告数 経年変化

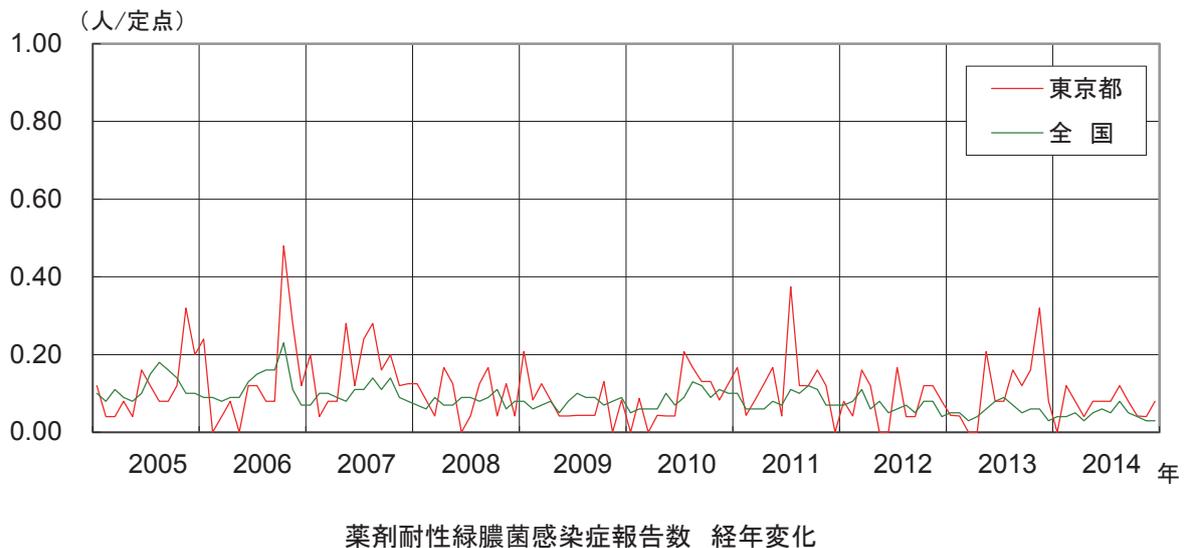
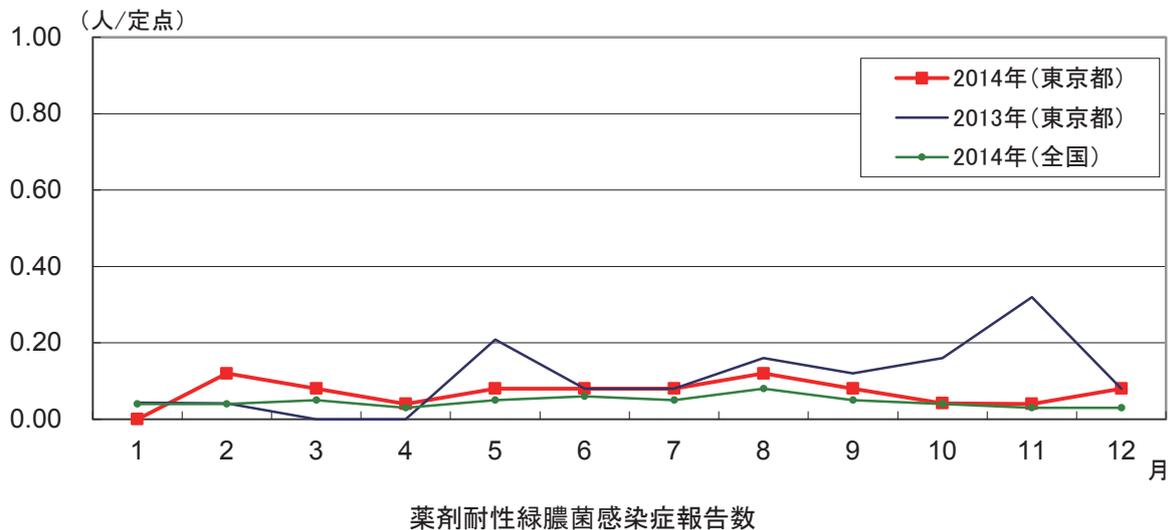
## イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2014年の報告数は186人、定点あたりの報告数は7.47人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は21.14人であり、2014年の報告数はここ10年で最も少なくなった。月別の報告数は1月が31人と最多であり、12月が9人と最小であった。男女別では男性121人(65.1%)女性65人(34.9%)と男性が多かった。年齢階級別患者報告数では0～9歳が89人(47.8%)、60歳代以上が81人(43.5%)であった。



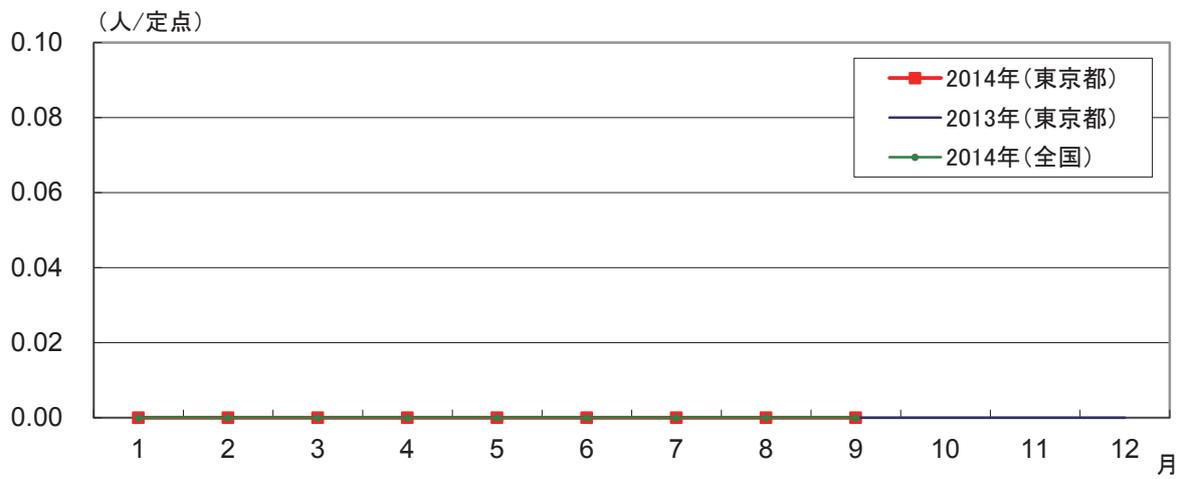
### ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2014年の報告数は21人、定点あたりの報告数は0.84人であった。ここ10年の定点あたりの報告数の平均は1.27人であり、2014年の報告数はここ10年で最も少なくなった。月別報告数の変動は明らかではなかった。男女別では男性16人(76.2%)、女性5人(23.8%)で男性が多かった。年齢階級別患者報告数では60歳代以上が17人(81.0%)であった。

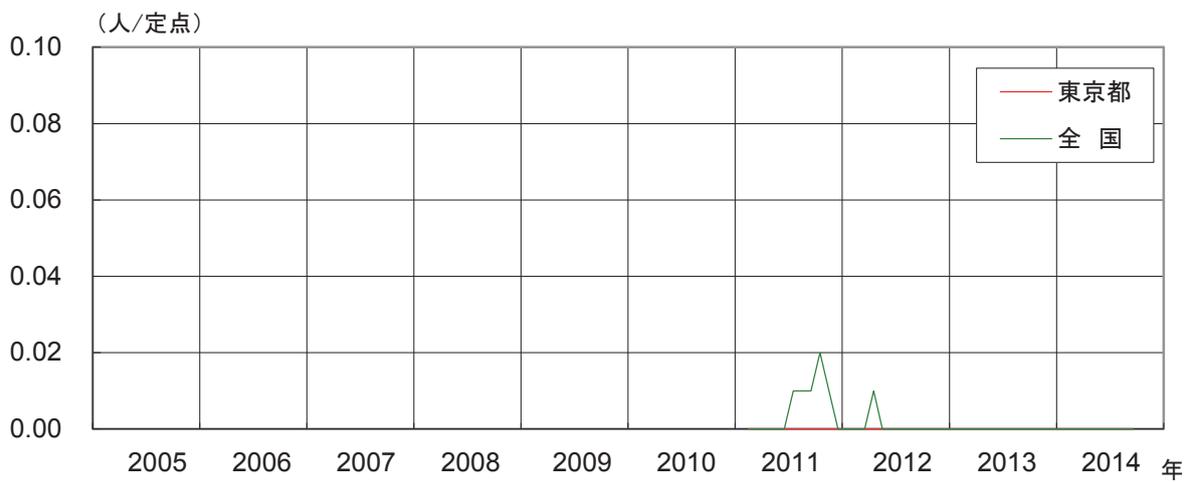


## エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2011年2月より2014年9月18日まで実施されたが報告例はなかった。



薬剤耐性アシネトバクター感染症報告数



薬剤耐性アシネトバクター感染症報告数 経年変化

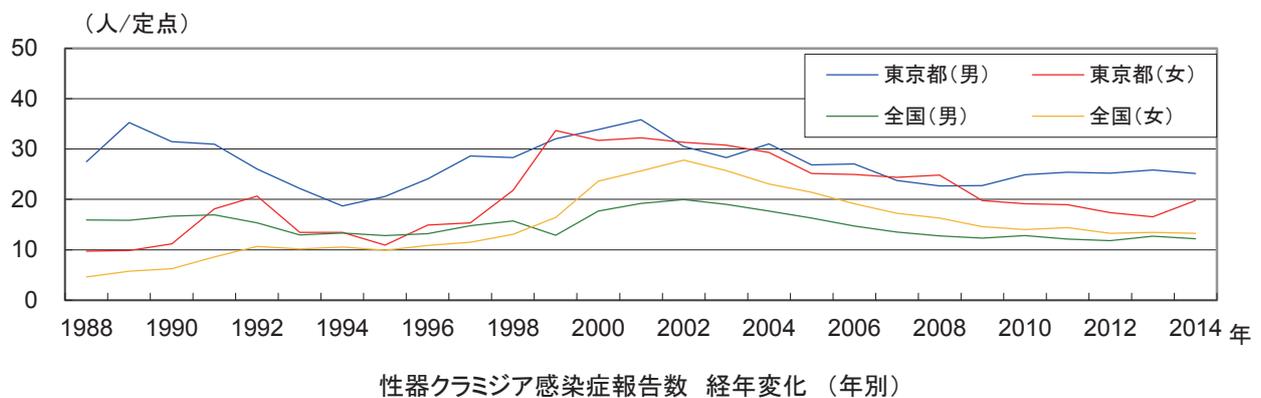
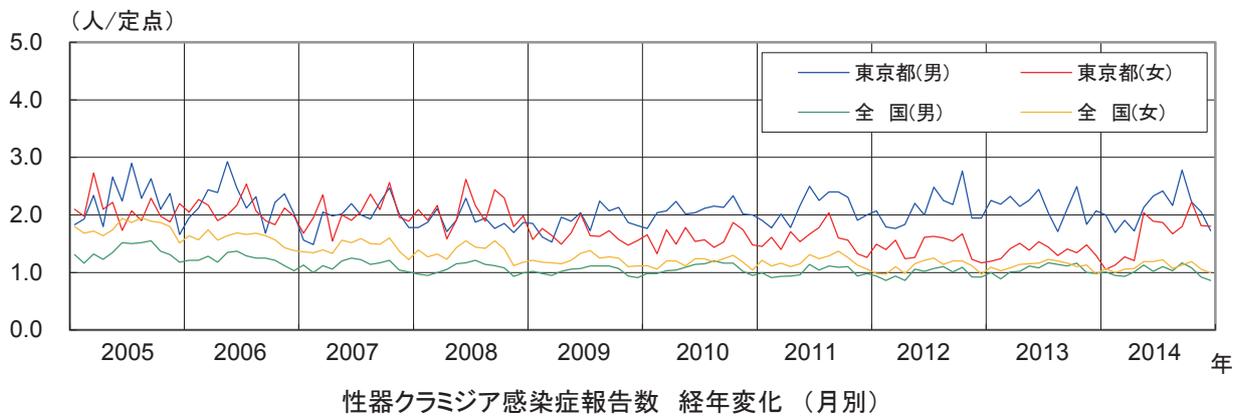
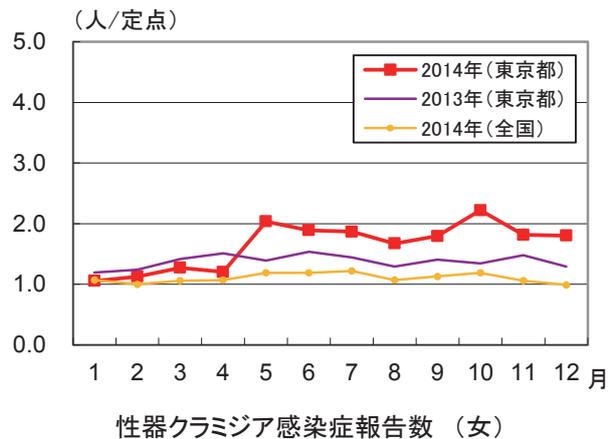
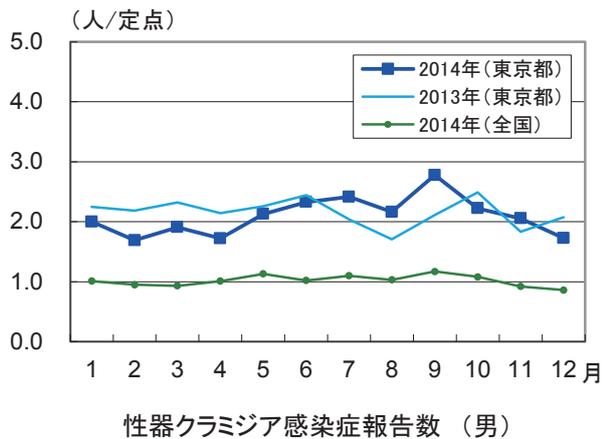
(6) 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

2014年の報告数は2,427人、定点当たり44.90人であり、男性の報告数は1,360人、定点当たり25.14人（前年比0.97）、女性の報告数は1,067人、定点当たり19.76人（前年比1.19）であった。

定点当たり報告数を月別に見ると、男性は9月が2.78人で最多、2月が1.69人で最少、女性では10月が2.22人で最多、1月が1.05人で最少であった。保健所別では、男性は品川区の74.00人、女性は台東の109.50人が最も多かった。

年齢階級別報告数では、男性は25～29歳の263人が最も多く、20歳代と30歳代で男性全体の67.7%を占めている。女性では20歳代が569人で、女性全体の53.3%となっている。

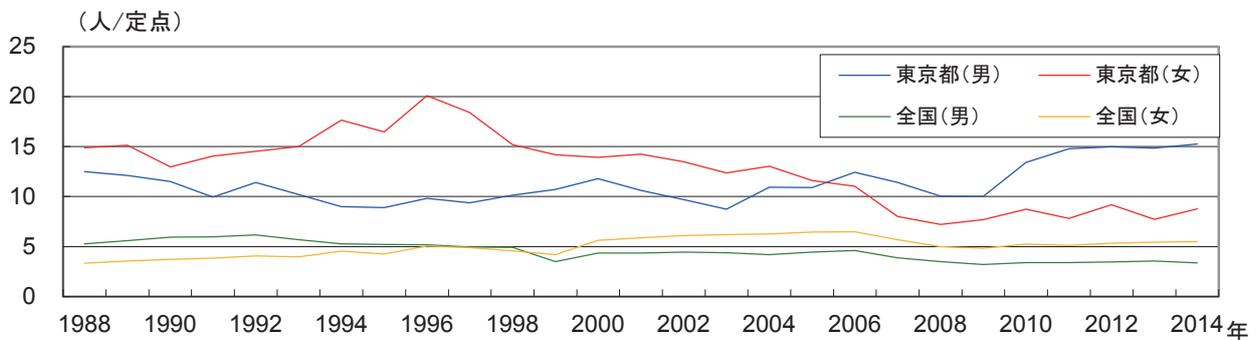
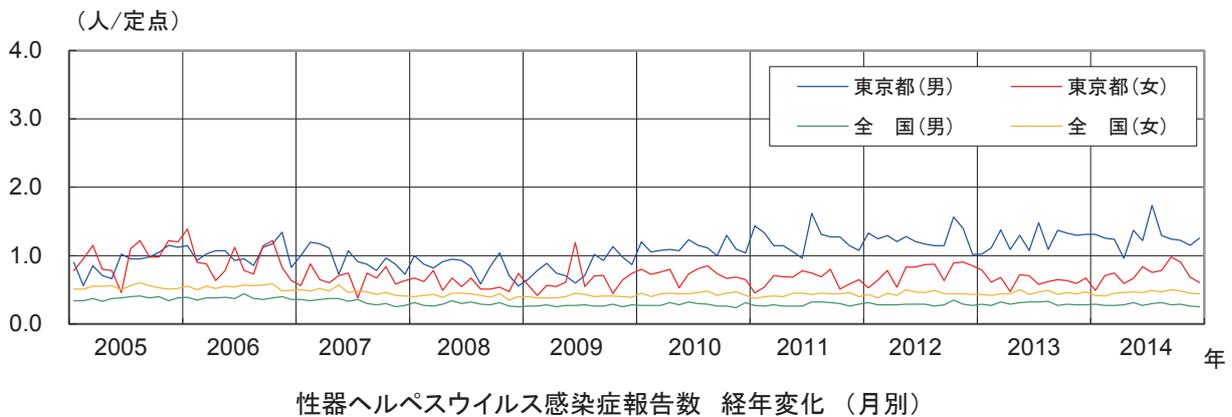
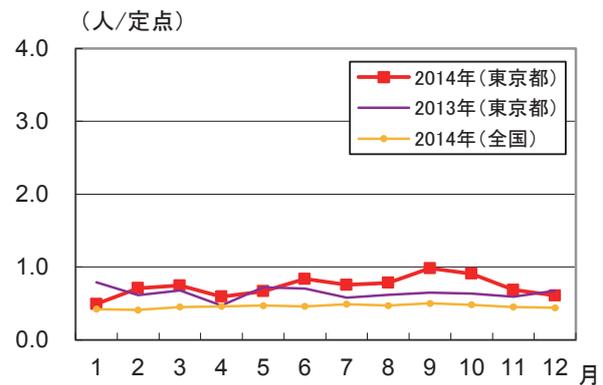
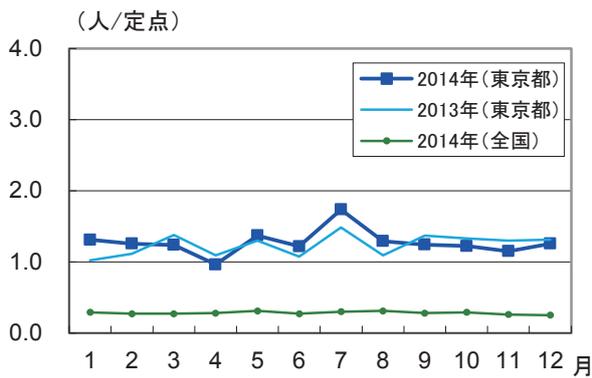


## イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2014年の報告数は1,298人、定点当たり24.00人であった。男性の報告数は824人、定点当たり15.24人（前年比1.03）、女性の報告数は474人、定点当たり8.76人（前年比1.13）で、昨年に比べ男女とも増加したが、東京都では2006年以降男性に多い状況が続いている。

月別の定点当たり報告数は、男性は7月が1.74人で最多、4月が0.96人で最少、女性は9月が0.98人で最多、1月が0.49人で最少であった。保健所別では、男性はみなとが194.50人と突出しており、女性は台東の34.50人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は35～39歳の138人、女性では25～29歳の102人が最も多いが、近年男女とも40歳代の割合が増加し、特に男性では全体の32.2%を占めている。

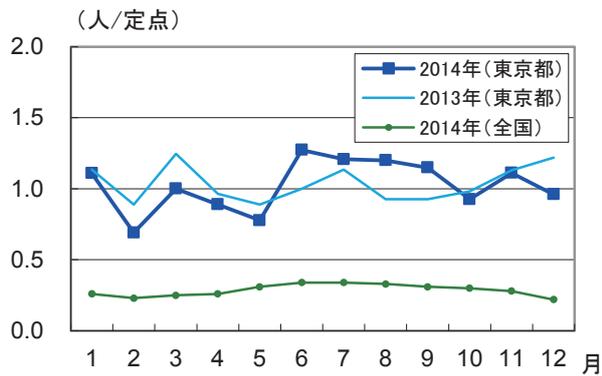


## ウ 尖圭コンジローマ

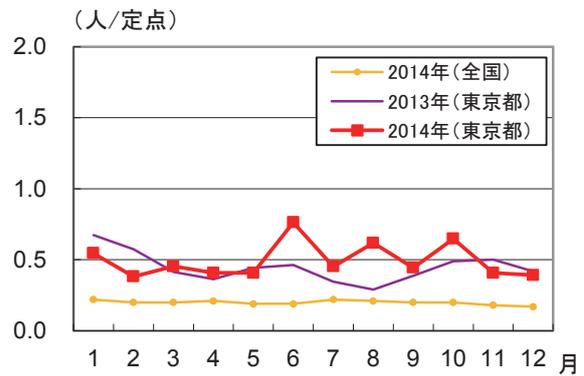
2014年の報告数は986人、定点当たり18.22人であり、1998年以降緩やかな増加傾向にある。男性の報告数は665人、定点当たり12.29人（前年比0.99）、女性の報告数は321人、定点当たり5.92人（前年比1.10）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は、男性は6月が1.27人で最多、2月が0.69人で最少、女性も最多は6月の0.76人、最少は2月の0.38人であり、保健所別では男女ともみなとが最多であった（男性61.50人、女性26.00人）。

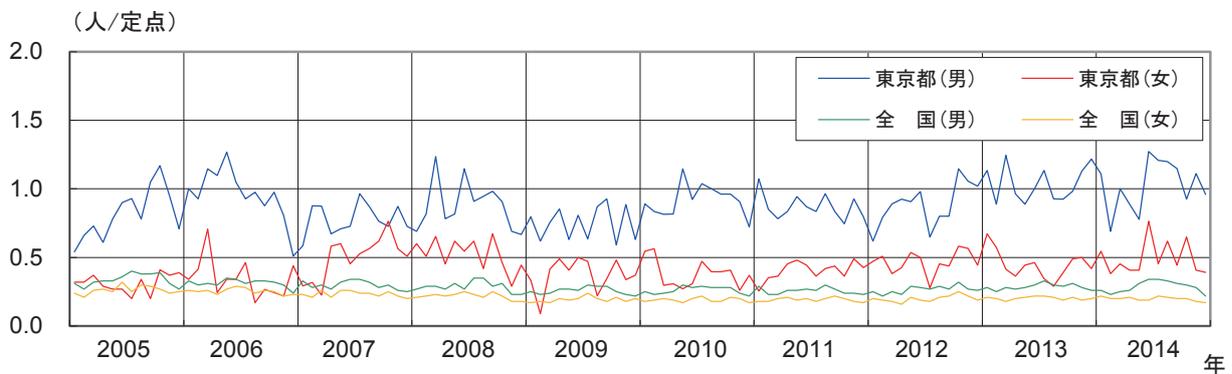
年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の124人が最多、女性では20～24歳の101人、25～29歳の95人が多く、20歳代が女性全体の61.1%を占めている。



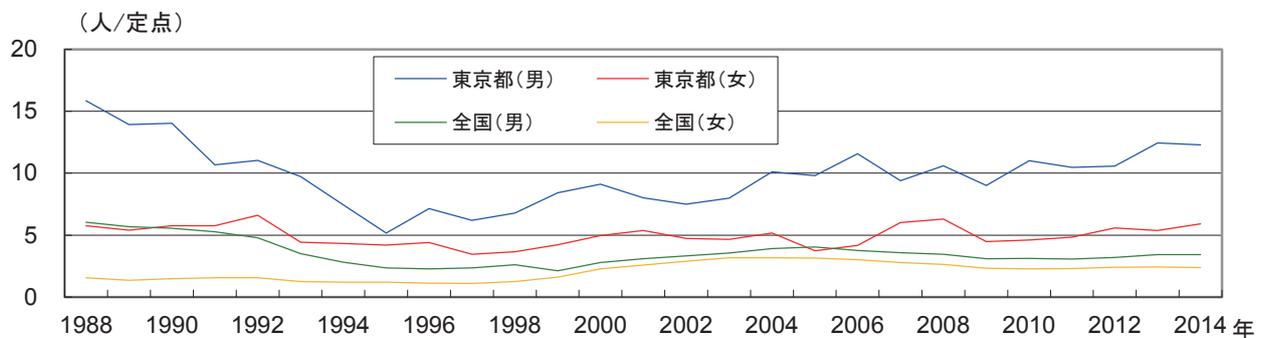
尖圭コンジローマ報告数（男）



尖圭コンジローマ報告数（女）



尖圭コンジローマ報告数 経年変化（月別）



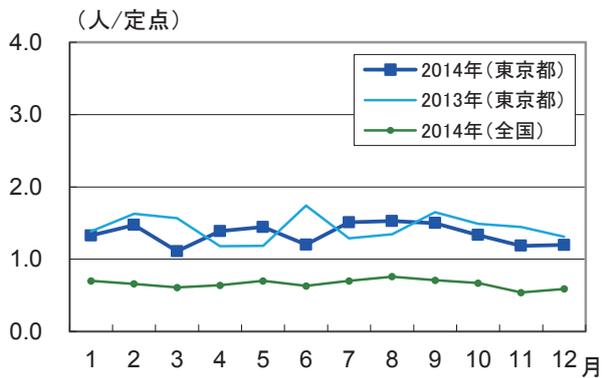
尖圭コンジローマ報告数 経年変化（年別）

## エ 淋菌感染症

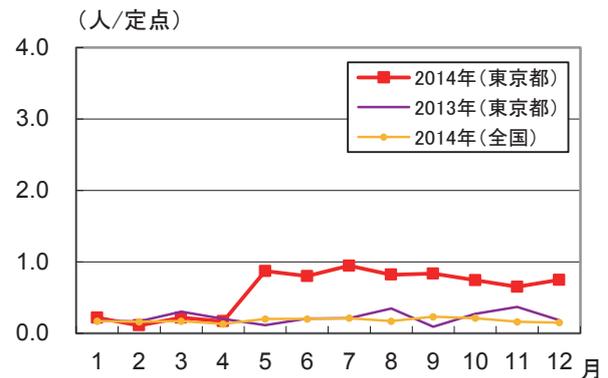
2014年の報告数は1,259人、定点当たり23.31人であり、男性の報告数は876人、定点当たり16.19人（前年比0.94）、女性の報告数は383人、定点当たり7.11人（前年比2.70）であった。

月別定点当たり報告数は、男性は8月が1.53人で最多、3月が1.11人で最も少なかったが、大きな変動は見られない。女性は7月が0.94人で最多、2月が0.11人で最少であった。保健所別では、男性は江東区の45.00人、女性は台東の125.00人が最多であった。

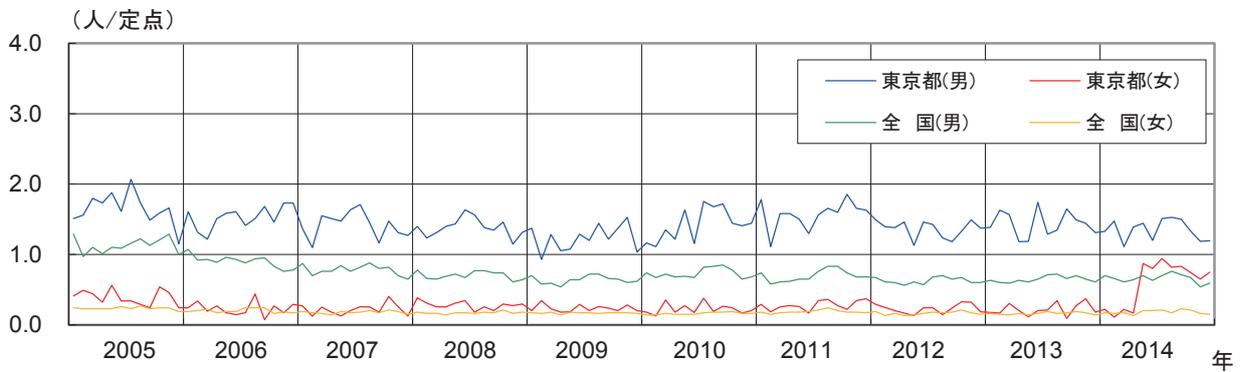
年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の165人が最も多く30歳代が男性全体の35.0%を占めている。近年20歳代の割合が減少傾向（32.9%）にあるのに換わり40歳代の割合（20.7%）が増加傾向にある。女性も25～29歳の83人が最も多いが、20歳代が女性全体に占める割合は32.9%に減少した。



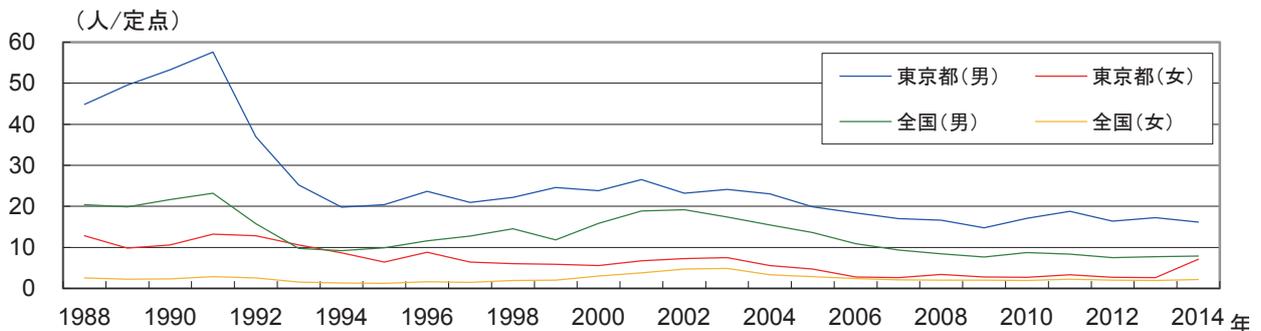
淋菌感染症報告数（男）



淋菌感染症報告数（女）



淋菌感染症報告数 経年変化（月別）



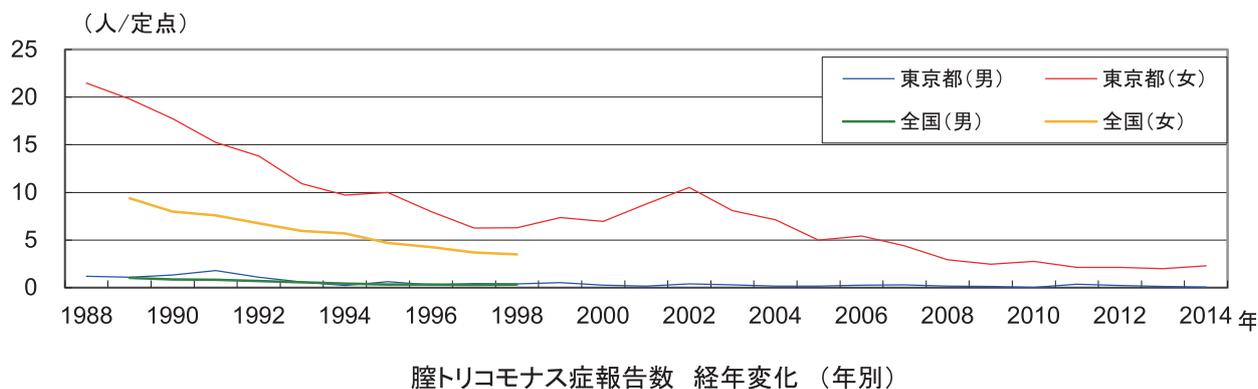
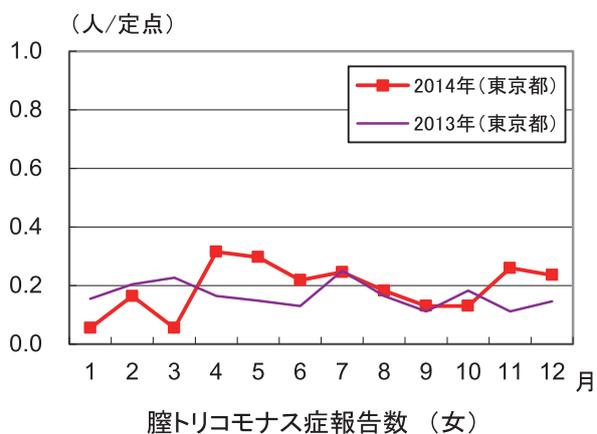
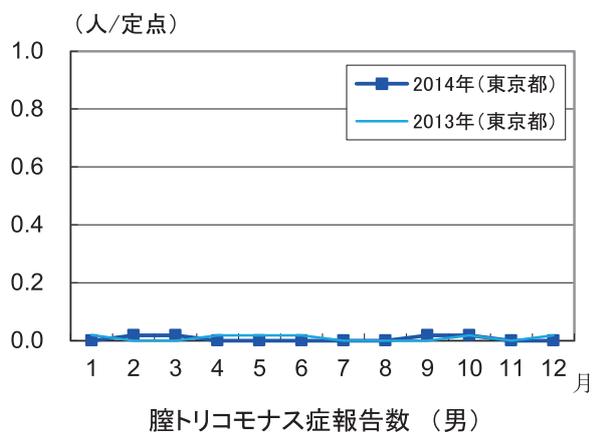
淋菌感染症報告数 経年変化（年別）

## オ 膣トリコモナス症

2014年の報告数は127人、定点当たり2.36人であり、昨年よりも増加したが2002年以降は減少傾向にある。男性の報告数は4人、定点当たり0.07人（前年比0.66）、女性の報告数は123人、定点当たり2.28人（前年比1.15）で、女性が全報告数の96.9%を占めている。

男性は、2、3、9、10月に各1人の報告があり、季節や地域的傾向などは見られない。女性では、月別定点当たり患者報告数の最多は4月の0.31人、最少は1月と3月の0.05人、保健所別では台東の19.00人が最も多かった。

年齢階級別報告数では25～29歳の25人が最多であったが、他の性感染症に比べ50歳以上の患者が占める割合が高い（17.0%）。

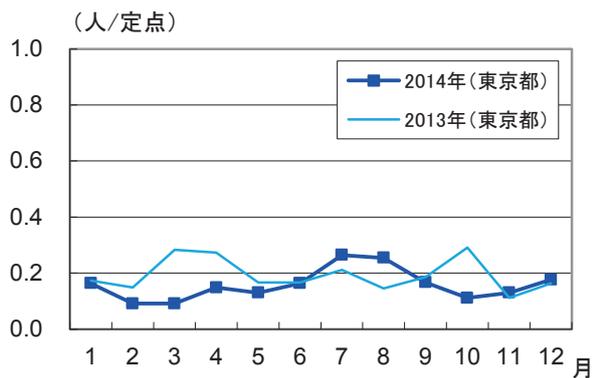


## カ 梅毒様疾患

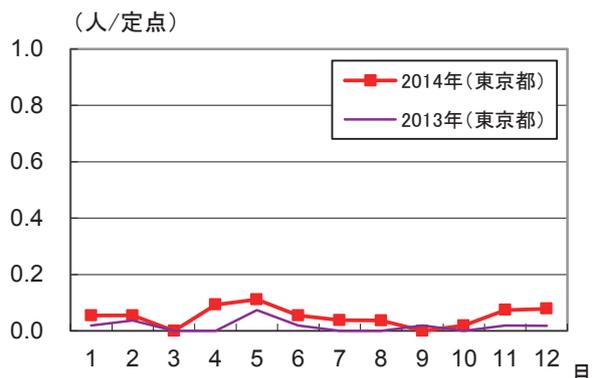
2014年の報告数は135人、定点当たり2.50人であった。男性の報告数は102人、定点当たり1.89人（前年比0.82）に減少し、女性の報告数は33人、定点当たり0.61人（前年比3.00）に増加した。

月別定点当たり報告数では、男性は7月が0.26人で最多、2月、3月がそれぞれ0.09人で最少、女性は3月と9月に報告が無く、最多は5月の0.11人であった。保健所別では、男性は新宿区の10.00人が最も多く、女性はみなとの8.00人が最多であった。

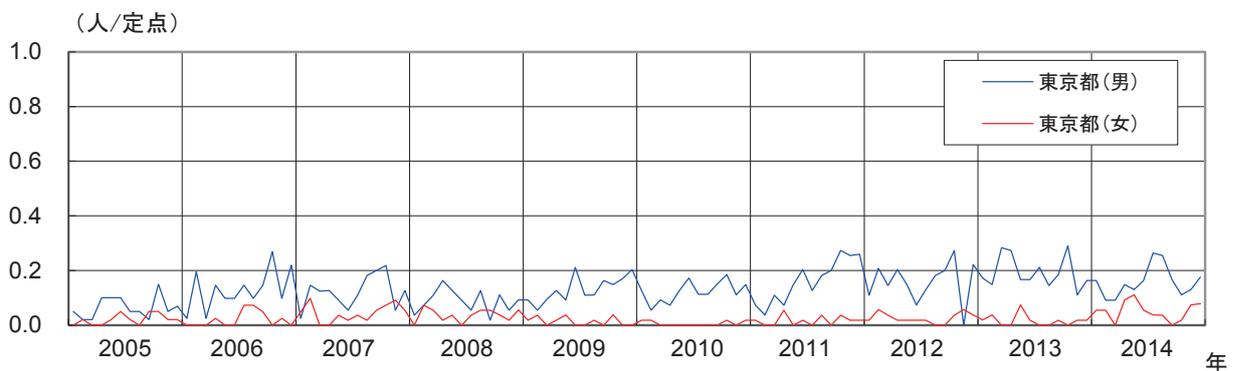
年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の26人が最も多く、30歳代が男性全体の47.1%を占めており、女性では20～24歳の12人が最多で、20歳代が女性全体の57.6%となっている。



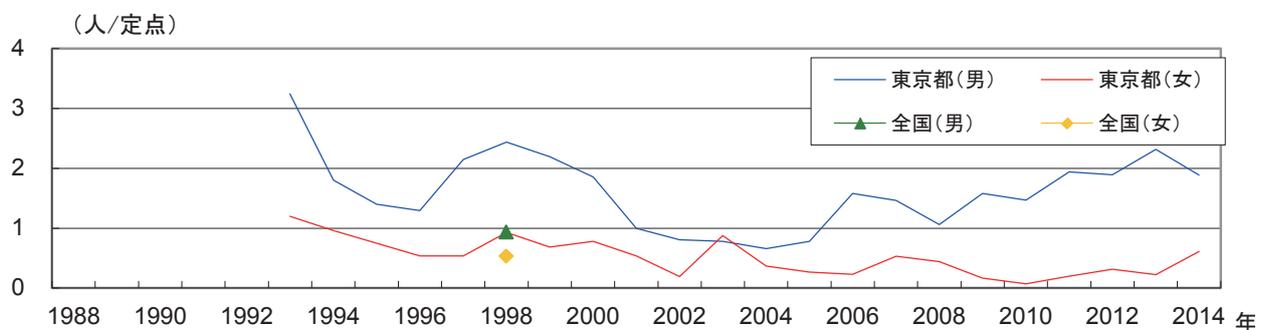
梅毒様疾患報告数（男）



梅毒様疾患報告数（女）



梅毒様疾患報告数 経年変化（月別）



梅毒様疾患報告数 経年変化（年別）

（注）梅毒様疾患の全国調査は1998年のみ

表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2014年第1週~第52週

週	期間	報告定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ	球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	12.30~1.5	289	280	164	26	30	67	493	99	2	11	13			1	9
2	1.6~1.12	415	2,098	262	123	111	479	3,149	442	21	94	125	5	4	62	
3	1.13~1.19	415	4,639	262	85	58	404	2,936	201	13	108	149	2	2	34	
4	1.20~1.26	415	12,317	262	85	57	622	3,397	298	9	87	118	1	4	34	
5	1.27~2.2	415	17,091	261	77	78	550	2,777	201	20	73	121	2		36	
6	2.3~2.9	415	14,292	263	81	91	437	2,097	192	12	50	100		1	22	
7	2.10~2.16	413	11,743	259	38	40	374	1,353	184	16	29	78	6	4	34	
8	2.17~2.23	418	11,911	263	39	34	541	1,528	192	9	59	123	2	3	33	
9	2.24~3.2	416	11,973	261	26	47	631	1,531	204	12	47	103	3		20	
10	3.3~3.9	414	9,419	260	34	44	584	1,272	215	11	41	123	3	2	29	
11	3.10~3.16	416	8,563	261	37	49	526	1,415	182	8	72	99		5	28	
12	3.17~3.23	414	6,106	261	33	46	489	1,225	161	7	31	96	6	2	26	
13	3.24~3.30	412	3,880	260	35	56	452	1,125	191	8	55	134	2	1	26	
14	3.31~4.6	418	2,001	263	26	33	455	1,150	169	12	34	146	3	5	40	
15	4.7~4.13	416	1,265	262	27	45	501	1,295	164	20	62	157		7	42	
16	4.14~4.20	418	1,189	263	23	56	586	1,923	158	7	72	187	4	4	38	
17	4.21~4.27	414	851	264	33	105	754	2,122	245	19	54	174	1	8	60	
18	4.28~5.4	397	422	251	20	88	540	1,626	182	27	65	159	2	10	45	
19	5.5~5.11	415	138	263	14	89	512	1,431	280	25	50	168	1	10	42	
20	5.12~5.18	413	104	263	30	134	828	1,989	292	25	97	196	5	27	49	
21	5.19~5.25	414	49	263	16	144	893	1,933	324	61	98	195		29	58	
22	5.26~6.1	414	37	263	21	188	961	1,801	307	59	103	221	3	54	61	
23	6.2~6.8	412	8	262	20	233	778	1,627	370	69	90	246	2	108	94	
24	6.9~6.15	413	14	264	16	237	806	1,680	279	80	105	237	4	228	72	
25	6.16~6.22	409	5	261	34	229	741	1,644	270	119	131	246	4	491	58	
26	6.23~6.29	414	7	264	30	243	760	1,524	247	154	138	217	4	702	79	
27	6.30~7.6	410	4	262	9	191	669	1,474	193	188	129	212	9	1,219	96	
28	7.7~7.13	413	1	262	32	160	645	1,348	187	285	160	209	3	1,867	99	
29	7.14~7.20	410	3	262	27	178	473	1,218	171	405	110	176		2,599	99	
30	7.21~7.27	415	2	262	24	126	328	997	140	343	98	154	8	1,934	79	
31	7.28~8.3	415	4	262	27	135	288	964	138	349	98	175	2	1,869	85	
32	8.4~8.10	396	4	253	38	114	236	833	99	302	84	186	2	1,277	82	
33	8.11~8.17	368	5	226	37	60	127	609	87	137	55	117	4	590	77	
34	8.18~8.24	398	3	251	60	93	176	748	102	215	81	165	3	530	85	
35	8.25~8.31	406	6	258	79	105	201	829	103	263	67	167	4	470	110	
36	9.1~9.7	412	6	260	120	116	268	960	77	261	112	187	7	446	72	
37	9.8~9.14	409	16	260	154	108	339	943	97	307	100	175	3	406	66	
38	9.15~9.21	412	51	261	199	92	291	845	106	229	86	154	3	226	56	
39	9.22~9.28	408	37	261	194	88	338	840	128	160	82	157	4	158	73	
40	9.29~10.5	411	31	262	211	53	387	970	114	194	94	149	4	147	74	
41	10.6~10.12	406	26	260	238	73	382	856	114	223	69	163	5	97	53	
42	10.13~10.19	410	30	261	182	72	369	849	120	153	67	160		62	41	
43	10.20~10.26	414	32	264	218	73	519	1,074	164	138	109	179	5	58	72	
44	10.27~11.2	408	93	259	286	112	545	1,255	173	175	149	174	1	44	48	
45	11.3~11.9	413	164	262	268	122	524	1,195	229	157	125	171	2	43	59	
46	11.10~11.16	415	303	264	355	136	671	1,668	213	154	163	182	6	29	61	
47	11.17~11.23	412	793	263	382	157	706	2,205	230	146	167	149	4	22	52	
48	11.24~11.30	414	1,497	263	340	113	786	2,308	249	99	176	141	1	22	73	
49	12.1~12.7	413	2,420	262	415	135	844	3,064	233	101	204	140	4	20	61	
50	12.8~12.14	413	4,192	262	472	140	745	3,281	322	114	230	121	1	9	66	
51	12.15~12.21	417	8,617	264	429	159	830	3,525	258	99	238	132	6	11	61	
52	12.22~12.28	415	13,679	262	358	131	623	3,190	218	67	160	94	2	7	72	
合計			152,421		6,183	5,607	27,581	84,091	10,314	6,089	5,069	8,120	158	15,874	3,003	

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2014年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数 (基幹)	
														インフルエンザ入院	
1	12.30～1.5	164	2	1	27		3	25		1			2	25	8
2	1.6～1.12	262	10		38		27	24	1	4	5		2	25	31
3	1.13～1.19	262	10	1	37		12	25	1	2	4	1	1	25	42
4	1.20～1.26	262	17	5	37		14	25		2	4		4	25	61
5	1.27～2.2	261	23	3	37		20	25	1	1	3	1	3	25	83
6	2.3～2.9	263	24	5	37		20	25	2	1	2	1	6	25	58
7	2.10～2.16	259	10	2	37		11	25		3	4	1	2	25	38
8	2.17～2.23	263	19	3	37		11	25			3	1	2	25	42
9	2.24～3.2	261	7	5	37		11	25		1	3	2	9	25	49
10	3.3～3.9	260	15	4	38		15	25	2	1	5	1	4	25	35
11	3.10～3.16	261	8	5	37		12	25		1	1		6	25	31
12	3.17～3.23	261	12	3	37	2	8	25			2		7	25	29
13	3.24～3.30	260	16	7	37	1	17	25			2		5	25	26
14	3.31～4.6	263	18	3	39		13	25	2		4		13	25	18
15	4.7～4.13	262	16	4	39		13	25		4	4		4	25	8
16	4.14～4.20	263	17	8	39		10	25		1	5		12	25	7
17	4.21～4.27	264	23	5	39		8	25			4		9	25	9
18	4.28～5.4	251	17	1	38	3	22	25		3	5	2	7	25	3
19	5.5～5.11	263	18	3	39		14	25		1	2		4	25	2
20	5.12～5.18	263	21		39		25	25			3	2	8	25	1
21	5.19～5.25	263	19	4	39		22	25	2	2	3		6	25	
22	5.26～6.1	263	26	8	39		26	25		1	2		5	25	1
23	6.2～6.8	262	21	3	39		15	25		3	5			25	
24	6.9～6.15	264	35	2	39		17	25		1	3	2	2	25	
25	6.16～6.22	261	35	3	39	1	15	25		3	2	1	1	25	2
26	6.23～6.29	264	42	4	39		22	25	1	1	2		2	25	2
27	6.30～7.6	262	44	4	39		16	25		5	4	1		25	1
28	7.7～7.13	262	33	3	39		17	25		1	2			25	1
29	7.14～7.20	262	47	5	38	2	18	25	1	4	3	2		25	
30	7.21～7.27	262	27	4	39		24	25	1		3		1	25	3
31	7.28～8.3	262	38	1	39		16	25		1	2		1	25	
32	8.4～8.10	253	30	3	38		25	25		4	2			25	
33	8.11～8.17	226	20	3	34		3	25		1	1			25	
34	8.18～8.24	251	29	1	39		28	25	1	1	5			25	
35	8.25～8.31	258	28	2	39		28	25		2	5			25	
36	9.1～9.7	260	25	6	38		24	25		7	5			25	
37	9.8～9.14	260	41	3	37	1	22	25		5	9	1		25	
38	9.15～9.21	261	34	2	39		21	25		1	4			25	
39	9.22～9.28	261	23	3	39		24	25		7	9			25	
40	9.29～10.5	262	26	3	38	1	19	25		2	7		1	25	
41	10.6～10.12	260	31	5	39		11	25	1	7	8			25	
42	10.13～10.19	261	20	1	39		21	25	2	2	11			25	
43	10.20～10.26	264	19	3	39		11	25		6	4			25	
44	10.27～11.2	259	27	1	39		19	25	1	1	6		1	25	
45	11.3～11.9	262	22	3	39		18	25	1	2	6			25	2
46	11.10～11.16	264	16	3	39	1	17	25			9	1		25	
47	11.17～11.23	263	17	3	38		27	25		1	10	1		25	3
48	11.24～11.30	263	15	5	39		14	25	1		10		1	25	9
49	12.1～12.7	262	10	3	39		21	25		3	12		1	25	11
50	12.8～12.14	262	18	7	39	1	22	25		1	4			25	9
51	12.15～12.21	264	19	6	39		21	25	1	1	5		1	25	45
52	12.22～12.28	262	18	5	39		23	25			6		1	25	65
合 計		1,158	180			13	913		22	102	234	21	134		735

表4-2 (1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2014年第1週~第52週

週	期 間	報告 定点数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	報告 定点数 (小児 科)	RS ウイ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 咽 頭 炎 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12.30~1.5	289	0.97	164	0.16	0.18	0.41	3.01	0.60	0.01	0.07	0.08		0.01	0.05
2	1.6~1.12	415	5.06	262	0.47	0.42	1.83	12.02	1.69	0.08	0.36	0.48	0.02	0.02	0.24
3	1.13~1.19	415	11.18	262	0.32	0.22	1.54	11.21	0.77	0.05	0.41	0.57	0.01	0.01	0.13
4	1.20~1.26	415	29.68	262	0.32	0.22	2.37	12.97	1.14	0.03	0.33	0.45	0.00	0.02	0.13
5	1.27~2.2	415	41.18	261	0.30	0.30	2.11	10.64	0.77	0.08	0.28	0.46	0.01		0.14
6	2.3~2.9	415	34.44	263	0.31	0.35	1.66	7.97	0.73	0.05	0.19	0.38		0.00	0.08
7	2.10~2.16	413	28.43	259	0.15	0.15	1.44	5.22	0.71	0.06	0.11	0.30	0.02	0.02	0.13
8	2.17~2.23	418	28.50	263	0.15	0.13	2.06	5.81	0.73	0.03	0.22	0.47	0.01	0.01	0.13
9	2.24~3.2	416	28.78	261	0.10	0.18	2.42	5.87	0.78	0.05	0.18	0.39	0.01		0.08
10	3.3~3.9	414	22.75	260	0.13	0.17	2.25	4.89	0.83	0.04	0.16	0.47	0.01	0.01	0.11
11	3.10~3.16	416	20.58	261	0.14	0.19	2.02	5.42	0.70	0.03	0.28	0.38		0.02	0.11
12	3.17~3.23	414	14.75	261	0.13	0.18	1.87	4.69	0.62	0.03	0.12	0.37	0.02	0.01	0.10
13	3.24~3.30	412	9.42	260	0.13	0.22	1.74	4.33	0.73	0.03	0.21	0.52	0.01	0.00	0.10
14	3.31~4.6	418	4.79	263	0.10	0.13	1.73	4.37	0.64	0.05	0.13	0.56	0.01	0.02	0.15
15	4.7~4.13	416	3.04	262	0.10	0.17	1.91	4.94	0.63	0.08	0.24	0.60		0.03	0.16
16	4.14~4.20	418	2.84	263	0.09	0.21	2.23	7.31	0.60	0.03	0.27	0.71	0.02	0.02	0.14
17	4.21~4.27	414	2.06	264	0.13	0.40	2.86	8.04	0.93	0.07	0.20	0.66	0.00	0.03	0.23
18	4.28~5.4	397	1.06	251	0.08	0.35	2.15	6.48	0.73	0.11	0.26	0.63	0.01	0.04	0.18
19	5.5~5.11	415	0.33	263	0.05	0.34	1.95	5.44	1.06	0.10	0.19	0.64	0.00	0.04	0.16
20	5.12~5.18	413	0.25	263	0.11	0.51	3.15	7.56	1.11	0.10	0.37	0.75	0.02	0.10	0.19
21	5.19~5.25	414	0.12	263	0.06	0.55	3.40	7.35	1.23	0.23	0.37	0.74		0.11	0.22
22	5.26~6.1	414	0.09	263	0.08	0.71	3.65	6.85	1.17	0.22	0.39	0.84	0.01	0.21	0.23
23	6.2~6.8	412	0.02	262	0.08	0.89	2.97	6.21	1.41	0.26	0.34	0.94	0.01	0.41	0.36
24	6.9~6.15	413	0.03	264	0.06	0.90	3.05	6.36	1.06	0.30	0.40	0.90	0.02	0.86	0.27
25	6.16~6.22	409	0.01	261	0.13	0.88	2.84	6.30	1.03	0.46	0.50	0.94	0.02	1.88	0.22
26	6.23~6.29	414	0.02	264	0.11	0.92	2.88	5.77	0.94	0.58	0.52	0.82	0.02	2.66	0.30
27	6.30~7.6	410	0.01	262	0.03	0.73	2.55	5.63	0.74	0.72	0.49	0.81	0.03	4.65	0.37
28	7.7~7.13	413	0.00	262	0.12	0.61	2.46	5.15	0.71	1.09	0.61	0.80	0.01	7.13	0.38
29	7.14~7.20	410	0.01	262	0.10	0.68	1.81	4.65	0.65	1.55	0.42	0.67		9.92	0.38
30	7.21~7.27	415	0.00	262	0.09	0.48	1.25	3.81	0.53	1.31	0.37	0.59	0.03	7.38	0.30
31	7.28~8.3	415	0.01	262	0.10	0.52	1.10	3.68	0.53	1.33	0.37	0.67	0.01	7.13	0.32
32	8.4~8.10	396	0.01	253	0.15	0.45	0.93	3.29	0.39	1.19	0.33	0.74	0.01	5.05	0.32
33	8.11~8.17	368	0.01	226	0.16	0.27	0.56	2.69	0.38	0.61	0.24	0.52	0.02	2.61	0.34
34	8.18~8.24	398	0.01	251	0.24	0.37	0.70	2.98	0.41	0.86	0.32	0.66	0.01	2.11	0.34
35	8.25~8.31	406	0.01	258	0.31	0.41	0.78	3.21	0.40	1.02	0.26	0.65	0.02	1.82	0.43
36	9.1~9.7	412	0.01	260	0.46	0.45	1.03	3.69	0.30	1.00	0.43	0.72	0.03	1.72	0.28
37	9.8~9.14	409	0.04	260	0.59	0.42	1.30	3.63	0.37	1.18	0.38	0.67	0.01	1.56	0.25
38	9.15~9.21	412	0.12	261	0.76	0.35	1.11	3.24	0.41	0.88	0.33	0.59	0.01	0.87	0.21
39	9.22~9.28	408	0.09	261	0.74	0.34	1.30	3.22	0.49	0.61	0.31	0.60	0.02	0.61	0.28
40	9.29~10.5	411	0.08	262	0.81	0.20	1.48	3.70	0.44	0.74	0.36	0.57	0.02	0.56	0.28
41	10.6~10.12	406	0.06	260	0.92	0.28	1.47	3.29	0.44	0.86	0.27	0.63	0.02	0.37	0.20
42	10.13~10.19	410	0.07	261	0.70	0.28	1.41	3.25	0.46	0.59	0.26	0.61		0.24	0.16
43	10.20~10.26	414	0.08	264	0.83	0.28	1.97	4.07	0.62	0.52	0.41	0.68	0.02	0.22	0.27
44	10.27~11.2	408	0.23	259	1.10	0.43	2.10	4.85	0.67	0.68	0.58	0.67	0.00	0.17	0.19
45	11.3~11.9	413	0.40	262	1.02	0.47	2.00	4.56	0.87	0.60	0.48	0.65	0.01	0.16	0.23
46	11.10~11.16	415	0.73	264	1.34	0.52	2.54	6.32	0.81	0.58	0.62	0.69	0.02	0.11	0.23
47	11.17~11.23	412	1.92	263	1.45	0.60	2.68	8.38	0.87	0.56	0.63	0.57	0.02	0.08	0.20
48	11.24~11.30	414	3.62	263	1.29	0.43	2.99	8.78	0.95	0.38	0.67	0.54	0.00	0.08	0.28
49	12.1~12.7	413	5.86	262	1.58	0.52	3.22	11.69	0.89	0.39	0.78	0.53	0.02	0.08	0.23
50	12.8~12.14	413	10.15	262	1.80	0.53	2.84	12.52	1.23	0.44	0.88	0.46	0.00	0.03	0.25
51	12.15~12.21	417	20.66	264	1.63	0.60	3.14	13.35	0.98	0.38	0.90	0.50	0.02	0.04	0.23
52	12.22~12.28	415	32.96	262	1.37	0.50	2.38	12.18	0.83	0.26	0.61	0.36	0.01	0.03	0.27
	平 均		7.07		0.46	0.41	2.03	6.21	0.76	0.45	0.37	0.60	0.01	1.18	0.22

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2014年第1週~第52週

週	期 間	報告定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く)クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる)感染性胃腸炎	報告定点数(基幹)	インフルエンザ入院
1	12.30~1.5	164	0.01	0.01	27		0.11	25		0.04			0.08	25	0.32
2	1.6~1.12	262	0.04		38		0.71	24	0.04	0.17	0.21		0.08	25	1.24
3	1.13~1.19	262	0.04	0.00	37		0.32	25	0.04	0.08	0.16	0.04	0.04	25	1.68
4	1.20~1.26	262	0.06	0.02	37		0.38	25		0.08	0.16		0.16	25	2.44
5	1.27~2.2	261	0.09	0.01	37		0.54	25	0.04	0.04	0.12	0.04	0.12	25	3.32
6	2.3~2.9	263	0.09	0.02	37		0.54	25	0.08	0.04	0.08	0.04	0.24	25	2.32
7	2.10~2.16	259	0.04	0.01	37		0.30	25		0.12	0.16	0.04	0.08	25	1.52
8	2.17~2.23	263	0.07	0.01	37		0.30	25			0.12	0.04	0.08	25	1.68
9	2.24~3.2	261	0.03	0.02	37		0.30	25		0.04	0.12	0.08	0.36	25	1.96
10	3.3~3.9	260	0.06	0.02	38		0.39	25	0.08	0.04	0.20	0.04	0.16	25	1.40
11	3.10~3.16	261	0.03	0.02	37		0.32	25		0.04	0.04		0.24	25	1.24
12	3.17~3.23	261	0.05	0.01	37	0.05	0.22	25			0.08		0.28	25	1.16
13	3.24~3.30	260	0.06	0.03	37	0.03	0.46	25			0.08		0.20	25	1.04
14	3.31~4.6	263	0.07	0.01	39		0.33	25	0.08		0.16		0.52	25	0.72
15	4.7~4.13	262	0.06	0.02	39		0.33	25		0.16	0.16		0.16	25	0.32
16	4.14~4.20	263	0.06	0.03	39		0.26	25		0.04	0.20		0.48	25	0.28
17	4.21~4.27	264	0.09	0.02	39		0.21	25			0.16		0.36	25	0.36
18	4.28~5.4	251	0.07	0.00	38	0.08	0.58	25		0.12	0.20	0.08	0.28	25	0.12
19	5.5~5.11	263	0.07	0.01	39		0.36	25		0.04	0.08		0.16	25	0.08
20	5.12~5.18	263	0.08		39		0.64	25			0.12	0.08	0.32	25	0.04
21	5.19~5.25	263	0.07	0.02	39		0.56	25	0.08	0.08	0.12		0.24	25	
22	5.26~6.1	263	0.10	0.03	39		0.67	25		0.04	0.08		0.20	25	0.04
23	6.2~6.8	262	0.08	0.01	39		0.38	25		0.12	0.20			25	
24	6.9~6.15	264	0.13	0.01	39		0.44	25		0.04	0.12	0.08	0.08	25	
25	6.16~6.22	261	0.13	0.01	39	0.03	0.38	25		0.12	0.08	0.04	0.04	25	0.08
26	6.23~6.29	264	0.16	0.02	39		0.56	25	0.04	0.04	0.08		0.08	25	0.08
27	6.30~7.6	262	0.17	0.02	39		0.41	25		0.20	0.16	0.04		25	0.04
28	7.7~7.13	262	0.13	0.01	39		0.44	25		0.04	0.08			25	0.04
29	7.14~7.20	262	0.18	0.02	38	0.05	0.47	25	0.04	0.16	0.12	0.08		25	
30	7.21~7.27	262	0.10	0.02	39		0.62	25	0.04		0.12		0.04	25	0.12
31	7.28~8.3	262	0.15	0.00	39		0.41	25		0.04	0.08		0.04	25	
32	8.4~8.10	253	0.12	0.01	38		0.66	25		0.16	0.08			25	
33	8.11~8.17	226	0.09	0.01	34		0.09	25		0.04	0.04			25	
34	8.18~8.24	251	0.12	0.00	39		0.72	25	0.04	0.04	0.20			25	
35	8.25~8.31	258	0.11	0.01	39		0.72	25		0.08	0.20			25	
36	9.1~9.7	260	0.10	0.02	38		0.63	25		0.28	0.20			25	
37	9.8~9.14	260	0.16	0.01	37	0.03	0.59	25		0.20	0.36	0.04		25	
38	9.15~9.21	261	0.13	0.01	39		0.54	25		0.04	0.16			25	
39	9.22~9.28	261	0.09	0.01	39		0.62	25		0.28	0.36			25	
40	9.29~10.5	262	0.10	0.01	38	0.03	0.50	25		0.08	0.28		0.04	25	
41	10.6~10.12	260	0.12	0.02	39		0.28	25	0.04	0.28	0.32			25	
42	10.13~10.19	261	0.08	0.00	39		0.54	25	0.08	0.08	0.44			25	
43	10.20~10.26	264	0.07	0.01	39		0.28	25		0.24	0.16			25	
44	10.27~11.2	259	0.10	0.00	39		0.49	25	0.04	0.04	0.24		0.04	25	
45	11.3~11.9	262	0.08	0.01	39		0.46	25	0.04	0.08	0.24			25	0.08
46	11.10~11.16	264	0.06	0.01	39	0.03	0.44	25			0.36	0.04		25	
47	11.17~11.23	263	0.06	0.01	38		0.71	25		0.04	0.40	0.04		25	0.12
48	11.24~11.30	263	0.06	0.02	39		0.36	25	0.04		0.40		0.04	25	0.36
49	12.1~12.7	262	0.04	0.01	39		0.54	25		0.12	0.48		0.04	25	0.44
50	12.8~12.14	262	0.07	0.03	39	0.03	0.56	25		0.04	0.16			25	0.36
51	12.15~12.21	264	0.07	0.02	39		0.54	25	0.04	0.04	0.20		0.04	25	1.80
52	12.22~12.28	262	0.07	0.02	39		0.59	25			0.24		0.04	25	2.60
平 均			0.09	0.01		0.01	0.46		0.02	0.08	0.18	0.02	0.49		0.57

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2014年第1週~第52週

	インフルエンザ		小児科										
	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	4	931	3	30	10	24	335	69	26	16	24	2	87
中央区	5	1,354	3	71	55	212	795	63	61	27	115	2	111
みなと	9	2,707	6	267	298	310	1,624	173	123	75	182	8	334
新宿区	12	2,678	8	389	212	667	1,619	141	121	26	174	3	299
文京	7	2,125	4	65	58	250	641	101	87	125	153		127
台東	7	1,607	4	88	87	352	1,978	140	116	29	144		197
墨田区	8	2,536	5	147	79	336	1,215	145	83	59	173	2	283
江東区	14	5,650	9	335	191	933	5,802	524	232	254	359	3	606
品川区	12	2,787	8	124	131	484	2,785	262	94	176	246	1	464
目黒区	8	1,056	5	73	20	315	1,268	97	113	102	130		347
大田区	21	7,044	13	406	625	1,390	5,784	830	176	326	510	35	1,050
世田谷	25	9,569	16	329	528	1,513	4,999	703	321	542	428	3	1,175
渋谷区	7	1,403	4	51	34	97	1,009	74	62	48	75	1	94
中野区	11	2,632	7	87	98	353	2,451	220	198	53	204		332
杉並	16	5,347	10	115	150	436	2,881	178	149	126	198	1	179
池袋	8	2,521	5	117	83	269	882	106	69	36	48	6	217
北区	11	3,189	7	57	59	315	1,550	282	159	151	254	2	338
荒川区	7	3,837	4	352	125	486	1,345	165	143	97	216	2	339
板橋区	16	3,671	10	23	60	285	1,703	291	236	102	216	5	209
練馬区	21	7,477	13	152	294	1,577	3,188	507	313	334	401	6	845
足立	20	7,511	13	237	269	1,237	4,867	581	494	108	405	11	734
葛飾区	13	5,058	8	106	60	548	2,624	349	371	143	217	1	423
江戸川	19	7,268	12	210	352	2,031	4,649	476	205	206	364	9	929
八王子市	18	10,176	11	536	328	2,809	5,661	683	237	478	374	27	912
町田市	13	7,386	8	80	136	2,262	4,208	504	429	387	280	5	865
西多摩	14	5,432	8	137	128	537	1,713	226	86	67	118	2	305
南多摩	14	6,517	9	303	103	1,206	2,489	402	234	127	348	7	665
多摩立川	21	8,731	14	327	113	2,068	3,526	402	221	264	369		555
多摩府中	33	13,357	21	370	319	2,019	6,283	883	537	215	759	12	1,353
多摩小平	23	10,216	15	593	602	2,204	4,216	691	376	362	633	2	1,471
島しょ	2	648	1	6		56	1	46	17	8	3		29
合計	419	152,421	264	6,183	5,607	27,581	84,091	10,314	6,089	5,069	8,120	158	15,874
定点当たり報告数		367.55		23.70	21.54	105.60	322.84	39.69	23.44	19.44	31.18	0.61	61.25
前年定点当たり報告数		181.11		23.48	23.89	95.29	395.81	44.22	114.72	6.19	32.00	0.35	33.06
当年/前年		2.03		1.01	0.90	1.11	0.82	0.90	0.20	3.14	0.97	1.73	1.85

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2014年第1週~第52週

	小児科				眼科			基幹						
	設置定点数	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	インフルエンザ入院
千代田	3	6	14	11				2	1	1	11		4	18
中央区	3	21	4	3	1		69							
みなと	6	39	3	7				1	1	5	9	2		27
新宿区	8	209	14	27	2	2	28	2	3	4	46		5	51
文京	4	36	3		1		68	1		1			7	27
台東	4	47	9											
墨田区	5	69	53	4	1		14	1	4	12	8		4	46
江東区	9	158	43	4	1		10							
品川区	8	21	15	1	1		10							
目黒区	5	25	38	6	1		16							
大田区	13	80	93	10	2		35	1						
世田谷	16	96	141	10	2		21	2	7	24	11		18	101
渋谷区	4	7	14	1	1		76	1	1		34	2	41	66
中野区	7	57	37	4	1	2	11	1*						
杉並	10	51	7	10	1		40	1*		1	1			
池袋	5	22	3	4	1		33	1		6	3		1	43
北区	7	89	13	2	1		15							
荒川区	4	51	17	11	1		25							
板橋区	10	167	37	2	2	1	26	1		1	13		9	57
練馬区	13	148	31	9	2	1	41							
足立	13	390	24	3	2	2	69							
葛飾区	8	77	55	7	1		23	1			18	16	18	55
江戸川	12	246	27	11	2	2	26							
八王子市	11	156	115	5	2		50	1		6	4			40
町田市	8	98	137	1	1									
西多摩	8	173	4		1	1	9	1		2	11		7	22
南多摩	9	95	13	7	1		9							
多摩立川	14	117	26	4	2		12	1	1	1	2		4	2
多摩府中	21	125	80	11	3	1	68	3	3	17	26	1	16	115
多摩小平	15	120	88	5	2	1	109	2	1	21	37			64
島しょ	1	7						1						1
合計	264	3,003	1,158	180	39	13	913	23	22	102	234	21	134	735
定点当たり報告数		11.57	4.45	0.69		0.34	23.79		0.88	4.09	9.37	0.84	5.36	29.40
前年定点当たり報告数		9.83	4.24	0.85		0.45	23.68		1.93	5.06	20.66	1.60	0.88	20.89
当年/前年		1.18	1.05	0.81		0.77	1.00		0.46	0.81	0.45	0.52	6.09	1.41

\*基幹定点数:第1週~第37週までは中野区1、杉並区1、第38週以降は中野区2、杉並区0

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2014年第1週～第52週

	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)										
			RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	
千代田	4	232.75	3	10.00	3.33	8.00	111.67	23.00	8.67	5.33	8.00	0.67	29.00
中央区	5	270.80	3	23.67	18.33	70.67	265.00	21.00	20.33	9.00	38.33	0.67	37.00
みなと	9	311.74	6	44.80	49.80	52.57	275.83	30.07	20.50	12.63	30.50	1.33	55.67
新宿区	12	229.91	8	48.63	26.50	83.38	202.38	17.63	15.13	3.25	21.75	0.38	37.38
文京	7	308.76	4	16.25	14.50	62.75	166.50	26.75	21.75	31.50	39.00		32.25
台東	7	229.62	4	22.17	22.58	88.17	499.00	35.17	29.83	7.33	36.50		50.75
墨田区	8	318.13	5	29.67	15.80	67.47	243.40	29.93	16.73	11.80	34.60	0.40	58.60
江東区	14	403.57	9	37.22	21.22	103.67	644.67	58.22	25.78	28.22	39.89	0.33	67.33
品川区	12	232.25	8	15.50	16.38	60.50	348.13	32.75	11.75	22.00	30.75	0.13	58.00
目黒区	8	131.79	5	14.58	4.15	63.05	254.48	19.57	22.85	20.57	26.27		71.10
大田区	21	338.98	13	31.58	48.93	107.79	449.98	64.55	13.82	25.32	39.63	2.71	82.64
世田谷	25	384.09	16	21.01	34.49	94.80	315.39	44.22	20.21	34.22	26.79	0.19	74.13
渋谷区	7	201.91	4	12.75	8.50	24.33	253.50	18.58	15.50	12.00	18.75	0.25	23.50
中野区	11	244.36	7	13.52	14.36	52.76	369.95	33.24	29.60	8.19	30.50		47.71
杉並	16	330.57	10	10.64	15.05	43.11	284.15	17.67	15.05	12.17	19.73	0.10	19.23
池袋	8	315.13	5	23.40	16.60	53.80	176.40	21.20	13.80	7.20	9.60	1.20	43.40
北区	11	293.56	7	8.38	8.67	46.38	227.95	40.99	23.60	22.08	37.56	0.29	49.77
荒川区	7	549.34	4	89.17	31.50	121.67	342.33	41.75	36.50	24.58	55.33	0.50	91.75
板橋区	16	232.27	10	2.30	6.01	29.28	174.28	29.11	23.60	10.20	21.86	0.50	20.91
練馬区	21	376.44	13	11.86	24.00	125.45	255.46	40.04	24.96	26.49	31.99	0.47	70.75
足立	20	376.52	13	18.38	21.01	96.70	384.91	45.01	39.08	8.46	31.73	0.87	58.35
葛飾区	13	391.02	8	13.29	7.54	71.26	330.74	45.28	46.58	18.00	27.46	0.13	53.38
江戸川	19	387.22	12	18.28	30.43	172.59	401.50	41.16	17.79	17.57	31.33	0.77	78.56
八王子市	18	571.16	11	49.04	30.22	256.85	518.57	62.84	21.86	43.92	34.31	2.46	84.00
町田市	13	569.47	8	10.00	17.05	284.04	529.30	63.32	54.02	48.84	35.25	0.64	108.45
西多摩	14	388.20	8	17.13	16.08	67.20	214.65	28.25	10.75	8.38	14.75	0.25	38.13
南多摩	14	465.88	9	33.67	11.47	134.68	279.88	45.86	26.22	14.28	38.85	0.78	74.60
多摩立川	21	415.76	14	23.36	8.07	147.71	251.86	28.71	15.79	18.86	26.36		39.64
多摩府中	33	417.01	21	18.36	15.95	100.16	312.39	44.37	27.01	10.70	37.94	0.61	69.15
多摩小平	23	449.01	15	39.65	40.27	147.71	283.33	46.38	25.09	24.27	42.43	0.13	98.07
島しょ	2	324.00	1	6.00		56.00	1.00	46.00	17.00	8.00	3.00		29.00
定点当たり報告数		367.55		23.70	21.54	105.60	322.84	39.69	23.44	19.44	31.18	0.61	61.25
前年定点当たり報告数		181.11		23.48	23.89	95.29	395.81	44.22	114.72	6.19	32.00	0.35	33.06
当年/前年		2.03		1.01	0.90	1.11	0.82	0.90	0.20	3.14	0.97	1.73	1.85

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2014年第1週～第52週

	小児科				眼科			基幹						
	設置定点数	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く)クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
千代田	3	2.00	4.67	3.67				2	0.50	0.50	5.50		2.00	9.00
中央区	3	7.00	1.33	1.00	1		69.00							
みなと	6	6.57	0.53	1.17				1	1.00	5.00	9.00	2.00		27.00
新宿区	8	26.13	1.75	3.38	2	2.00	14.50	2	1.50	2.00	23.00		2.50	25.50
文京	4	9.25	0.75		1		68.00	1		1.00			7.00	27.00
台東	4	12.58	2.33											
墨田区	5	14.07	10.73	0.80	1		14.00	1	4.00	12.00	8.00		4.00	46.00
江東区	9	17.56	4.78	0.44	1		10.00							
品川区	8	2.63	1.88	0.13	1		10.00							
目黒区	5	5.05	7.67	1.20	1		16.00							
大田区	13	6.25	7.30	0.77	2		17.50	1						
世田谷	16	6.00	8.86	0.63	2		10.50	2	3.50	12.00	5.50		9.00	50.50
渋谷区	4	1.75	3.50	0.25	1		76.00	1	1.00		34.00	2.00	41.00	66.00
中野区	7	8.69	5.38	0.57	1	2.00	11.00	1*						
杉並	10	5.19	0.65	1.02	1		40.00	1*		1.00	0.50			
池袋	5	4.40	0.60	0.80	1		33.00	1		6.00	3.00		1.00	43.00
北区	7	13.48	1.90	0.29	1		15.00							
荒川区	4	13.50	5.25	2.75	1		25.00							
板橋区	10	16.74	3.71	0.20	2	0.50	13.00	1		1.00	13.00		9.00	57.00
練馬区	13	11.98	2.44	0.71	2	1.00	22.50							
足立	13	30.65	1.85	0.24	2	1.00	34.50							
葛飾区	8	9.71	7.01	0.88	1		23.00	1			18.00	16.00	18.00	55.00
江戸川	12	21.26	2.32	0.93	2	1.00	13.00							
八王子市	11	14.52	10.53	0.48	2		25.00	1		6.00	4.00			40.00
町田市	8	12.30	17.32	0.13	1									
西多摩	8	21.78	0.50		1	1.00	9.00	1		2.00	11.00		7.00	22.00
南多摩	9	10.64	1.46	0.78	1		9.00							
多摩立川	14	8.36	1.86	0.29	2		6.00	1	1.00	1.00	2.00		4.00	2.00
多摩府中	21	6.25	4.02	0.57	3	0.33	23.50	3	1.00	5.67	8.67	0.33	5.33	38.33
多摩小平	15	8.03	5.89	0.33	2	0.50	54.50	2	0.50	10.50	18.50			32.00
島しょ	1	7.00						1						1.00
定点当たり報告数		11.57	4.45	0.69		0.34	23.79		0.88	4.09	9.37	0.84	5.36	29.40
前年定点当たり報告数		9.83	4.24	0.85		0.45	23.68		1.93	5.06	20.66	1.60	0.88	20.89
当年/前年		1.18	1.05	0.81		0.77	1.00		0.46	0.81	0.45	0.52	6.09	1.41

\*基幹定点数:第1週～第37週までは中野区1、杉並区1、第38週以降は中野区2、杉並区0

表6 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹) 2014年第1週～第52週

	インフルエンザ	R 感染症 S ウイルス	咽頭結膜熱	A 球菌 溶血性 咽頭炎 レンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
6 か月未満	271	882	33	18	791	126	38	8	118	11	102
12 か月未満	1,278	1,353	408	89	5,384	430	432	62	2,889	8	1,456
1 歳	4,246	2,381	1,346	738	11,829	1,175	1,780	218	4,132	13	4,605
2 歳	4,997	885	852	1,234	8,124	1,128	1,171	341	731	6	3,221
3 歳	5,973	379	822	2,534	7,466	1,608	852	563	127	4	2,184
4 歳	8,316	173	732	3,753	7,424	1,695	612	761	67	4	1,600
5 歳	10,338	77	466	4,022	6,423	1,431	448	852	28	5	1,087
6 歳	11,249	15	277	3,679	5,060	1,006	259	716	9	2	629
7 歳	11,816	10	168	3,101	4,436	630	144	518	8	3	349
8 歳	10,407	7	116	2,217	3,714	360	94	382	2	12	212
9 歳	9,168	4	60	1,700	3,056	228	56	273	1	6	121
10～14歳	29,801	9	137	2,896	8,136	359	115	247	6	29	164
15～19歳	6,194	1	18	225	1,979	24	8	20		7	16
20～29歳	6,463	7	172	1,375	10,269	114	80	108	2	48	128
30～39歳	11,262										
40～49歳	11,309										
50～59歳	4,889										
60～69歳	2,654										
70～79歳	1,270										
80歳以上	520										
合計	152,421	6,183	5,607	27,581	84,091	10,314	6,089	5,069	8,120	158	15,874

	流行性 耳下 腺炎	不明 発しん 症	川 崎 病	急性 出血 性結 膜炎	流行 性角 結膜 炎	細菌 性髄 膜炎	無菌 性髄 膜炎	マイ コプ ラズ マ肺 炎	(オウ ム病 を除 く) クラ ミジ ア肺 炎	(ロ タウ イル ス) 感 染 性 胃 腸 炎	イン フル エン ザ入 院
6 か月未満	1	39	7		3	5	41			9	28
12 か月未満	10	198	35		7	2	1			11	17
1 歳	74	338	44	1	42	1		8		31	33
2 歳	147	141	40	1	21	1		8		19	38
3 歳	318	108	14	1	17	1		15		21	28
4 歳	419	99	12		17		2	34		17	22
5 歳	491	59	13	1	18		8	8		9	27
6 歳	411	44	7	1	12	1	1	9		7	28
7 歳	345	34	4		10		1	23		3	27
8 歳	272	21	1		7		3	13		2	17
9 歳	165	23	1		2		3	10			18
10～14歳	237	29	2		32		8	35		4	53
15～19歳	28	4		1	16		1	12			20
20～29歳	85	21		1	145	1	6	14	1		12
30～39歳				3	206	1	12	21			17
40～49歳				1	177	2	7	9	1		26
50～59歳				2	93	1	4	6	3		34
60～69歳					54	4		6	4		65
70～79歳					34		4		6	1	96
80歳以上						2		3	6		129
合計	3,003	1,158	180	13	913	22	102	234	21	134	735

(注) 小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

(注) 眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2014年第1週～第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
1 区中央部圏	32	8,724	20	521	508	1,148	5,373	546	413	272	618	12	856
2 区南部圏	33	9,831	21	530	756	1,874	8,569	1,092	270	502	756	36	1,514
3 区西南部圏	40	12,028	25	453	582	1,925	7,276	874	496	692	633	4	1,616
4 区西部圏	39	10,657	25	591	460	1,456	6,951	539	468	205	576	4	810
5 区西北部圏	56	16,858	35	349	496	2,446	7,323	1,186	777	623	919	19	1,609
6 区東北部圏	40	16,406	25	695	454	2,271	8,836	1,095	1,008	348	838	14	1,496
7 区東部圏	41	15,454	26	692	622	3,300	11,666	1,145	520	519	896	14	1,818
8 西多摩圏	14	5,432	8	137	128	537	1,713	226	86	67	118	2	305
9 南多摩圏	45	24,079	28	919	567	6,277	12,358	1,589	900	992	1,002	39	2,442
10 北多摩西部圏	21	8,731	14	327	113	2,068	3,526	402	221	264	369		555
11 北多摩南部圏	33	13,357	21	370	319	2,019	6,283	883	537	215	759	12	1,353
12 北多摩北部圏	23	10,216	15	593	602	2,204	4,216	691	376	362	633	2	1,471
13 島しょ圏	2	648	1	6		56	1	46	17	8	3		29
合計	419	152,421	264	6,183	5,607	27,581	84,091	10,314	6,089	5,069	8,120	158	15,874

	設置定点数 (小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	インフルエンザ入院
1 区中央部圏	20	149	33	21	2		137	4	2	7	20	2	11	72
2 区南部圏	21	101	108	11	3		45	1						
3 区西南部圏	25	128	193	17	4		113	3	8	24	45	2	59	167
4 区西部圏	25	317	58	41	4	4	79	4	3	5	47		5	51
5 区西北部圏	35	426	84	17	6	2	115	2		7	16		10	100
6 区東北部圏	25	518	96	21	4	2	117	1			18	16	18	55
7 区東部圏	26	473	123	19	4	2	50	1	4	12	8		4	46
8 西多摩圏	8	173	4		1	1	9	1		2	11		7	22
9 南多摩圏	28	349	265	13	4		59	1		6	4			40
10 北多摩西部圏	14	117	26	4	2		12	1	1	1	2		4	2
11 北多摩南部圏	21	125	80	11	3	1	68	3	3	17	26	1	16	115
12 北多摩北部圏	15	120	88	5	2	1	109	2	1	21	37			64
13 島しょ圏	1	7						1						1
合計	264	3,003	1,158	180	39	13	913	25	22	102	234	21	134	735

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2014年第1週～第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
1 区中央部圏	32	276.40	20	26.15	25.52	57.82	270.84	27.64	20.83	13.67	31.22	0.60	43.34
2 区南部圏	33	299.79	21	25.40	36.34	89.63	410.53	52.30	13.00	24.04	36.24	1.72	72.99
3 区西南部圏	40	301.43	25	18.29	23.79	77.16	292.44	35.16	19.94	27.84	25.41	0.16	65.19
4 区西部圏	39	276.22	25	23.86	18.65	58.54	281.02	21.97	19.10	8.25	23.21	0.16	33.18
5 区西北部圏	56	308.59	35	10.08	14.52	71.32	214.47	34.51	22.63	18.14	26.84	0.55	47.19
6 区東北部圏	40	411.57	25	28.11	18.35	92.54	360.65	44.54	41.09	14.02	34.03	0.58	61.72
7 区東部圏	41	378.96	26	27.18	24.29	128.24	455.08	44.79	20.38	20.28	34.98	0.54	71.00
8 西多摩圏	14	388.20	8	17.13	16.08	67.20	214.65	28.25	10.75	8.38	14.75	0.25	38.13
9 南多摩圏	45	537.88	28	33.00	20.43	225.24	445.04	57.46	32.41	35.72	36.05	1.40	88.00
10 北多摩西部圏	21	415.76	14	23.36	8.07	147.71	251.86	28.71	15.79	18.86	26.36		39.64
11 北多摩南部圏	33	417.01	21	18.36	15.95	100.16	312.39	44.37	27.01	10.70	37.94	0.61	69.15
12 北多摩北部圏	23	449.01	15	39.65	40.27	147.71	283.33	46.38	25.09	24.27	42.43	0.13	98.07
13 島しょ圏	2	324.00	1	6.00		56.00	1.00	46.00	17.00	8.00	3.00		29.00

	設置定点数 (小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
1 区中央部圏	20	7.55	1.66	1.06	2		68.50	4	0.50	1.75	5.00	0.50	2.75	18.00
2 区南部圏	21	4.85	5.20	0.52	3		15.00	1						
3 区西南部圏	25	5.14	7.74	0.68	4		28.42	3	2.67	8.00	15.00	0.67	19.67	55.67
4 区西部圏	25	12.87	2.39	1.66	4	1.17	21.00	4	0.75	1.25	11.75		1.25	12.75
5 区西北部圏	35	12.47	2.44	0.49	6	0.40	20.03	2		3.50	8.00		5.00	50.00
6 区東北部圏	25	21.21	3.94	0.86	4	0.50	29.33	1			18.00	16.00	18.00	55.00
7 区東部圏	26	18.54	4.80	0.74	4	0.50	12.50	1	4.00	12.00	8.00		4.00	46.00
8 西多摩圏	8	21.78	0.50		1	1.00	9.00	1		2.00	11.00		7.00	22.00
9 南多摩圏	28	12.62	9.55	0.47	4		14.75	1		6.00	4.00			40.00
10 北多摩西部圏	14	8.36	1.86	0.29	2		6.00	1	1.00	1.00	2.00		4.00	2.00
11 北多摩南部圏	21	6.25	4.02	0.57	3	0.33	23.50	3	1.00	5.67	8.67	0.33	5.33	38.33
12 北多摩北部圏	15	8.03	5.89	0.33	2	0.50	54.50	2	0.50	10.50	18.50			32.00
13 島しょ圏	1	7.00						1						1.00

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2014年1月~12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症	アシネトバクター感染症 薬剤耐性
1月	25	79	31		
2月	25	76	22	3	
3月	25	84	13	2	
4月	25	74	10	1	
5月	25	75	16	2	
6月	25	91	12	2	
7月	25	65	13	2	
8月	25	78	16	3	
9月	25	70	12	2	
10月	24	71	17	1	
11月	25	75	15	1	
12月	25	70	9	2	
合計		908	186	21	0

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2014年1月~12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症	アシネトバクター感染症 薬剤耐性
1月	25	3.16	1.24		
2月	25	3.04	0.88	0.12	
3月	25	3.36	0.52	0.08	
4月	25	2.96	0.40	0.04	
5月	25	3.00	0.64	0.08	
6月	25	3.64	0.48	0.08	
7月	25	2.60	0.52	0.08	
8月	25	3.12	0.64	0.12	
9月	25	2.80	0.48	0.08	
10月	24	2.96	0.71	0.04	
11月	25	3.00	0.60	0.04	
12月	25	2.80	0.36	0.08	
平均		3.04	0.62	0.07	0.00

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2014年1月~12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性 アシネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	46	33	26	5				
2月	49	27	14	8	3			
3月	49	35	11	2	1	1		
4月	37	37	5	5	1			
5月	38	37	10	6	1	1		
6月	42	49	8	4	2			
7月	39	26	7	6	2			
8月	43	35	12	4	2	1		
9月	42	28	8	4	1	1		
10月	55	16	6	11		1		
11月	57	18	8	7	1			
12月	46	24	6	3	2			
合計	543	365	121	65	16	5	0	0

(注) 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、2014年9月19日より五類全数把握対象疾患に変更

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2014年1月~12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性 アンネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	98	88	7	2				
1~4歳	34	37	41	25				
5~9歳	13	14	8	6				
10~14歳	17	6	2	1				
15~19歳	22	6						
20~24歳	4	2	1					
25~29歳	2	2	2					
30~34歳	6	6	1	2				
35~39歳	5	3	1					
40~44歳	9	5	2	1				
45~49歳	7	11		1				
50~54歳	13	11		2			1	
55~59歳	15	8			3			
60~64歳	29	18	6	2				
65~69歳	38	18	5	3	4			
70歳以上	231	130	45	20	9	4		
合計	543	365	121	65	16	5	0	0
定点当たり報告数	21.81	14.63	4.85	2.62	0.64	0.20	0.00	0.00
前年定点当たり報告数	23.52	13.73	11.21	7.73	0.97	0.32	0.00	0.00
当年/前年	0.93	1.07	0.43	0.34	0.66	0.63	-	-

表9-1 月別患者報告数(性感染症)

2014年1月~12月

報告定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	
1月	55	168	99	91	85	3	12
2月	55	155	108	59	87	10	8
3月	55	175	109	80	73	4	5
4月	54	158	84	70	84	17	13
5月	54	225	110	64	125	16	13
6月	55	232	113	112	110	12	12
7月	53	227	132	88	130	13	16
8月	55	211	114	100	129	10	16
9月	54	247	120	86	126	8	9
10月	54	240	115	85	112	8	7
11月	54	209	99	82	99	14	11
12月	51	180	95	69	99	12	13
合計		2,427	1,298	986	1,259	127	135

表9-2 月別定点あたり患者報告数(性感染症)

2014年1月~12月

報告定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	
1月	55	3.05	1.80	1.65	1.55	0.05	0.22
2月	55	2.82	1.96	1.07	1.58	0.18	0.15
3月	55	3.18	1.98	1.45	1.33	0.07	0.09
4月	54	2.93	1.56	1.30	1.56	0.31	0.24
5月	54	4.17	2.04	1.19	2.31	0.30	0.24
6月	55	4.22	2.05	2.04	2.00	0.22	0.22
7月	53	4.28	2.49	1.66	2.45	0.25	0.30
8月	55	3.84	2.07	1.82	2.35	0.18	0.29
9月	54	4.57	2.22	1.59	2.33	0.15	0.17
10月	54	4.44	2.13	1.57	2.07	0.15	0.13
11月	54	3.87	1.83	1.52	1.83	0.26	0.20
12月	51	3.53	1.86	1.35	1.94	0.24	0.25
平均		3.74	2.00	1.52	1.94	0.20	0.21

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2014年1月~12月

	報告 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	110	58	72	27	61	30	73	12		3	9	3
2月	55	93	62	69	39	38	21	81	6	1	9	5	3
3月	55	105	70	68	41	55	25	61	12	1	3	5	
4月	54	93	65	52	32	48	22	75	9		17	8	5
5月	54	115	110	74	36	42	22	78	47		16	7	6
6月	55	128	104	67	46	70	42	66	44		12	9	3
7月	53	128	99	92	40	64	24	80	50		13	14	2
8月	55	119	92	71	43	66	34	84	45		10	14	2
9月	54	150	97	67	53	62	24	81	45	1	7	9	
10月	54	120	120	66	49	50	35	72	40	1	7	6	1
11月	54	111	98	62	37	60	22	64	35		14	7	4
12月	51	88	92	64	31	49	20	61	38		12	9	4
合 計		1,360	1,067	824	474	665	321	876	383	4	123	102	33

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2014年1月~12月

	報告 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	2.00	1.05	1.31	0.49	1.11	0.55	1.33	0.22		0.05	0.16	0.05
2月	55	1.69	1.13	1.25	0.71	0.69	0.38	1.47	0.11	0.02	0.16	0.09	0.05
3月	55	1.91	1.27	1.24	0.75	1.00	0.45	1.11	0.22	0.02	0.05	0.09	
4月	54	1.72	1.20	0.96	0.59	0.89	0.41	1.39	0.17		0.31	0.15	0.09
5月	54	2.13	2.04	1.37	0.67	0.78	0.41	1.44	0.87		0.30	0.13	0.11
6月	55	2.33	1.89	1.22	0.84	1.27	0.76	1.20	0.80		0.22	0.16	0.05
7月	53	2.42	1.87	1.74	0.75	1.21	0.45	1.51	0.94		0.25	0.26	0.04
8月	55	2.16	1.67	1.29	0.78	1.20	0.62	1.53	0.82		0.18	0.25	0.04
9月	54	2.78	1.80	1.24	0.98	1.15	0.44	1.50	0.83	0.02	0.13	0.17	
10月	54	2.22	2.22	1.22	0.91	0.93	0.65	1.33	0.74	0.02	0.13	0.11	0.02
11月	54	2.06	1.81	1.15	0.69	1.11	0.41	1.19	0.65		0.26	0.13	0.07
12月	51	1.73	1.80	1.25	0.61	0.96	0.39	1.20	0.75		0.24	0.18	0.08

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2014年1月～12月

	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	131	12	18		45	1	85			1	4		283	14
中央区	3	98	14	55	7	9		33	1		1			195	23
みなの	2	124	29	389	67	123	52	48	4		1	6	16	690	169
新宿区	7	313	71	139	73	347	128	282	53		8	70	2	1,151	335
文京	1	56		12		15		42				1		126	
台東	2	8	219	10	69	12	40	15	250	1	38		5	46	621
墨田区	2	20	29	17	9	4	5	17	2		6		1	58	52
江東区	2	115	10	61	1	24	1	90	4			7		297	16
品川区	1	74	1	31	5	23	1	37		1				166	7
大田区	2	36	93		1			22					1	58	95
渋谷区	5	74	72	25	88	11	22	24	2	1	3	3	1	138	188
中野区	2	27	4	7			3	16	4		6	6		56	17
杉並	2	39	6	2	3	1	4	15	5			2		59	18
池袋	3	137	110	47	56	32	21	85	20	1	10	3	2	305	219
北区	1	12		1		3		5						21	
荒川区	1		33		14		3				2				52
板橋区	2	35	48	2	14	10	2	27	6		3		2	74	75
足立	2	18	34	1	6		4	20	6		2		1	39	53
江戸川	2	28	53	6	15	4	9	9	4		15			47	96
八王子市	4	1	51		14		5	1	3		10		1	2	84
町田市	1		35	1	20		1				8			1	64
多摩立川	2	9	139		11		10		19		7		1	9	187
多摩府中	3	5				2	8	3						10	8
多摩小平	1		4		1		1				2				8
合 計	55	1,360	1,067	824	474	665	321	876	383	4	123	102	33	3,831	2,401
定点当たり報告数		25.14	19.76	15.24	8.76	12.29	5.92	16.19	7.11	0.07	2.28	1.89	0.61	70.83	44.45
前年定点当たり報告数		25.86	16.54	14.84	7.72	12.44	5.37	17.21	2.63	0.11	1.99	2.32	0.20	72.79	34.46
当年/前年		0.97	1.19	1.03	1.13	0.99	1.10	0.94	2.70	0.66	1.15	0.82	3.00	0.97	1.29

区中央部圏	10	417	274	484	143	204	93	223	255	1	41	11	21	1,340	827
区南部圏	3	110	94	31	6	23	1	59		1			1	224	102
区西南部圏	5	74	72	25	88	11	22	24	2	1	3	3	1	138	188
区西部圏	11	379	81	148	76	348	135	313	62		14	78	2	1,266	370
区西北部圏	6	184	158	50	70	45	23	117	26	1	13	3	4	400	294
区東北部圏	3	18	67	1	20		7	20	6		4		1	39	105
区東部圏	6	163	92	84	25	32	15	116	10		21	7	1	402	164
南多摩圏	5	1	86	1	34		6	1	3		18		1	3	148
北多摩西部圏	2	9	139		11		10		19		7		1	9	187
北多摩南部圏	3	5				2	8	3						10	8
北多摩北部圏	1		4		1		1				2				8

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2014年1月～12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		臍トリコモナス症		梅毒様疾患		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	65.50	6.00	9.00		22.50	0.50	42.50			0.50	2.00		141.50	7.00
中央区	3	32.67	4.67	18.33	2.33	3.00		11.00	0.33		0.33			65.00	7.67
みなと	2	62.00	14.50	194.50	33.50	61.50	26.00	24.00	2.00		0.50	3.00	8.00	345.00	84.50
新宿区	7	44.71	10.14	19.86	10.43	49.57	18.29	40.29	7.57		1.14	10.00	0.29	164.43	47.86
文京	1	56.00		12.00		15.00		42.00				1.00		126.00	
台東	2	4.00	109.50	5.00	34.50	6.00	20.00	7.50	125.00	0.50	19.00		2.50	23.00	310.50
墨田区	2	10.00	14.50	8.50	4.50	2.00	2.50	8.50	1.00		3.00		0.50	29.00	26.00
江東区	2	57.50	5.00	30.50	0.50	12.00	0.50	45.00	2.00			3.50		148.50	8.00
品川区	1	74.00	1.00	31.00	5.00	23.00	1.00	37.00		1.00				166.00	7.00
大田区	2	18.00	46.50		0.50			11.00					0.50	29.00	47.50
渋谷区	5	16.38	17.22	5.83	20.33	2.45	5.15	5.40	0.45	0.25	0.60	0.65	0.25	30.97	44.00
中野区	2	13.50	2.00	3.50			1.50	8.00	2.00		3.00	3.00		28.00	8.50
杉並	2	19.50	3.00	1.00	1.50	0.50	2.00	7.50	2.50			1.00		29.50	9.00
池袋	3	45.67	36.67	15.67	18.67	10.67	7.00	28.33	6.67	0.33	3.33	1.00	0.67	101.67	73.00
北区	1	12.00		1.00		3.00		5.00						21.00	
荒川区	1		33.00		14.00		3.00				2.00				52.00
板橋区	2	17.50	24.00	1.00	7.00	5.00	1.00	13.50	3.00		1.50		1.00	37.00	37.50
足立	2	9.00	17.00	0.50	3.00		2.00	10.00	3.00		1.00		0.50	19.50	26.50
江戸川	2	16.00	26.50	4.00	8.00	3.00	4.50	5.00	2.00		7.50			28.00	48.50
八王子市	4	0.25	13.08		3.50		1.25	0.25	0.75		2.67		0.25	0.50	21.50
町田市	1		35.00	1.00	20.00		1.00				8.00			1.00	64.00
多摩立川	2	4.50	69.50		5.50		5.00		9.50		3.50		0.50	4.50	93.50
多摩府中	3	1.67				0.67	2.67	1.00						3.33	2.67
多摩小平	1		4.00		1.00		1.00				2.00				8.00
合計	55	1,360	1,067	824	474	665	321	876	383	4	123	102	33	3,831	2,401
定点当たり報告数		25.14	19.76	15.24	8.76	12.29	5.92	16.19	7.11	0.07	2.28	1.89	0.61	70.83	44.45

区中央部圏	10	41.70	27.40	48.40	14.30	20.40	9.30	22.30	25.50	0.10	4.10	1.10	2.10	134.00	82.70
区南部圏	3	36.67	31.33	10.33	2.00	7.67	0.33	19.67		0.33			0.33	74.67	34.00
区西南部圏	5	16.38	17.22	5.83	20.33	2.45	5.15	5.40	0.45	0.25	0.60	0.65	0.25	27.60	37.60
区西部圏	11	34.45	7.36	13.45	6.91	31.64	12.27	28.45	5.64		1.27	7.09	0.18	115.09	33.64
区西北部圏	6	30.67	26.33	8.33	11.67	7.50	3.83	19.50	4.33	0.17	2.17	0.50	0.67	66.67	49.00
区東北部圏	3	6.00	22.33	0.33	6.67		2.33	6.67	2.00		1.33		0.33	13.00	35.00
区東部圏	6	27.87	15.57	14.53	4.30	5.50	2.53	20.00	1.70		3.57	1.17	0.17	67.00	27.33
南多摩圏	5	0.20	17.60	0.25	6.80		1.20	0.20	0.60		3.70		0.20	0.60	29.60
北多摩西部圏	2	4.50	69.50		5.50		5.00		9.50		3.50		0.50	4.50	93.50
北多摩南部圏	3	1.67				0.67	2.67	1.00						3.33	2.67
北多摩北部	1		4.00		1.00		1.00				2.00				8.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2014年1月~12月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳							1						1	
1~4歳														
5~9歳								2						2
10~14歳		1												1
15~19歳	29	82	1	15	3	13	27	12		9			60	131
20~24歳	198	312	40	69	52	101	151	69	1	15	2	12	444	578
25~29歳	263	257	63	102	95	95	137	83		25	10	7	568	569
30~34歳	250	194	91	87	124	45	165	68		19	26	6	656	419
35~39歳	210	106	138	58	97	30	142	53	1	9	22	4	610	260
40~44歳	148	56	133	64	103	16	99	39		17	18	2	501	194
45~49歳	114	40	132	29	80	11	82	28	2	8	9		419	116
50~54歳	69	11	82	11	41	5	40	22		9	4	1	236	59
55~59歳	30	7	48	9	26	3	17	5		2	5		126	26
60~64歳	32	1	35	12	23		10	2		2			100	17
65~69歳	14		39	3	9	1	5			1	3		70	5
70歳以上	3		22	15	12	1				7	3	1	40	24
合 計	1,360	1,067	824	474	665	321	876	383	4	123	102	33	3,831	2,401

表10 検査結果別報告数(基幹) 2014年1月~12月

病 原 体	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	合 計
<i>Streptococcus agalactiae</i>	4					4
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	2					2
<i>Streptococcus group G</i>	1					1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1					1
<i>Listeria monocytogenes</i>	1					1
<i>Escherichia coli</i>	1					1
other bacteria	2					2
Enterovirus nt			6			6
Parechovirus 3			3			3
Parechovirus 1			1			1
Parechovirus nt			4			4
Coxsackievirus B5			2			2
Echovirus 11			2			2
Coxsackievirus A16			1			1
Herpes simplex virus nt			1			1
Influenza virus A			1			1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>			1	234		235
<i>Chlamydia pneumoniae</i>				21		21
<i>Rotavirus group unknown</i>					119	119
<i>Rotavirus group A</i>					5	5
記載無し	10	80			10	100
合 計	22	102	234	21	134	513

表11 疑似症サーベイランス報告数 2014年第1週～第52週

週	期 間	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱	保健所	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱	年齢階級	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
1	12.30～1.5	443	3	1	千代田	4			0歳	13	5
2	1.6～1.12	443	9	1	中央区	5			1歳	24	7
3	1.13～1.19	443	5		みなと	9	43	1	2歳	11	
4	1.20～1.26	443	3		新宿区	13			3歳	8	2
5	1.27～2.2	443	5	1	文京	8			4歳	3	
6	2.3～2.9	443	2	1	台東	7			5歳	2	1
7	2.10～2.16	443	1	1	墨田区	9			6歳	1	
8	2.17～2.23	443	2	1	江東区	14			7歳		1
9	2.24～3.2	443	2	1	品川区	13			8歳	2	
10	3.3～3.9	443	7	1	目黒区	8			9歳		
11	3.10～3.16	443	1		大田区	22			10～14歳	4	
12	3.17～3.23	443	4		世田谷	28			15～19歳	2	
13	3.24～3.30	443	3		渋谷区	9	57	4	20～29歳	14	
14	3.31～4.6	443	4		中野区	11			30～39歳	23	1
15	4.7～4.13	443	8		杉並	16			40～49歳	14	
16	4.14～4.20	443	5	1	池袋	9			50～59歳	3	
17	4.21～4.27	443	6		北区	11			60～69歳	4	1
18	4.28～5.4	443	3		荒川区	7			70～79歳	9	
19	5.5～5.11	443	4		板橋区	18	42	15	80歳以上	10	2
20	5.12～5.18	443	3		練馬区	21			合 計	147	20
21	5.19～5.25	443	3	1	足立	21					
22	5.26～6.1	443	5		葛飾区	13					
23	6.2～6.8	443	2		江戸川	19					
24	6.9～6.15	443		1	八王子市	19					
25	6.16～6.22	443	2		町田市	13					
26	6.23～6.29	443	1		西多摩	15					
27	6.30～7.6	443	2		南多摩	15					
28	7.7～7.13	443	4		多摩立川	23					
29	7.14～7.20	443	2		多摩府中	36	5				
30	7.21～7.27	443	2		多摩小平	24					
31	7.28～8.3	443	5		島しょ	3					
32	8.4～8.10	443	2	2	合 計	443	147	20			
33	8.11～8.17	443	2	1							
34	8.18～8.24	443	1	2							
35	8.25～8.31	443	2								
36	9.1～9.7	443	2	1							
37	9.8～9.14	443									
38	9.15～9.21	443	1								
39	9.22～9.28	443		1							
40	9.29～10.5	443									
41	10.6～10.12	443	2								
42	10.13～10.19	443	2	1							
43	10.20～10.26	443	1								
44	10.27～11.2	443		1							
45	11.3～11.9	443	1								
46	11.10～11.16	443	2								
47	11.17～11.23	443	2								
48	11.24～11.30	443	3								
49	12.1～12.7	443	1								
50	12.8～12.14	443	3								
51	12.15～12.21	443	8								
52	12.22～12.28	443	4								
	合 計		147	20							

## 第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報



感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

## 1 ウイルス検査結果

### (1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

#### ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2014年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科及び基幹病原体定点より1,820件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液1,148件、鼻汁157件、髄液245件、糞便174件、結膜拭い液39件、血液17件、尿3件及びその他（吐物、皮膚病巣等）37件であった（表1）。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診 断 名		検 体 種								
		総計	咽頭拭い液	鼻汁	髄液	糞便	結膜拭い液	血液	尿	その他
呼吸器系疾患	上気道炎	153	140	6	2	3				2
	下気道炎	179	147	30						2
	インフルエンザ	276	166	89	7	4				10
	咽頭結膜熱	89	82	2			3			2
	RSウイルス感染症	17	2	15						
	不明熱	71	49	5	8	2		3	1	3
	感染性胃腸炎	137	4	1		132				
神経系疾患	無菌性髄膜炎	249	40	2	180	25		2		
	脳炎・脳症	27	7		15	4		1		
	けいれん	32	8		22	2				
発疹性疾患	手足口病	57	49	7	1					
	突発性発しん	47	46							1
	伝染性紅斑	45	42			1				2
	ヘルパンギーナ	38	36		1					1
	水痘	21	19							2
	川崎病	13	12		1					
	口内炎	6	6							
	風しん	1	1							
	不明発しん症	203	195					1		7
	流行性耳下腺炎	59	55						1	3
	流行性角結膜炎	38	1				36			1
	リンパ節腫脹	22	20		1	1				
	デング熱	8						8		
	伝染性単核球症	4	4							
	その他	28	17		7			2	1	1
	計	1820	1148	157	245	174	39	17	3	37

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 785 件（上気道炎 153 件、下気道炎 179 件、インフルエンザ 276 件、咽頭結膜熱 17 件、RS ウイルス感染症 89 件、不明熱 71 件）、感染性胃腸炎 137 件、神経系疾患 308 件（無菌性髄膜炎 249 件、脳炎・脳症 27 件、けいれん 32 件）、発しん性疾患 431 件（手足口病 57 件、突発性発しん 47 件、伝染性紅斑 45 件、ヘルパンギーナ 38 件、水痘 21 件、川崎病 13 件、口内炎 6 件、風しん 1 件、不明発しん症 203 件）、流行性耳下腺炎 59 件、流行性角結膜炎 38 件、リンパ節腫脹 22 件、デング熱 8 件、伝染性単核球症 4 件、「その他」 28 件であった。

## イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 1,820 件のうち、主に血液を除く 1,804 件を対象に、細胞培養（HeLa、HEp-2、RD-A、MDCK、Vero、A549、B95a、C6/36 細胞等）によるウイルス分離試験と、酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った。その結果、ウイルス分離試験では 430 件のウイルスが分離され、酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出では 10 件のロタウイルスが検出され、合計 440 件のウイルスが分離検出された（表 2）。分離された 430 件のウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス 173 株（40.2%）、アデノウイルス 97 株（22.6%）、コクサッキーウイルス 42 株（9.8%）、エコーウイルス 58 株（13.5%）、エンテロウイルス 71 型 8 株（1.9%）、ライノウイルス 6 株（1.4%）、エンテロウイルス型別不明 4 株（0.9%）、ヒトパレコウイルス 1 株（0.2%）、単純ヘルペスウイルス 1 型 8 株（1.9%）、ムンプスウイルス 21 株（4.9%）、ヒトメタニューモウイルス 6 株（1.4%）、パラインフルエンザウイルス 2 株（0.5%）、RS ウイルス 3 株（0.7%）、不明 1 株（0.2%）であった。

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

	検査検体数	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	突発性発しん	ヘルパンギーナ	手足口病	川崎病	口内炎	水痘	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	リンパ節腫脹	伝染性単核球症	その他	
分離ウイルス	検査検体数	1,804	153	179	276	17	89	68	137	247	26	32	47	38	57	13	6	21	45	202	59	38	22	4	28	
インフルエンザ	AH1pdm09	67		2	64			1																		
	AH3亜型	46			45													1								
	B型 (Victoria)	13	1	1	11																					
	B型 (Yamagata)	47		1	43		1													1						1
アデノ	1型	11	1	1			4	2	2					1												
	2型	42	9	2	2		8	3	1	2			1	3	2	1				8						
	3型	24	2	1			17																3	1		
	4型	3					3																			
	5型	4			2			1	1																	
	6型	5	1										1	1				1		1						
	37型	2																1								
	41型	2							2															2		
コクサッキー	56型	4																					4			
	A群2型	1					1																			
	A群4型	14	5						1					6	2											
	A群9型	1																		1						
	A群10型	3												2	1											
	A群16型	7													6											
	A群21型	1	1																	1						
	B群3型	1							1																	
エコー	B群4型	4	2	1							1															
	B群5型	10							1	9																
	3型	1																			1					
	7型	11					1			7					1						2					
	9型	3	1					1													1					
	11型	26	4		1		2	2		14					2											1
	18型	2																			2					
エンテロ	25型	5	1		1	1		2							1											
	30型	10	1							8																
	71型	8													7					1						
	型別不明	4									3				1											
ライノ	6	1	2											1						2						
ヒトパレコ	1																	1								
単純ヘルペス	1	8	2		1		1	1									1			2						
ムンプス	21									4														16		
ヒトメタニューモ	6		6																							
パラインフルエンザ	2型	1	1																							
	3型	1		1																						
RS	不明	3		3																						
不明	1		1																							
A群ロタ	10								10																	
総計		440	32	22	170	1	38	13	19	48	0	0	2	13	25	1	1	3	1	23	16	9	1	0	2	

注：1 検体から検出されるウイルスは、複数となる場合がある。

2014年最も多く分離されたウイルスは、表2に示したようにインフルエンザ AH1pdm09 (67株)で、多くがインフルエンザ患者検体(64株)から分離されたが、下気道炎(2株)、不明熱(1株)の患者検体からも分離されている。

エコーウイルスでは、11型(26株)が最も多く分離され、主に無菌性髄膜炎(14株)の患者検体から多く分離されたが、他にも上気道炎(4株)、咽頭結膜熱(2株)等の患者検体からも分離された。

ムンプスウイルス(21株)は主に流行性耳下腺炎(16株)の患者検体から多く分離されたが、同ウイルスは無菌性髄膜炎(4株)、ヘルパンギーナ(1株)の患者検体からも分離された。

## ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を図1及び表3に示した。

搬入された1,820検体中1,806検体を対象に6,453件の遺伝子検索を実施した結果、1,116検体(61.8%)から1,421件のウイルス遺伝子が検出された(複数種のウイルス遺伝子の同時検出例を含む)。陽性例の内訳をみると、インフルエンザウイルスが251件(17.7%)、と最も多く、以下エンテロウイルス245件(17.2%)、アデノウイルス225件(15.8%)、ライノウイルス186件(13.1%)、ヒトヘルペスウイルス149件(10.5%)、RSウイルス47件(3.3%)、EBウイルス42件(3.0%)、パルボウイルスB19 42件(3.0%)、ムンプスウイルス39件(2.7%)、パラインフルエンザウイルス39件(2.7%)、ノロウイルス37件(2.6%)、ヒトメタニューモウイルス28件(2.0%)、風しんウイルス20件(1.4%)、パレコウイルス19件(1.3%)、単純ヘルペスウイルス16件(1.1%)、サポウイルス10件(0.7%)、水痘帯状疱疹ウイルス10件(0.7%)、サイトメガロウイルス9件(0.6%)、麻しんウイルス7件(0.5%)、であった。

エンテロウイルス遺伝子が陽性となった検体については、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の塩基配列を決定し、遺伝子データベースを利用して相同性検索を行った。245検体を解析した結果は、コクサッキーウイルスA群96件、エコーウイルス56件、コクサッキーウイルスB群17件、エンテロウイルス71型13件、エンテロウイルス68型4件、型別不明59件であった。

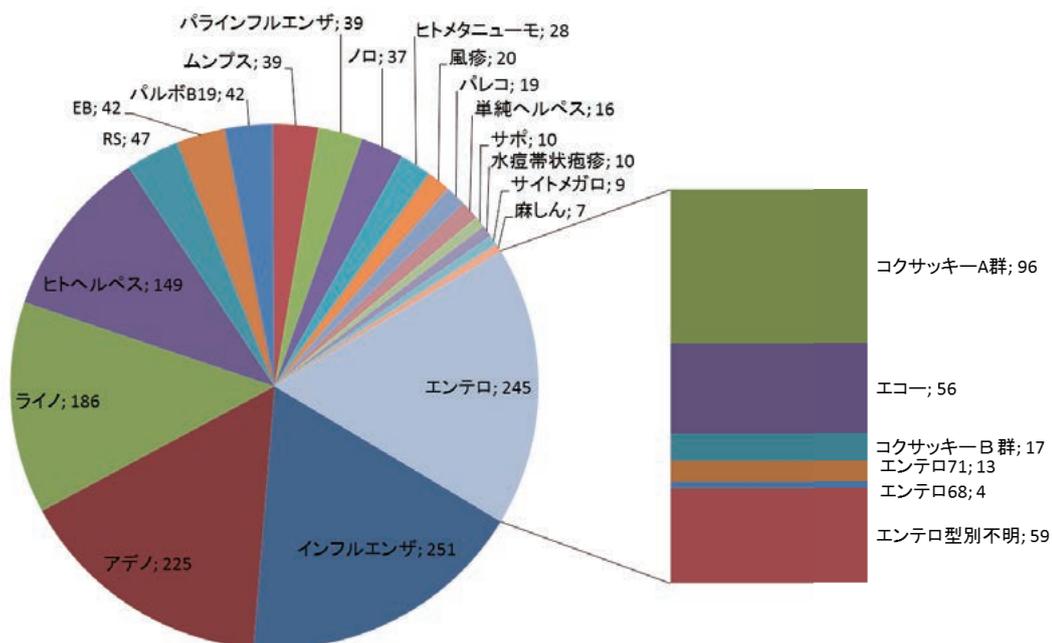


図1. ウイルス遺伝子検出数 (陽性例 1,421 件)

表3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

		総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	突発性発しん	ヘルパンギーナ	手足口病	川崎病	口内炎	水痘	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	リンパ節腫脹	伝染性単核球症	
検出遺伝子		検査検体数	1806	153	179	275	17	89	71	137	248	27	32	47	38	57	13	6	21	45	203	59	38	21	4
インフルエンザ	AH1pdm09	80		2	77			1																	
	AH3亜型	64			63														1						
	B型	107	5	7	87		1	2				1							1	1			1		
アデノ	25型	225	31	28	7	1	42	10	16			1	12	10	4	2			2	36	4	15	3		
	A群2型	6	3				1							1	1										
コクサッキー	A群4型	45	12	5			5		1					15	2				2	3					
	A群5型	2	1									1													
	A群6型	8					2							1	3			1		1					
	A群8型	1	1																						
	A群9型	6													1						5				
	A群10型	10	1	3									1	4	1										
	A群16型	16					1			1					14										
	A群21型	2	1				1																		
	B群4型	4	2	1						1															
	B群5型	13								1	12														
エコー	9型	1																						1	
	9型	5	2					1															1	1	
	7型	10					1			7														2	
	11型	23	2		1		2	3		11				2										1	
	18型	3																						3	
	25型	3				1									1										
エンテロ	30型	11	1			1				8														1	
	68型	4		2		2																			
	71型	13	3							1				8							1			1	
ライノ	型別不明	59	10	7	2	1	5	2		9			2	5	3					1	7	3			
		186	11	48	7	1	14	9	2	7	4		6	6	8	1	1	6	6	34	8	2	1		
ヒトパレコ	1型	3						2																	
	2型	1								1															
	3型	15	3	2					1	9															
単純ヘルペス	1型	15	4		1		1	1		1							4			2					
	2型	1									1														
サイトメガロ	9						1		1							1				1	2		1		
EB	42	6					2	1								1			1	4	14	3	9	1	
水痘帯状疱疹	10			1											2			7							
ヒトヘルペス	6型	122	3		2		4	10	1		1	5	30	2	5	1		1	2		54				
	7型	27			1		1	3					8	1	1				3		10				
麻疹	A型	5												1							4				
	型別不明	2												1							1				
風疹	20												1	2					1	15					
RS	47	5	22		14		3						1	1											
ヒトメタニューモ	28	6	22											1	1										
ムンプス	39									9				1									27	1	1
パラインフルエン	1型	7	3	2										1							1				
	2型	4	1	3																					
	3型	28	9	17			1																		
パルボB19		42																		33	9				
	G1	1								1															
ノロ	36													36											
サボ	10				1					9															
総計	1421	126	171	250	20	85	51	67	78	6	7	62	46	61	6	5	18	52	197	59	22	15	1		

注：1検体から検出されるウイルスは、複数となる場合がある。

この解析の結果、2014年の手足口病患者検体から検出されたウイルスはコクサッキーウイルスA群16型の遺伝子型が多いことが判明した。次いでエンテロウイルス71型も多く検出された。またヘルパンギーナ患者検体からは、コクサッキーウイルスA群4型が最も多く検出された。

無菌性髄膜炎患者からは、コクサッキーウイルスB群5型を中心に、エコーウイルス11型、30型、ムンプスウイルスや単純ヘルペスウイルスなど多様なウイルスが検出された。

ライノウイルスは一般的に鼻風邪の原因ウイルスとされているが、下気道炎から最も多く検出され、不明発疹症からも多く検出されていた。

ヒトヘルペスウイルスは突発性発疹の原因ウイルスとされているが、突発性発疹患者からよりも、不明発疹症患者から最も多く検出されていることから、同疾患の臨床診断の難しさがうかがわれた。

またパルボウイルスB19の検出数は2013年度が8件だったのに比べて42件と5倍以上となり、特に伝染性紅斑患者検体から多く検出された。

## エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

### ① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から多く検出されたウイルスのうちインフルエンザウイルスの検出状況を図2に、その他のエンテロウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルス、ライノウイルス、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルスの月別の検出状況を図3に示した。

インフルエンザウイルス AH3 亜型の検出は1月の流行期をピークに4月にかけて減少し、6月には検出されなくなったが、10月から12月にかけて検出数の急激な増加が見られた。B型は3月を検出のピークとし、6月まで検出された。季節性の A/H1 亜型の検出はなかった。AH1pdm09 は、1月をピークに4月まで検出が続いた。本年は8月、9月を除きほぼ一年を通してインフルエンザウイルスが検出された。

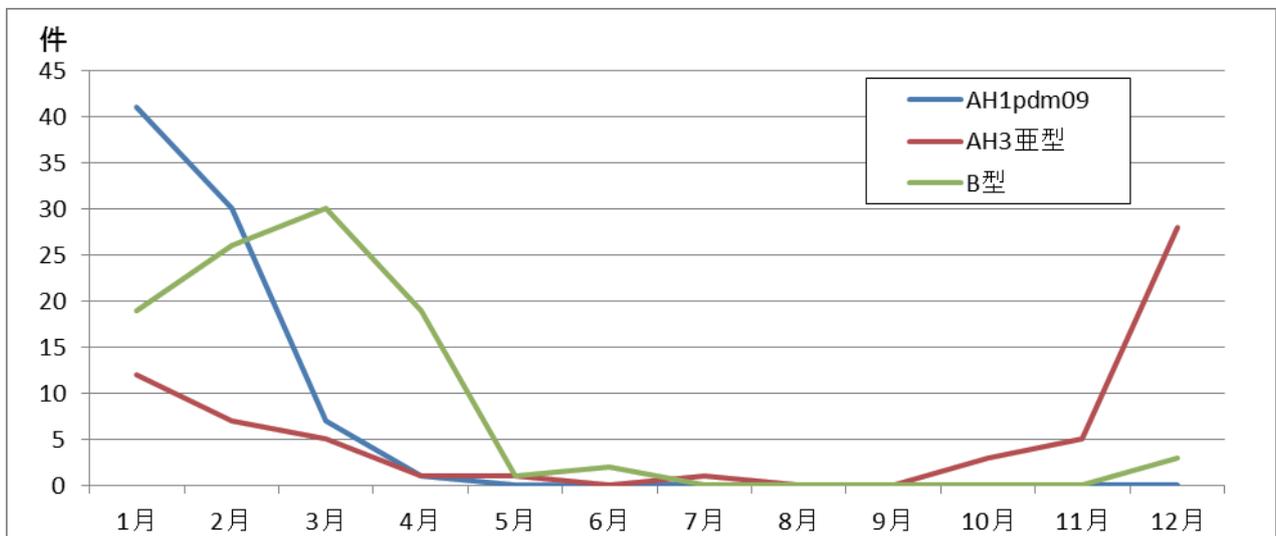


図2. 呼吸器感染症患者検体からのインフルエンザウイルスの月別検出状況

その他の呼吸器系ウイルスの検出状況については、春から初夏に検出されることの多いヒトメタニューモウイルスは4月をピークとし、7月まで検出が続いた。初夏に流行することが多いパラインフルエンザウイルスは、本年は7月をピークに6月から10月まで検出が続いた。また、ライノウイルスは4月に最も多く検出されたが一年を通して検出が続いた。夏風邪の原因とされるエンテロウイルスは6月から検出が増え、7月をピークとして12月まで検出が続いた。

一方、毎年咽頭結膜熱の原因ウイルスとして夏に多く検出されるアデノウイルスは8月を中心として、12月まで多数検出されていた。秋から冬にかけて流行がみられる事が多いRS ウイルスは1月から4月まで検出され、その後10月、11月をピークとした流行が12月までみられた。

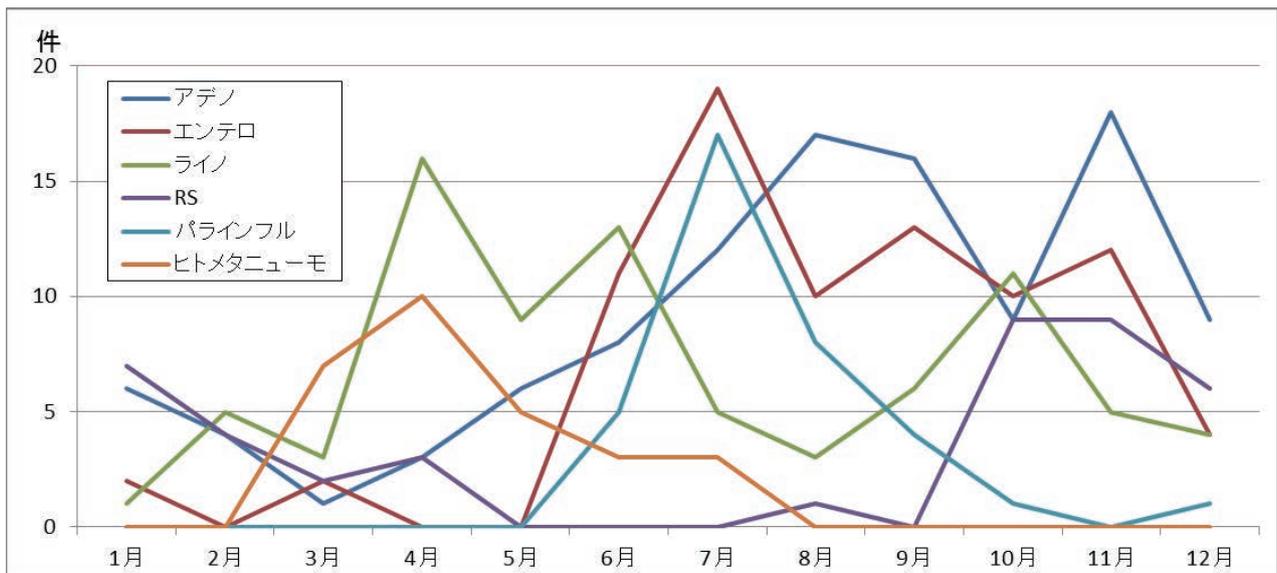


図3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス、ムンプスウイルス及びパレコウイルスについて月別の検出状況を図4に示した。

2014年は無菌性髄膜炎患者検体から51件のエンテロウイルスが検出され、検出されたウイルスの半数以上を占めた。エンテロウイルス以外にはパレコウイルスが10件、ムンプスウイルスが9件検出された。無菌性髄膜炎の原因となった主なウイルスはエンテロウイルスで、10月をピークとして6月から11月まで多数検出された。パレコウイルスは8月に8件検出され10月にも2件の検出があった。ムンプスウイルスは、1年を通して断続的に検出されていた。

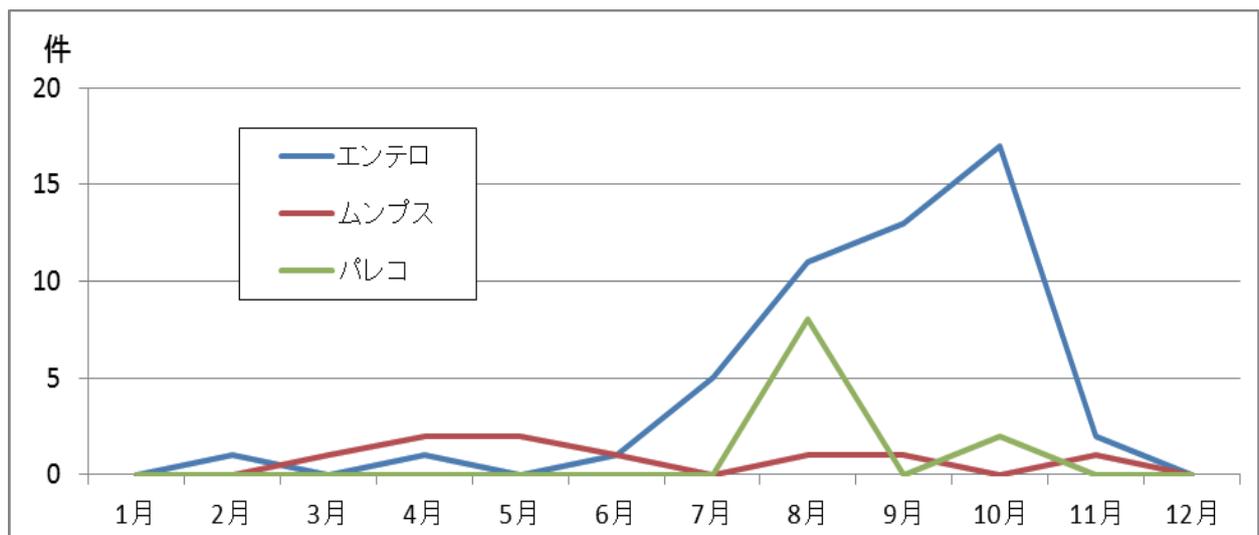


図4. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

### ③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出（酵素抗体法）によって検出されたウイルスの月別検出数を図5に示した。

ノロウイルスは前年から続く流行で1月に多く検出されていたが8月にかけて検出が減っていき、11月から再び検出数の増加が見られた。ノロウイルスが検出されなかったのは9月と10月のみであった。毎年、春先に流行の見られることが多いロタウイルスは、2月から6月までと、12月に検出され、3月の検出数が最多であった。サポウイルスは2月にピークが見られ7月まで検出された後、12月に再び検出された。

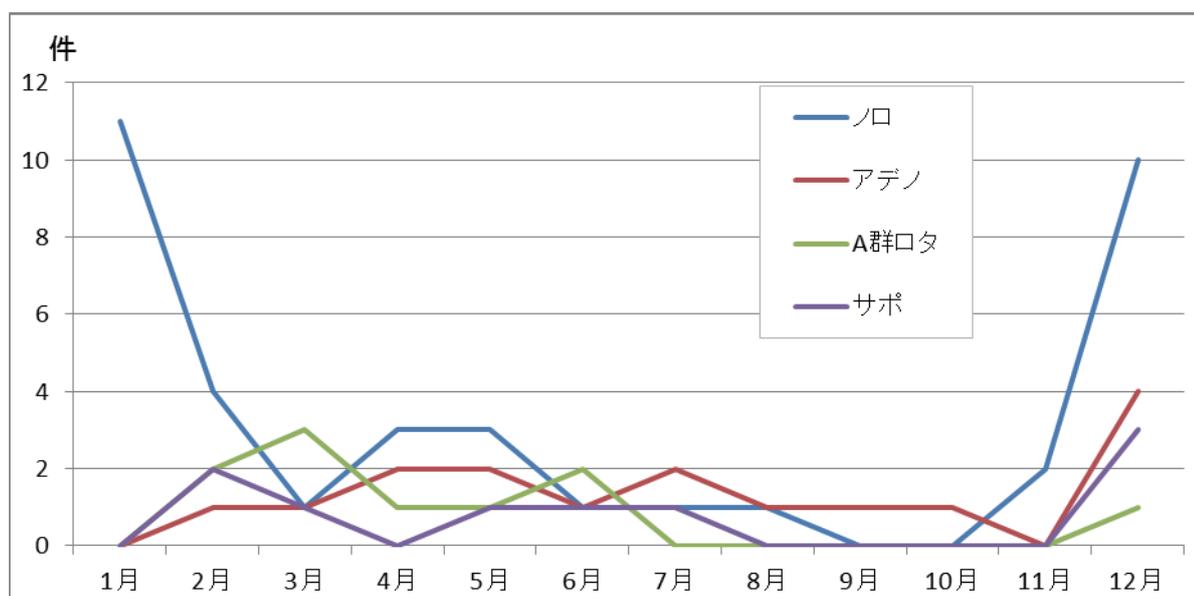


図5. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

### ④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

月別の遺伝子検出状況を図6に示す。アデノウイルス30件、エンテロウイルス属69件（遺伝子解析結果；コクサッキーウイルスA群47件、エコーウイルス3件、エンテロウイルス71型8件、型別不明11件）、ライノウイルス34件、ヘルペスウイルス属69件（ヒトヘルペスウイルス6型41件、同7型12件、単純ヘルペスウイルス1型4件、EBウイルス2件、水痘帯状疱疹ウイルス9件、サイトメガロウイルス1件）、パルボウイルスB19 33件、インフルエンザウイルス4件、RSウイルス2件、パレコウイルス1件、麻しんウイルス2件、風しんウイルス4件、パラインフルエンザウイルス1型1件、ムンプスウイルス1件の計250件が検出された。

コクサッキーウイルスA群は、夏季に多く流行する手足口病やヘルパンギーナの原因ウイルスとされている。今年の発しん性患者検体から同ウイルスは47件検出され、中でも4型が19件、16型が14件と夏季に多数検出された。

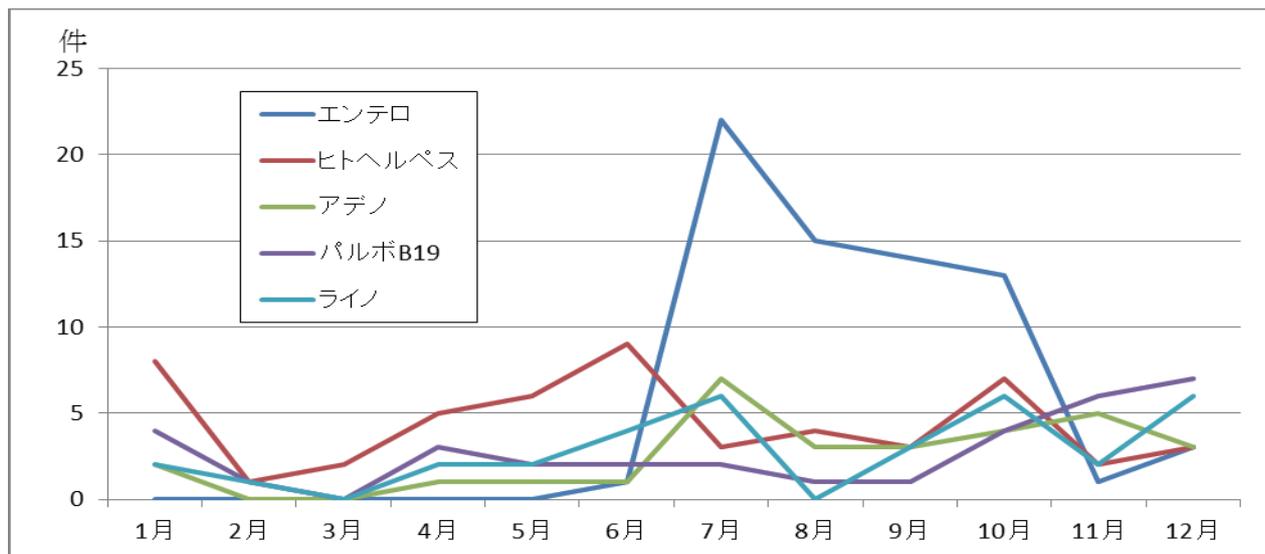


図6. 発しん性疾患患者検体からの主な月別ウイルス検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

遺伝子検出状況は図7に示した。陽性例 197 件の内、ヒトヘルペスウイルスは 64 件（32.5%）と最も多く検出された。さらにアデノウイルス 36 件（18.3%）、ライノウイルス 34 件（17.3%）、風しんウイルス 15 件（7.6%）、パルボウイルス B19、コクサッキーA 群ウイルス、エコーウイルスがそれぞれ 9 件（4.6%）、エンテロウイルス型別不明 7 件（3.6%）、麻しんウイルス 5 件（2.5%）、EB ウイルス 4 件（2.0%）、単純ヘルペスウイルス 2 件（1.0%）、パラインフルエンザウイルス、エンテロウイルス 71、サイトメガロウイルスがそれぞれ 1 件（0.5%）検出された。

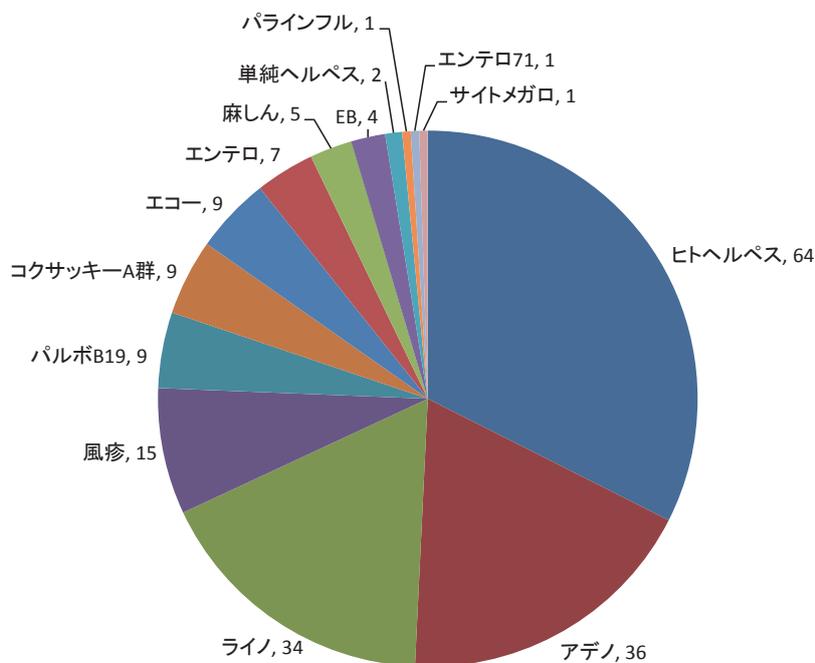


図7. 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況

## ⑥ 川崎病患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）再掲

川崎病患者検体 13 検体から 6 件のウイルス遺伝子が検出され、アデノウイルス 2 件、ライノウイルス、EB ウイルス、サイトメガロウイルスがそれぞれ 1 件であった。

## オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

都内 3 定点医療機関からデング熱疑い患者の検体が 6 件についてデングウイルスの抗体検査を行った結果、抗デングウイルス IgM が 2 件検出された。

また、臨床診断でリケッチア及び関連感染症として都内 2 医療機関から 18 件の検査依頼があった。これらについて紅斑熱群リケッチア（Spotted fever : *Rickettsia Japonica*、*R. rickettii* 等）及び発疹熱群リケッチア（*R. Typhi*、*R. prowazaekii* 等）、ツツガムシ病リケッチア（*Orientia tsutsugamushi*）、Q 熱（コクシエラ・バーネッティー I 相菌、II 相菌）、ライム病（ボレリア・ブルグドルフィー）の抗体及び遺伝子について検査を行った。臨床診断名別には、日本紅斑熱・発疹熱などのリケッチア症（疑い例を含む、以下同様）で搬入されたもの 9 件、ツツガムシ病 2 件、Q 熱 1 件、ライム病 2 件、不明熱 4 件であった。このうち海外渡航歴のあったものは 6 件あった。

臨床診断名別に検査結果をみると、リケッチア症疑いの検体からは、紅斑熱群および発疹熱群リケッチアに対する抗体が 8 件より検出され、1 件からは IgM 抗体が検出された。また、2 件は発疹熱群リケッチアに対する IgG のみが検出され、他の 6 件は紅斑熱群および発疹熱群リケッチアに対する IgG が検出された。ツツガムシ病疑いの検体では、IgM 抗体を検出できたものはなく、低希釈倍率で IgG 抗体を確認できたものが 1 件あった。ライム病疑いの検体では、ボレリアに対する抗体を検出できたものはなかった。不明熱と診断された検体では、1 件より紅斑熱群及び発疹熱群リケッチアに対する抗体が検出された。また、他の診断名で搬入された検体の検査結果はいずれも陰性であった。

## （2）内科病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

### ア 2013/2014 年シーズンのウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月（第 36 週）を境にシーズン分けされており、2014 年の前半は 2013/2014 年シーズン、2014 年の後半は 2014/2015 年シーズンとなる。2014 年は第 1 週から第 35 週までに 219 検体が搬入され、遺伝子検査で AH1pdm09 型 73 件、AH3 亜型 22 件、Victoria 系 B 型 24 件、Yamagata 系 B 型 52 件の計 171 件検出され（図 8）、ウイルス分離試験で AH1pdm09 型 73 株、AH3 亜型 22 株、Victoria 系 B 型 24 株、Yamagata 系 B 型 50 株の計 169 株が検出された。2013/2014 年シーズンを通してみると、AH1pdm09 型 79 件（42.9%）、AH3 亜型 26 件（14.1%）、Victoria 系 B 型 26 件（14.1%）、Yamagata 系 B 型 53 件（28.8%）が検出され（図 9）、AH1pdm09 型が主な流行型であったが、4 系統のインフルエンザウイルスがシーズンを通して検出された。

### イ 2014/2015 年シーズンのウイルス検出状況

2014/2015 年シーズンは、第 35 週（2014 年 9 月）に検出された AH3 亜型を初発例としてインフルエンザの流行が始まった。2014 年 12 月までに 91 検体の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が搬入され、遺伝子検査で AH3 亜型 56 件、Yamagata 系 B 型 1 件の計 57 件、ウイルス分離試験で AH3 亜型 51 株、Yamagata 系 B 型 1 株の計 52 株のインフルエンザウイルスが検出された。2014/2015 年シーズンは、2014 年 12 月末現在、AH3 亜型が流行の主流となっている。

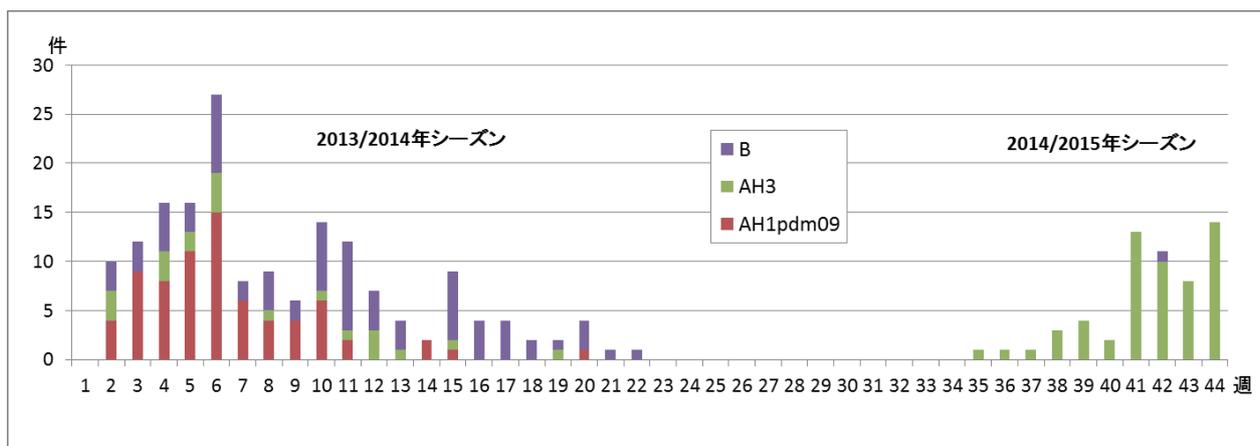


図 8. 内科病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス遺伝子検出数

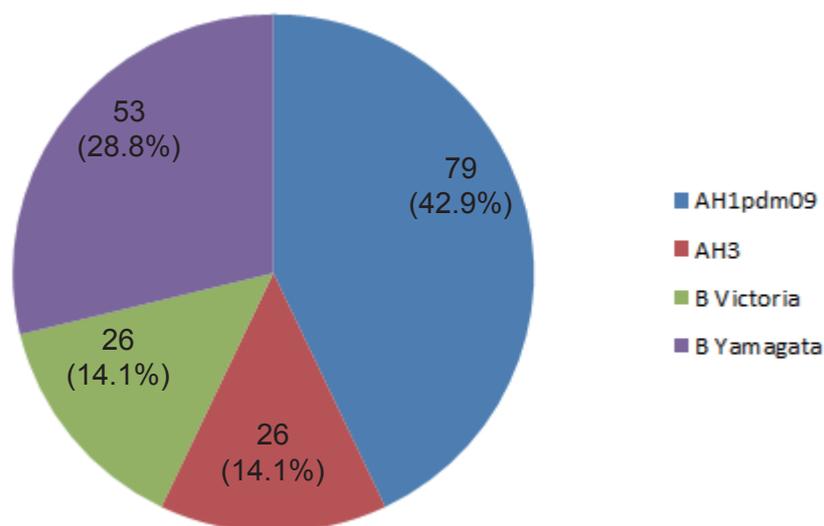


図 9. 2013/2014 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

### ウ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、2013/2014 年シーズンに流行したインフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested PCR 検査によって得られた HA (ヘマグルチニン) 遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験 (1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用) により行った。

2013/2014 年シーズンの AH1pdm09 流行株と、ワクチン株 (A/California/07/2009) との比較では、変異は 8~11 塩基で、相同性 98.1~98.6%であり (図 10)、分離株でも交差反応性がみられたことから、ワクチン株と同等の抗原性を有していたと考えられる。

AH3 亜型流行株は、2013/2014 年シーズンワクチン株 (A/Texas/50/2012) との変異は 4~9 塩基であり、相同性は 97.4%~98.8%であった (図 11)。変異がみられた株においても、ワクチン株と同等の交

差反応性がみられ、抗原性に大きな変異はないと推察された。

B 型では、Victoria 系統の流行株は 2010/2011/2012 年シーズンのワクチン株であった B/Brisbane/60/2008 株との変異は 5~8 塩基であり、相同性は 98.4%~97.7%であった (図 12)。また、分離株は B/Brisbane/60/2008 株抗血清に対して交差反応性があることから抗原性に大きな変異はないものと推察された。Yamagata 系統の流行株は、2013/2014 年シーズンワクチン株 (B/Massachusetts/2/2012) よりも 2012/2013 年シーズンワクチン株 (B/Wisconsin/01/2010) に近縁な株が多くみられ、2013/2014 年シーズンのワクチン株と比較すると、変異は 7~13 塩基であり、相同性は 95.8%~97.7%であった (図 12)。また、分離株の大半は B/Massachusetts/02/2012 株抗血清に対する交差反応性が低く、B/Wisconsin/01/2010 株抗血清に対する交差反応性の方が高かった。

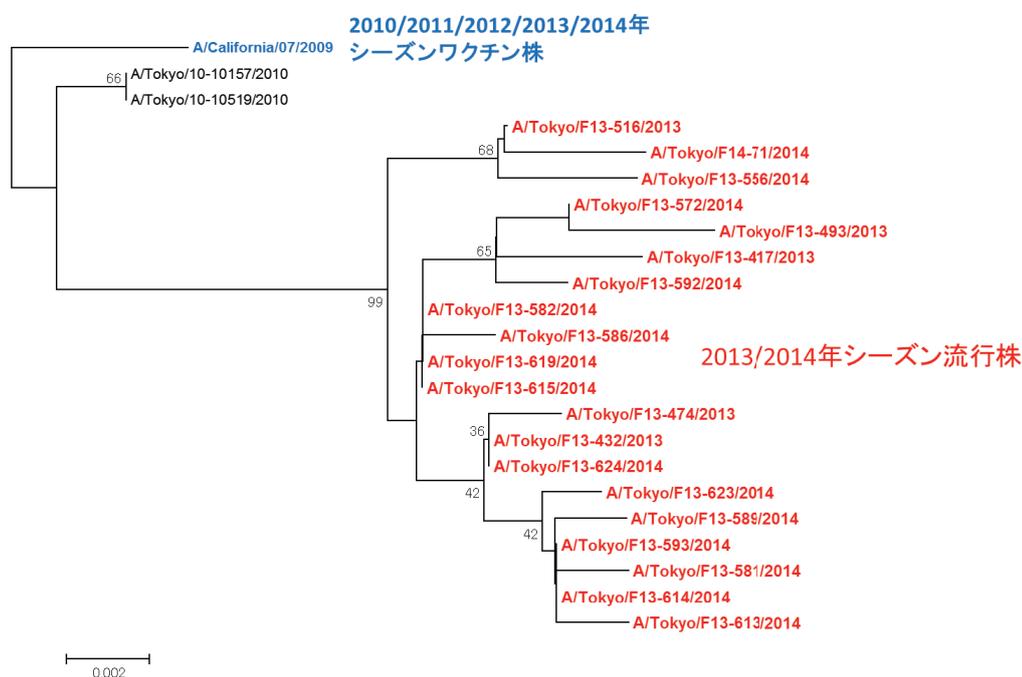


図 10. 東京都における AH1pdm09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

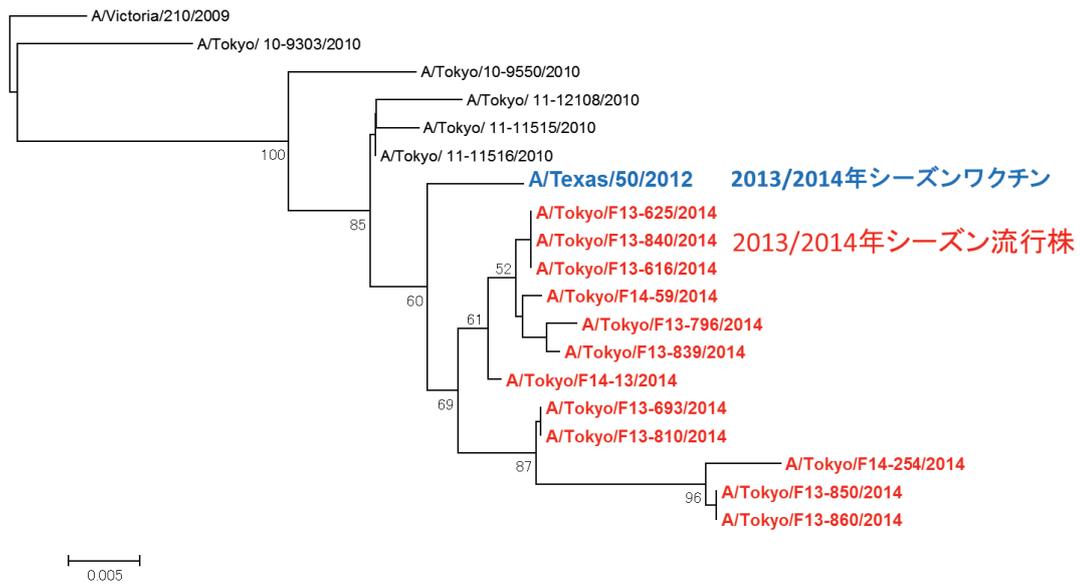


図 11. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

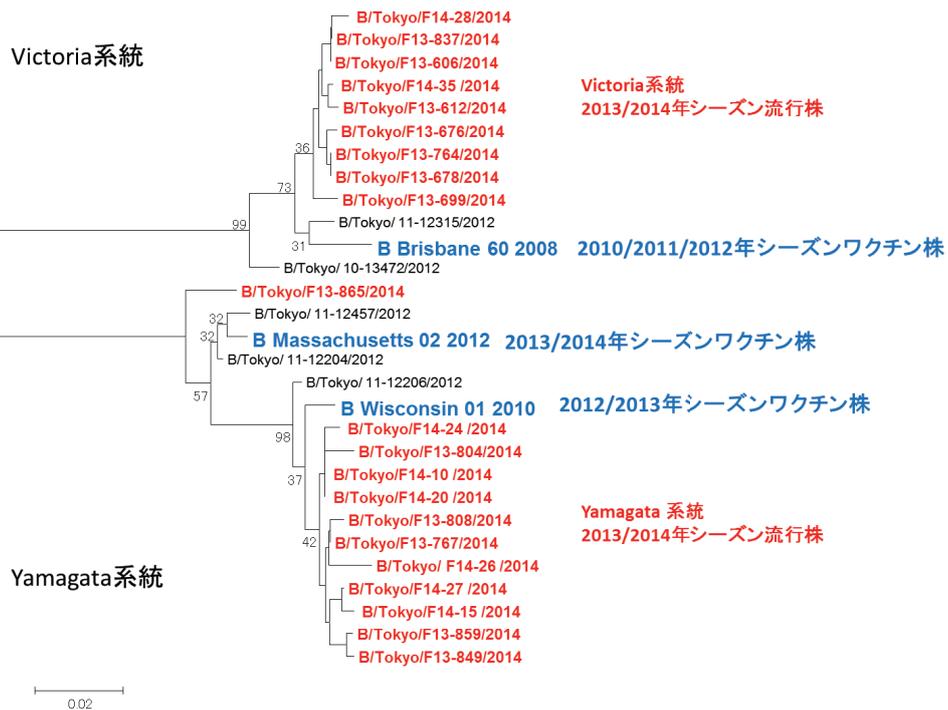


図 12. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

## 2 細菌検査結果

### (1) 三類感染症の病原体検索

当センターに搬入された胃腸炎患者の糞便 25 件についてコレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症の病原体検索を行ったが、いずれも検出されなかった。

### (2) 四類感染症の病原体検索

#### ア レジオネラ症

当センターに搬入されたレジオネラ症患者の喀痰等 9 件、患者由来株 6 株の合計 15 件について、病原体検索または同定検査を実施した。喀痰等から菌の検出を実施した結果、6 件から *Legionella pneumophila* の遺伝子が検出され、1 件から *L.pneumophila* が分離された。患者由来株 7 株（喀痰由来株を含む）の血清型別試験を実施した結果、5 株が 1 群であり、5 群と 6 群が 1 株ずつであった。

### (3) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

#### ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

搬入された患者由来株は 38 株（32 事例）で、A 群レンサ球菌が 28 株、B 群レンサ球菌が 5 株、G 群レンサ球菌が 4 株、群別不能 1 株であった。A 群レンサ球菌 28 株のうち 26 株が *Streptococcus pyogenes* であり、その T 血清型は、1 型：6 株、3 型：3 株、4 型：2 株、9 型：3 株、12 型：2 株、28 型：2 株、B3264 型：4 株、その他：4 株であった。M タンパクをコードする遺伝子により型別を行う emm 型別を実施した結果、1 型：6 株が最も多く、次いで 89 型：4 株等であった。

また、昨年は見られなかった B 群レンサ球菌 5 株の血清型を実施した結果、Ia 型、Ib 型、III 型、IV 型、V 型がそれぞれ 1 株ずつであった。

さらに、*S.pyogenes* ではなかった A 群レンサ球菌の 2 株及び G 群レンサ球菌の 4 株は、すべて *S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であり、群別不能であった 1 株の菌種は、*S.constellatus* であった。*S.constellatus* は血液由来であり、B 群レンサ球菌が膿から分離された事例と同一人の株であった。

#### イ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

搬入された患者由来株は 1 株であり、インフルエンザ菌の莢膜抗原血清型は型別不能であった。

#### ウ 侵襲性髄膜炎菌感染症

本疾患の患者由来菌株は 7 株搬入され、そのうち *Neisseria meningitidis* は 6 株であり、1 株は、*N.skkuensis* であった。*N.meningitidis* について PCR 法による型別を実施した結果、B 群が 1 株、C 群が 3 株、Y 群が 1 株、W135 群が 1 株であった。

#### エ 侵襲性肺炎球菌感染症

搬入された患者由来株は 35 株であり、肺炎球菌の莢膜抗原血清型別及びペニシリンに対する薬剤感受性試験を実施した。その結果、血清型については、24F 型が最も多く 8 株、次いで 15A 型が 5 株、10A 及び 19A 型がそれぞれ 3 株、3 型、12F 型、15C 型及び 24B 型が各 2 株ずつであり、その他 8 株であった。また、ペニシリンに対する薬剤感受性試験の結果、ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）は、35 株中 8 株であった。

## オ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来株 12 株であり、その内 *Enterococcus faecium* が 9 株、*E. faecalis* が 2 株、*E. gallinarum* が 1 株であった。*E. faecium* 及び *E. faecalis* はいずれも *vanB* 遺伝子を保有し、*E. gallinarum* は、*vanC* のみ保有していた。

### （４）五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

#### ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

当センターに搬入された、都内の小児科定点および基幹定点医療機関の患者由来 A 群溶血性レンサ球菌 75 株について型別試験及び薬剤感受性試験を実施した。その結果、受付月別菌株数及び T 血清型別の結果は表 4 のとおりであった。

10 薬剤について薬剤感受性試験を実施した結果、5 薬剤（ABPC：アンピシリン・CFDN：セフジニル・CEX：セファレキシン・CDTR：セフジトレン・CP：クロラムフェニコール）に対してはすべて感受性であった。一方、残りの 5 薬剤（TC：テトラサイクリン・EM：エリスロマイシン・CAM：クラリスロマイシン・LCM：リンコマイシン・CLDM：クリンダマイシン）に対しては耐性がみられ、特に EM 及び CAM 耐性株が 50.6%と半数が耐性であった。

表 4. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* の T 血清型及び月別受付状況

T 型	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計	(%)
1	1	1	2	2				3		1			10	(13.3)
4	1	4	2	3	1	1	1	2		1	1	1	18	(24.0)
6		1	4	1	1	1		3					11	(14.7)
9												1	1	(1.3)
11						1			2				3	(4.0)
12			1	2	2	1	1	2			2	1	12	(16.0)
28		1								1			2	(2.7)
B3264		3	2	1	1		1	4	1			3	16	(21.3)
UT*			1					1					2	(2.7)
計	2	10	12	9	5	4	3	15	3	3	3	6	75	(100)

\*UT:型別不能

#### イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 25 件について細菌検査を実施した。その結果、5 件（20.0%）から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、カンピロバクター 4 件（全て *C. jejuni*）、サルモネラ 1 件（*S. Enteritidis*）であった。患者年齢階級別の病原体検出状況を表 5 に示した。

#### ウ 百日咳

都内の小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁または咽頭拭い液が 30 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、4 検体から百日咳菌遺伝子が検出されたが、

表 5. 感染性胃腸炎患者からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検出病原菌	
		カンピロバクター	サルモネラ
1 歳未満	3		
1 - 4 歳	7		
5 - 9 歳	6	2	
10 - 14 歳	3	1	
15 - 19 歳	2	1	
20 歳以上	3		1
不明	1		
計	25	4	1
(%)	(100)	(16.0)	(4.0)

百日咳菌は、分離培養されなかった。百日咳菌以外には肺炎球菌 4 株、黄色ブドウ球菌 10 株などが分離された。

#### エ マイコプラズマ肺炎

都内の小児科定点及び基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 11 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、4 検体から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、2 株の肺炎マイコプラズマが分離された。

#### オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

都内の小児科定点及び基幹定点医療機関からの搬入検体を対象に、MRSA 等の検索を実施した。分離された黄色ブドウ球菌 41 株について、薬剤感受性、コアグラマーゼ型別（コ型と略す）、エンテロトキシン（SE と略す）産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1（TSST-1 と略す）産生性の試験を実施した。その結果、MRSA は 7 株、MSSA は 34 株であった。MRSA の型別結果は、コ型Ⅲが 4 株であり、そのうち SEC+TSST-1 産生性株が 4 株であり、コ型Ⅰ、Ⅴ及びⅥは各 1 株でいずれも毒素非産生株であった。

#### （5）性感染症の病原体検索

2014 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より搬入された検体について、クラミジア、淋菌、トリコモナス、パピローマウイルス及びヘルペスウイルス等の病原体の検出・型別を行うとともに、性別、年齢階級別及び臨床診断別等の検出状況を解析した。

STI 定点より搬入された 465 例について検査を実施した。搬入検体の内訳は、男性では陰部尿路擦過物（スワブ）のみ 109 例、尿のみ 341 例の合計 450 例、女性ではスワブのみ 2 例、尿のみ 1 例およびスワブと尿 1 例の合計 4 例、性別不明例ではスワブのみ 1 例、尿のみ 10 例の合計 11 例であった。

#### ア クラミジア・トラコマチス及び淋菌の検査

クラミジア・トラコマチス及び淋菌の遺伝子検査については、の遺伝子検査については、Transcription Mediated Amplification: TMA 法（パンサー、ホロジック社）で実施した。また、遺伝子検査で陽性となった検体を対象に、クラミジア・トラコマチスの血清型検査を行った。検体よりゲノム DNA を抽

出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子 (*omp1*) の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI (米国生物工学情報センター) の核酸データベースにおける BLAST 検索および解析により血清型を判定した。

淋菌及びその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地及びサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

表 6. 性別および年齢階級別の病原体検査成績

	年齢階級	検査数	遺伝子検査			分離培養	
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	臆トリコモナス	淋菌	カンジダ・アルビカンス
男性	10歳代	4	3	1			
	20歳代	111	44	22		14	
	30歳代	144	36	29		12	1
	40歳代	100	25	22		4	1
	50歳代	55	6	7		3	1
	60歳代	24	4	3		1	
	70歳以上	9					
	不明	3	1				
	計	450	119	84	0	34	3
女性	10歳代	1	1		1		
	20歳代	2	1	1			
	40歳代	1					
	計	4	2	1	1	0	0
不明	20歳代	1		1			
	30歳代	5	1	1			
	40歳代	2	1				
	70歳以上	1					
	不明	2					
	計	11	2	2	0	0	0
合計		465	123	87	1	34	3

搬入された検体の年齢構成及び検査成績を表 6 に示した。クラミジア・トラコマチス遺伝子は男性 119 例 (26.4%)、女性 2 例 (50.0%)、性別不明 2 例 (18.2%) から検出された。淋菌遺伝子は男性 84 例 (18.7%)、女性 1 例 (25.0%)、性別不明 2 例 (18.2%) から検出された。両遺伝子が共に検出された例は、男性で 11 例 (9.2%) あった。

淋菌遺伝子が検出された 84 例のうち男性 34 例から淋菌が分離され、淋菌分離率は 40.5% であった。全検体における分離率は 7.3% であった。その他の病原体として、カンジダ・アルビカンスが男性から 3 例 (0.7%) 分離された。

男性において 20~40 歳代の年齢階級で、クラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された例 (105 例) が全検出例 (119 例) 中 88.2%、淋菌遺伝子が検出された例 (73 例) が全検出例 (84 例) 中 86.9%、淋菌が分離された例 (30 例) が全検出例 (34 例) 中 88.2% を占めていた。

臨床診断別の病原体検査成績を表 7 に示した。

男性では、尿道炎と診断された 386 例中 106 例 (27.5%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。また、35 例 (9.1%) から淋菌遺伝子が検出され、うち 9 例から淋菌が分

表 7. 臨床診断別の病原体検査成績

臨床診断 (疑い例含む)	検査数	遺伝子検査			分離培養	
		クラミジア・ トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌	カンジダ・ アルビカンス
尿道炎	386	106	35		9	2
淋菌性尿道炎	56	11	49		25	
前立腺炎	4	2				
尿道炎・カンジダ症	1					1
不明・未記入	3					
計	450	119	84	0	34	3
女性						
クラミジア性子宮頸管炎	2	2		1		
子宮頸管炎	1		1			
尿道炎	1					
計	4	2	1	1	0	0
不明						
尿道炎	11	2	2			
計	11	2	2	0	0	0
合計	465	123	87	1	34	3

離された。この他 2 例 (0.5%) からカンジダ・アルビカンスが分離された。

淋菌性尿道炎と診断された 56 例中 49 例 (87.5%) から淋菌遺伝子が検出され、うち 25 例から淋菌が分離された。また、11 例 (19.6%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。尿道炎・カンジダ症と診断された 1 例からカンジダ・アルビカンスが分離された。

女性では、クラミジア性子宮頸管炎と診断された 2 例中 2 例 (100.0%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。また、子宮頸管炎と診断された 1 例から淋菌遺伝子が検出された。

性別不明例では、尿道炎と診断された 11 例中 2 例 (18.2%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、2 例 (18.2%) から淋菌遺伝子が検出された。

TMA 法によるクラミジア・トラコマチス遺伝子陽性の 123 例のうち、遺伝子解析により 110 例の血清型が同定出来た。血清型別判定の内訳を表 8 に示した。残りの 13 例は、血清型別に用いるターゲット部位の核酸増幅が行えず、血清型が不明となった。

クラミジア・トラコマチスは、血清型に基づいて A~L 型に分類され、アフリカやアジア等のトラコーマ流行地において多く検出されるトラコーマ型の A~C 型、トラコーマ非流行地で主に検出される性器クラミジア感染症型の D~K 型、鼠径リンパ肉芽腫症の起原菌となる L 型にそれぞれ分けられている。

2014 年の結果は、D、E、F の 3 つの型の合計で 60.9% であり、2013 年と同様に過半数を占めていた。またトラコーマ型の B 及び Ba 型が 5 例検出された。この他、性器クラミジア感染症

表 8. クラミジア・トラコマチスの血清型別成績

検体数	血清型								
	B 及び Ba	D 及び D/Da	E	F	G	H	I, Ia 及び I/Ia	J	K
110	5	22	21	24	14	13	3	3	5
(%)	4.5	20.0	19.1	21.8	12.7	11.8	2.7	2.7	4.5

型の G～K 型もそれぞれ検出されたが、鼠径リンパ肉芽腫症型である L 型は検出されなかった。

分離された淋菌 34 株の薬剤耐性試験の結果を表 9 に示した。ペニシリンにおいては、全株が最小発育阻止濃度が中等度 (0.12 $\mu$ g/ml) 以上の耐性株であった。テトラサイクリンにおいては中等度 (0.5 $\mu$ g/ml) 以上の耐性株は 25 株 (73.5%) であった。シプロフロキサシンにおいては耐性株 ( $\geq 1\mu$ g/ml) は 27 株 (79.4%) であった。セフロキシムにおいては中等度 (2 $\mu$ g/ml) 以上の耐性株は 18 株 (52.9%) であった。セフトアキシム、セフトリアキソン及びスペクチノマイシンにおいてはすべての株が感受性を示した。

表 9. 淋菌分離株 (34 株) の薬剤感受性

薬剤感受性	ペニシリン PCG	テトラ サイクリン TC	シプロフロ キサシン CPFX	セフロ キシム CXM	セフト アキシム CTX	セフトリ アキソン CTRX	スペクチノ マイシン SPCM
耐性	4	2	27	3	0	0	0
中等度耐性	30	23	0	15	0	0	0
感受性	0	9	7	16	34	34	34

#### イ 膣トリコモナス検査

1 例の女性のスワブについて、膣トリコモナスの ITS1, 5.8S rRNA, ITS2 領域を標的とした PCR による遺伝子検査を行った。1 例から膣トリコモナス遺伝子が検出された。

#### ウ ヒトパピローマウイルス検査

STI 病原体定点医療機関から 69 検体 (陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料) が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法による HPV 遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価 (High 及び Low リスク) に基づいて分類した。

その結果、69 検体中 56 検体 (81.2%) から HPV 遺伝子を検出した。1 検体から 1 種類の HPV 遺伝子型が検出されたのは 40 検体 (58.0%) で、リスク評価による分類でみると、16、18、53、58 型などの High リスク群に分類されたものは 6 検体 (8.7%)、6、11、90、91 型などの Low リスク群に分類されたものは 34 検体 (49.3%) であった。また、15 検体 (21.7%) から同時に 2 種類の HPV 遺伝子型を検出し、その組み合わせは High-High リスク : 1 検体、High-Low リスク : 8 検体、Low-Low リスク : 6 検体、1 検体 (1.4%) から同時に 3 種類の HPV 遺伝子型 (High-Low-Low リスク) を検出した。

#### エ 単純ヘルペスウイルス (HSV : HSV-1 型及び HSV-2 型) 検査

STI 病原体定点医療機関から 157 検体 (主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、又は水泡内容物) が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、157 検体中 27 検体（17.2%）から HSV-1 型、36 検体（22.9%）から HSV-2 型の遺伝子を検出した。



## 第 3 章

### 資 料



## 2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2014年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家理事長、元東京都健康局技監
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所長
○ 武 隈 孝 治	東京医科大学病院小児科兼任准教授（東京小児科医会）
永 井 英 明	独立行政法人国立病院機構東京病院外来診療部長
尾 形 英 雄	（財）結核予防会複十字病院副院長
山 川 博 之	江戸川保健所長
大 井 洋	町田市保健所長
今 村 顕 史	東京都立駒込病院感染症科部長
中 村 重 信 *	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
関 なおみ *	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員
渡 瀬 博 俊 *	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長谷川 道 彦	蒲田医師会（東京泌尿器科医会）
北 村 邦 夫	一般社団法人 日本家族計画協会 専務理事 家族計画研究センター所長（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	北多摩医師会（東京小児科医会）
井 上 賢 治	神田医師会（東京都眼科医会）
遠 藤 弘 良	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
平 山 宗 宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	公益社団法人東京都獣医師会監事
角 田 徹	東京都医師会理事（疾病担当）

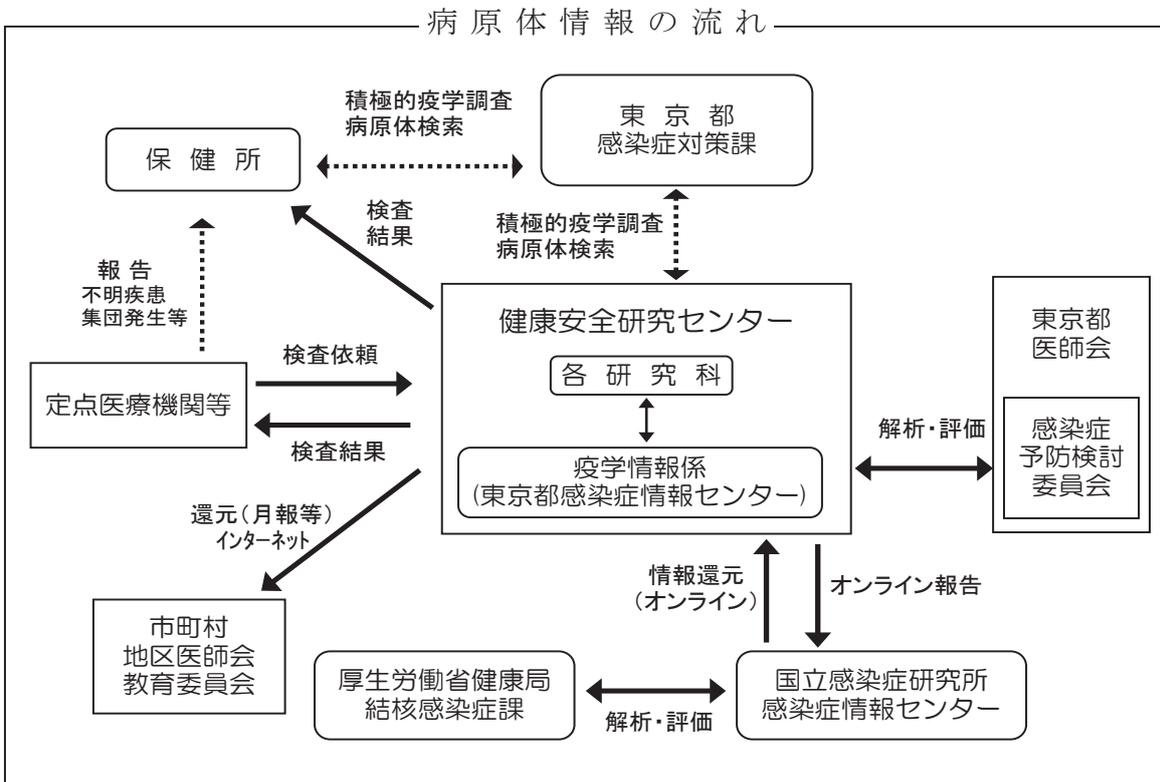
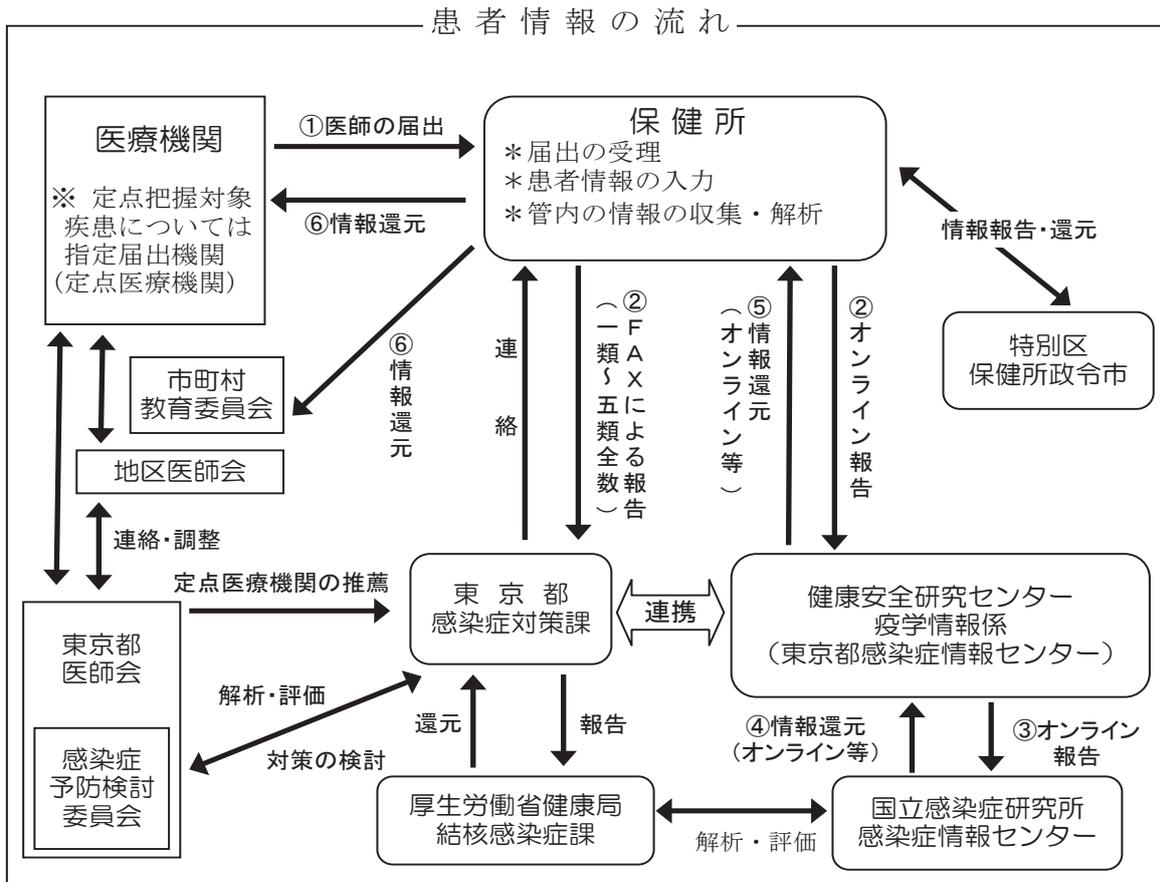
◎委員長 ○副委員長

\*:平成27年3月まで

平成27年4月1日から

渋谷 智 晃	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
阿 保 満	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
西 塚 至	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長

### 3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



# 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 27 福保健感第212号

平成27年5月20日

## 第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

## 第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

## 第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

## 第4 実施体制

### 1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター(以下「健康安全研究センター」という。)は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

### 2 指定届出機関(定点)

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

## 第5 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の73及び83に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の73及び83に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成27年5月12日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から2-1、2-3から4-43、5-11並びに本要綱の別記様式9及び11を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

##### イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

##### ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

### 2 全数把握対象の五類感染症（別表1の73及び83に掲げるものを除く。）

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（別表1の73及び83に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5-1から5-10、5-12から5-20及び5-22を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあつては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

#### イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

#### ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

### 3 定点把握対象の五類感染症

#### (1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

#### (2) 定点の選定

##### ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

##### (ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の85から97までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。こ

の場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の98に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の99及び100に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の101から106までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の98に掲げるインフルエンザ（届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される）、別表1の107から114までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表4に掲げるものを対象感染症とする。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、

それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

#### イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式1（インフルエンザ定点については別記様式8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

#### ウ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

#### エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

## 4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

### (1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

### (2) 定点の選定

#### ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

### (3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

#### (4) 実施方法

##### ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式 10 に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式 2 又は別記様式 3 による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で K-net への入力による報告を行う。

##### イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-net へ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

##### ウ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

## 5 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

## 6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

### 附 則

この実施要綱は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

### 附 則

この実施要綱は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

### 附 則

この実施要綱は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

### 附 則

この実施要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

- 附 則  
この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成23年2月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成23年4月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成23年9月5日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成25年5月22日から施行し、同年5月6日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成25年10月14日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成26年6月12日から施行し、同年5月12日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成26年8月13日から施行し、同年7月26日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成26年9月19日から施行する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成27年2月25日から施行し、同年1月21日から適用する。
- 附 則  
この実施要綱は、平成27年5月21日から施行する。

## 感染症法に基づく感染症の分類

## 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
一類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痘そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	13 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
14 鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○			
三類	15 コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	16 細菌性赤痢	○	—	○		
	17 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18 腸チフス	○	—	○		
	19 パラチフス	○	—	○		
四類	20 E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	21 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22 A型肝炎	○	—	○		
	23 エキノコックス症	○	—	○		
	24 黄熱	○	—	○		
	25 オウム病	○	—	○		
	26 オムスク出血熱	○	—	○		
	27 回帰熱	○	—	○		
	28 キャサナル森林病	○	—	○		
	29 Q熱	○	—	○		
	30 狂犬病	○	—	○		
	31 コクシジオイデス症	○	—	○		
	32 サル痘	○	—	○		
	33 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
	34 腎症候性出血熱	○	—	○		
	35 西部ウマ脳炎	○	—	○		
	36 ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	37 炭疽	○	—	○		
	38 チクングニア熱	○	—	○		
	39 つつが虫病	○	—	○		
40 デング熱	○	—	○			
41 東部ウマ脳炎	○	—	○			
42 鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○			
43 ニパウイルス感染症	○	—	○			
44 日本紅斑熱	○	—	○			

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
四 類	45 日本脳炎	○	—	○	全数	直ちに
	46 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	47 Bウイルス病	○	—	○		
	48 鼻疽	○	—	○		
	49 ブルセラ症	○	—	○		
	50 ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	51 ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	52 発しんチフス	○	—	○		
	53 ボツリヌス症	○	—	○		
	54 マラリア	○	—	○		
	55 野兔病	○	—	○		
	56 ライム病	○	—	○		
	57 リッサウイルス感染症	○	—	○		
	58 リフトバレー熱	○	—	○		
	59 類鼻疽	○	—	○		
60 レジオネラ症	○	—	○			
61 レプトスピラ症	○	—	○			
62 ロッキー山紅斑熱	○	—	○			
指定感染症	—	—	—	—	—	

※平成 27 年 5 月 20 日現在、政令に基づく指定感染症なし。

## 2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法		
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期	
63	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内	
64	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—			
65	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	—	—			
66	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—			
67	クリプトスポリジウム症	○	—	—			
68	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—			
69	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—			
70	後天性免疫不全症候群	○	—	○			
71	ジアルジア症	○	—	—			
72	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—			
73	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—	全数	直ちに	
74	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—	全数	7日以内	
75	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	○	—	—			
76	先天性風しん症候群	○	—	—			
77	梅毒	○	—	○			
78	播種性クリプトコックス症	○	—	—			
79	破傷風	○	—	—			
80	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—			
81	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—			
82	風しん	○	—	—			※
83	麻しん	○	—	—			全数
84	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—	全数	7日以内	

※できるだけ 24 時間以内に届出をする(東京都独自)

3 五類感染症（定点把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別 (定点)	時期
85	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
86	咽頭結膜熱	○	—	—		
87	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
88	感染性胃腸炎	○	—	—		
89	水痘	○	—	—		
90	手足口病	○	—	—		
91	伝染性紅斑	○	—	—		
92	突発性発しん	○	—	—		
93	百日咳	○	—	—		
94	ヘルパンギーナ	○	—	—		
95	流行性耳下腺炎	○	—	—		
96	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
97	川崎病 (都単独)	○	—	—		
98	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
99	急性出血性結膜炎	○	—	—		
100	流行性角結膜炎	○	—	—		
101	性器クラミジア感染症	○	—	—		
102	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
103	尖圭コンジローマ	○	—	—		
104	淋菌感染症	○	—	—		
105	膻トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
106	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
107	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
108	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	○	—	—		
109	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	○	—	—		
110	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
111	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
112	無菌性髄膜炎	○	—	—		
113	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
114	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

4 新型インフルエンザ等感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
115	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
116	再興型インフルエンザ	○	○	○		

5 疑似症

	届出対象	届出対象者			調査単位 (期間)	時期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
117	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	—	○	—	別表3参照	
118	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

別表 2

## 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	臈トリコモナス症 (都単独)		
梅毒様疾患 (都単独)			
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

別表 3

## 疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

- (注) 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。  
 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。  
 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

## 基幹定点医療機関（病原体定点）において検体を採取する対象感染症

1	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）
2	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）
3	細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）
4	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
5	マイコプラズマ肺炎
6	無菌性髄膜炎
7	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
8	薬剤耐性緑膿菌感染症
9	インフルエンザ（入院患者に限る。）

## 別記様式一覧表

番 号	件 名 等
別記様式 1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式 2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 3	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 6 - 1・6 - 2	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分）
別記様式 8	インフルエンザ検査票（内科病原体定点用）
別記様式 9	麻しん発生届
別記様式 10	疑似症定点報告票
別記様式 11	結核発生届
別記様式 12	感染症発生動向調査病原体定点検査票 インフルエンザ入院患者用 （基幹定点報告疾患）

### 感染症発生動向調査病原体定点検査票

<b>【医療機関記入欄】</b>		センター検体受付日	センター収受番号	検体番号
医療機関名				
医師名				
診断名				
ID (イニシャル)			居住地	区市町村
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日	性別 男・女 年齢 歳 ヵ月
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂） ・その他 [ ]		・髄液 ・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・陰部尿道頸管擦過物／分泌物 ・血液（全血、血清、血漿）	
	臨床症状・兆候等	・発熱（最高 ℃） ・頭痛 ・筋肉痛、関節痛（関節炎） ・上気道炎（咽頭炎／痛、扁桃炎） ・下気道炎（肺炎、気管支炎） ・口内・咽頭所見（ ） ・発疹（丘疹、紅斑、バラ疹、水疱） ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹（部位 ） （上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。）		・胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・髄膜炎、意識障害 ・中枢神経系症状（脳炎、脳症、髄膜炎） ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・腎機能障害 ・尿路生殖器症状（排尿時痛、かゆみ、膿） ・コンジローマ ・下腹部痛
転 帰		経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡（原因 ）		
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生（保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 [ ]）			
最近の海外渡航歴	国名	期間	年 月 日 ~	年 月 日
ワクチン接種歴 （当該疾患に係るもの）	（ 無、有、不明 ）		最近の接種年月日	
	ワクチン名		年 月 日	
備考欄（主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など）				

**【健康安全研究センター記入欄】** 報告年月日 年 月 日

結果	<p style="font-size: 2em; color: #ccc;">センター記入欄につき ここには記入しないで下さい。</p>			
検出方法	・抗体検出（蛍光、EIA、イムノブロット、その他 [ ]） ・分離培養（培養細胞：細胞名 [ ]、人工培地、発育鶏卵、動物、その他 [ ]） ・抗原検出等（蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応（RPHA、LA、PA、その他）、その他 [ ]） ・遺伝子検出 増幅（PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シークエンス、LAMP、その他 [ ]） ・鏡検			

(1) 複写 1組6枚（病原体定点検）

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ~ 月 日(日)

医療機関名: \_\_\_\_\_

疾患名		年齢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ~14	15 ~19	20歳 以上	合計
		~5 ヶ月	~11 ヶ月													
RSウイルス 感染症	男															
	女															
咽頭結膜熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	男															
	女															
感染性胃腸炎	男															
	女															
水痘	男															
	女															
手足口病	男															
	女															
伝染性紅斑	男															
	女															
突発性発しん	男															
	女															
百日咳	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
不明発しん症	男															
	女															
川崎病	男															
	女															

注1) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です。

注2) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

疾患名		年齢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ~14	15 ~19	20 ~29
		~5 ヶ月	~11 ヶ月												
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症 をのぞく)	男														
	女														
		30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80歳 以上	合計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
	※		

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

週報

**感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）**

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフルエンザ等 感染症をのぞく)	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計	
	男	女																				

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
	※		

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

	男	女	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計	
																							急性出血性 結膜炎
急性出血性 結膜炎																							
流行性角結膜炎																							

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--



## 感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法 **	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

**\* 疾病名**

- 1: 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)
- 2: 無菌性髄膜炎 (真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)
- 3: マイコプラズマ肺炎
- 4: クラミジア肺炎 (全数届出疾患のオウム病を除く)
- 5: 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)

**\*\* 病原体検査方法**

- 1: 分離・同定
- 2: 抗原検出
- 3: 核酸検出 (PCR・LAMP等)
- 4: 塗抹鏡検
- 5: 電顕
- 6: 抗体検出
- 7: その他

**<記載上の注意>**

- ・ **細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎**: 病原体が判明している場合は、その病原体名 (複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載)、その結果を得た病原体検査方法 (複数の場合は、最も根拠となった方法一つを選択) 及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください (病原体検査欄の記載は不要)。
- ・ **マイコプラズマ肺炎**: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法 (1、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。
- ・ **クラミジア肺炎**: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法 (1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。
- ・ **感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)**: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法 (1、2、3、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。 ※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

感染症発生動向調査(基幹定点)  
(インフルエンザによる入院患者の報告)

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であげてください。

調査期間 平成 年 月 日～ 年 月 日

医療機関名

ID番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応					備考
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)	脳波検査 (予定含む)	
1	男・女							
2	男・女							
3	男・女							
4	男・女							
5	男・女							
6	男・女							
7	男・女							
8	男・女							
9	男・女							
10	男・女							
11	男・女							
12	男・女							
13	男・女							
14	男・女							
15	男・女							

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者(院内感染を含む)を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

## 感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	検体採取部位**
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

- \* 疾病名（番号を○で囲む）  
 1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症  
 2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症  
 3：薬剤耐性緑膿菌感染症
- \*\* 検体採取部位  
 複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。



臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-21

**麻 し ん 発 生 届**

東京都知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_ （署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称 \_\_\_\_\_  
 上記病院・診療所の所在地(※) \_\_\_\_\_  
 電話番号(※) \_\_\_\_\_ (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検査）した者（死体）の類型 ・患者（確定例） ・感染症死者の死体					
2 当該者氏名	3 性別 男・女	4 生年月日 年 月 日	5 診断時の年齢(0歳は月齢) 歳 ( 月 )	6 当該者職業	
7 当該者住所 電話 ( ) -					
8 当該者所在地 電話 ( ) -					
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入) 電話 ( ) -				

病 型		13 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例） 3) 修飾麻しん（検査診断例）		①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：（ ）） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：（ ）） 3 その他（ ））
11 症状 ・発熱（月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹（月 日出現） ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ）	12 診断方法 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（月 日） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（月 日） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日（月 日） 結果（陽性・陰性・判定保留） 抗体価：（ ） (エ) ペア血清での抗体の検出 検体採取日（1回目 月 日 2回目 月 日） 抗体価（1回目 2回目） 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ） (オ) その他の検査方法（ ） 検体（ ） 検体採取日（月 日） 結果（ ） (カ) 臨床決定（ ）	②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域 ） 渡航期間（ ） ③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明） 2回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
		14 初診年月日 平成 年 月 日
		15 診断（検査(※)）年月日 平成 年 月 日
		16 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日
		17 発病年月日（*） 平成 年 月 日
		18 死亡年月日（※） 平成 年 月 日
		19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

(1, 3, 11 から 13 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 14 から 18 欄は年齢、年月日を記入すること。(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(\*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

**診断した医師の方へのお願い**

感染症法第15条により、積極的疫学調査を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な感染拡大防止のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、下記及び裏面調査票により情報提供をお願い致します。

ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））

**保健所への裏面調査票記載の情報提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）**

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。  
質問については、可能な範囲でご記入ください。

### 保健所における麻しん対応調査票

所属名（保育園、学校、勤務先等）	
連絡先（保育園、学校、勤務先）	（        ）                      —
同居している家族の構成	

質問1 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間：    月    日～    月    日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（                      ）、期間    月    日～    月    日）
- 3) 咳：無、不明、有（    月    日～    月    日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（    月    日～    月    日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（    月    日～    月    日）

質問2 患者の周囲の方についてお聞きします。

- 1) 患者家族や周囲の方で、最近、麻しんに罹患した人はいますか。  
無、有（患者との関係：                      、年齢：    歳）
- 2) 患者家族などで麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいますか。  
無、有（患者との関係：                      、年齢：    歳）

質問3 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きします。発熱初日の2週間前から解熱3日後までの期間についてお答えください。

- 1) 海外渡航歴 無、有 渡航先（                      ）、渡航期間（    月    日～    月    日）
- 2) 最終登園・登校・出勤日：（    月    日）
- 3) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所：                      時期：                      ）

この届出は診断後直ちに行ってください

## 感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日 医療機関名: \_\_\_\_\_

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
2	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
3	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
4	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
5	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
6	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
7	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
8	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
9	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
10	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。  
（上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

## 結 核 発 生 届

東京都知事（保健所）  
 特別区長（保健所）  
 保健所政令市長（保健所）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。  
 報告年月日 平成 年 月 日

この届出は診断後直ちに行ってください

医師の氏名 \_\_\_\_\_ 印（署名又は記名押印のこと）

従事する病院（科）・診療所の名称 \_\_\_\_\_

上記病院・診療所の所在地（※） \_\_\_\_\_

電話番号（※）（ \_\_\_\_\_ ） \_\_\_\_\_  
 （※病院・診療所に従事していない医師にあつては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の種類					
1) 患者（確定例） 2) 無症状病原体保有者（潜在性結核感染症） 3) 疑似症患者 4) 感染症死亡者の死体 5) 感染症死亡疑い者の死体					
2 当該者氏名（ふりがな） （ _____ ）	3 性別 男・女	4 生年月日 年 月 日	5 診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ _____ ）か月	6 当該者職業（具体的に）	
7 当該者住所 電話（ _____ ） _____					
8 当該者所在地 電話（ _____ ） _____					
9 保護者氏名	10 保護者住所	（9、10は患者が未成年の場合のみ記入） 電話（ _____ ） _____			

病 型		18 感染原因・感染経路・感染地域																								
1) 肺結核 2) その他の結核（ _____ ）		① 感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫核・飛沫感染（感染源の種類・状況） 2 その他（ _____ ）																								
11 症状 ・せき ・たん ・発熱 ・胸痛 ・呼吸困難 ・その他（ _____ ） ・なし	12 診断方法 遺伝原体の検出 1) 塗抹検査（- ± 1+ 2+ 3+）又はG号 検体：喀痰・その他（ _____ ） 2) 培養検査 - +（ _____ 個）検査中 検体：喀痰・その他（ _____ ） 3) 核酸増幅法 - + 未実施 検体：喀痰・その他（ _____ ）																									
4) 病理検査における特異的所見の確認 検体：（ _____ ） 所見：（ _____ ）		② 感染地域（確定・推定） 1 日本国内（ _____ 都道府県 _____ 市町村） 2 国外（ _____ 国 _____ 詳細地域 _____ ）																								
5) ツベルクリン反応検査 _____ 月 日判定 _____ x _____ ( x ) (発赤・硬結・水疱・壊死) _____ x		19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項																								
6) リンパ球の菌特異蛋白刺激による放出インターフェロンγ試験 _____ 月 日実施（陽性・判定保留・陰性）		1) 診断時の入院在宅の別 入院（予定）日： _____ 月 日 _____ 在宅 （医療機関名： _____ ） 2) 当該者の同居者数 _____ 人（うち乳幼児 有・無）・ 単身 3) その他 _____																								
7) 画像検査における所見の確認 学会分類 ※○で囲む。 _____ その他 _____ <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>病側</td> <td>r</td> <td>l</td> <td>b</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>病型</td> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> <td>H</td> <td>P<sub>l</sub></td> <td>Op</td> <td>O</td> </tr> <tr> <td>拡がり</td> <td colspan="2">1</td> <td colspan="2">2</td> <td colspan="2">3</td> <td colspan="3">該当なし</td> </tr> </table>			病側	r	l	b	該当なし	病型	I	II	III	IV	V	H	P <sub>l</sub>	Op	O	拡がり	1		2		3		該当なし	
病側	r	l	b	該当なし																						
病型	I	II	III	IV	V	H	P <sub>l</sub>	Op	O																	
拡がり	1		2		3		該当なし																			
8) その他の方法（ _____ ） 検体（ _____ ） 結果（ _____ ）																										
9) 臨床決定（ _____ ）																										
13 初診年月日	平成 年 月 日	（1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。）																								
14 診断（検案（※））年月日	平成 年 月 日																									
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日																									
16 発病年月日（*）	平成 年 月 日																									
17 死亡年月日（※）	平成 年 月 日																									



感染症発生動向調査事業報告書  
平成 26 年（2014 年）

平成 27 年 7 月

登録番号 (27) 4

編集・発行 東京都健康安全研究センター  
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-24-1  
電 話 (03) 3363-3231

印 刷 所 能登印刷株式会社  
〒920-0855 石川県金沢市武蔵町 7 番 10 号  
電 話 (076) 233-2550